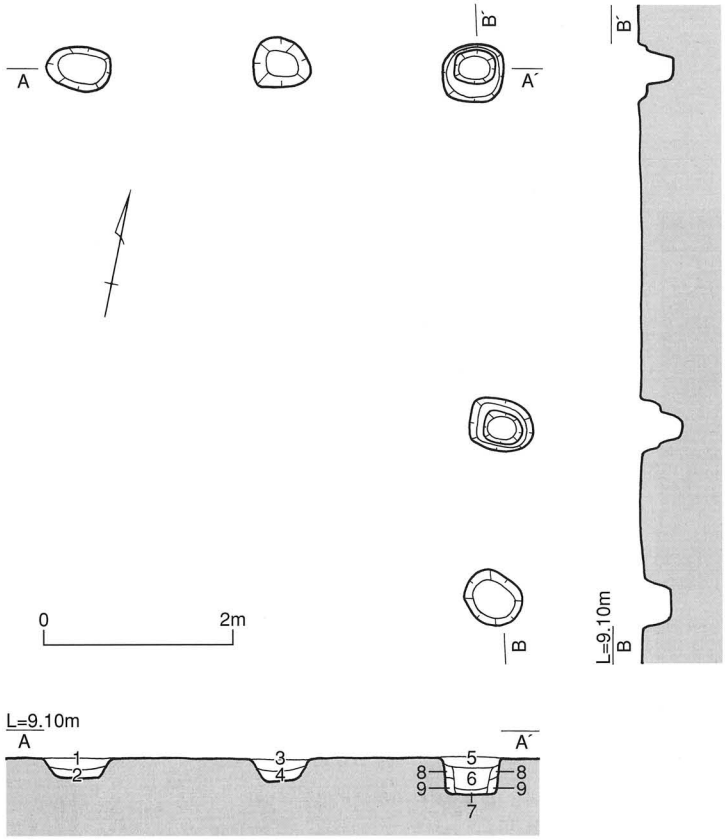


1	灰黄褐色	10YR5/2	砂質土	(1cm程度の礫を少量含む。)
2	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂礫層	
3	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土	(5mm未満の礫を少量含む。)
4	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂礫層	
5	灰黄褐色	10YR4/2	粘性砂質土	(少量のマンガン、土器片を含む。5mm未満の礫を少量含む。1～2cmの礫を微量含む。)
6	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	(マンガンを含む。5mm未満の礫を少量含む。)
7	灰黄褐色	10YR5/2	砂礫層	(3cm程度の礫を多量に含む。)
8	にぶい黄橙色	10YR6/3	粘性砂質土	
9	にぶい黄色	2.5Y6/3	粘性砂質土	

第527図　SA1013平・断面図（S＝1/80）

掘立柱建物跡（SA1013）

位置　Loc.D２・δⅡ・mn８～10　　**床面積**　23.5m²　　**主軸方向**　N-12°-W

柱穴　６基（径50～70cm、深さ20～40cm）

土層　覆土は各柱穴ごとに２～７層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では土器片を含む。

柱穴間距離　最大　380cm　　最小　180cm　　梁間　(420)cm　　桁行　(560)cm

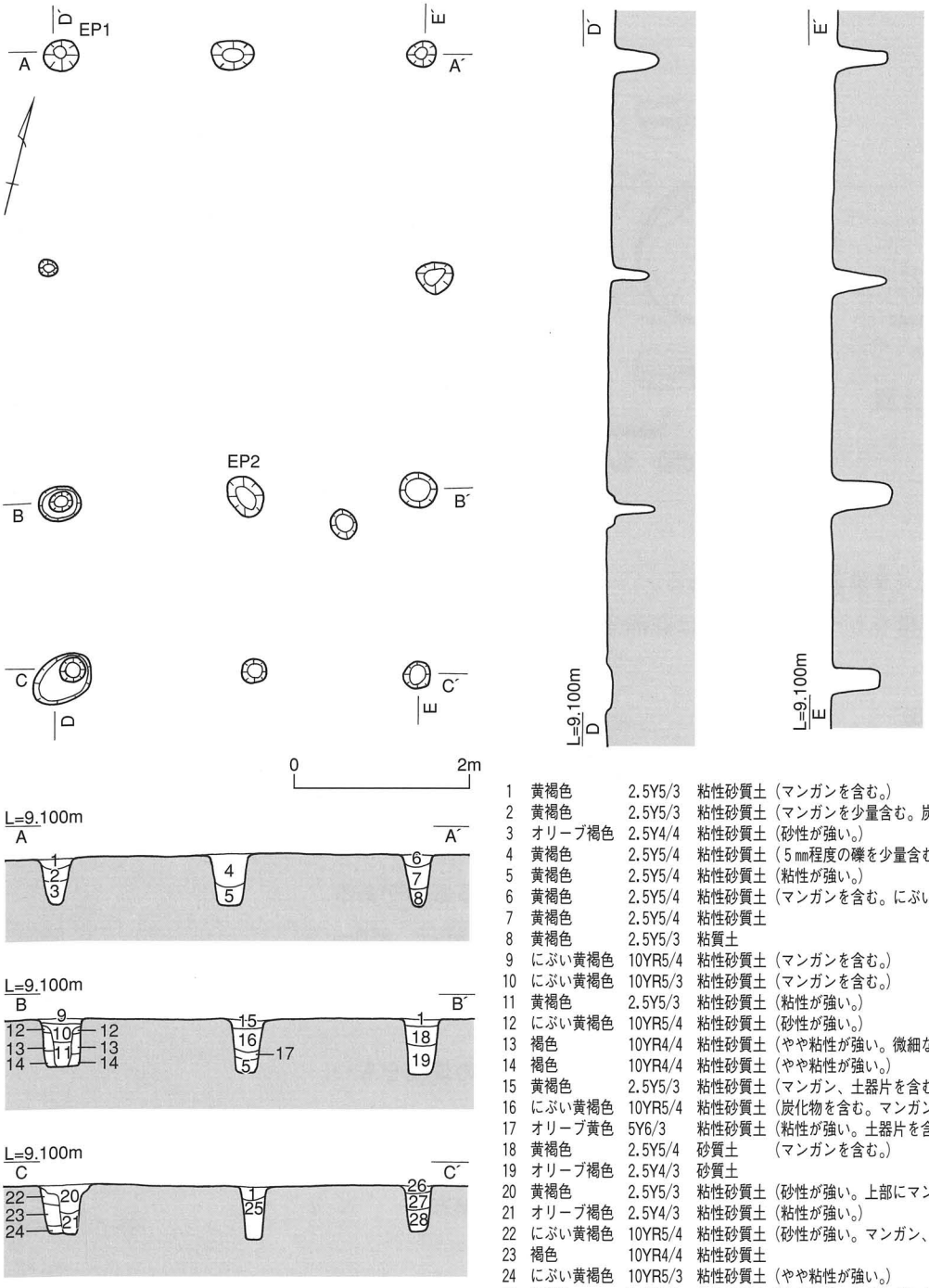
遺物出土状況　土器片数点が出土しているが、図示できる遺物は出土していない。

時期　古代（平安時代）である。

備考　南西部分は柱穴の深さが浅いため、未検出の柱穴があると考えられる。検出できた柱穴は２間×２間の規模をもつ。

掘立柱建物跡（SA1014）

位置　Loc.D２・δⅡ・nop12～13　　**床面積**　29.1m²　　**主軸方向**　N-13°-W



1	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土（マンガンを含む。）
2	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土（マンガンを少量含む。炭化物を微量含む。）
3	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土（砂性が強い。）
4	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土（５㎜程度の礫を少量含む。下部にマンガンを集中して含む。）
5	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土（粘性が強い。）
6	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土（マンガンを含む。にぶい黄色粘性砂質土を一部含む。）
7	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土
8	黄褐色	2.5Y5/3	粘質土
9	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土（マンガンを含む。）
10	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土（マンガンを含む。）
11	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土（粘性が強い。）
12	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土（砂性が強い。）
13	褐色	10YR4/4	粘性砂質土（やや粘性が強い。微細な焼土を微量含む。）
14	褐色	10YR4/4	粘性砂質土（やや粘性が強い。）
15	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土（マンガン、土器片を含む。）
16	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土（炭化物を含む。マンガンを微量含む。）
17	オリーブ黄色	5Y6/3	粘性砂質土（粘性が強い。土器片を含む。）
18	黄褐色	2.5Y5/4	砂質土　（マンガンを含む。）
19	オリーブ褐色	2.5Y4/3	砂質土
20	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土（砂性が強い。上部にマンガンを含む。）
21	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土（粘性が強い。）
22	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土（砂性が強い。マンガン、極微量の炭化物を含む。）
23	褐色	10YR4/4	粘性砂質土
24	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土（やや粘性が強い。）
25	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土（１層よりマンガンが少ない。）
26	黄褐色	2.5Y5/4	砂質土　（マンガンを多く含む。）
27	黄褐色	2.5Y5/3	砂質土　（26層よりマンガンが少ない。）
28	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土

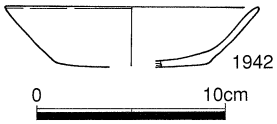
第528図　SA1014平・断面図（S=1/80）

柱穴　12基（径20～80cm、深さ60～70cm）

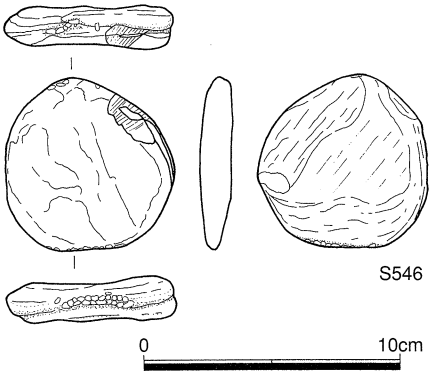
土層　覆土は各柱穴ごとに２～９層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では土器片、炭化物、焼土を含む。断面観察により、柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　270cm　　最小　190cm　　梁間　410cm　　桁行　710cm

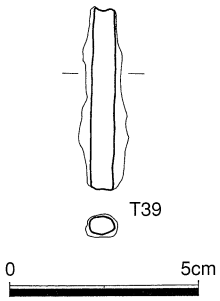
遺物出土状況　土器片数点と石器が出土している。そのうち図示できた遺物は、EP1出土の敲石とEP2出土の土師器杯である。



第529図　SA1014出土土器



第530図　SA1014出土石器



第531図　SA1015出土鉄器

時代　古代（平安時代（９世紀前半））である。

備考　２間×３間の規模をもつ。南側１間は庇部分と考えられる。

掘立柱建物跡（SA1015）

位置　Loc.D２・δⅡ・opq９～11　　**床面積**　40.8m²　　**主軸方向**　N-78°-E

柱穴　15基（径40～80cm、深さ50～70cm）

土層　覆土は各柱穴ごとに５～13層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では土器片、鉄器、炭化物を含む。断面観察により、柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　240cm　　最小　160cm　　梁間　480cm　　桁行　850cm

遺物出土状況　土器片数点と鉄器が出土している。図示できる遺物は、EP１出土の鉄片１点である。

時期　古代（平安時代）である。

備考　一部未検出の柱穴が存在すると考えられる。２間×５間の規模をもつ。

掘立柱建物跡（SA1016）

位置　Loc.D２・δⅡ・pqrs13　　**床面積**　不明　　**主軸方向**　N-７°-W

柱穴　８基（径40～90cm、深さ25～70cm）

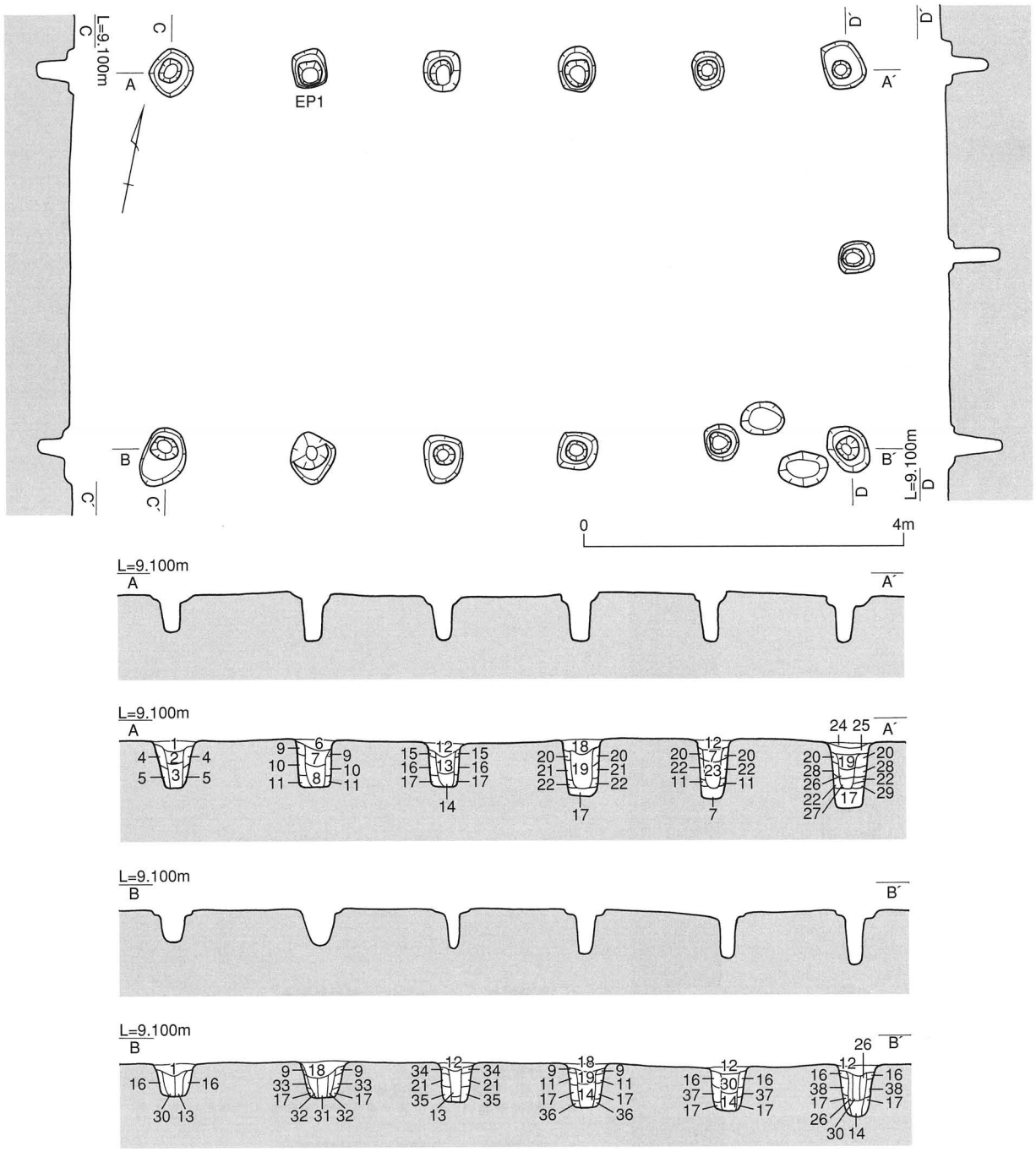
土層　覆土は各柱穴ごとに１～５層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では土器片、炭化物を含む。断面観察により、柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　330cm　　最小　170cm　　梁間　不明　　桁行　(1500)cm

遺物出土状況　土器片数点が出土しているが、図示できる遺物は出土していない。

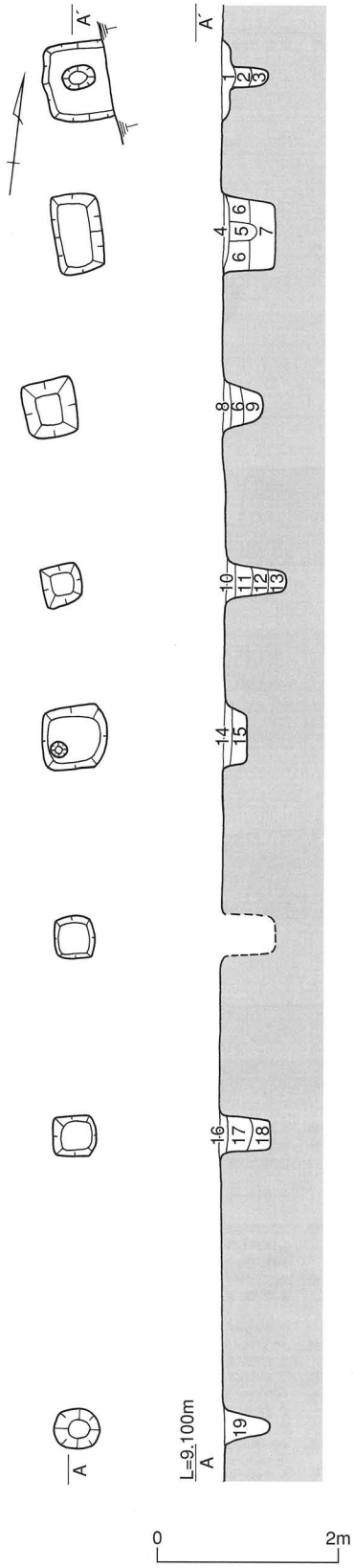
時期　古代（平安時代）である。

備考　遺構の東部の柱穴は調査区外のため未検出である。桁行は７間が確認できるが、単一の建物ではない可能性がある。



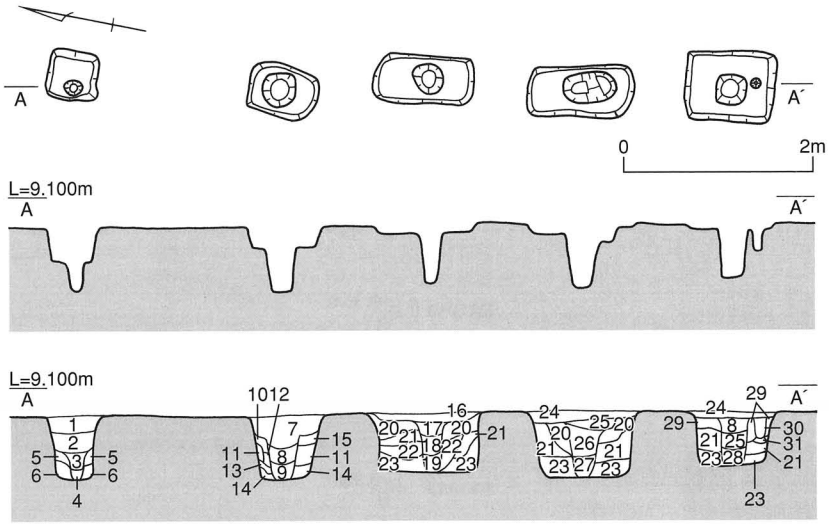
1	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	（マンガンを含む。5mm未満～2cm程度の礫を多く含む。）
2	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土	（マンガンを含む。）
3	黄褐色	2.5Y5/3	砂	（5mm～2cm程度の礫を全面に多く含む。）
4	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	（砂質は非常に強いが砂粒はシルト状で、2mm～5cm程度の礫を全面に多く含む。極微量の微細な土器片を含む。）
5	暗オリーブ褐色	2.5Y3/3	砂	（砂粒が粗く、2mm～5cm程度の礫を全面に多く含む。）
6	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	（マンガン、炭化物を微量含む。鉄片を含む。）
7	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	（マンガン、炭化物を微量含む。5mm未満の礫を少量含む。にぶい黄色粘性砂質土を少量含む。）
8	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	（粘性が強い。5cm程度の礫を含む。にぶい黄色粘性砂質土を少量含む。）
9	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	（砂質が強い。）
10	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	（やや粘性がある。上部に灰黄色粘性砂質土を少量含む。下部は砂性が強い。）
11	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土	（砂質が強い。）
12	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	（マンガンを上部に含む。土器粒を含む。5mm未満の礫を少量含む。）
13	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	（粘性が強い。マンガンを含む。下部ににぶい黄色粘性砂質土を含む。）
14	にぶい黄色	2.5Y6/3	粘質土	
15	黄褐色	2.5Y5/6	粘性砂質土	
16	オリーブ褐色	2.5Y4/6	粘性砂質土	
17	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土	
18	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	（マンガンを微量含む。5mm未満の礫を少量含む。）
19	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	（マンガンを微量含む。15cm程度の礫を含む。）
20	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	（砂質が強い。）
21	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	（炭化物を含む。）
22	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	（やや粘性があり、炭化物を含む。）
23	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	
24	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	（マンガンを上部に含む。2cm程度の礫を含む。）
25	にぶい黄色	2.5Y6/4	粘性砂質土	（マンガンを含む。）
26	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土	（粘性がやや強い。）
27	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	（粘性が強い。）
28	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土	（砂質が強い。）
29	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	（マンガンを含む。）
30	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	（マンガンを含む。2cm程度の礫を含む。）
31	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	（黄褐色粘性砂質土を一部含む。）
32	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	（粘性がやや強く、マンガンを微量含む。）
33	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	（5mm～2cm程度の礫を少量含む。）
34	明黄褐色	2.5Y6/6	粘性砂質土	
35	黄褐色	10YR5/8	粘性砂質土	（粘性がやや強い。）
36	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土	（17層より粘性が強い。）
37	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土	（炭化物を含む。）
38	オリーブ褐色	2.5Y4/6	粘性砂質土	（粘性の強いオリーブ褐色粘性砂質土を一部含む。）

第532図　SA1015平・断面図（S=1/80）



1　灰黄褐色　10YR4/2　粘性砂質土
（マンガンを含む。炭化物、土器粒を少量含む。）
2　にぶい黄褐色　10YR5/3　粘性砂質土
（マンガンを含む。炭化物を少量含む。にぶい黄褐色粘性砂質土を少量含む。）
3　にぶい黄褐色　10YR5/4　粘性砂質土
（粘性が強い。マンガンを含む。炭化物を部分的に多く含む。）
4　暗灰黄色　2.5Y5/2　粘性砂質土
（マンガンを含む。炭化物、土器粒を少量含む。）
5　にぶい黄色　2.5Y6/3　砂質土　（マンガンを含む。）
6　にぶい黄褐色　10YR5/3　砂質土　（マンガンを含む。）
7　にぶい黄褐色　10YR5/4　粘性砂質土
（マンガンを多量に含む。暗灰黄色粘性砂質土を含む。）
8　黄褐色　2.5Y5/3　砂質土
（マンガンを含む。にぶい黄色砂質土を多量に含む。）
9　黄褐色　2.5Y5/4　砂質土　（マンガンを少量含む。）
10　黄褐色　2.5Y5/4　砂質土
（マンガンを含む。炭化物を少量含む。）
11　黄褐色　2.5Y5/3　砂質土　（粘性がやや強い。）
12　黄褐色　2.5Y5/4　砂質土　（粘性がやや強い。）
13　オリーブ褐色　2.5Y4/4　砂質土
14　黄褐色　2.5Y5/3　砂質土　（マンガンを含む。）
15　オリーブ褐色　2.5Y4/3　砂質土　（マンガンを含む。）
16　にぶい黄褐色　2.5Y6/4　粘性砂質土（マンガンを含む。）
17　黄褐色　2.5Y5/3　粘性砂質土（マンガンを含む。）
18　黄褐色　2.5Y5/3　粘性砂質土
（粘性が強い。マンガンを含む。）
19　黄褐色　2.5Y5/4　粘性砂質土
（マンガンを全面に含む。にぶい黄色粘性砂質土を少量含む。）

第533図　SA1016平・断面図（S＝1/80）



1	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土	（粘性が弱く、土器粒、マンガンを含む。）
2	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	（マンガンを含む。炭化物を微量含む。）
3	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土	（粘性が強い。土器粒を含む。炭化物を微量含む。）
4	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	（粘性が強い。）
5	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	（マンガンを含む。にぶい黄褐色粘性砂質土をブロック状に含む。）
6	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	（粘性がやや強く、炭化物を含む。）
7	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土	（マンガンを含む。灰黄褐色粘性砂質土を少量含む。）
8	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土	（マンガンを含む。）
9	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土	（マンガンを多量に含む。）
10	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	（炭化物、焼土を多量に含む。）
11	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土	
12	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土	（炭化物、焼土を多量に含む。）
13	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	（炭化物、焼土を多量に含む。）
14	にぶい黄褐色	10YR4/4	粘性砂質土	（15層より粒子が細かい。やや粘性が強い。）
15	にぶい黄褐色	10YR4/4	粘性砂質土	（やや粘性が強い。）
16	灰黄褐色	10YR4/2	粘性砂質土	（マンガン、土器片、土器粒を含む。）
17	灰黄褐色	10YR5/2	粘性砂質土	（にぶい黄褐色粘性砂質土をモザイク状に含む。マンガンを含む。炭化物を少量含む。）
18	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	
19	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土	（粘性が強い。）
20	灰黄褐色	10YR4/2	粘性砂質土	（黄褐色粘性砂質土を含む。）
21	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	（マンガンを含む。灰黄褐色粘性砂質土を一部含む。）
22	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	（マンガンを含む。）
23	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土	（下部は粘性がやや強い。）
24	灰黄褐色	10YR5/2	粘性砂質土	（マンガンを含む。灰黄色粘性砂質土を含む。）
25	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	（マンガン、炭化物を少量含む。）
26	暗灰黄色	2.5Y5/2	粘性砂質土	（マンガン、炭化物、2mm程度の礫を少量含む。土器片を含む。）
27	灰黄褐色	10YR5/2	粘性砂質土	（マンガンを多量に含む。）
28	暗灰黄色	2.5Y5/2	粘性砂質土	（下部は粘性がやや強い。）
29	にぶい黄色	2.5Y6/4	粘性砂質土	（浅黄色砂質土を帯状に含む。）
30	灰黄褐色	10YR4/2	粘性砂質土	（炭化物、焼土を含む。）
31	にぶい黄色	2.5Y6/4	粘性砂質土	

第534図　SA1017平・断面図（S＝1/80）

掘立柱建物跡（SA1017）

位置　Loc.D２・δⅡ・rst12～13　　**床面積**　不明　　**主軸方向**　N-10°-W

柱穴　５基（径50～115cm、深さ60～70cm）

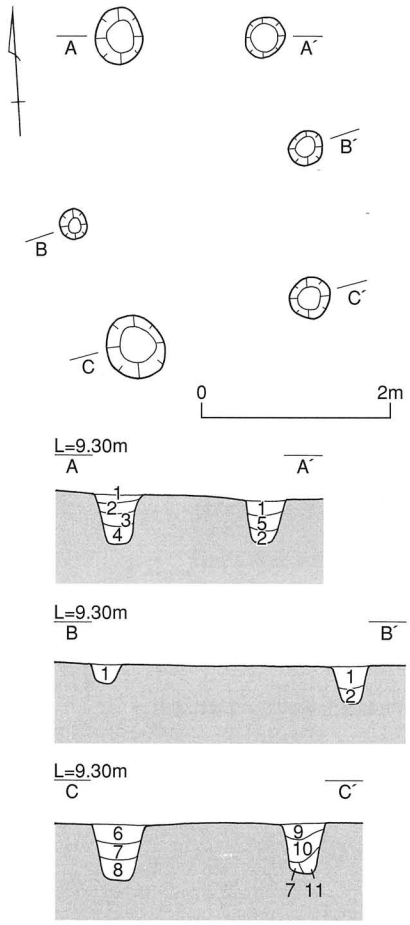
土層　覆土は各柱穴ごとに８～12層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では土器片、炭化物、焼土を含む。断面観察により、柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　220cm　　最小　160cm　　梁間　不明　　桁行　(700)cm

遺物出土状況　土器片数点が出土しているが、図示できる遺物は出土していない。

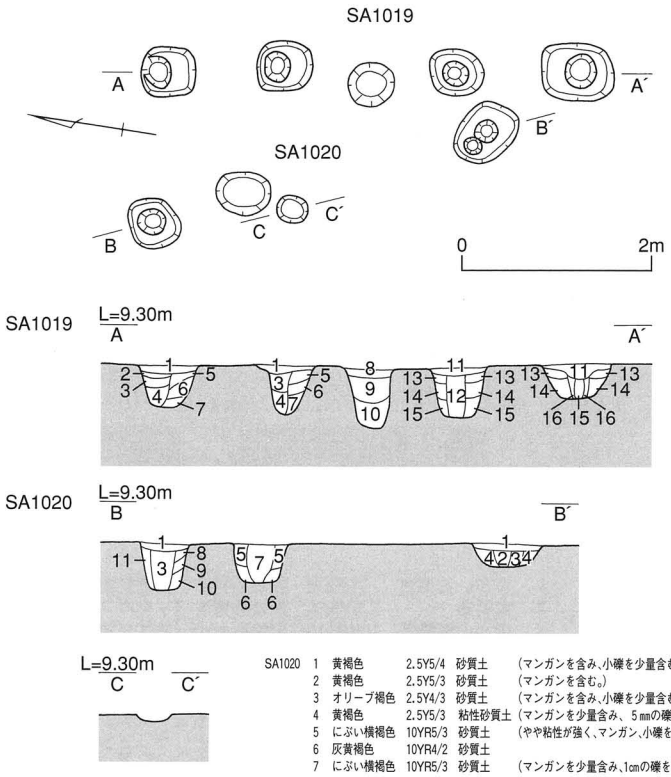
時期　古代（平安時代）である。

備考　遺構の東部の柱穴は調査区外のため未検出である。桁行４間が確認できる。



1　にぶい黄褐色　10YR4/3　粘性砂質土（マンガンを含む。）
2　黄褐色　2.5Y5/3　砂質土　（マンガン、炭化物を少量含む。）
3　にぶい黄褐色　10YR5/3　砂質土　（粒子が細かく、マンガンを含む。）
4　オリーブ褐色　2.5Y4/4　砂質土
5　にぶい黄褐色　10YR5/4　砂質土　（マンガン、炭化物を少量含む。）
6　黄褐色　2.5Y5/3　粘性砂質土
7　にぶい黄褐色　10YR5/4　粘性砂質土（マンガンを含む。）
8　にぶい黄褐色　10YR5/3　粘性砂質土（細砂を多く含み、マンガンを含む。）
9　暗灰黄色　2.5Y5/2　粘性砂質土（マンガン、炭化物を含む。）
10　灰黄褐色　10YR5/2　粘性砂質土（マンガン、炭化物を少量含む。）
11　にぶい黄色　2.5Y6/3　粘性砂質土

第535図　SA1018平・断面図（S＝1/80）



SA1020　1　黄褐色　2.5Y5/4　砂質土　（マンガンを含み、小礫を少量含む。）
2　黄褐色　2.5Y5/3　砂質土　（マンガンを含む。）
3　オリーブ褐色　2.5Y4/3　砂質土　（マンガンを含み、小礫を少量含む。）
4　黄褐色　2.5Y5/3　粘性砂質土（マンガンを少量含み、5mmの礫を含む。）
5　にぶい横褐色　10YR5/3　砂質土　（やや粘性が強く、マンガン、小礫を少量含む。）
6　灰黄褐色　10YR4/2　砂質土
7　にぶい横褐色　10YR5/3　砂質土　（マンガンを少量含み、1cmの礫を含む。）
8　にぶい黄色　2.5Y6/4　粘性砂質土（マンガンを含む。）
9　黄褐色　2.5Y5/4　粘性砂質土
10　黄褐色　2.5Y5/3　粘性砂質土（4層より砂質が強い。）
11　オリーブ褐色　2.5Y4/3　粘性砂質土
SA1019　1　にぶい黄褐色　10YR5/3　砂質土　（マンガンを含む。）
2　にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土　（マンガン、炭化物を含む。）
3　にぶい黄褐色　10YR5/3　砂質土
4　にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土　（やや粘性が強い。）
5　黄褐色　2.5Y5/4　粘性砂質土
6　黄褐色　2.5Y5/4　粘性砂質土（マンガン、炭化物を含む。）
7　オリーブ褐色　2.5Y4/4　粘性砂質土
8　黄褐色　2.5Y5/3　砂質土　（マンガンを少量含む。）
9　にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土
（やや粘性が強く、マンガン、小礫を少量含む。）
10　オリーブ褐色　2.5Y4/4　粘質土
11　黄褐色　2.5Y5/3　砂質土　（マンガンを含む。）
12　黄褐色　2.5Y5/3　砂質土
（やや粘性が強く、マンガンを含む。）
13　黄褐色　2.5Y5/4　砂質土　（マンガンを含む。）
14　にぶい黄褐色　10YR5/4　粘性砂質土
（マンガンを少量含み、1cmの礫を含む。）
15　褐色　10YR4/4　粘性砂質土
16　にぶい黄褐色　10YR5/4　砂質土　（やや粘性が強い。）

第536図　SA1019・SA1020平・断面図（S＝1/80）

掘立柱建物跡（SA1018）

位置　Loc.D２・δⅡ・s９～10　　**床面積**　7.0m²　　**主軸方向**　N-4°-W

柱穴　６基（径30～70cm、深さ20～60cm）

土層　覆土は各柱穴ごとに１～４層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では、炭化物を含む。

柱穴間距離　最大　160cm　　最小　120cm　　梁間　160cm　　桁行　340cm

遺物出土状況　土器片数点が出土しているが、図示できる遺物は出土していない。

時期　古代（平安時代）である。

備考　やや不整形であるが、１間×２間の規模をもつ。第２遺構面のSX2008を切り込んで柱穴が掘られていることから第１遺構面としているが、出土した土器片は弥生式土器であるため、SX2008に付属する遺構である可能性がある。

掘立柱建物跡（SA1019）

位置　Loc.D２・δⅡ・qr９　　**床面積**　不明　　**主軸方向**　N-8°-W

柱穴　５基（径30～70cm、深さ20～60cm）

土層　覆土は各柱穴ごとに３～８層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では炭化物を含む。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　130cm　　最小　90cm　　梁間　不明　　桁行　(450)cm

遺物出土状況　遺物は出土していない。

時期　古代（平安時代）である。

備考　柱穴の深さが浅く未検出のものがある。１間×４間程度の規模をもつと推定される。

掘立柱建物跡（SA1020）

位置　Loc.D２・δⅡ・r８～９　　**床面積**　不明　　**主軸方向**　N-23°-W

柱穴　４基（径30～70cm、深さ25～50cm）

土層　覆土は各柱穴ごとに５～６層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では、炭化物を含む。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　270cm　　最小　100cm　　梁間　不明　　桁行　(360)cm

遺物出土状況　遺物は出土していない。

時期　古代（平安時代）である。

備考　柱穴の深さが浅く未検出のものがある。１間×３間程度の規模をもつと考えられる。

掘立柱建物跡（SA1021）

位置　Loc.D２・δⅡ・rs７～８　　**床面積**　8.0m²　　**主軸方向**　N-10°-W

柱穴　９基（径40～100cm、深さ50～65cm）

土層　覆土は各柱穴ごとに２～11層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。

柱穴間距離　最大　190cm　　最小　120cm　　梁間　190cm　　桁行　420cm

遺物出土状況　遺物は出土していない。

時期　古代（平安時代）である。

備考　１間×３間の規模をもつ。

掘立柱建物跡（SA1022）

位置　Loc.D２・δεⅡ・tab８～９　　**床面積**　40.9m²　　**主軸方向**　N-６°-W

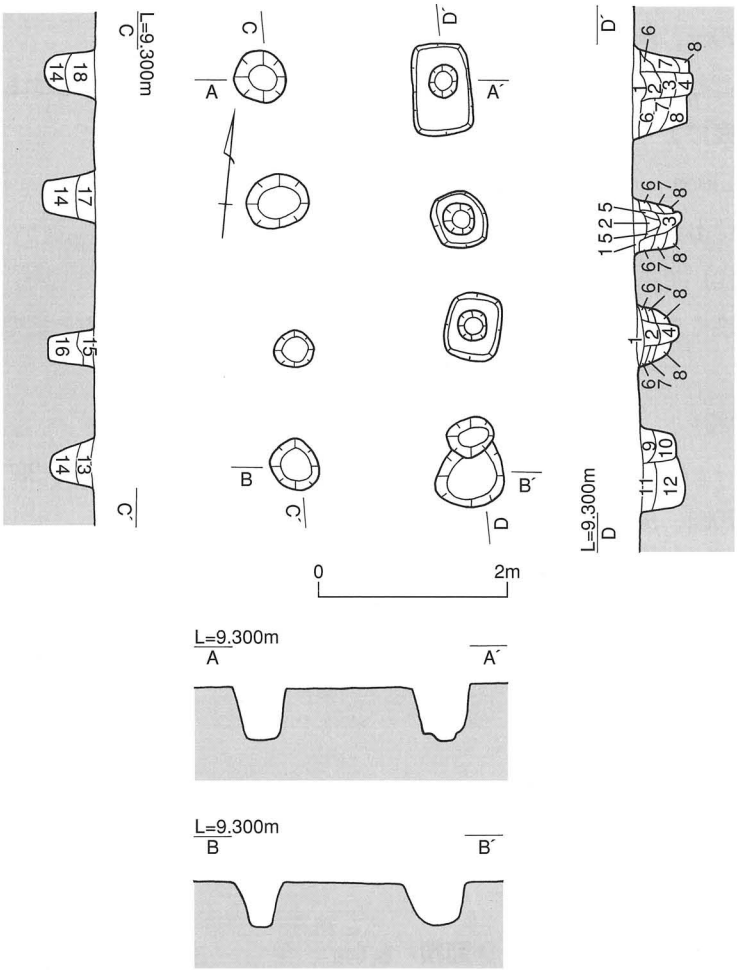
柱穴　15基（径25～120cm、深さ45～60cm）

土層　覆土は各柱穴ごとに３～５層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では土器片、炭化物を含む。

柱穴間距離　最大　230cm　　最小　160cm　　梁間　470cm　　桁行　870cm

遺物出土状況　土器片数点が出土している。図示できる遺物は、EP１出土の甕・土師器杯、EP２出土の土師器皿、EP３出土の須恵器蓋の４点である。

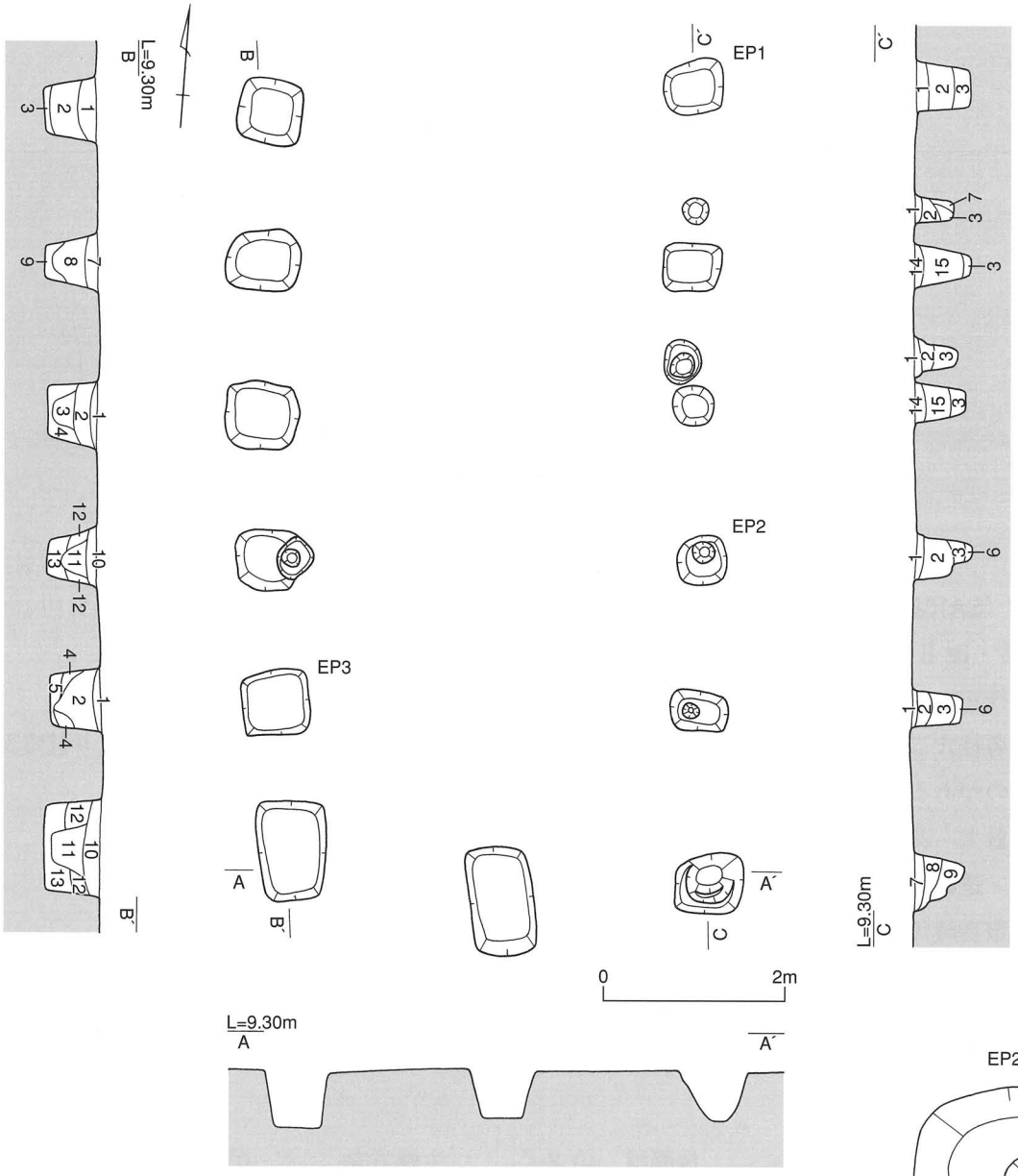
時期　古代（奈良時代（８世紀後半））である。

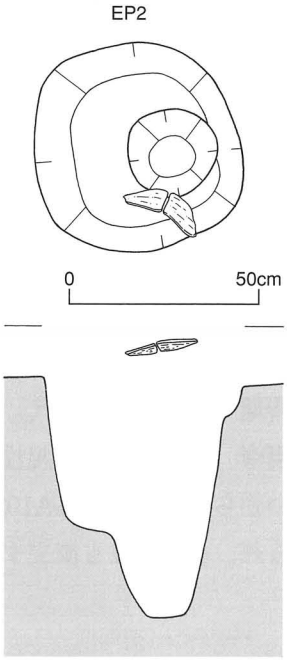


1	灰黄褐色	10YR4/2	粘性砂質土
2	灰黄褐色	10YR4/2	粘性砂質土（1層より1㎝未満の礫を多く含む。）
3	灰黄褐色	10YR4/2	粘性砂質土（2層より粘性が強い。）
4	灰黄褐色	10YR5/2	砂礫層
5	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土（マンガンを少量含む。）
6	暗オリーブ褐色	2.5Y3/3	粘性砂質土（砂質がやや強く、0.5～4㎝の礫を含む。）
7	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土（6層よりも少ないが、0.5～4㎝の礫を含む。）
8	暗褐色	10YR3/3	砂礫層
9	褐色	10YR4/4	粘性砂質土（マンガンを含み、数㎜の礫を多量に含む。）
10	暗褐色	10YR5/2	粘性砂質土（マンガン、2～3㎝の礫を多量に含む。）
11	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土
12	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土（マンガンを含み、数㎜の礫を少量含む。）
13	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土　（数㎜の礫を少量に含む。）
14	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂礫層
15	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土　（1㎝の礫を多量に含む。）
16	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂礫層
17	灰黄褐色	10YR4/2	砂質土　（マンガン、1～3㎝の礫を多量に含む。）
18	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土（マンガンを含み、1㎝の礫を少量含む。）

第537図　SA1021平・断面図（S=1/80）

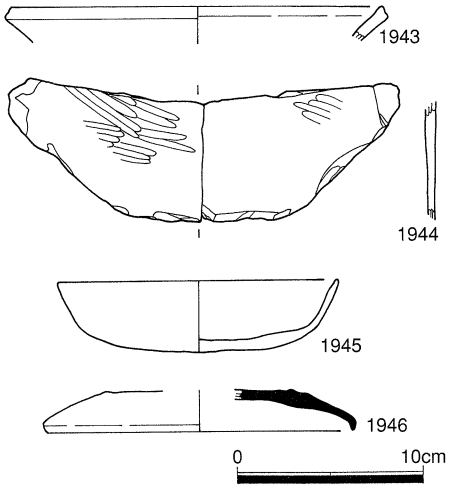
備考　北側の柱穴は一部削平のため未検出である。2間×5間の規模をもつ。SA1023と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1023→SA1022となる。





1	黄褐色	2.5Y5/3	砂質土（マンガンを含む。）
2	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土（１層より少ないが、マンガンを含む。）
3	黄褐色	2.5Y5/3	砂質土（砂粒を含む。）
4	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土（粒子が細かい。）
5	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土（５mmの礫を多く含む。）
6	オリーブ褐色	2.5Y4/3	砂質土（やや粘性が強い。）
7	黄褐色	2.5Y5/4	砂質土（マンガン、炭化物を含む。）
8	黄褐色	2.5Y5/3	砂質土
9	黄褐色	2.5Y5/4	砂質土（７層より炭化物を多く含む。）
10	暗灰黄色	2.5Y5/2	砂質土（マンガンを含む。）
11	黄褐色	2.5Y5/3	砂質土（やや粘性が強く、マンガンを含む。）
12	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土
13	オリーブ褐色	2.5Y4/4	砂質土
14	にぶい黄褐色	10YR4/3	砂質土（やや粘性が強く、マンガンを含む。）
15	にぶい黄褐色	10YR4/3	砂質土（やや粘性が強い。）

第538図　SA1022平・断面図、EP２遺物出土状況図（S＝1/20）



第539図　SA1022出土土器

掘立柱建物跡（SA1023）

位置　Loc.D２・δε Ⅱ・tab８～９　　**床面積**　34.7㎡　　**主軸方向**　N-10°-W

柱穴　10基（径70～120cm、深さ70～80cm）

土層　覆土は各柱穴ごとに６～18層に分かれ、黄褐色系の砂質土を主体とする。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　260cm　　最小　220cm　　梁間　450cm　　桁行　770cm

遺物出土状況　遺物は出土していない。

時期　古代（奈良時代）である。

備考　２間×３間の規模をもつ。SA1022と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1023→SA1022となる。

掘立柱建物跡（SA1024）

位置　Loc.D２・ε Ⅱ・cd10～11　　**床面積**　40.8㎡　　**主軸方向**　N-10°-W

柱穴　13基（径45～120cm、深さ25～60cm）

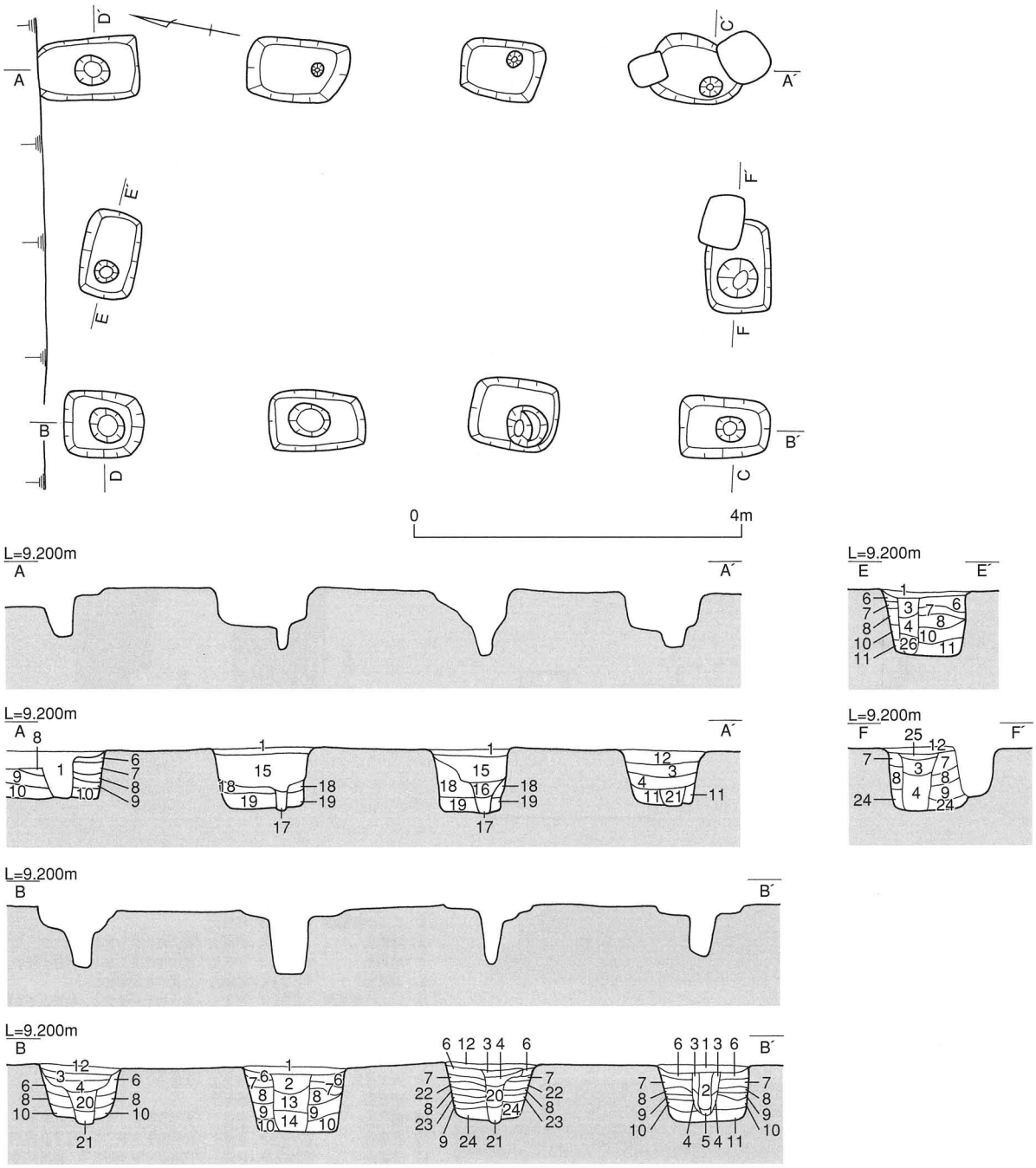
土層　覆土は各柱穴ごとに２～５層に分かれ、黄褐色系の砂質土を主体とする。一部柱穴では、炭化物を含む。

柱穴間距離　最大　240cm　　最小　180cm　　梁間　600cm　　桁行　680cm

遺物出土状況　遺物は出土していない。

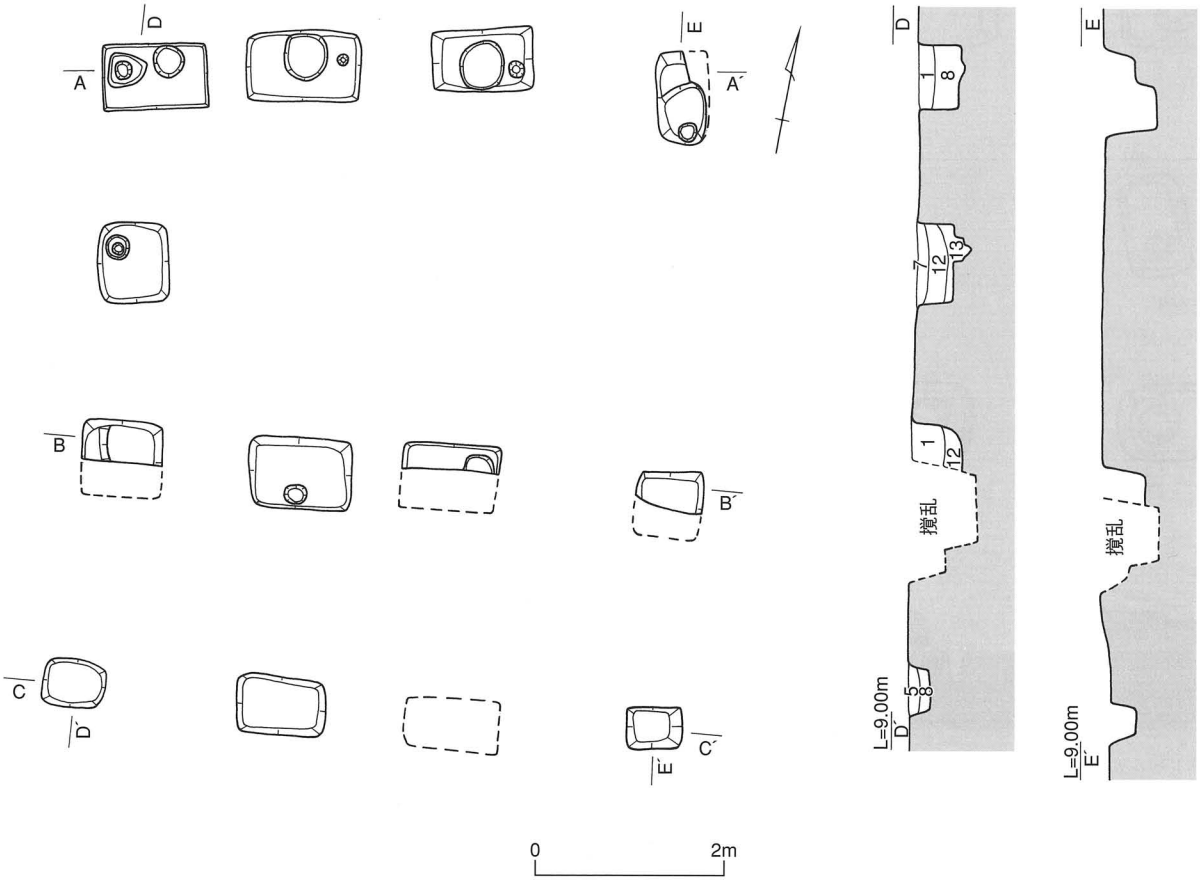
時期　古代（平安時代）である。

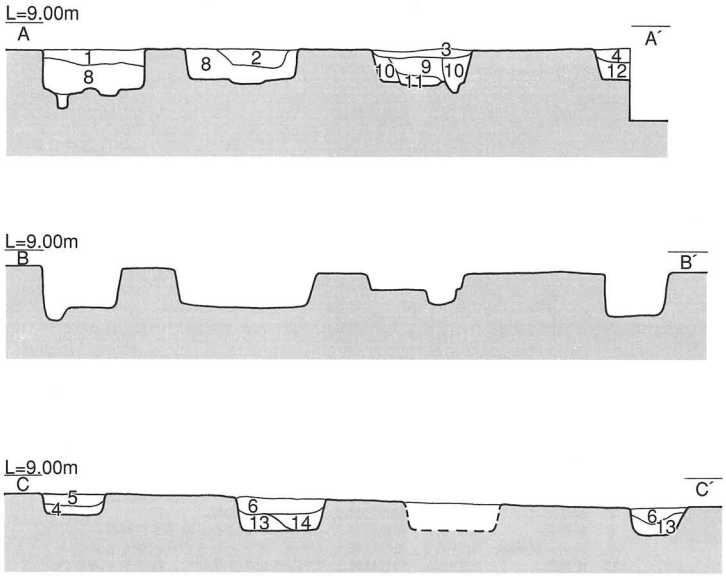
備考　３間×３間の規模をもち、南側１間は庇部分と考えられる。SA1025と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1025→SA1024となる。南端の一列をのぞいたほぼすべての柱穴で切り合いが見られ、主軸方位も直交することから、SA1025の建て替えによる遺構と考えられる。



1	黄褐色	2.5Y5/3	砂質土	(マンガンを含む。)
2	にぶい黄褐色	10YR4/3	砂質土	(マンガンを含み、数cmの礫を含む。)
3	黄褐色	2.5Y5/4	砂質土	(マンガンを少量含む。)
4	黄褐色	2.5Y5/3	砂質土	(1層より粘性が強い。)
5	にぶい黄色	2.5Y6/3	砂質土	(砂質がやや強い。)
6	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土	(マンガンを含み、1cmの礫を少量含む。)
7	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	(マンガンを含む。)
8	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	(マンガンを含む。粒子やや細かい。)
9	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	(鉄分、マンガンを含み、硬くしまる。)
10	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	(マンガンを少量含む。粒子やや細かい。)
11	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土	(粒子が細かい。)
12	灰黄褐色	10YR5/2	砂質土	(マンガンを含む。)
13	オリーブ褐色	2.5Y4/3	砂質土	
14	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土	(若干粘性を帯びる。)
15	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土	(マンガンを含む。)
16	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土	(15層より粘性が強い。)
17	灰オリーブ色	5Y5/3	砂質土	
18	にぶい黄褐色	10YR4/3	砂質土	(マンガンを含む。)
19	褐色	10YR4/4	砂質土	(粘性が強い。一部に灰オリーブ粘質土を含む。)
20	オリーブ褐色	2.5Y4/4	砂質土	(若干粘性を帯びる。)
21	黄褐色	2.5Y5/4	砂質土	(若干粘性を帯びる。)
22	黄褐色	2.5Y5/4	砂質土	(マンガンを多量に含む。)
23	黄褐色	2.5Y5/4	砂質土	(粒子が細かい。)
24	褐色	10YR4/4	砂質土	
25	暗灰黄色	2.5Y4/2	砂質土	(マンガンを多量に含む。)
26	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土	(若干粘性を帯びる。)

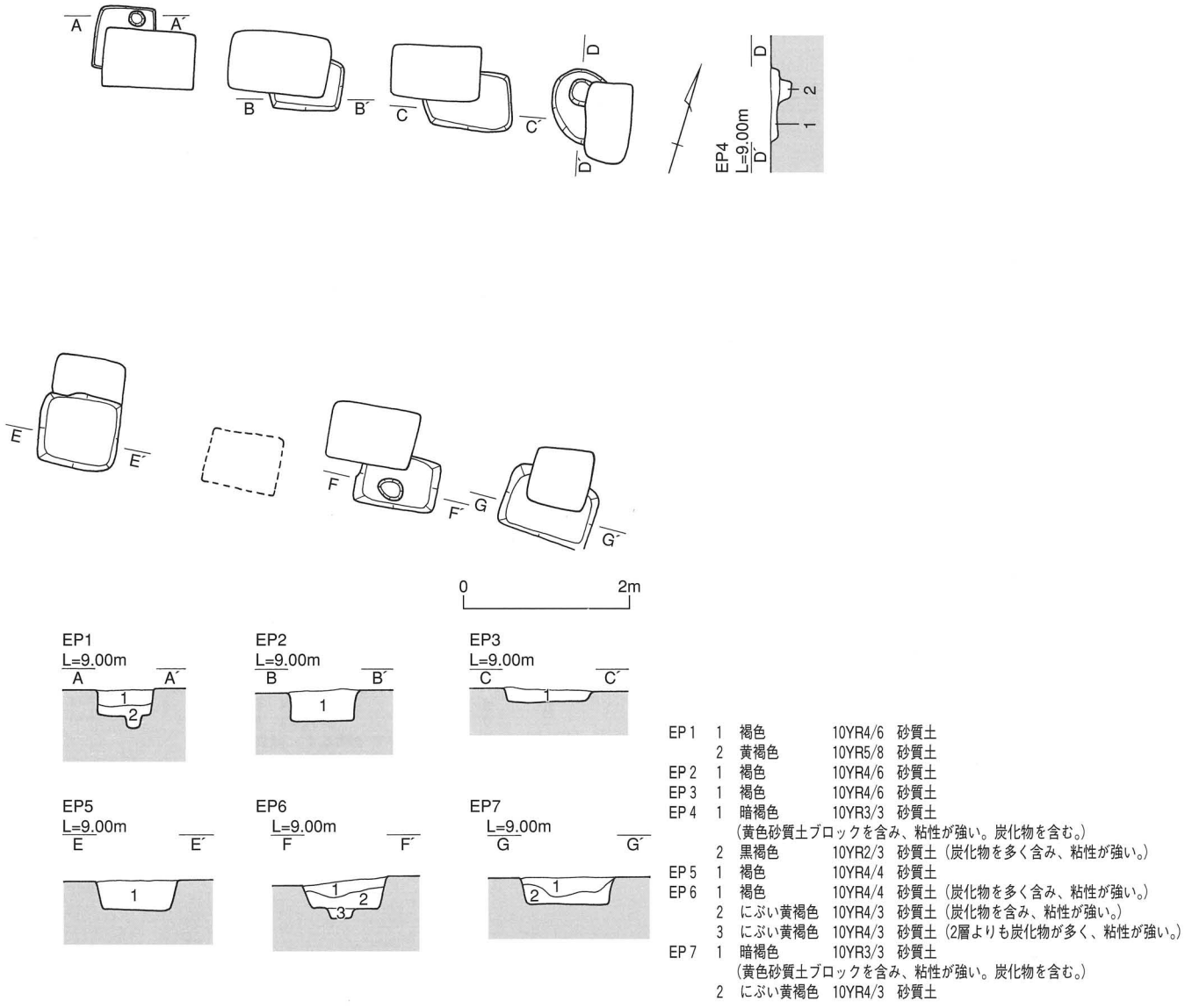
第540図　SA1023平・断面図（S=1/80）





1　暗褐色　10YR3/4　砂質土
（炭化物を多く含む。黄色砂質土ブロックを含み、粘性が強い。）
2　にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土
3　暗褐色　10YR3/4　砂質土（炭化物を多く含む。）
4　暗褐色　10YR3/2　砂質土（炭化物を多く含み、粘性が強い。）
5　暗褐色　10YR3/4　砂質土（土器片を少量含む。）
6　にぶい黄褐色　10YR5/4　砂質土（炭化物を少量含み、粘性がやや強い。）
7　暗褐色　10YR3/4　砂質土（炭化物を多く含み、粘性が強い。）
8　褐色　10YR4/4　砂質土
9　灰黄褐色　10YR4/4　砂質土（炭化物を多く含み、粘性が強い。）
10　灰黄褐色　10YR4/2　砂質土（9層よりやや暗い。）
11　暗褐色　10YR3/3　砂質土
12　暗褐色　10YR3/3　砂質土（炭化物を多く含み、粘性が強い。）
13　黄褐色　10YR5/8　砂質土（炭化物を少量含む。粒子が細かい。）
14　黄褐色　10YR5/8　砂質土（13層よりやや明るく、粘性が強い。）

第541図　SA1024平・断面図（S＝1/80）



EP 1	1	褐色	10YR4/6	砂質土
	2	黄褐色	10YR5/8	砂質土
EP 2	1	褐色	10YR4/6	砂質土
EP 3	1	褐色	10YR4/6	砂質土
EP 4	1	暗褐色	10YR3/3	砂質土
		(黄色砂質土ブロックを含み、粘性が強い。炭化物を含む。)		
	2	黒褐色	10YR2/3	砂質土（炭化物を多く含み、粘性が強い。）
EP 5	1	褐色	10YR4/4	砂質土
EP 6	1	褐色	10YR4/4	砂質土（炭化物を多く含み、粘性が強い。）
	2	にぶい黄褐色	10YR4/3	砂質土（炭化物を含み、粘性が強い。）
	3	にぶい黄褐色	10YR4/3	砂質土（2層よりも炭化物が多く、粘性が強い。）
EP 7	1	暗褐色	10YR3/3	砂質土
		(黄色砂質土ブロックを含み、粘性が強い。炭化物を含む。)		
	2	にぶい黄褐色	10YR4/3	砂質土

第542図　SA1025平・断面図（S＝1/80）

掘立柱建物跡（SA1025）

位置　Loc.D 2 ・εⅡ・cd10～11　　**床面積**　26.9㎡　　**主軸方向**　N-80°-E

柱穴　7基（径65～120㎝、深さ20～50㎝）

土層　覆土は各柱穴ごとに1～3層に分かれ、褐色系の砂質土を主体とする。一部柱穴では、炭化物を含む。

柱穴間距離　最大　480㎝　　最小　190㎝　　梁間　480㎝　　桁行　560㎝

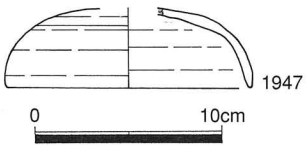
遺物出土状況　遺物は出土していない。

時期　古代（平安時代）である。

備考　削平によって未検出の柱穴がある。1間×3間の規模をもつ。SA1024と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1025→SA1024となる。南端1列を除いたほぼすべての柱穴で切り合いが見られ、主軸方位も直交することから、SA1025の建て替えによる遺構がSA1024であると考えられる。

1　暗褐色　10YR3/4　砂質土
（土器片を少量、炭化物を多く含む。粘性が強い。）
2　暗褐色　10YR3/4　砂質土
3　暗褐色　10YR3/4　砂質土
（炭化物を多く含み、粘性が強い。）
4　暗褐色　10YR3/3　砂質土
（炭化物を多く含み、粘性が強い。）
5　にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土
（炭化物を少量含み、やや砂質が強い。）
6　褐色　10YR4/4　砂質土
7　暗褐色　10YR3/3　砂質土
（4層よりやや明るく、砂質が強い。）
8　暗褐色　10YR3/4　砂質土
（1層よりやや暗く、砂質が強い。）
9　黄褐色　10YR5/6　砂質土
（炭化物を多く含み、粘性が強い。）

第543図　SA1026平・断面図（S=1/80）



第544図　SA1026出土遺物

掘立柱建物跡（SA1026）

位置　Loc.D 2・εⅡ・cd 9～10　　**床面積**　15.0m²　　**主軸方向**　N-85°-E

柱穴　9基（径55～130cm、深さ10～50cm）

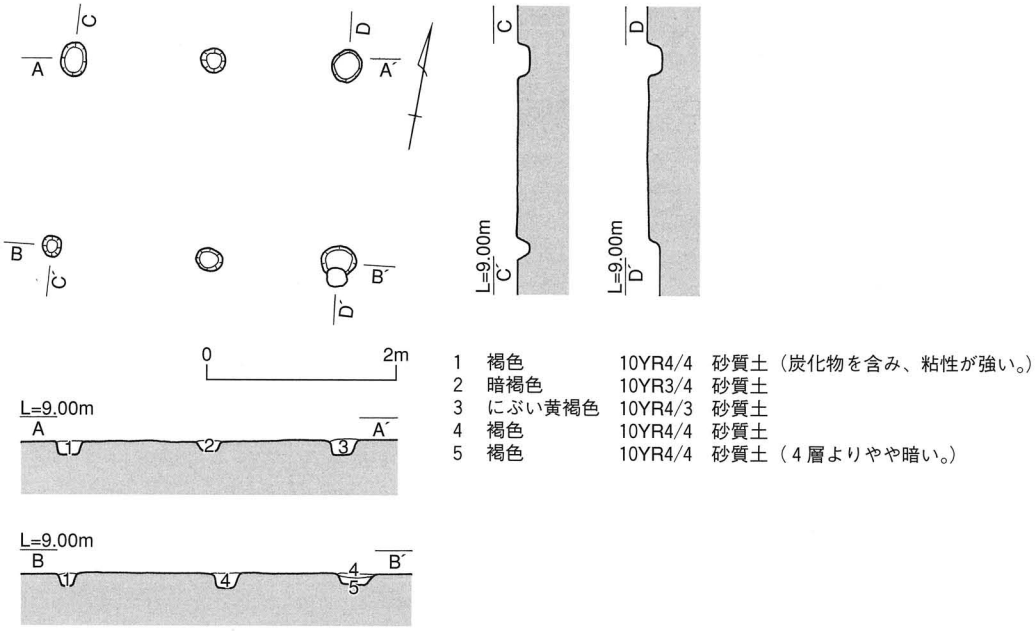
土層　覆土は各柱穴ごとに1～2層に分かれ、暗褐色の砂質土を主体とする。一部柱穴では、土器片、炭化物を含む。

柱穴間距離　最大　180cm　　最小　140cm　　梁間　350cm　　桁行　430cm

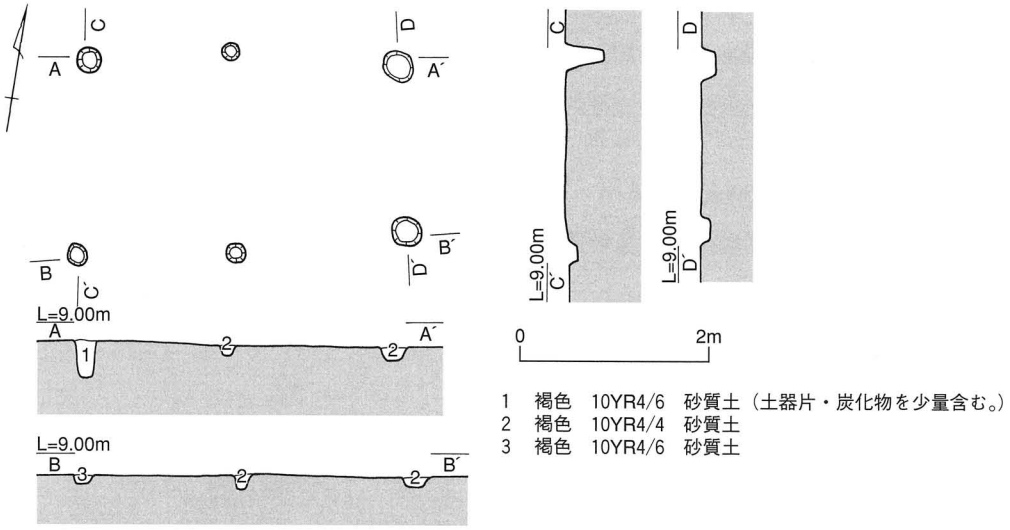
遺物出土状況　土器片が出土している。図示できる遺物は、EP1出土の土師器蓋1点である。

時期　古代（奈良時代（8世紀））である。

備考　削平によって未検出の柱穴がある。2間×3間の規模をもつ。



第545図　SA1027平・断面図（S=1/80）



第546図　SA1028平・断面図（S=1/80）

掘立柱建物跡（SA1027）

位置　Loc.D 2・εⅡ・de 9～10　　**床面積**　6.1㎡　　**主軸方向**　N-81°-E

柱穴　6基（径20～40㎝、深さ10～15㎝）

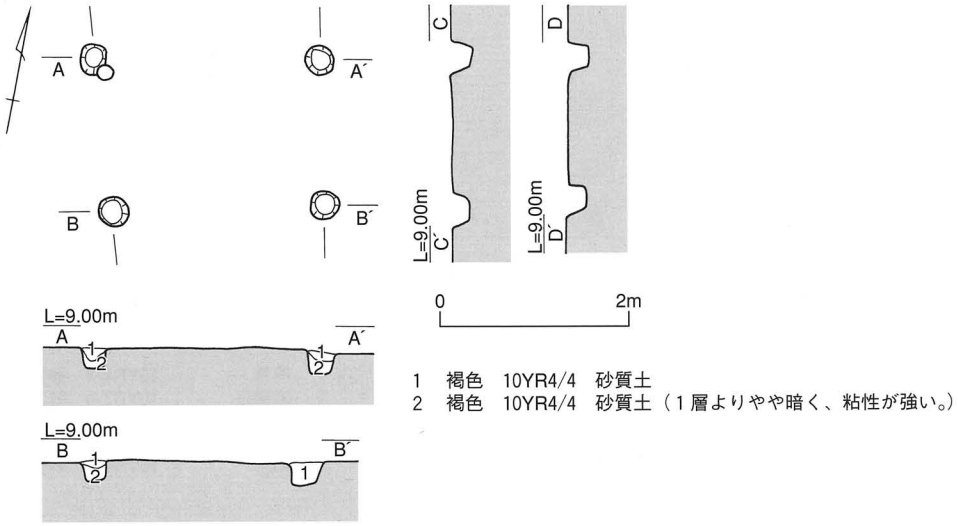
土層　覆土は各柱穴ごとに1～2層に分かれ、褐色の砂質土を主体とする。一部柱穴では、炭化物を含む。

柱穴間距離　最大　210㎝　　最小　140㎝　　梁間　210㎝　　桁行　290㎝

遺物出土状況　遺物は出土していない。

時期　古代（平安時代）である。

備考　1間×2間の規模をもつ。



第547図　SA1029平・断面図（S=1/80）

掘立柱建物跡（SA1028）

位置　Loc.D２・εⅡ・g９～10　　**床面積**　6.6㎡　　**主軸方向**　N-80°-E

柱穴　６基（径20～40㎝、深さ10～40㎝）

土層　覆土は各柱穴ごとに１層に分かれ、褐色の砂質土を主体とする。一部柱穴では、土器片、炭化物を含む。

柱穴間距離　最大　200㎝　　最小　150㎝　　梁間　200㎝　　桁行　330㎝

遺物出土状況　土器片は出土しているが、図示できる遺物は出土していない。

時期　古代（平安時代）である。

備考　１間×２間の規模をもつ。

掘立柱建物跡（SA1029）

位置　Loc.D２・εⅡ・gh10　　**床面積**　3.9㎡　　**主軸方向**　N-80°-E

柱穴　４基（径20～40㎝、深さ10～40㎝）

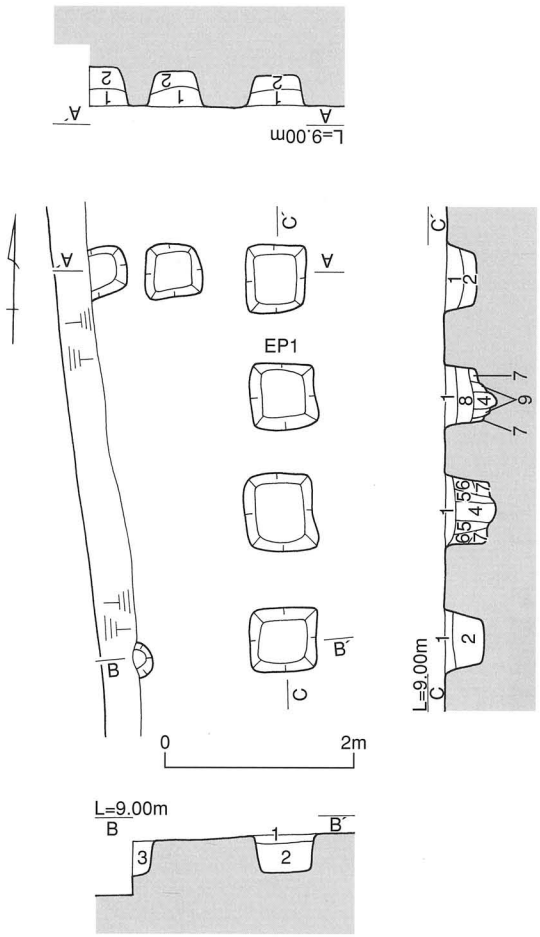
土層　覆土は各柱穴ごとに１～２層に分かれ、褐色の砂質土を主体とする。

柱穴間距離　最大　240㎝　　最小　160㎝　　梁間　160㎝　　桁行　240㎝

遺物出土状況　遺物は出土していない。

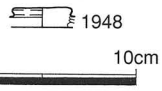
時期　古代（平安時代）である。

備考　１間×１間の規模をもつ。

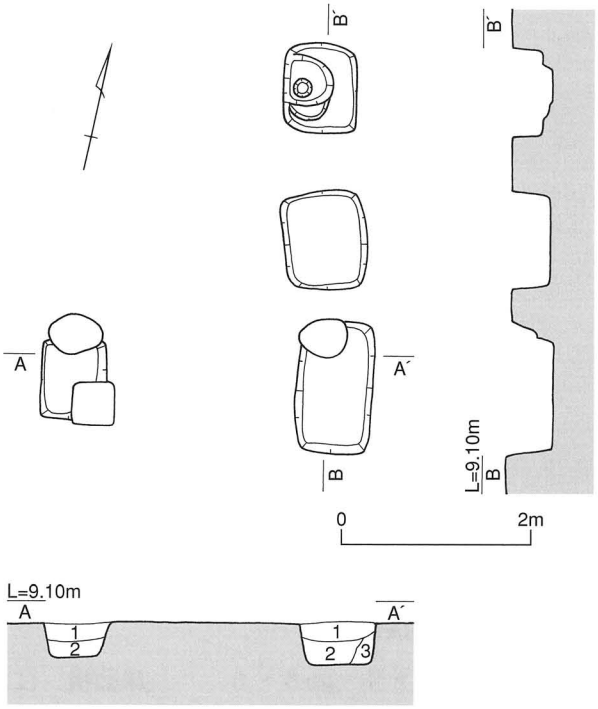


1 暗褐色 10YR3/4 砂質土（炭化物を多量に含む。）
2 暗褐色 10YR3/3 砂質土（炭化物を多量に含む。）
3 暗褐色 10YR3/4 砂質土
4 暗褐色 10YR3/3 砂質土（粘性が強い。炭化物を多量に含む。）
5 暗褐色 10YR3/3 砂質土（粘性が強い。固くしまる。炭化物を多量に含む。）
6 褐色 10YR4/4 砂質土（固くしまる。炭化物を含む。）
7 黄褐色 10YR5/8 砂質土（固くしまる。炭化物を少量含む。）
8 暗褐色 10YR3/4 砂質土（粘性がやや強い。炭化物を多量に含む。）
9 褐色 10YR4/4 砂質土（粘性がやや強い。炭化物を多量に含む。）

第548図 SA1030平・断面図（S＝1/80）



第549図 SA1030出土土器



1 暗褐色 10YR3/4 砂質土
（炭化物を含む。黄色砂質土ブロックを多く含み、硬くしまる。）
2 暗褐色 10YR3/4 砂質土（1層より炭化物を多く含み、粘性が強い。）
3 褐色 10YR4/6 砂質土（炭化物を少量含み、やや粘性が強い。）

第550図 SA1031平・断面図（S＝1/80）

掘立柱建物跡（SA1030）

位置 Loc.D２・εⅡ・ef６　　**床面積** 7.2㎡　　**主軸方向** N-３°-W

柱穴 ７基（径50～85㎝、深さ30～50㎝）

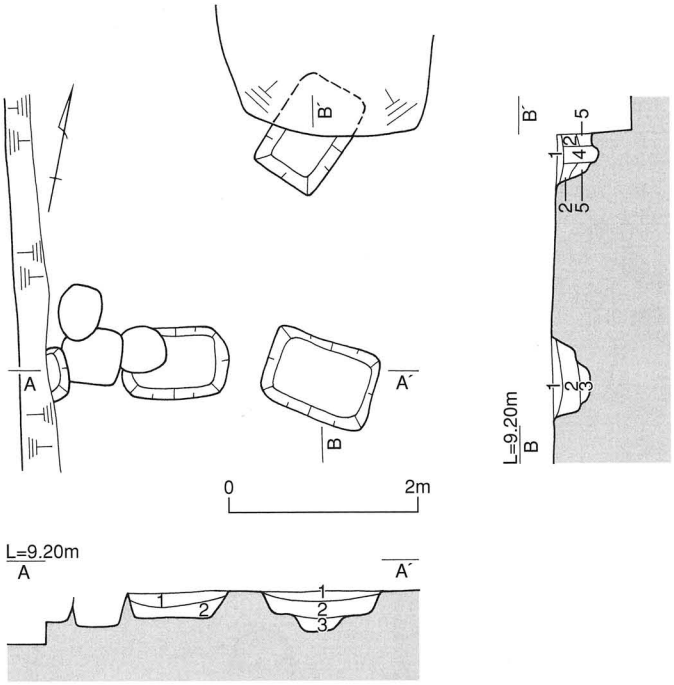
土層 覆土は各柱穴ごとに２層に分かれ、暗褐色の砂質土を主体とする。

柱穴間距離 最大 160㎝　最小 80㎝　梁間 (200)㎝　桁行 400㎝

遺物出土状況 土器片が出土している。図示できる遺物は、EP１出土の杯蓋つまみ１点である。

時期 古代（奈良時代（８世紀））である。

備考 西側部分は調査区外に延びるため柱穴が未検出の可能性がある。２間×３間の規模をもつと考えられる。



1　にぶい黄褐色　10YR5/4　砂質土（炭化物少量含む。黄色砂質土ブロックを多く含む。）
2　暗褐色　10YR3/4　砂質土（炭化物を多く含む。黄色砂質土ブロックを含む。）
3　暗褐色　10YR3/4　砂質土（２層よりやや暗く、粘性が強い。）
4　暗褐色　10YR3/3　砂質土（粘性が強い。炭化物を多量に含む。）
5　明黄褐色　10YR6/8　砂質土（固くしまる。炭化物を少量含む。）

第551図　SA1032平・断面図（S＝1/80）

掘立柱建物跡（SA1031）

位置　Loc.D２・εⅡ・gh５～６　　**床面積**　11.6m²　　**主軸方向**　N-79°-E

柱穴　４基（径70～140cm、深さ35～50cm）

土層　覆土は各柱穴ごとに２～３層に分かれ、暗褐色の砂質土を主体とする。

柱穴間距離　最大　280cm　　最小　160cm　　梁間　340cm　　桁行　(280)cm

遺物出土状況　遺物は出土していない。

時期　古代（平安時代）である。

備考　西端は調査区外に延びる。２間×３間程度の規模をもつと考えられる。

掘立柱建物跡（SA1032）

位置　Loc.D２・εⅡ・hi５～６　　**床面積**　7.3m²　　**主軸方向**　N-83°-E

柱穴　４基（径75～120cm、深さ25～45cm）

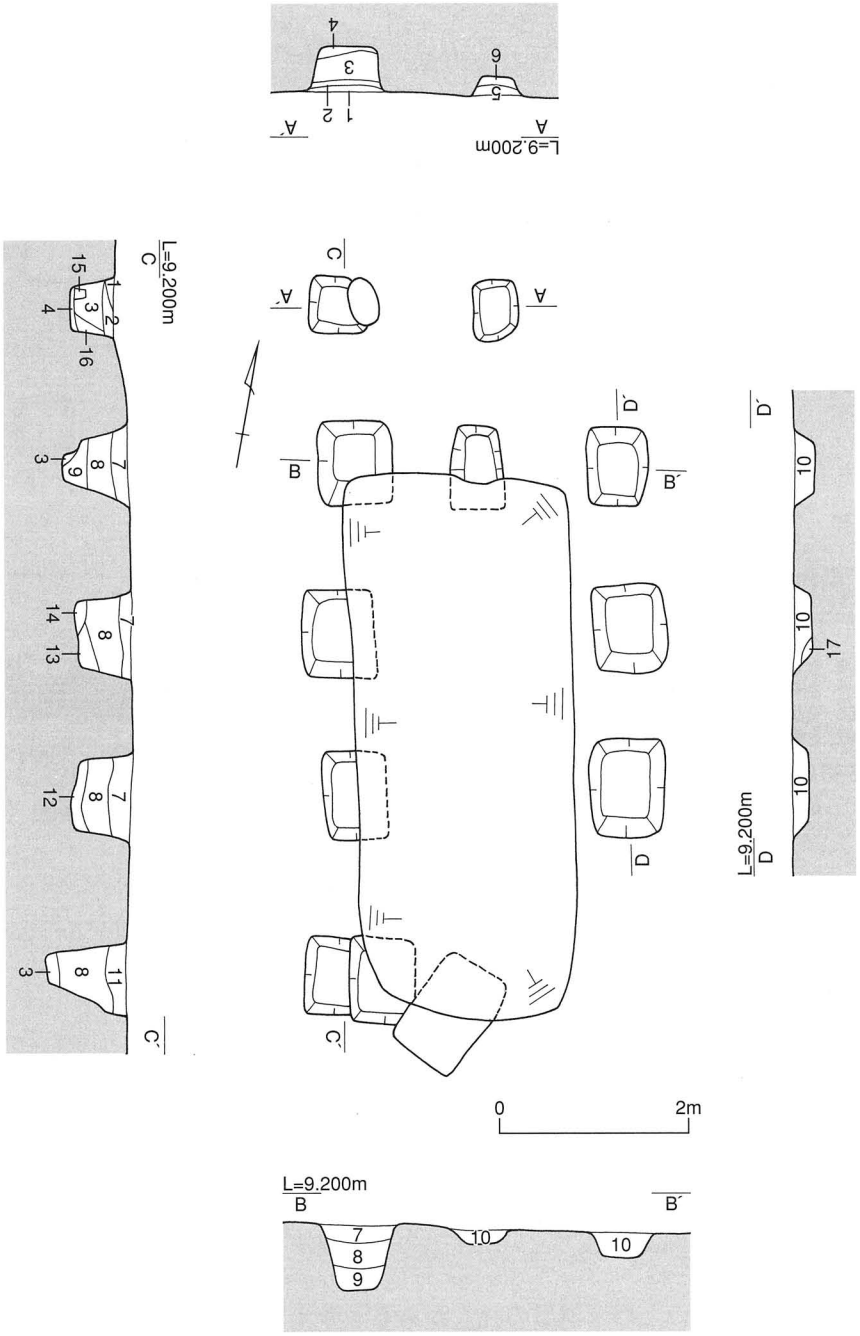
土層　覆土は各柱穴ごとに２～６層に分かれ、暗褐色の砂質土を主体とする。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　270cm　　最小　170cm　　梁間　270cm　　桁行　(300)cm

遺物出土状況　遺物は出土していない。

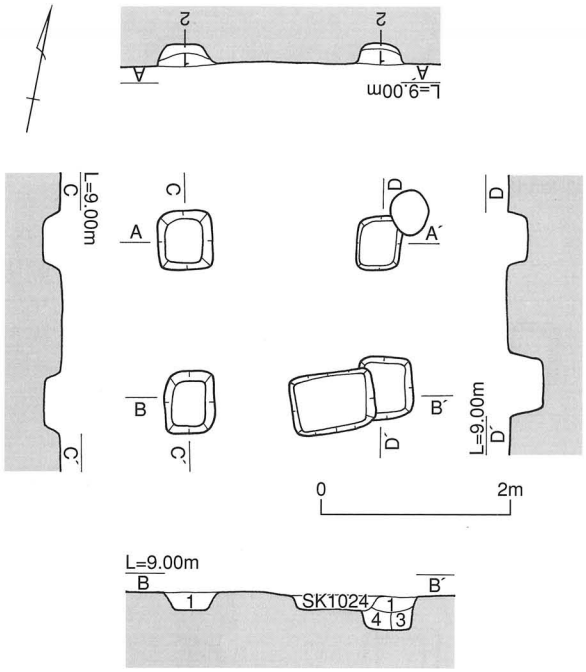
時期　古代（平安時代）である。

備考　西側部分は調査区外のため柱穴が未検出である。１間×３間程度の規模をもつと考えられる。



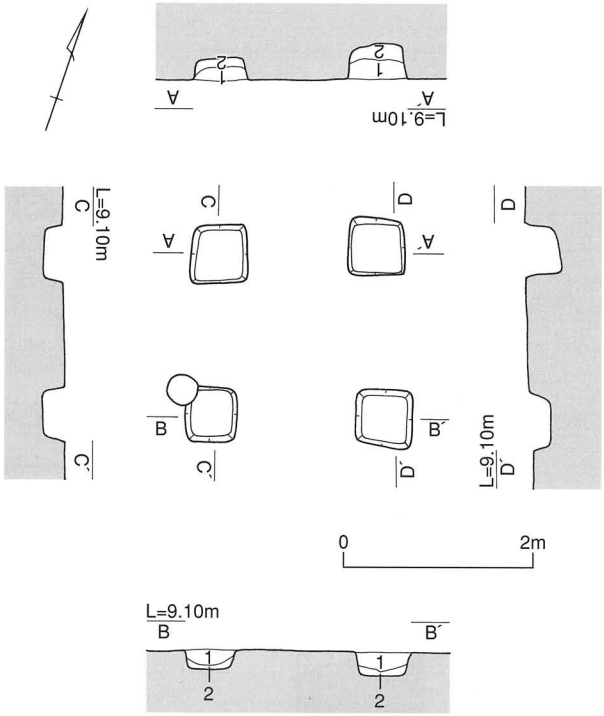
1	黄褐色	10YR5/6	砂質土
2	褐色	10YR4/4	砂質土
3	暗褐色	10YR3/3	砂質土（粘性が強い。）
4	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土（粘性がやや強い。）
5	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土
6	褐色	10YR4/6	砂質土
7	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土（炭化物を含み、黄色砂質土ブロックを多く含む。）
8	暗褐色	10YR3/4	砂質土（炭化物を多く含み、黄色砂質土ブロックを含む。）
9	暗褐色	10YR3/4	砂質土（粘性低い。）
10	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土（炭化物を少量含み、硬くしまる。）
11	にぶい黄褐色	10YR4/3	砂質土（炭化物を多量に含む。黄色砂質土ブロックを含む。）
12	明黄褐色	10YR6/8	砂質土（粘性が強い。炭化物を含む。）
13	黄橙色	10YR7/8	砂質土（粘性が強い。炭化物を含む。）
14	黄橙色	10YR7/8	砂質土（粘性が強い。炭化物を多量に含む。）
15	暗褐色	10YR3/3	粘質土
16	褐色	10YR4/4	砂質土（やや暗い。）
17	にぶい黄橙色	10YR6/3	砂質土（固くしまる。炭化物を少量含む。）

第552図　SA1033平・断面図（S=1/80）



1　にぶい黄褐色　10YR5/4　砂質土（炭化物を含み、硬くしまる。粘性やや強い。）
2　褐色　10YR4/4　砂質土（炭化物を含み、粘性強い。）
3　にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（炭化物を含み、硬くしまる。粘性強い。）
4　灰黄褐色　10YR4/2　砂質土（炭化物を含み、やや粘性が強い。）

第553図　SA1034平・断面図（S=1/80）



1　黄褐色　10YR5/6　砂質土（砂質やや強い。炭化物を含み、若干しまっている。）
2　黄褐色　10YR5/6　砂質土（1層より砂質強い。）

第554図　SA1035平・断面図（S=1/80）

掘立柱建物跡（SA1033）

位置　Loc.D２・εⅡ・hij５～６　　**床面積**　20.0㎡　　**主軸方向**　N-10°-W

柱穴　10基（径45～90cm、深さ15～85cm）

土層　覆土は各柱穴ごとに１～６層に分かれ、黄褐色系の砂質土を主体とする。一部の柱穴では炭化物を含む。

柱穴間距離　最大　190cm　　最小　130cm　　梁間　290cm　　桁行　700cm

遺物出土状況　遺物は出土していない。

時期　古代（平安時代）である。

備考　東側の柱穴の深さが浅いため未検出の柱穴があると考えられる。2間×4間の規模をもつ。SA1032と重複関係にあり、柱穴の切り合いから先後関係はSA1032→SA1033となる。

掘立柱建物跡（SA1034）

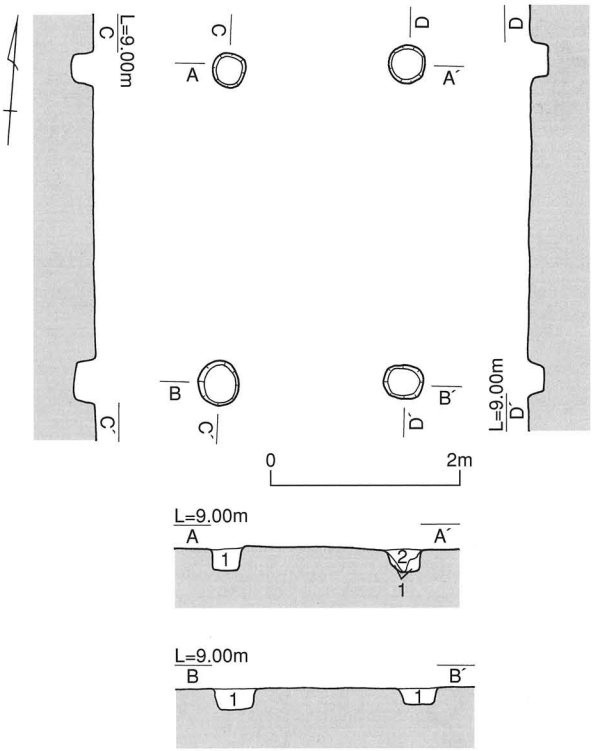
位置　Loc.D２・εⅡ・i６～７　　**床面積**　3.6㎡　　**主軸方向**　N-78°-E

柱穴　４基（径50～70cm、深さ20～35cm）

土層　覆土は各柱穴ごとに１～３層に分かれ、黄褐色系の砂質土を主体とする。一部の柱穴では炭化物を含む。

柱穴間距離　最大　210cm　　最小　170cm　　梁間　170cm　　桁行　210cm

遺物出土状況　遺物は出土していない。



1　浅黄色　5Y7/3　砂質土（炭化物を少量含み、硬くしまる。径８㎝長20㎝の礫含む。根石か）
2　灰白色　5Y7/2　砂質土（炭化物を少量含み、硬くしまる。径８㎝長20㎝の礫含む。根石か）

第555図　SA1036平・断面図(S＝１／80)

時期　古代（平安時代）である。

備考　１間×１間の規模をもつ。

掘立柱建物跡（SA1035）

位置　Loc.D２・εⅡ・i９～11　　**床面積**　3.2㎡　　**主軸方向**　N-20°-W

柱穴　４基（径55～60㎝、深さ20～25㎝）

土層　覆土は各柱穴ごとに２層に分かれ、黄褐色の砂質土を主体とする。一部の柱穴では炭化物を含む。

柱穴間距離　最大　190㎝　　最小　170㎝　　梁間　170㎝　　桁行　190㎝

遺物出土状況　遺物は出土していない。

時期　古代（平安時代）である。

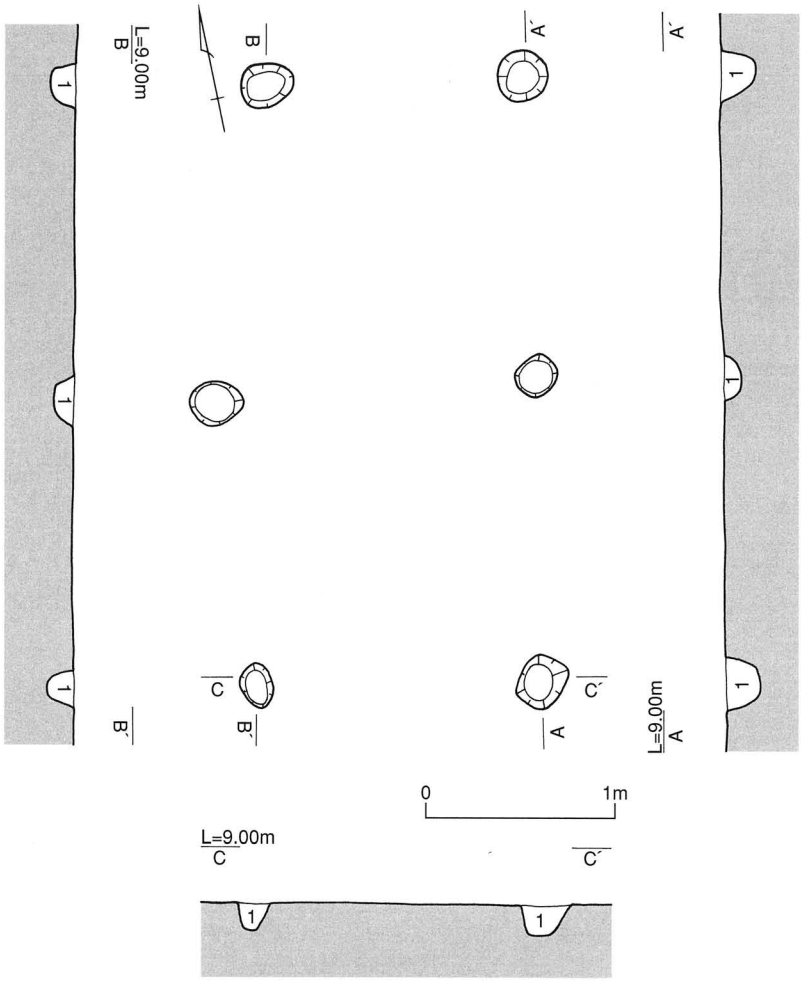
備考　１間×１間の規模をもつ。

掘立柱建物跡（SA1036）

位置　Loc.D２・εxii・ij９　　**床面積**　6.5㎡　　**主軸方向**　N-5°-W

柱穴　４基（径35～50㎝、深さ15～25㎝）

土層　覆土は各柱穴ごとに１～３層に分かれ、浅黄色の砂質土を主体とする。炭化物や根石と考えられる礫を含み固くしまっている。



1　灰オリーブ　5Y5/3　砂質土（炭化物を少量含み、粘性がやや強い。）

第556図　SA1037平・断面図（S=1/40）

柱穴間距離　最大　340cm　　最小　190cm　　梁間　190cm　　桁行　340cm

遺物出土状況　遺物は出土していない。

時期　古代（平安時代）である。

備考　1間×1間の規模をもつ。

掘立柱建物跡（SA1037）

位置　Loc.D 2・εⅡ・j7　　**床面積**　5.3m²　　**主軸方向**　N-12°-E

柱穴　6基（径35～60cm、深さ15～35cm）

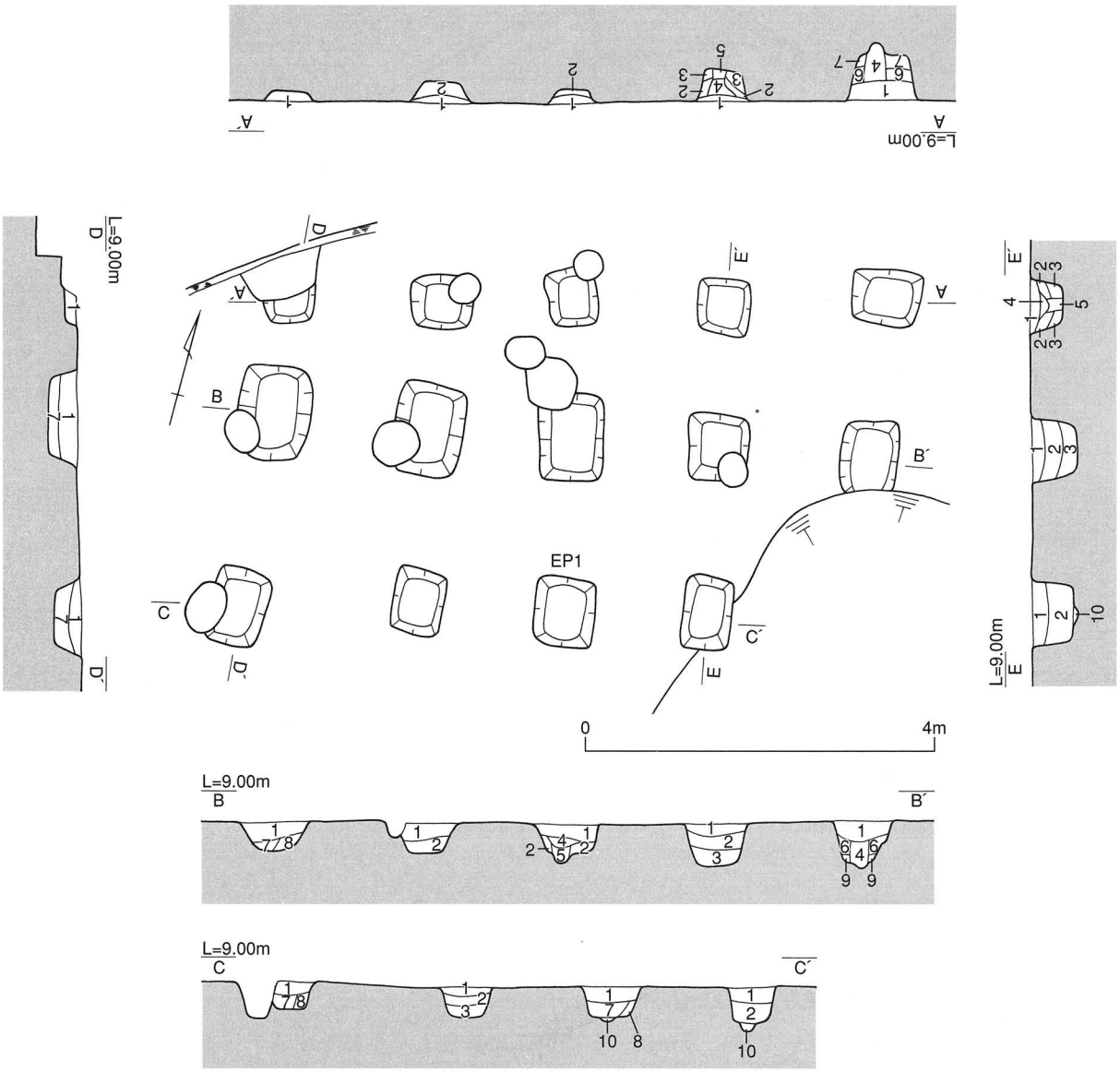
土層　覆土は1層からなり、灰オリーブ色の砂質土を主体とする。炭化物を含む。

柱穴間距離　最大　170cm　　最小　140cm　　梁間　140cm　　桁行　320cm

遺物出土状況　遺物は出土していない。

時期　古代（平安時代）である。

備考　1間×2間の規模をもつ。



1	にぶい黄橙色	10YR5/4	砂質土（炭化物を少量含み固くしまる。）	6	褐色	10YR4/4	砂質土（炭化物を微量含み、固くしまる。）
2	黄褐色	10YR5/6	砂質土（炭化物を少量含み砂質が強い。）	7	褐色	10YR4/6	砂質土（炭化物を少量含む。）
3	黄褐色	10YR5/6	砂質土（２層よりやや暗く、固くしまる。）	8	褐色	10YR4/6	砂質土（６層より固くしまる。）
4	暗褐色	10YR3/4	砂質土（炭化物を多く含み粘性が強い。）	9	にぶい黄褐色	10YR4/3	砂質土（土器片、炭化物を少量含む。）
5	暗褐色	10YR3/4	砂質土（２層よりやや暗い。）	10	褐色	10YR4/4	砂質土（炭化物を少量含む。）

第557図　SA1038平・断面図（S＝1/80）

掘立柱建物跡（SA1038）

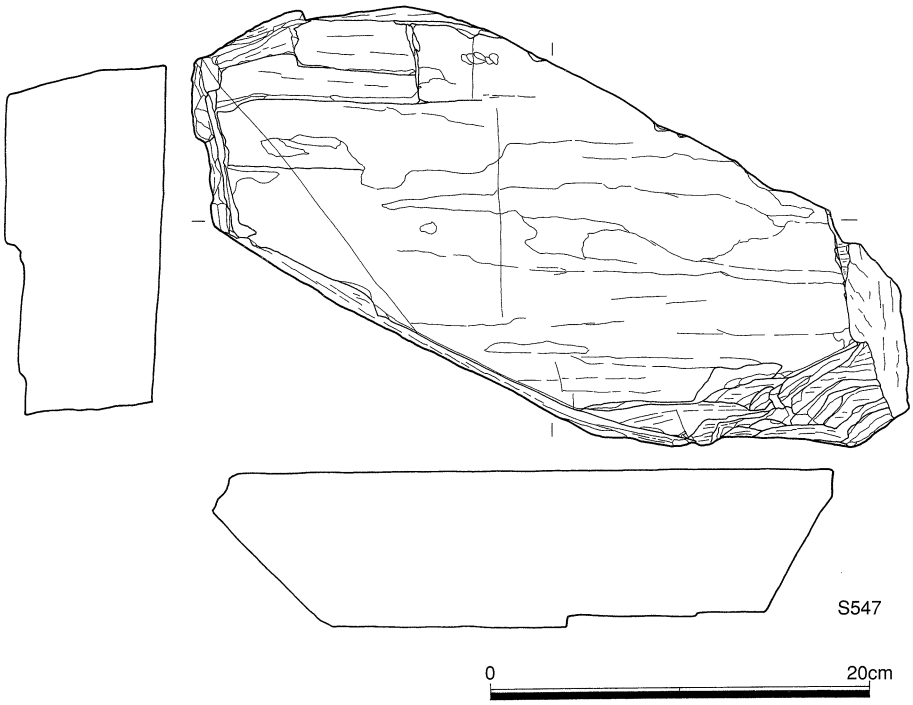
位置　Loc.D２・εⅡ・jk6～7　　**床面積**　24.5m²　　**主軸方向**　N-76°-E

柱穴　14基（径50～110cm、深さ10～65cm）

土層　覆土は各柱穴ごとに１～７層に分かれ、黄褐色系の砂質土を主体とする。一部の柱穴では炭化物を含む。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　200cm　　最小　150cm　　梁間　360cm　　桁行　680cm

遺物出土状況　石器が出土している。図示できる遺物はEP１出土の台石１点である。EP１の根石と考えられる。



第558図　SA1038出土石器

時期　古代（平安時代）である。

備考　削平のため柱穴が未検出の部分がある。2間×4間の規模をもつ。

掘立柱建物跡（SA1039）

位置　Loc.DE2・αεⅠⅡ・ta20～2　　**床面積**　29.5m²　　**主軸方向**　N-90°-E

柱穴　8基（径40～60cm、深さ15～30cm）

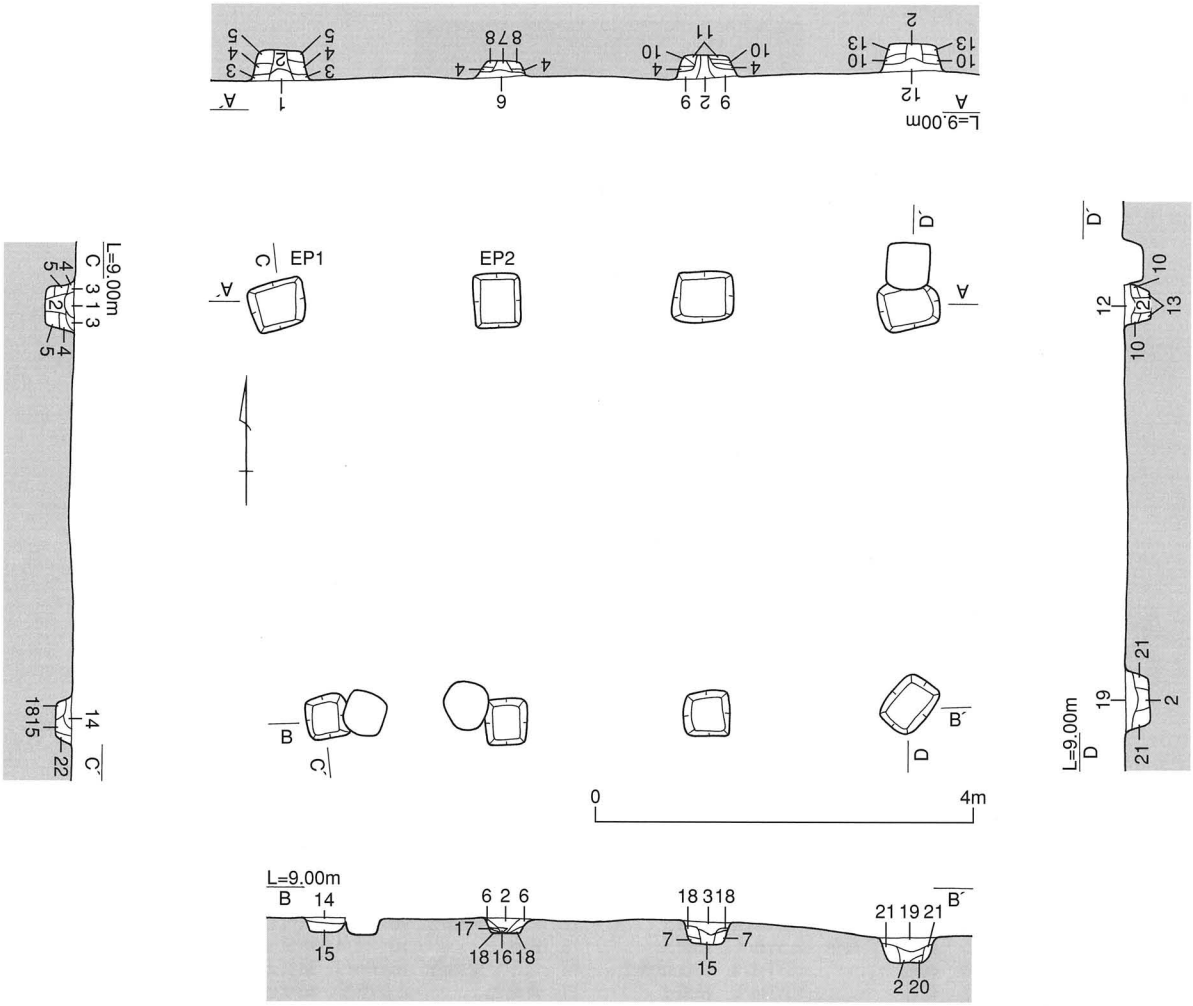
土層　覆土は各柱穴ごとに2～9層に分かれ、黄褐色系の砂質土を主体とする。一部の柱穴には炭化物を含む。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　440cm　　最小　190cm　　梁間　440cm　　桁行　670cm

遺物出土状況　土器片が出土している。図示できる遺物は2点で、EP1出土の土師器杯1点とEP2出土の管状土錘1点である。

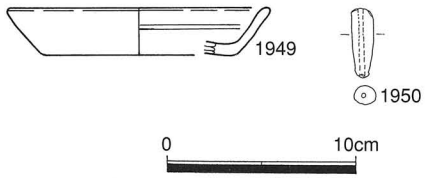
時期　古代（平安時代（9世紀））である。

備考　1間×3間の規模をもつ。

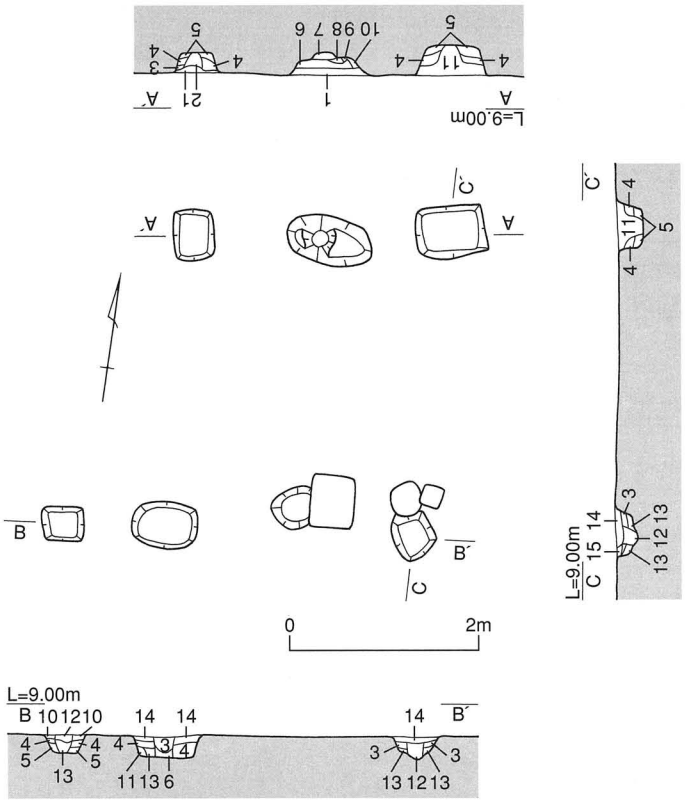


1	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土	12	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土
2	褐色	10YR4/4	粘質土	13	黄褐色	10YR5/8	砂質土
3	黄褐色	10YR5/6	粘性砂質土	14	黄褐色	10YR5/6	砂質土
4	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土	15	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土
5	にぶい黄褐色	10YR4/3	砂質土	16	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土
6	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	17	暗褐色	10YR3/3	粘質土
7	暗褐色	10YR3/4	粘質土	18	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
8	にぶい黄褐色	10YR3/6	砂質土	19	にぶい黄褐色	10YR6/3	砂質土
9	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土	20	暗褐色	10YR3/3	粘質土
10	黄褐色	10YR5/6	粘質土	21	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土（炭化物を含む。）
11	明黄褐色	10YR6/6	粘性砂質土	22	にぶい黄褐色	10YR6/4	砂質土

第559図　SA1039平・断面図（S=1/80）



第560図　SA1039出土土器



1	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土	9	褐色	7.5Y4/3	粘性砂質土
2	暗褐色	10YR3/4	粘性砂質土	10	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土
3	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	11	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土
4	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	12	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土
5	にぶい黄褐色	2.5Y6/4	粘質土	13	褐色	10YR4/4	粘質土
6	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	14	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土
7	褐色	10YR4/6	粘質土	15	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土
8	黄褐色	10YR5/8	粘性砂質土				

第561図　SA1040平・断面図（S＝1/80）

掘立柱建物跡（SA1040）

位置　Loc.DE２・αε Ⅰ・ta19　　**床面積**　12.2m²　　**主軸方向**　N-85°-E

柱穴　７基（径35～70cm、深さ20～25cm）

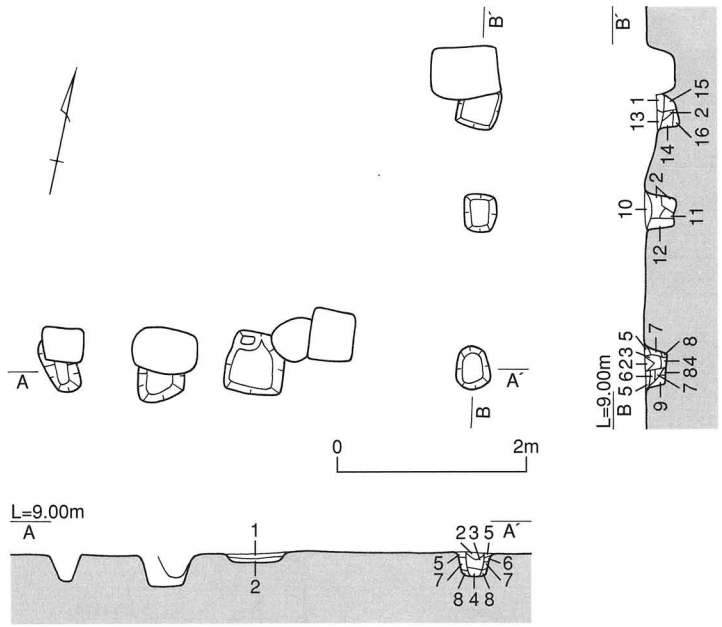
土層　覆土は各柱穴ごとに５～８層に分かれ、黄褐色系の砂質土を主体とする。断面観察により柱痕を確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　170cm　　最小　140cm　　梁間　320cm　　桁行　380cm

遺物出土状況　遺物は出土していない。

時期　古代（平安時代）である。

備考　一部に未検出の柱穴があると考えられる。１間×３間程度の規模をもつと考えられる。SA1041と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1041→SA1040となる。ほぼ同規模で、重複する柱穴も多いことからSA1041の建て替えに伴う遺構であると考えられる。



1	褐色	10YR4/4	粘質土	9	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土
2	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土	10	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土
3	明黄褐色	10YR6/6	砂質土	11	褐色	10YR4/6	粘性砂質土
4	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土	12	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土
5	灰黄褐色	10YR5/2	粘性砂質土	13	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土
6	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土（砂質が強い。）	14	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土
7	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	15	黄褐色	2.5Y5/4	粘質土
8	灰黄褐色	10YR4/2	粘性砂質土	16	オリーブ褐色	2.5Y4/6	粘性砂質土

第562図　SA1041平・断面図（S=1/80）

掘立柱建物跡（SA1041）

位置　Loc.DE2・αε Ⅰ・ta19　　**床面積**　12.9㎡　　**主軸方向**　N-80°-E

柱穴　6基（径30～60cm、深さ10～30cm）

土層　覆土は各柱穴ごとに2～10層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。断面観察により柱痕を確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　180cm　　最小　100cm　　梁間　(300)cm　　桁行　(430)cm

遺物出土状況　遺物は出土していない。

時期　古代（平安時代）である。

備考　削平のため一部未検出の柱穴がある。2間×4間程度の規模をもつと考えられる。SA1040と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1041→SA1040となる。

掘立柱建物跡（SA1042）

位置　Loc.E2・α Ⅰ・ab18～20　　**床面積**　20.1㎡　　**主軸方向**　N-82°-E

柱穴　8基（径50～80cm、深さ20～30cm）

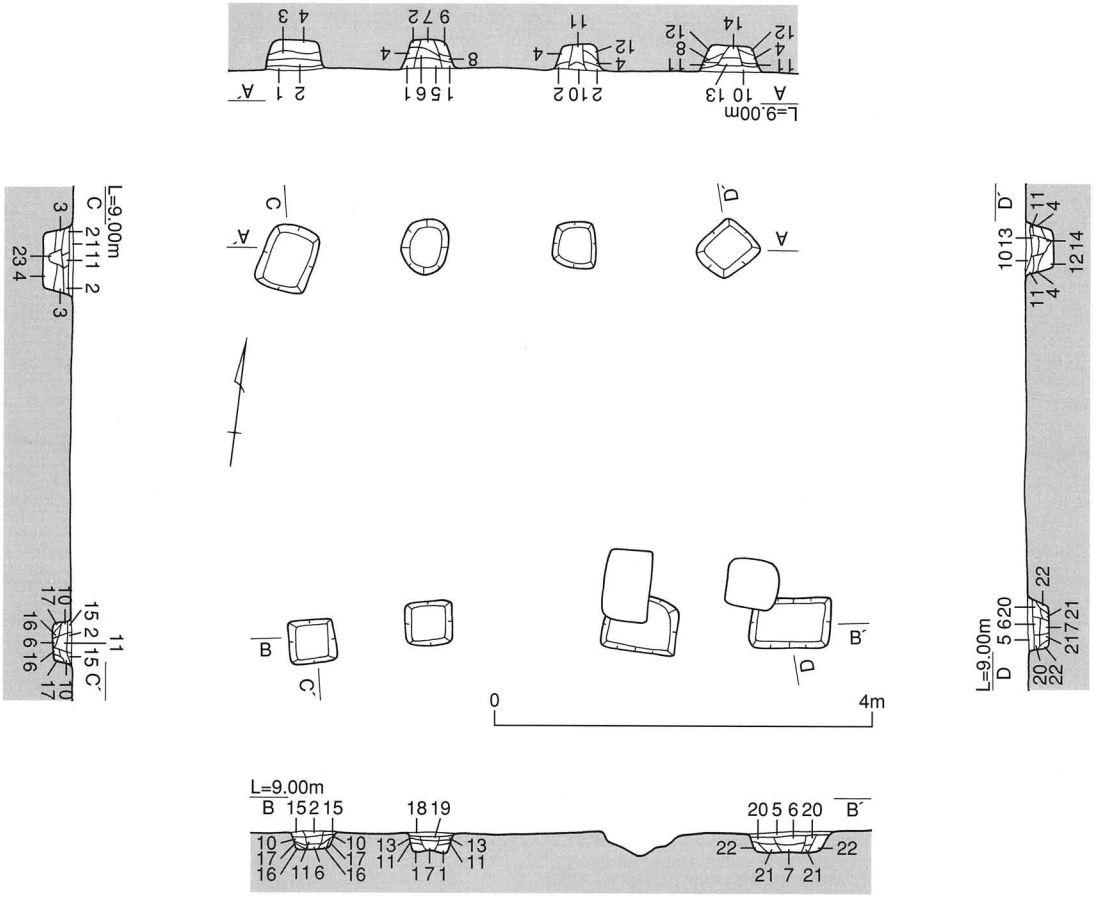
土層　覆土は各柱穴ごとに7～10層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。断面観察により柱痕を確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　410cm　　最小　120cm　　梁間　410cm　　桁行　500cm

遺物出土状況　遺物は出土していない。

時期　古代（平安時代）である。

備考　1間×3間の規模をもつ。SA1043、SA1044と重複する。柱穴の切り合いから、先後関係はSA



1	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	
2	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土	
3	黄褐色	2.5Y5/4	粘質土	
4	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土	
5	褐色	10YR4/6	粘性砂質土	
6	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	
7	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	
8	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土	
9	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	（粒子が細かい。）
10	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	
11	褐色	10YR4/4	粘質土	
12	暗褐色	10YR3/4	粘質土	
13	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土	
14	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	
15	暗褐色	10YR3/4	粘性砂質土	
16	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土	
17	褐色	10YR4/4	粘質土	（粒子が細かい。）
18	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土	
19	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土	
20	黄褐色	10YR5/6	砂質土	
21	褐色	10YR4/6	砂質土	
22	オリーブ褐色	2.5Y4/6	粘質土	
23	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土	

第563図　SA1042平・断面図（S=1/80）

1042→SA1043となる。SA1044は柱穴の切り合い関係がなく不明である。

掘立柱建物跡（SA1043）

位置　Loc.E2・αⅠ・ab18～20　　**床面積**　11.4㎡　　**主軸方向**　N-85°-E

柱穴　8基（径45～80㎝、深さ20～35㎝）

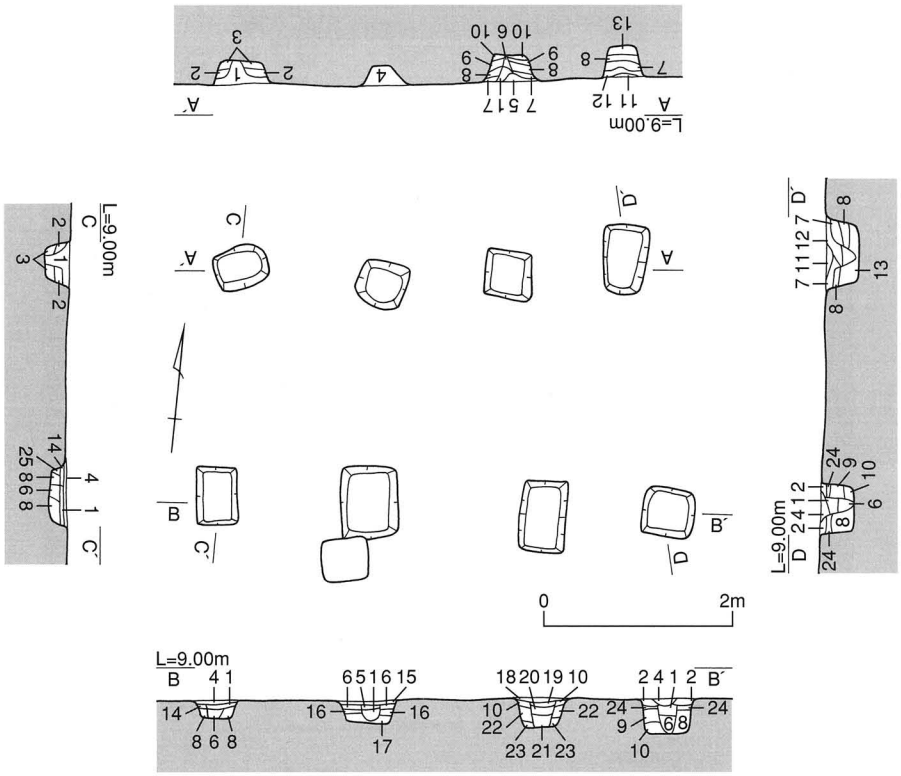
土層　覆土は各柱穴ごとに1～10層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。断面観察により柱痕を確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　300㎝　　最小　130㎝　　梁間　250㎝　　桁行　450㎝

遺物出土状況　遺物は出土していない。

時期　古代（平安時代）である。

備考　1間×3間の規模をもつ。SA1042、SA1044と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1042→SA1043となる。SA1044は柱穴の切り合い関係がなく不明である。



1	褐色	10YR4/4	粘質土	14	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土
2	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土	15	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土
3	黄褐色	10YR5/6	砂質土	16	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土（粒子が細かい。）
4	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	17	暗褐色	10YR3/4	粘性砂質土
5	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	18	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土（炭化物を含む。）
6	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土	19	黄褐色	10YR5/6	粘性砂質土
7	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土	20	褐色	10YR4/4	砂質土（炭化物を含む。）
8	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土	21	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土（炭化物を含む。）
9	黄褐色	2.5Y5/4	粘質土	22	褐色	10YR4/6	粘性砂質土
10	黄褐色	2.5Y5/3	粘質土	23	黄褐色	2.5Y5/6	粘性砂質土
11	暗褐色	10YR3/4	粘質土	24	オリーブ褐色	2.5Y4/6	粘質土
12	暗褐色	10YR3/3	粘性砂質土（炭化物を含む。）	25	暗褐色	10YR3/3	粘質土
13	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土				

第564図　SA1043平・断面図（S=1/80）

掘立柱建物跡（SA1044）

位置　Loc.E2・αⅠ・ab19　　**床面積**　10.2m²　　**主軸方向**　N-5°W

柱穴　6基（径40～60cm、深さ25～30cm）

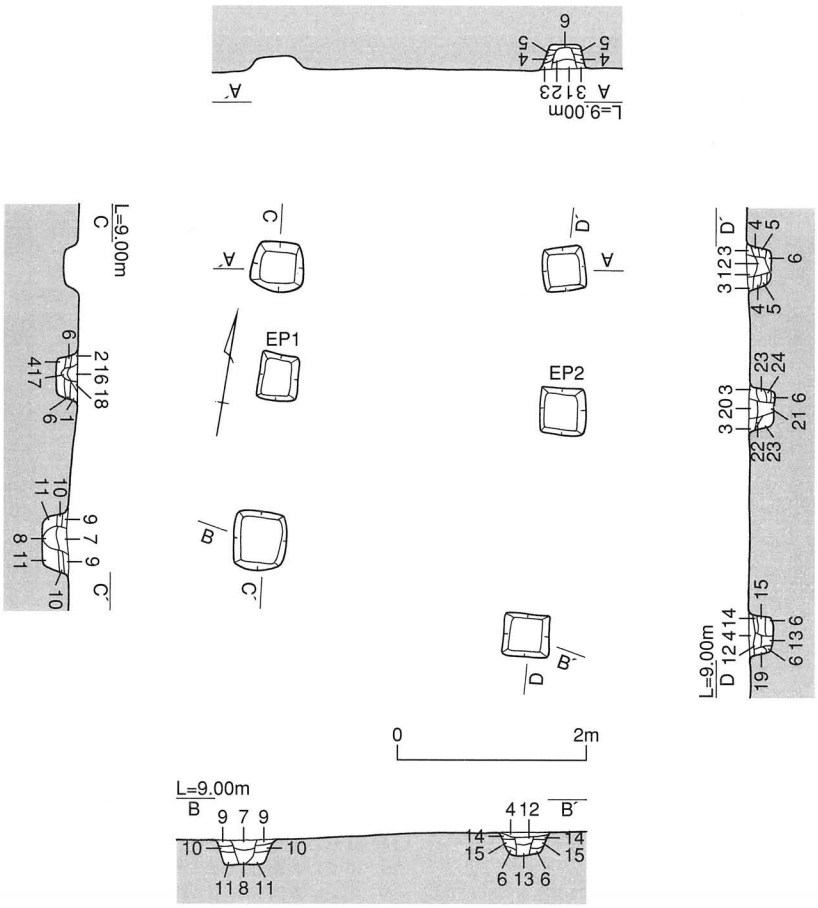
土層　覆土は各柱穴ごとに1～10層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では炭化物を含む。断面観察により柱痕を確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　290cm　　最小　120cm　　梁間　290cm　　桁行　350cm

遺物出土状況　土器片が出土している。図示できる遺物は2点で、EP1・EP2からそれぞれ須恵器杯が1点出土している。

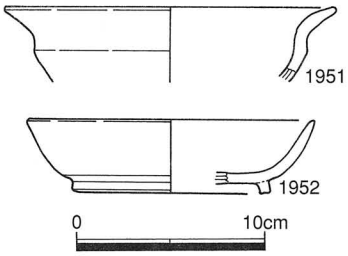
時期　古代（平安時代（9世紀））である。

備考　柱穴の深さが浅く、未検出の柱穴が存在する可能性がある。1間×2間の規模をもつ。SA1042、SA1043と重複するが、柱穴の切り合い関係がなく、先後関係は不明である。



1	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土	13	灰黄褐色	10YR5/2	粘質土
2	褐色	10YR4/4	粘質土　（炭化物を含む。）	14	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土
3	褐色	10YR4/6	粘性砂質土	15	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土
4	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土	16	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土　（炭化物を含む。）
5	にぶい黄褐色	10YR6/3	粘質土	17	褐色	10YR4/4	粘性砂質土
6	黄褐色	2.5Y5/4	粘質土	18	にぶい黄褐色	10YR6/3	砂質土
7	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	19	黄褐色	2.5Y5/3	砂質土
8	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土	20	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土（炭化物を含む。）
9	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土	21	褐色	10YR5/6	粘性砂質土（炭化物を含む。）
10	灰黄褐色	10YR4/2	粘質土	22	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土
11	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	23	オリーブ褐色	2.5Y4/6	粘性砂質土
12	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土	24	黄褐色	2.5Y5/6	粘質土

第565図　SA1044平・断面図（S=1/80）



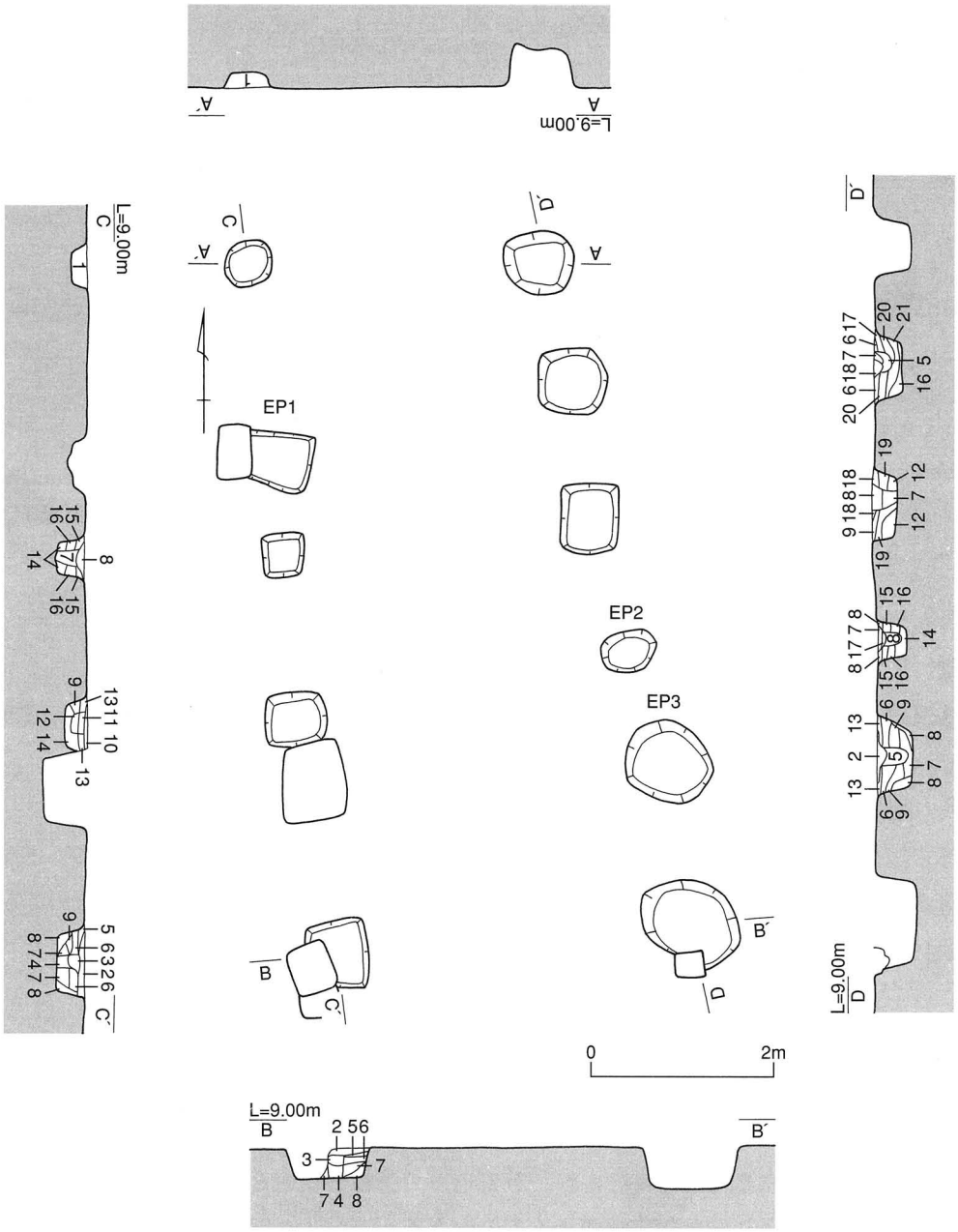
第566図　SA1044出土土器

掘立柱建物跡（SA1045）

位置　Loc.E2・αⅠ・cd18～19　　床面積　26.6m²　　主軸方向　N-10°-W

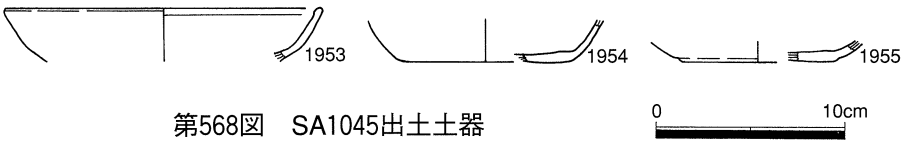
柱穴　11基（径40～120cm、深さ15～50cm）

土層　覆土は各柱穴ごとに1～11層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。断面観察により柱痕を

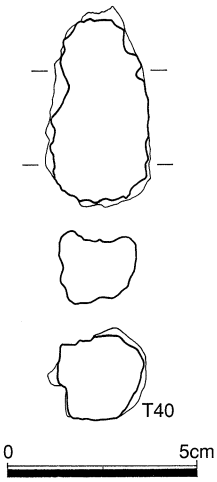


1	暗褐色	10YR3/3	粘質土	（しまりがある。）
2	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土	
3	黄褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土	
4	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	
5	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	
6	灰黄褐色	10YR4/2	粘質土	
7	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	
8	褐色	10YR4/4	粘質土	
9	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	
10	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	
11	黄褐色	10YR5/6	粘性砂質土	
12	黄褐色	2.5Y5/4	粘質土	
13	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	
14	黄褐色	10YR5/6	粘質土	
15	暗褐色	10YR3/4	粘質土	
16	褐色	10YR4/6	粘質土	
17	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土	
18	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土	
19	オリーブ褐色	2.5Y4/4	砂質土	
20	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土	
21	褐色	7.5YR4/3	粘質土	

第567図　SA1045平・断面図（S＝1/80）



第568図　SA1045出土土器



第569図　SA1045出土鉄器

確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　390cm　　最小　110cm　　梁間　350cm　　桁行　760cm

遺物出土状況　土器片、鉄器が出土している。図示できる遺物は土器３点と鉄器１点で、EP１～EP３からそれぞれ土師器杯１点が出土している。EP３から鉄片１点が出土している。

時期　古代（平安時代（９世紀））である。

備考　一部未検出の柱穴が存在する可能性がある。１間×５間の規模をもつ。SA1046、SA1047、SA1050と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1047、SA1050→SA1045→SA1046となる。SA1047とSA1050は柱穴の切り合いがなく先後関係は不明である。

掘立柱建物跡（SA1046）

位置　Loc.E2・αⅠ・cd18～19　　**床面積**　12.9㎡　　**主軸方向**　N-6°-W

柱穴　９基（径35～80cm、深さ25～45cm）

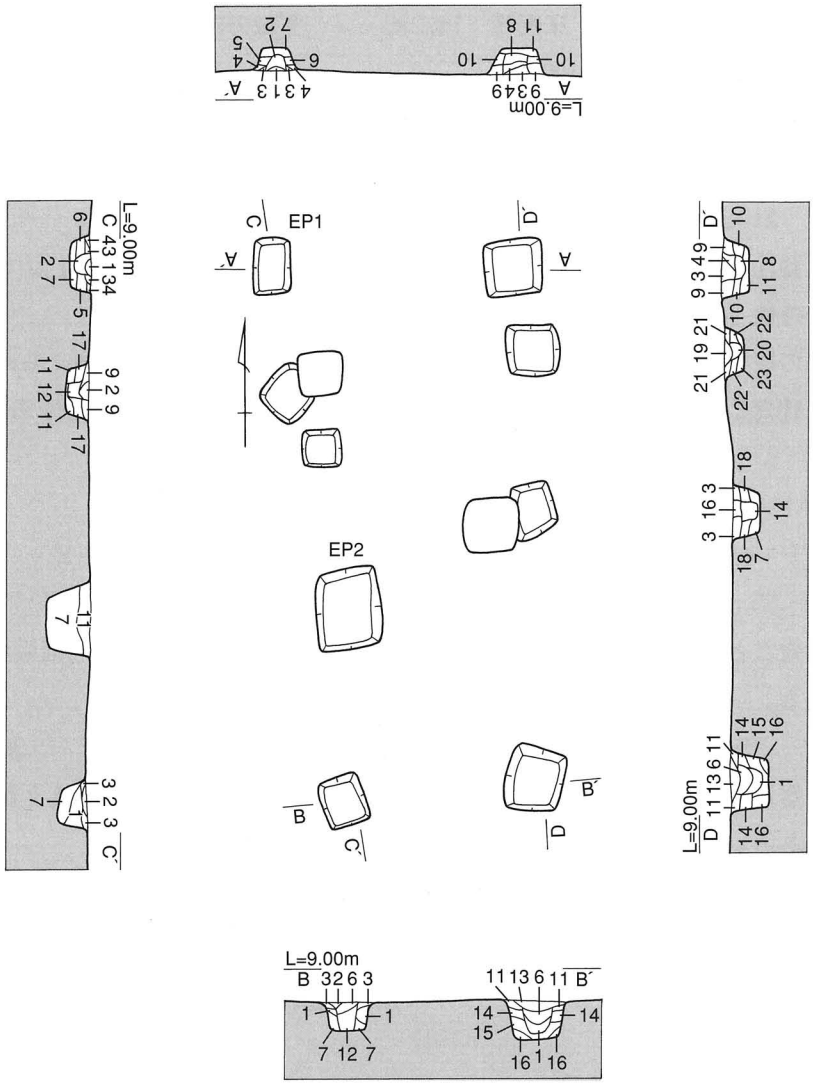
土層　覆土は各柱穴ごとに２～10層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。柱穴の一部には炭化物を含む。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　290cm　　最小　80cm　　梁間　230cm　　桁行　560cm

遺物出土状況　土器片が出土している。図示できる遺物は３点で、EP１から管状土錘１点、EP２から須恵器甕１点と管状土錘１点が出土している。

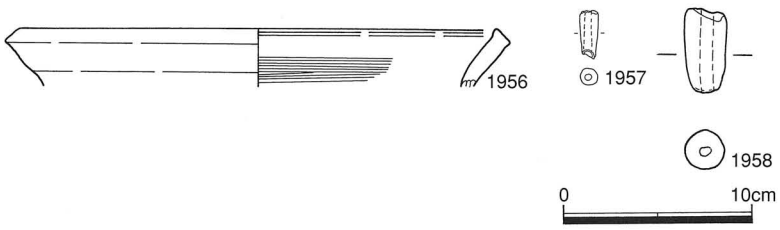
時期　古代（平安時代（９世紀））である。

備考　一部未検出の柱穴が存在する可能性がある。１間×４間の規模をもつと考えられる。SA1045と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1045→SA1046となる。



1	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
2	褐色	10YR4/4	粘性砂質土
3	黄褐色	10YR5/6	粘質土
4	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土
5	暗褐色	10YR3/4	粘質土
6	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土
7	黄褐色	2.5Y5/4	粘質土
8	褐色	10YR4/6	粘性砂質土（しまりがある。）
9	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土
10	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土
11	オリーブ褐色	2.5Y4/6	粘性砂質土
12	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土
13	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土
14	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土
15	褐色	10YR4/4	粘質土
16	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土
17	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土
18	にぶい黄褐色	10YR6/4	粘質土
19	褐色	10YR4/4	粘質土　（炭化物を含む。）
20	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土（炭化物を含む。）
21	褐色	10YR4/6	粘質土
22	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土（炭化物を含む。）
23	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土（炭化物を含む。）

第570図　SA1046平・断面図（S＝1/80）



第571図　SA1046出土土器

掘立柱建物跡（SA1047）

位置　Loc.E2・αⅠ・cd19～20　　**床面積**　14.2㎡　　**主軸方向**　N-85°-E

柱穴　16基（径20～100㎝、深さ10～100㎝）

土層　覆土は各柱穴ごとに１～12層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。柱穴の一部には炭化物を含む。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　210㎝　　最小　40㎝　　梁間　400㎝　　桁行　400㎝

遺物出土状況　土器片が出土している。実測できる遺物はEP１出土の土師器甕１点である。

時期　古代（平安時代（９世紀））である。

備考　一部未検出の柱穴が存在する可能性がある。２間×５間の規模をもつと考えられる。SA1045、SA1048と重複する。柱穴の切り合いから先後関係は、SA1048→SA1047→SA1045となる。

掘立柱建物跡（SA1048）

位置　Loc.E2・αⅠ・cd19～20　　**床面積**　9.2㎡　　**主軸方向**　N-85°-E

柱穴　６基（径30～55㎝、深さ20～40㎝）

土層　覆土は各柱穴ごとに１～10層に分かれ、褐色系の粘質土を主体とする。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　300㎝　　最小　140㎝　　梁間　300㎝　　桁行　360㎝

遺物出土状況　土器片が出土している。実測できる遺物は３点で、EP１から黒色土器椀１点、EP２から土師器杯２点である。

時期　古代（平安時代（９世紀前半））である。

備考　１間×２間の規模をもつ。SA1047、SA1051と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1048→SA1047となる。SA1051は柱穴の切り合いがなく先後関係は不明である。

掘立柱建物跡（SA1049）

位置　Loc.E2・αⅠ・de17～18　　**床面積**　21.7㎡　　**主軸方向**　N-6°-W

柱穴　８基（径30～80㎝、深さ10～35㎝）

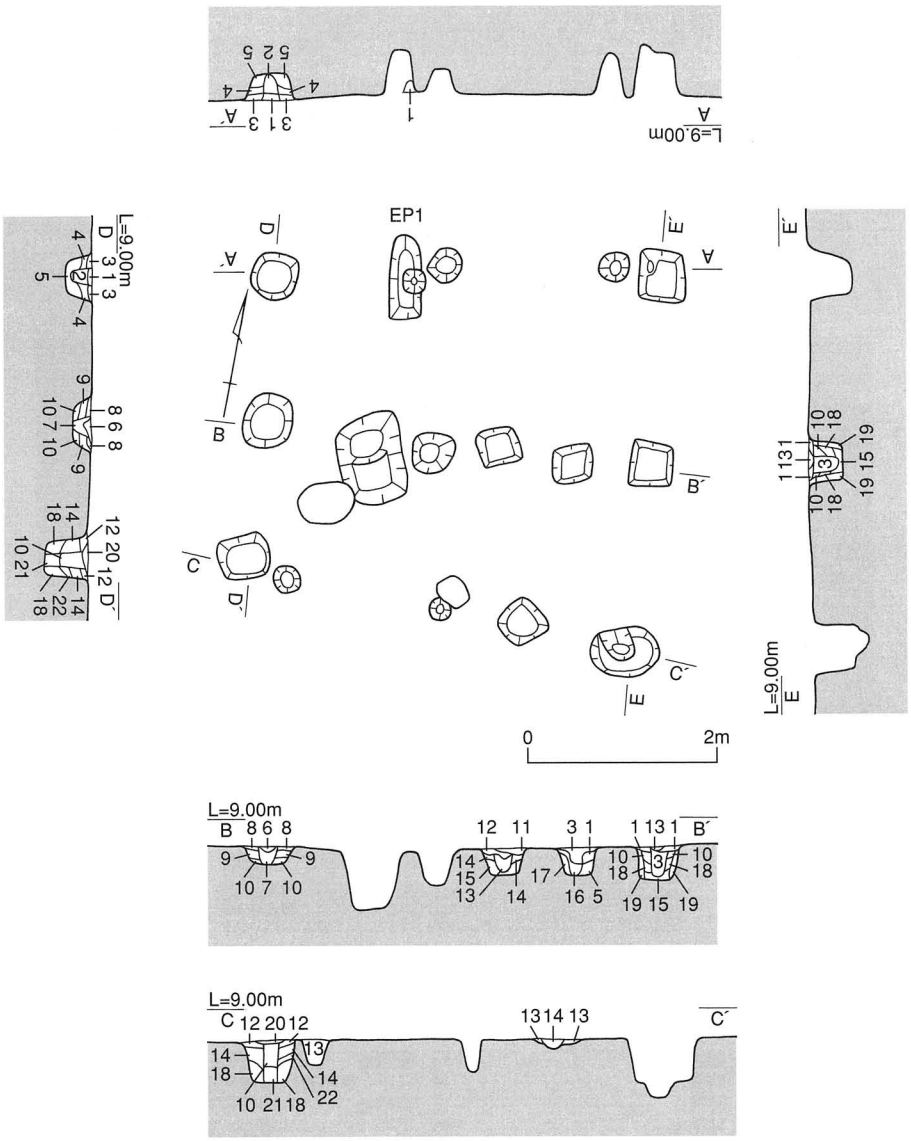
土層　覆土は各柱穴ごとに１～８層に分かれ、褐色系の粘質土を主体とする。一部柱穴では炭化物を含む。

柱穴間距離　最大　360㎝　　最小　180㎝　　梁間　360㎝　　桁行　590㎝

遺物出土状況　土器片と鉄器が出土している。図示できる遺物は３点で、土器がEP２出土の須恵器蓋２点、鉄器がEP１出土の釘１点である。

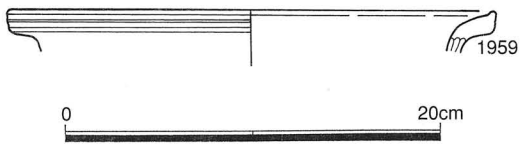
時期　古代（平安時代（９世紀前半））である。

備考　１間×３間の規模をもつ。SA1050と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1049→SA1050となる。

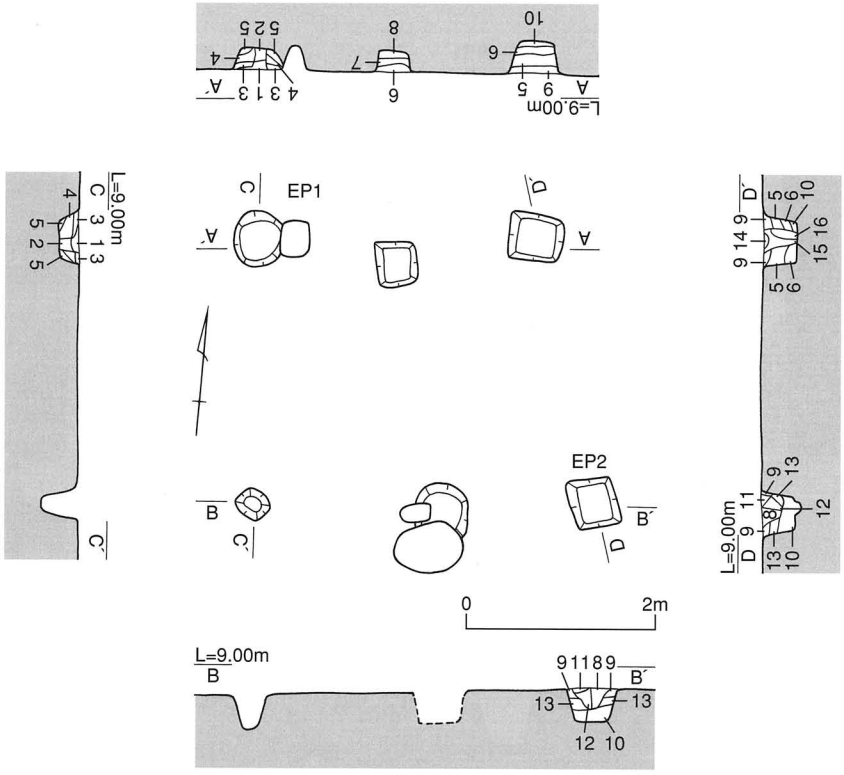


1	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土	
2	暗褐色	10YR3/4	粘性砂質土	
3	褐色	10YR4/4	粘質土	
4	黄褐色	10YR5/6	粘性砂質土	
5	褐色	10YR4/6	粘質土	
6	褐色	10YR4/4	粘質土	（しまりがある。）
7	褐色	7.5YR4/3	粘質土	（しまりがある。）
8	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	（しまりがある。）
9	オリーブ褐色	2.5Y4/6	粘性砂質土	
10	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土	
11	褐色	7.5Y4/3	粘質土	
12	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	
13	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	
14	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	
15	黄褐色	2.5Y5/4	粘質土	
16	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土	
17	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土	
18	オリーブ褐色	2.5Y4/6	粘質土	
19	黄褐色	2.5Y5/6	粘質土	
20	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	
21	黄褐色	10YR5/6	粘質土	
22	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土	（炭化物を含む。）

第572図　SA1047平・断面図（S＝1/80）

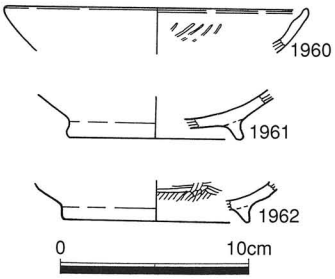


第573図　SA1047出土土器

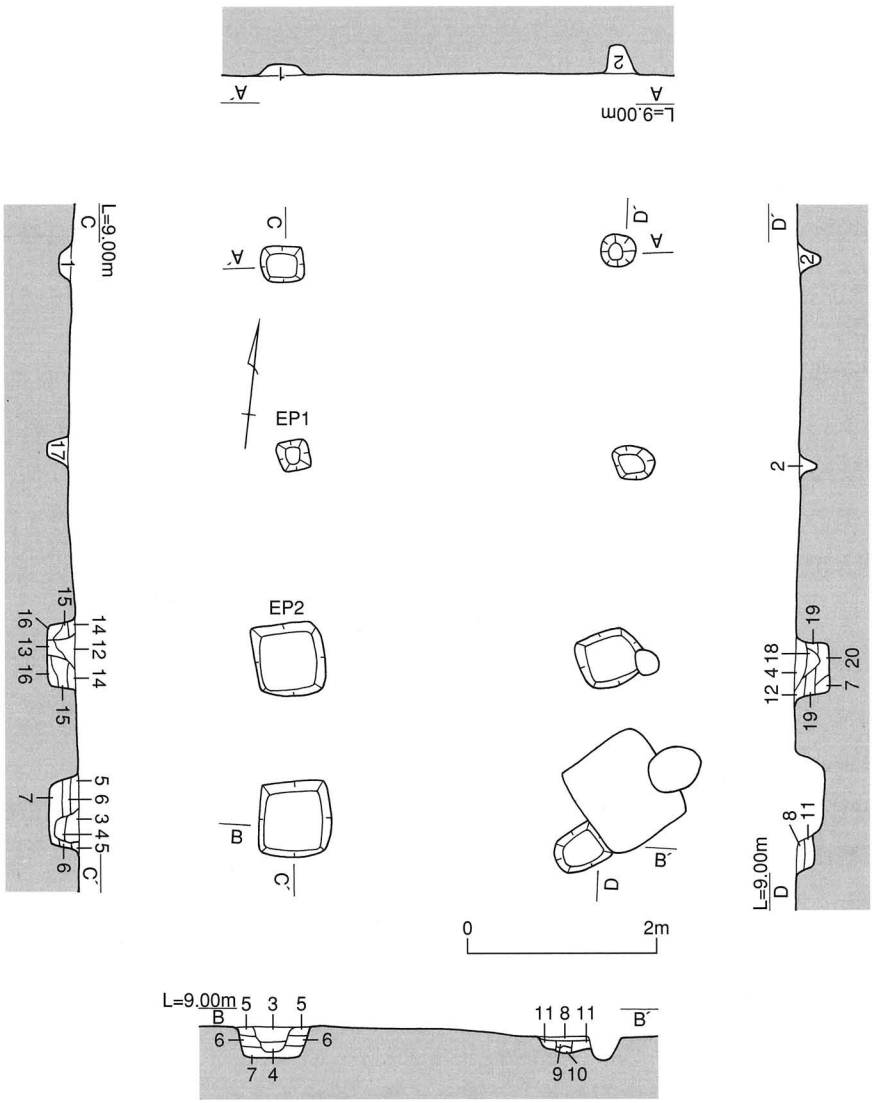


1	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土（しまりがある。）	9	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土
2	暗褐色	10YR3/3	粘性砂質土（しまりがある。）	10	にぶい黄褐色	10YR6/3	粘質土
3	褐色	10YR4/4	粘質土　（しまりがある。）	11	褐色	7.5Y4/3	粘性砂質土
4	褐色	10YR4/6	砂質土	12	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
5	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土	13	黄褐色	2.5Y5/6	砂質土
6	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土	14	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土　（しまりがある。）
7	褐色	10YR4/4	粘質土	15	暗褐色	10YR3/4	粘質土
8	黄褐色	2.5Y5/4	粘質土	16	褐色	10YR4/4	粘性砂質土

第574図　SA1048平・断面図（S=1/80）

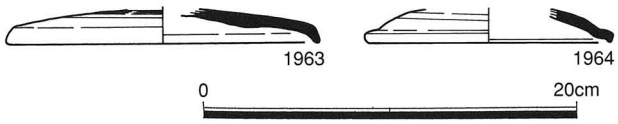


第575図　SA1048出土土器

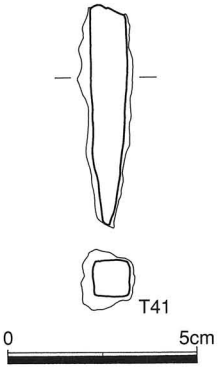


1	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土	
2	褐色	10YR4/4	粘質土	（しまりがある。）
3	褐色	10YR4/4	砂質土	
4	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土	
5	灰黄褐色	10YR6/2	砂質土	
6	暗褐色	10YR3/3	粘性砂質土	
7	褐色	10YR4/4	粘質土	
8	褐色	10YR4/6	粘性砂質土	
9	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土	
10	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土	
11	オリーブ褐色	2.5Y4/6	粘性砂質土	（炭化物を含む。）
12	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	
13	黄褐色	2.5Y5/4	粘質土	
14	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土	
15	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土	
16	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	
17	暗褐色	10YR3/3	粘質土	（しまりがある。）
18	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	
19	灰黄褐色	10YR4/2	粘質土	
20	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	

第576図　SA1049平・断面図（S＝1/80）



第577図　SA1049出土土器



第578図　SA1049出土鉄器

掘立柱建物跡（SA1050）

位置　Loc.E2・αⅠ・def18～19　　**床面積**　37.2㎡　　**主軸方向**　N-6°-W

柱穴　10基（径50～110㎝、深さ30～45㎝）

土層　覆土は各柱穴ごとに５～12層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。一部柱穴では炭化物を含む。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　280㎝　　最小　200㎝　　梁間　510㎝　　桁行　730㎝

遺物出土状況　土器片が出土している。図示できる遺物は２点で、EP１出土の竈１点とEP２出土の土師器皿１点である。

時期　古代（平安時代（９世紀前半））である。

備考　２間×３間の規模をもつ。SA1045、SA1049、SA1059と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1049→SA1050→SA1045、SA1050→SA1059となる。

掘立柱建物跡（SA1051）

位置　Loc.E２・αⅠⅡ・cd20～1　　**床面積**　21.8㎡　　**主軸方向**　N-85°-E

柱穴　12基（径30～80㎝、深さ20～40㎝）

土層　覆土は各柱穴ごとに１～11層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。一部の柱穴では炭化物を含む。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　240㎝　　最小　120㎝　　梁間　340㎝　　桁行　(640)㎝

遺物出土状況　土器数点が出土している。図示できる遺物は９点で、EP１から竈片１点、EP２から須恵器杯１点、EP３から土師器杯１点、EP４から甕・甑・蓋・杯・皿の６点である。

時期　古代（平安時代（９世紀前半））である。

備考　削平により一部未検出の柱穴がある。２間×４間の規模をもつ。SA1048と重複するが、柱穴の切り合いがなく先後関係は不明である。

掘立柱建物跡（SA1052）

位置　Loc.E２・αⅠⅡ・de20～1　　床面積　28.4㎡　　主軸方向　N-83°-E

柱穴　12基（径40～80㎝、深さ25～40㎝）

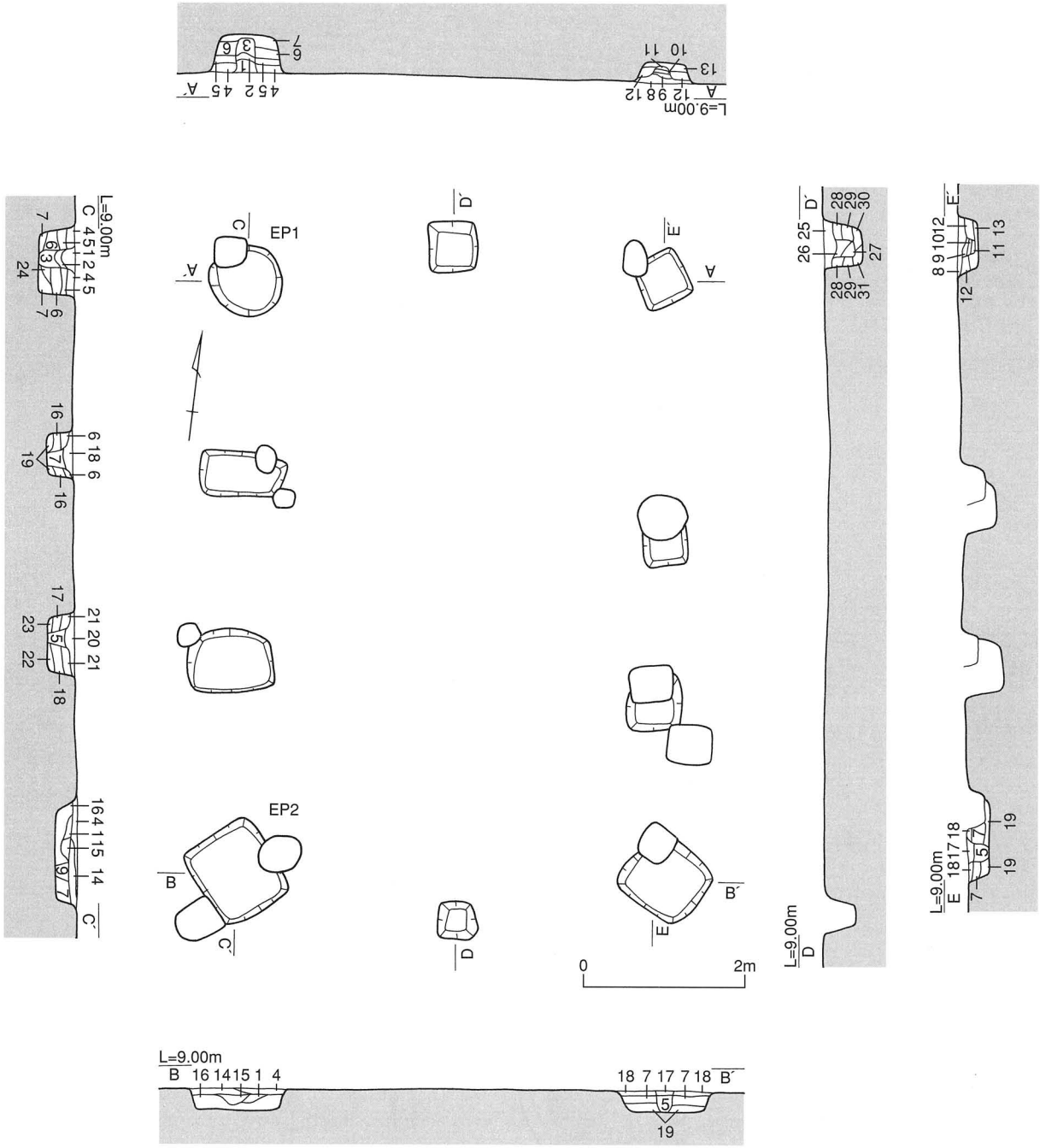
土層　覆土は各柱穴ごとに８～10層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　260㎝　　最小　110㎝　　梁間　450㎝　　桁行　(600)㎝

遺物出土状況　図示できる遺物は、EP１出土の鉄片１点である。

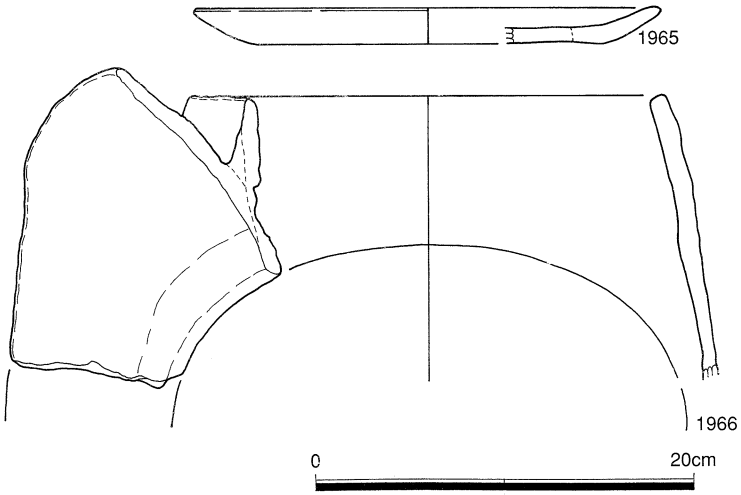
時期　古代（平安時代）である。

備考　東測端部は調査区外に延びる可能性がある。検出できた範囲では２間×４間の規模をもつ。SA1053、SA1054、SA1059と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1052→SA1059となる。SA1053、SA1054とは柱穴の切り合いがなく先後関係は不明である。

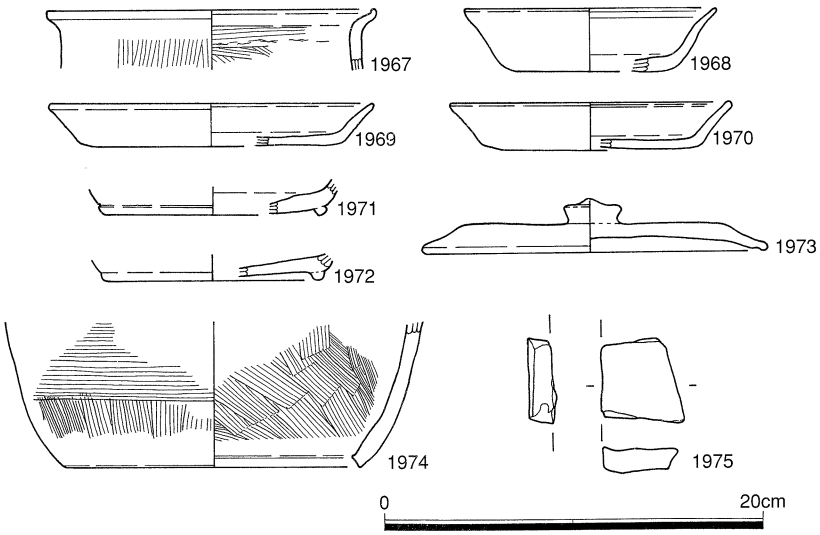


1	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土	
2	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	（炭化物を含む。）
3	褐色	10YR4/6	粘質土	
4	黄褐色	10YR5/6	粘性砂質土	
5	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土	
6	オリーブ褐色	2.5Y4/6	粘質土	
7	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土	
8	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土	（しまりがある。）
9	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土	（しまりがある。）
10	暗褐色	10YR3/4	粘性砂質土	（しまりがある。）
11	褐色	10YR4/6	粘性砂質土	（しまりがある。）
12	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土	
13	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土	
14	暗褐色	10YR3/4	粘性砂質土	
15	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	
16	黄褐色	2.5Y5/4	粘質土	
17	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	
18	褐色	10YR4/4	粘質土	
19	暗褐色	10YR3/4	粘質土	
20	にぶい黄橙色	10YR6/4	砂質土	
21	黄褐色	10YR5/6	粘質土	
22	暗褐色	10YR3/3	粘質土	
23	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	
24	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土	
25	暗褐色	10YR3/4	粘質土	（しまりがある。）
26	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	（しまりがある。）
27	褐色	10YR4/4	粘質土	（しまりがある。）
28	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土	（しまりがある。）
29	暗オリーブ褐色	2.5Y3/3	粘質土	（しまりがある。）
30	灰黄褐色	10YR4/2	粘質土	（しまりがある。）
31	褐色	10YR4/6	粘質土	（しまりがある。）

第579図　SA1050平・断面図（S=1/80）



第580図　SA1050出土土器



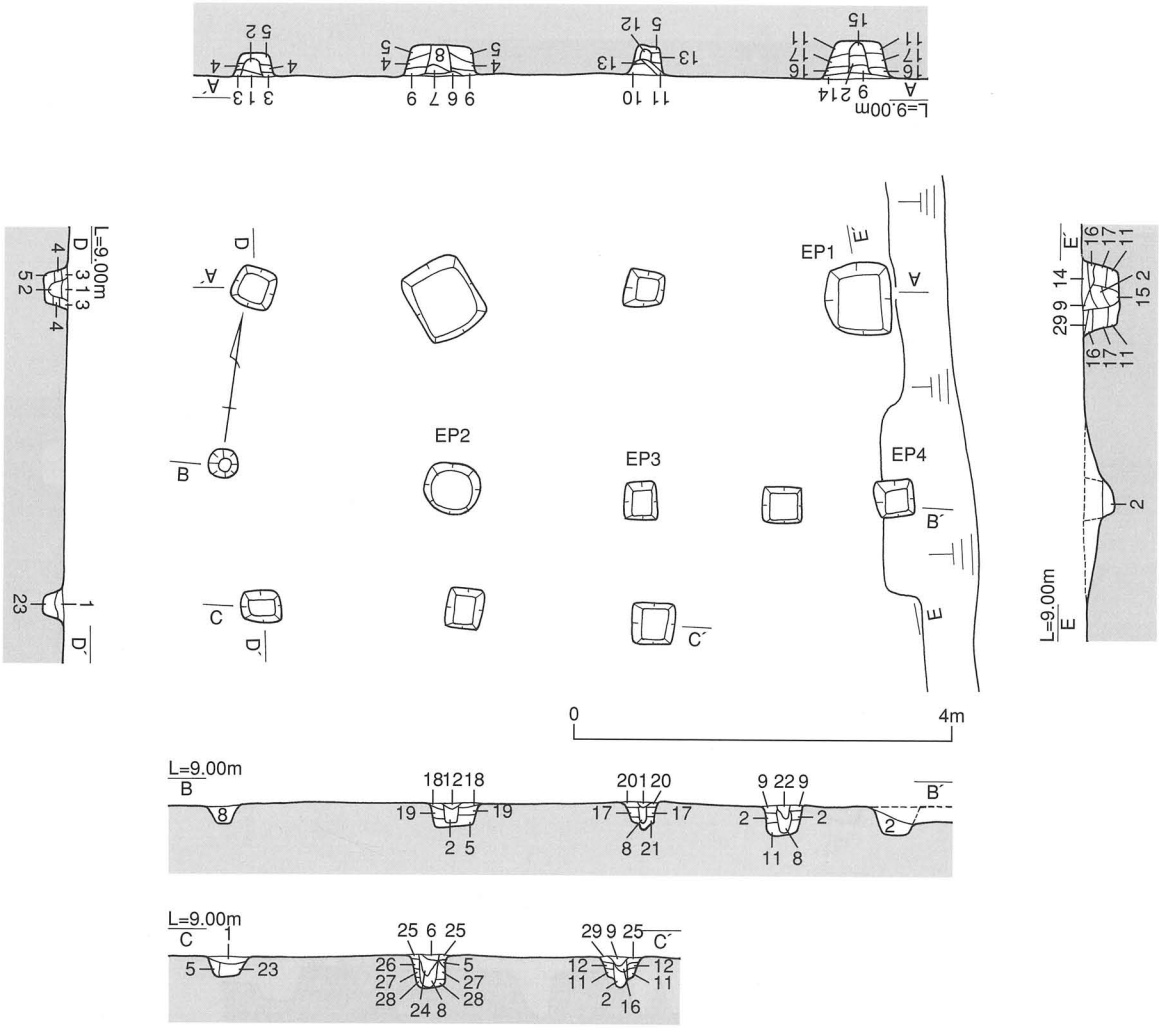
第581図　SA1051出土土器

掘立柱建物跡（SA1053）

位置　Loc.E2・αⅠⅡ・ef20～1　　床面積　28.9㎡　　主軸方向　N-83°-E

柱穴　12基（径60～90㎝、深さ30～50㎝）

土層　覆土は各柱穴ごとに6～11層に分かれ、褐色系の粘質土を主体とする。一部の柱穴では炭化物を



1	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	（炭化物を含む。）
2	褐色	10YR4/4	粘質土	
3	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土	
4	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土	
5	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土	
6	暗褐色	10YR3/4	粘質土	
7	褐色	7.5YR4/4	粘質土	（しまりがある。）
8	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	（しまりがある。）
9	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	（しまりがある。）
10	灰黄褐色	10YR5/2	粘質土	
11	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	
12	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	
13	にぶい黄褐色	10YR5/2	粘性砂質土	
14	褐色	7.5YR4/3	粘質土	（しまりがある。）
15	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土	（しまりがある。）
16	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土	（しまりがある。）
17	灰黄褐色	10YR4/2	粘質土	
18	暗灰黄色	2.5Y4/2	粘性砂質土	
19	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土	
20	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土	（しまりがある。）
21	暗褐色	10YR3/3	粘質土	
22	褐色	10YR4/6	粘質土	（しまりがある。）
23	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	（しまりがない。）
24	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	
25	褐色	10YR4/6	粘性砂質土	
26	黄褐色	2.5Y5/6	砂質土	
27	オリーブ褐色	2.5Y4/6	粘性砂質土	
28	黄褐色	2.5Y5/3	粘質土	
29	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土	（しまりがある。）

第582図　SA1051平・断面図（S＝1/80）

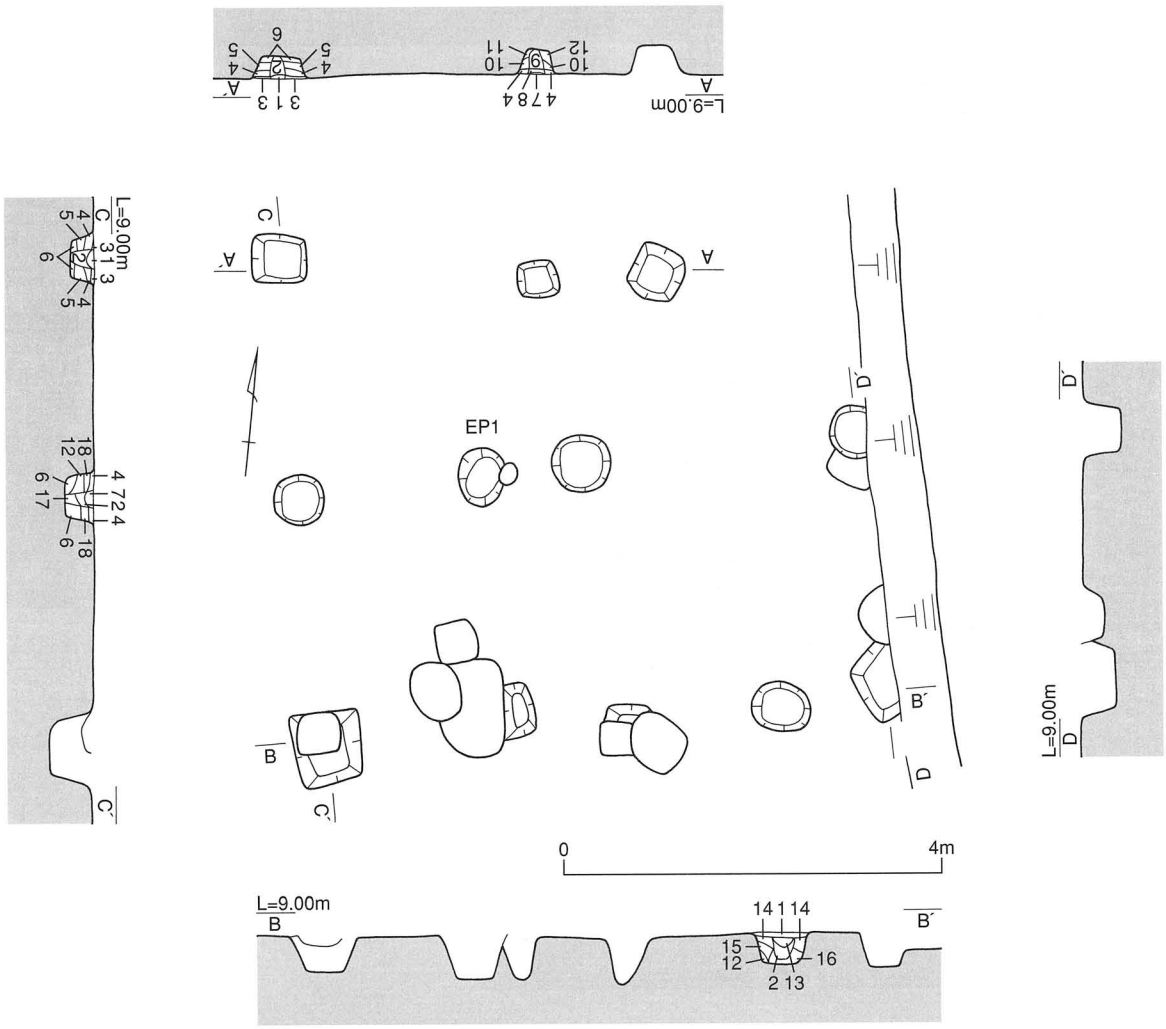
含む。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　140cm　　最小　500cm　　梁間　500cm　　桁行　(590)cm

遺物出土状況　遺物は出土していない。

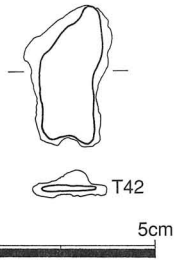
時期　古代（平安時代）である。

備考　東側端部は調査区外に延びる可能性がある。検出された柱穴は2間×3間の規模をもつ。SA1052、SA1054、SA1055、SA1059と重複する。柱穴の切り合いから先後関係は、SA1054→SA1055→SA1053となる。SA1052、SA1059とは柱穴の切り合いがなく先後関係は不明である。

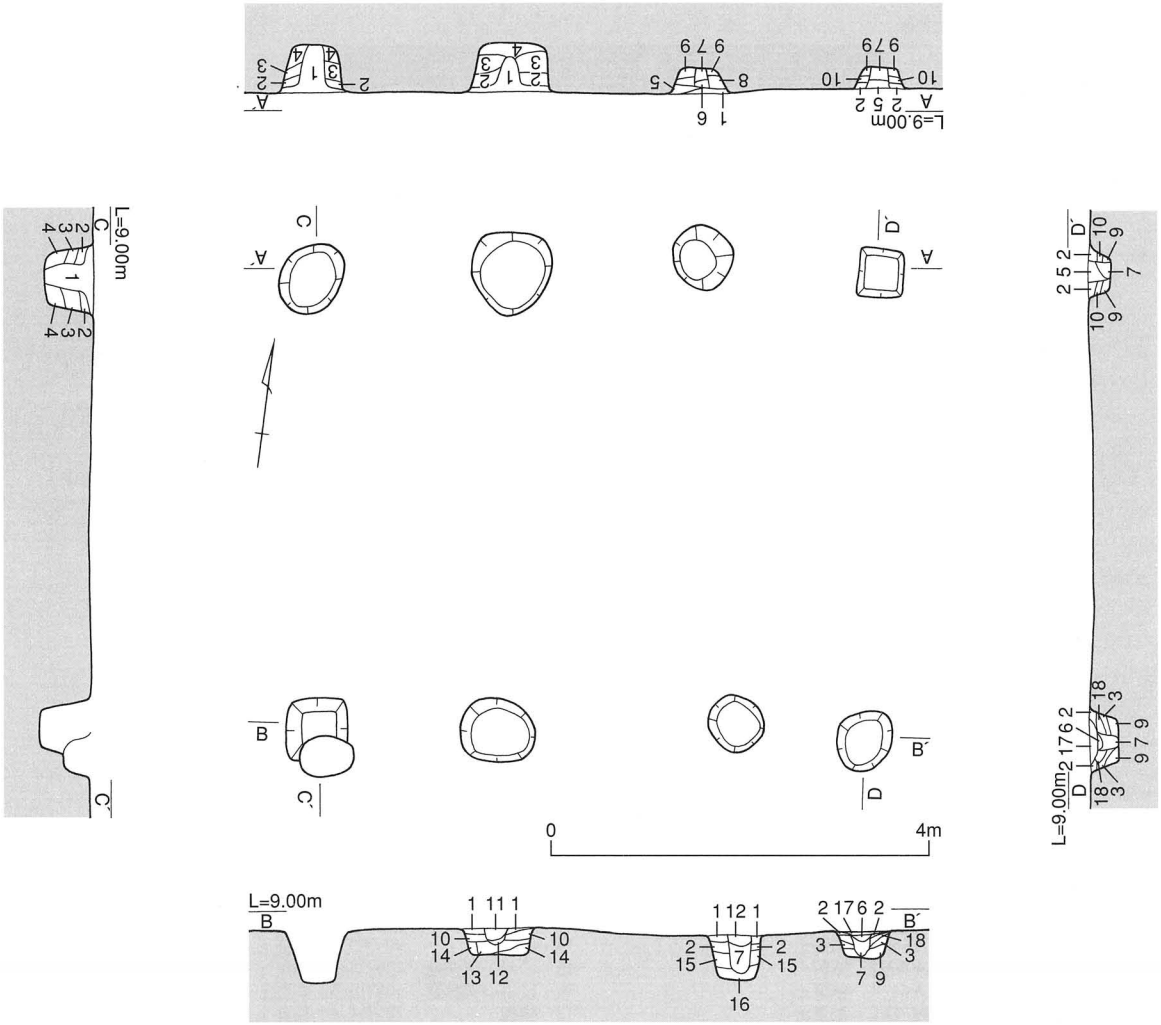


1	暗褐色	10YR3/3	粘質土	（しまりがある。）	10	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土	（しまりがある。）
2	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	（しまりがある。）	11	褐色	10YR4/4	粘質土	
3	暗オリーブ褐色	2.5Y3/3	粘質土	（しまりがある。）	12	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土	
4	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土		13	褐色	10YR4/4	粘質土	（しまりがある。）
5	にぶい黄橙色	10YR6/4	粘性砂質土		14	黄褐色	10YR5/6	砂質土	
6	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土		15	褐色	10YR4/6	砂質土	
7	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	（しまりがある。）	16	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	
8	暗褐色	10YR3/4	粘性砂質土	（しまりがある。）	17	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土	（しまりがある。）
9	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	（しまりがある。）	18	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土	

第583図　SA1052平・断面図（S＝1/80）



第584図　SA1052出土鉄器



1	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	（しまりがある。）	10	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土	
2	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土		11	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	（しまりがある。）
3	黄褐色	10YR5/6	粘性砂質土		12	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	（しまりがある。）
4	褐色	10YR4/6	粘性砂質土		13	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土	
5	褐色	10YR4/4	粘質土	（しまりがある。）	14	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土	
6	暗褐色	10YR3/3	粘質土	（しまりがある。）	15	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土	
7	暗褐色	10YR3/4	粘質土	（しまりがある。）	16	オリーブ褐色	2.5Y4/3	砂質土	
8	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土	（しまりがある。）	17	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	（しまりがある。）
9	黒褐色	10YR3/2	粘質土	（しまりがある。）	18	にぶい黄橙色	10YR6/4	砂質土	

第585図　SA1053平・断面図（S＝1/80）

掘立柱建物跡（SA1054）

位置　Loc.E2・αⅠⅡ　ef20～1　　**床面積**　14.6m²　　**主軸方向**　N-81°-E

柱穴　8基（径40～90cm、深さ25～50cm）

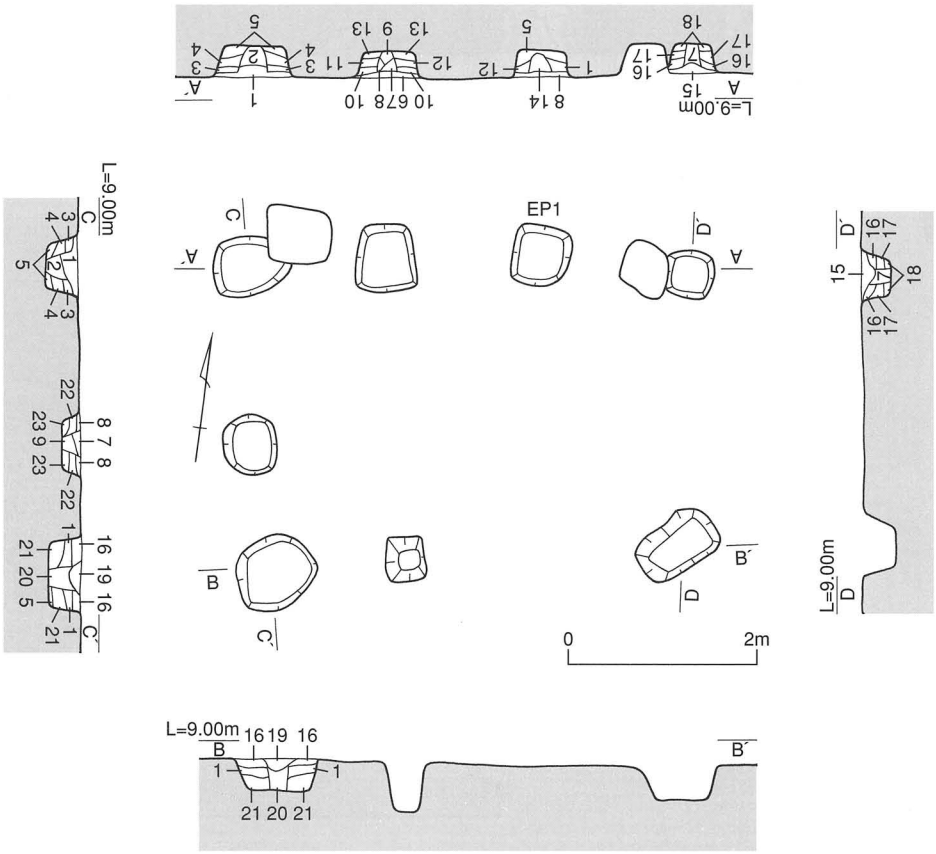
土層　覆土は各柱穴ごとに5～10層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　300cm　　最小　130cm　　梁間　300cm　　桁行　(470)cm

遺物出土状況　土器数点が出土している。図示できる遺物はEP1出土の土師器杯1点、土師器高坏1点である。

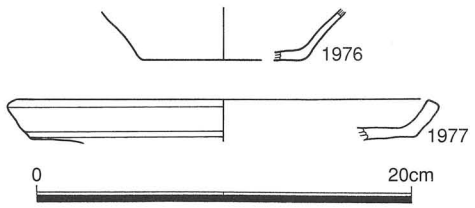
時期　古代（平安時代（9世紀前半））である。

備考　東側端部は調査区外に延びる可能性がある。柱穴が検出できた範囲では2間×3間の規模をもつ。



1	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土	
2	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	
3	暗褐色	10YR3/3	粘質土	
4	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土	
5	黄褐色	10YR5/6	粘質土	
6	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土	（しまりがある。）
7	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	（しまりがある。）
8	褐色	10YR4/4	粘質土	（しまりがある。）
9	暗褐色	10YR3/3	粘質土	（しまりがある。）
10	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土	（しまりがある。）
11	にぶい黄橙色	10YR6/3	砂質土	
12	褐色	10YR4/6	粘性砂質土	
13	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	
14	暗褐色	10YR3/4	粘質土	（しまりがある。）
15	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	（しまりがある。）
16	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土	
17	褐色	10YR4/4	粘質土	
18	黄褐色	2.5Y5/4	粘質土	
19	褐色	10YR4/6	粘質土	（しまりがある。）
20	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	（しまりがある。）
21	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	（しまりがある。）
22	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	
23	灰黄褐色	10YR4/2	粘質土	

第586図　SA1054平・断面図（S＝1/80）



第587図　SA1054出土土器

SA1052、SA1053、SA1055と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1054→SA1055→SA1053となる。SA1052とは柱穴の切り合いがなく先後関係は不明である。

掘立柱建物跡（SA1055）

位置　Loc.E2・αⅠⅡ・f20～1　　**床面積**　14.4㎡　　**主軸方向**　N-83°-E

柱穴　8基（径50～90cm、深さ20～55cm）

土層　覆土は各柱穴ごとに7～12層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　280cm　　最小　140cm　　梁間　230cm　　桁行　(380)cm

遺物出土状況　図示できる遺物はEP1出土の管状土錘2点と土師器椀1点である。

時期　古代（平安時代（9世紀））である。

備考　東側端部は調査区外に延びる可能性がある。検出された柱穴は2間×2間の規模をもつ。南側1間は庇部分と考えられる。SA1053、SA1054と重複する。柱穴の切り合いから先後関係は、SA1054→SA1055→SA1053となる。

掘立柱建物跡（SA1056）

位置　Loc.E2・αⅠⅡ・fg19～1　　**床面積**　20.4㎡　　**主軸方向**　N-83°-E

柱穴　12基（径30～60cm、深さ25～35cm）

土層　覆土は各柱穴ごとに1～10層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　220cm　　最小　80cm　　梁間　340cm　　桁行　600cm

遺物出土状況　図示できる遺物はEP1出土の土師器皿1点、須恵器甕1点、EP2出土の須恵器蓋1点の3点である。

時期　古代（平安時代（9世紀後半））である。

備考　2間×3間の規模をもつ。南側1間は庇部分と考えられる。SA1057と重複する。柱穴の切り合いから先後関係は、SA1056→SA1057となる。

掘立柱建物跡（SA1057）

位置　Loc.E2　αⅠ　fg19～20　　**床面積**　17.6㎡　　**主軸方向**　N-83°-E

柱穴　6基（径40～70cm、深さ20～40cm）

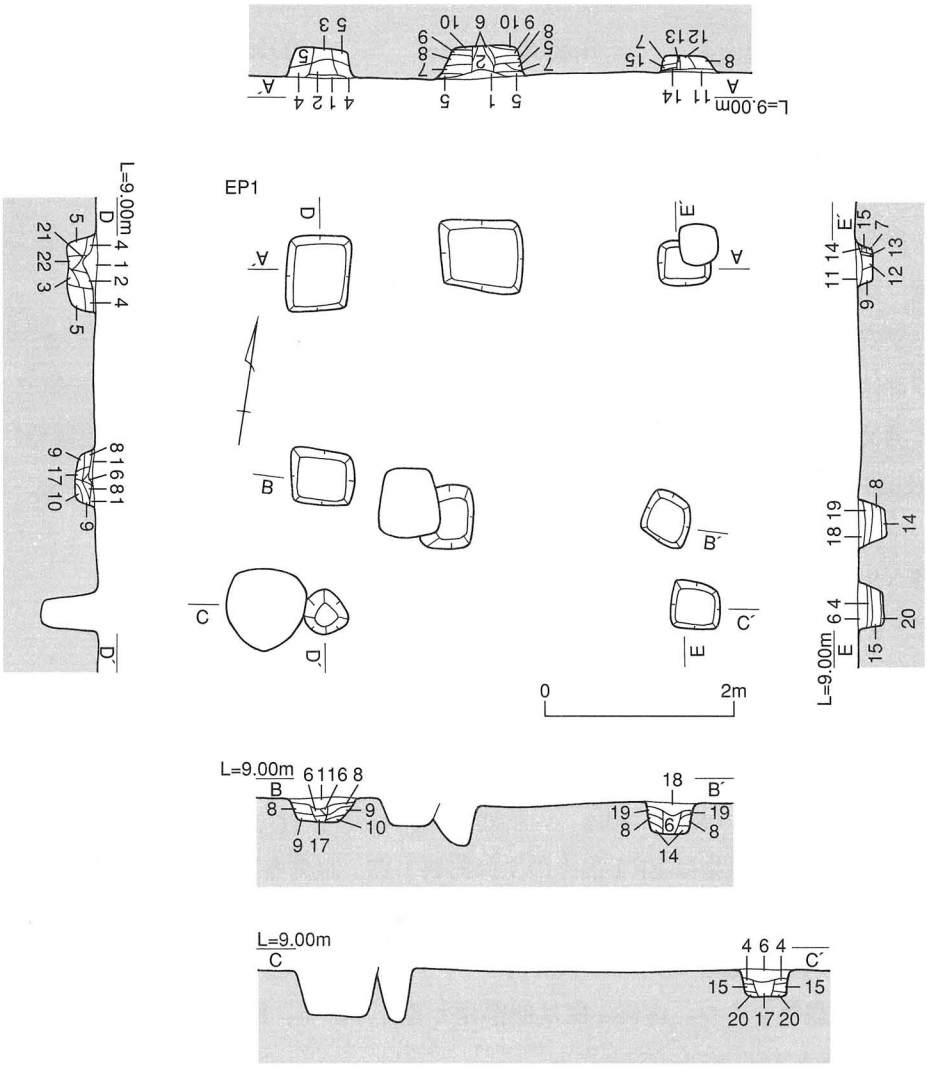
土層　覆土は各柱穴ごとに6～9層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　240cm　　最小　170cm　　梁間　420cm　　桁行　(420)cm

遺物出土状況　図示できる遺物は、EP1出土の土師器皿1点、EP2出土の土師器杯2点、EP3出土の鉄片2点である。

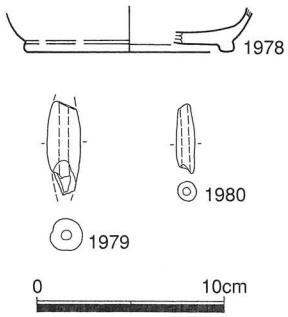
時期　古代（平安時代（10世紀））である。

備考　北端は調査区外に延びるため未検出である。検出できた柱穴は2間×2間の規模をもつ。SA1056と重複する。柱穴の切り合いから先後関係は、SA1056→SA1057となる。

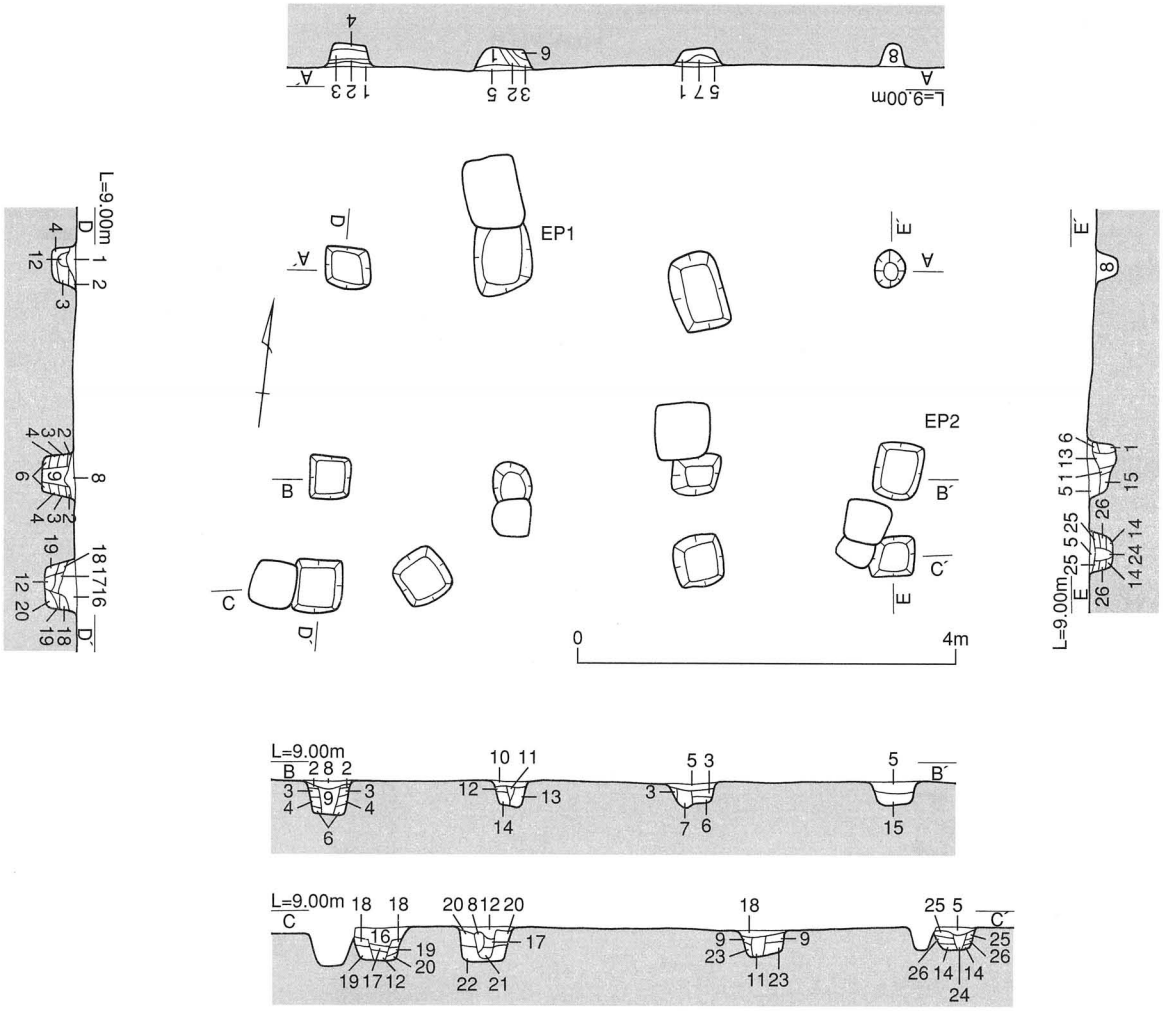


1	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土（しまりがある。）	12	にぶい黄褐色	10YR4/4	粘性砂質土
2	暗褐色	10YR3/3	粘質土（しまりがある。）	13	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
3	暗灰黄色	2.5Y4/2	粘質土（しまりがある。）	14	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土
4	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土	15	黄褐色	10YR5/6	砂質土
5	暗褐色	10YR3/4	粘質土	16	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土　（しまりがある。）
6	褐色	10YR4/4	粘質土（しまりがある。）	17	暗褐色	10YR3/4	粘質土　（しまりがある。）
7	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土	18	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土（しまりがある。）
8	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土	19	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土
9	黄褐色	2.5Y5/4	粘質土	20	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土
10	黄褐色	2.5Y5/3	粘質土	21	褐色	10YR4/4	粘性砂質土（しまりがある。）
11	褐色	10YR4/6	粘性砂質土	22	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土　（しまりがある。）

第588図　SA1055平・断面図（S=1/80）

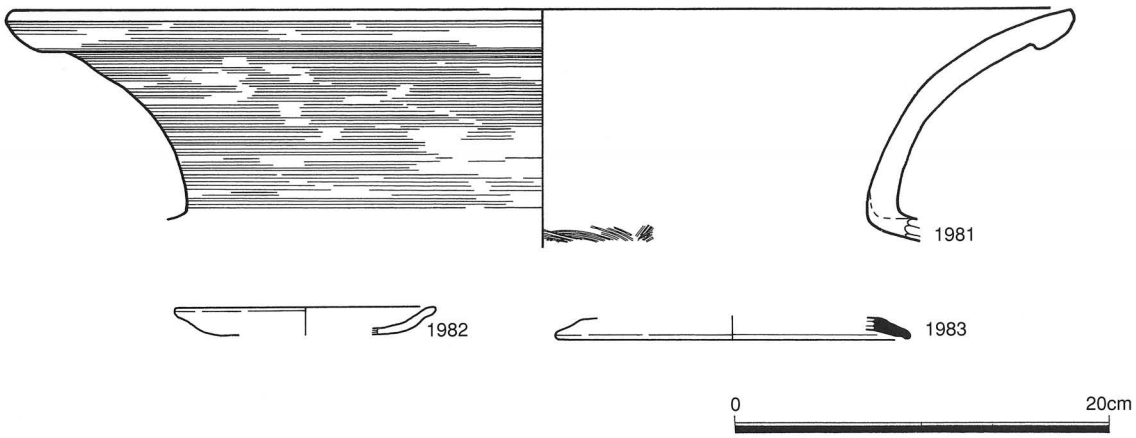


第589図　SA1055出土土器

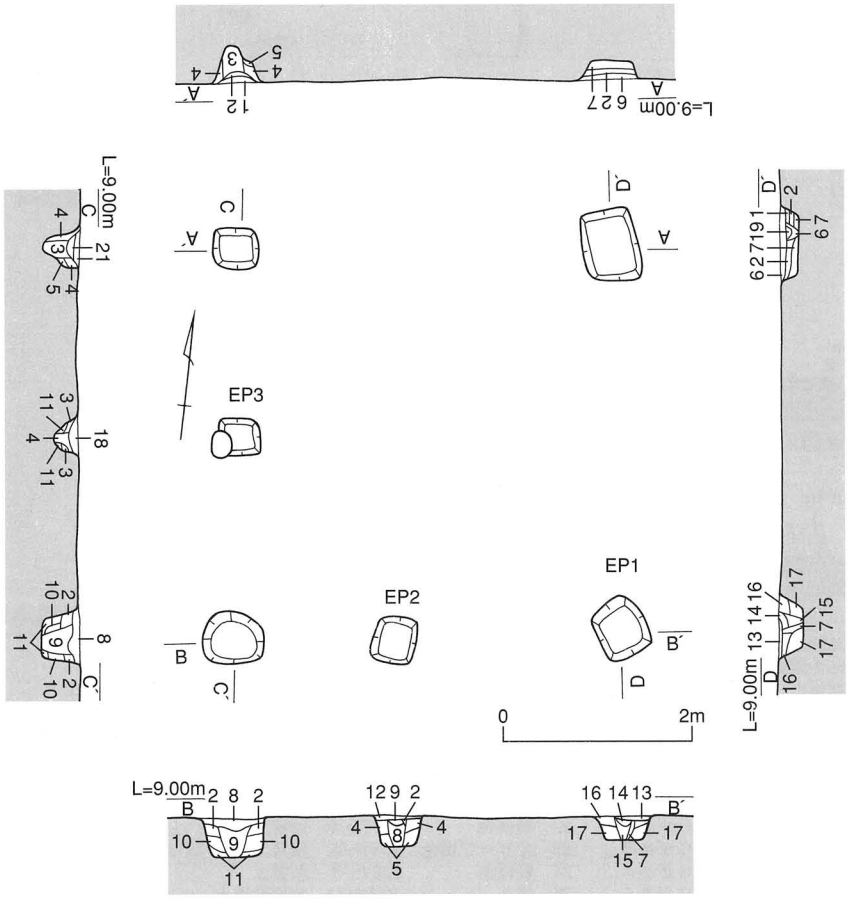


1	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土	
2	にぶい黄褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土	
3	褐色	10YR4/4	粘質土	
4	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	
5	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	
6	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	
7	暗オリーブ褐色	2.5Y3/3	粘性砂質土	
8	暗褐色	10YR3/3	粘質土	（しまりがある。）
9	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	（しまりがある。）
10	褐色	10YR4/4	砂質土	（しまりがある。）
11	暗褐色	10YR3/4	粘性砂質土	（しまりがある。）
12	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	（しまりがある。）
13	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土	（しまりがある。）
14	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土	
15	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土	
16	暗褐色	10YR3/3	粘性砂質土	（しまりがある。）
17	暗褐色	10YR3/4	粘質土	（しまりがある。）
18	褐色	10YR4/4	砂質土	
19	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土	
20	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	
21	黒褐色	10YR2/3	粘質土	（しまりがある。）
22	黄褐色	10YR5/6	砂質土	
23	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土	（しまりがある。）
24	黄褐色	2.5Y5/3	粘質土	
25	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	
26	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土	

第590図　SA1056平・断面図（S=1/80）

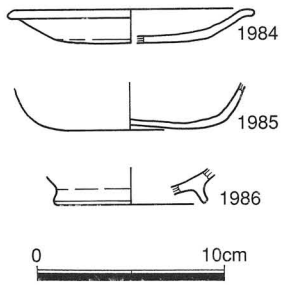


第591図　SA1056出土土器

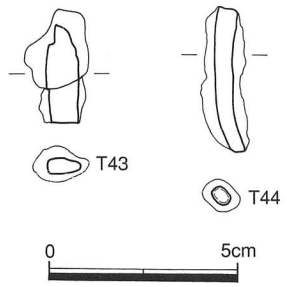


1	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土	
2	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	
3	暗褐色	10YR3/3	粘性砂質土	
4	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	
5	灰黄褐色	10YR4/2	粘性砂質土	
6	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土	（しまりがある。）
7	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	
8	暗褐色	10YR3/3	粘質土	（しまりがある。）
9	暗褐色	10YR3/4	粘質土	（しまりがある。）
10	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土	
11	褐色	10YR4/4	粘質土	
12	褐色	10YR4/4	砂質土	（しまりがある。）
13	暗灰黄色	2.5Y4/2	粘性砂質土	（しまりがある。）
14	暗褐色	7.5YR3/4	粘質土	（しまりがある。）
15	褐色	10YR4/4	粘質土	（しまりがある。）
16	褐色	10YR4/6	粘性砂質土	
17	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土	
18	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	
19	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土	（しまりがある。）

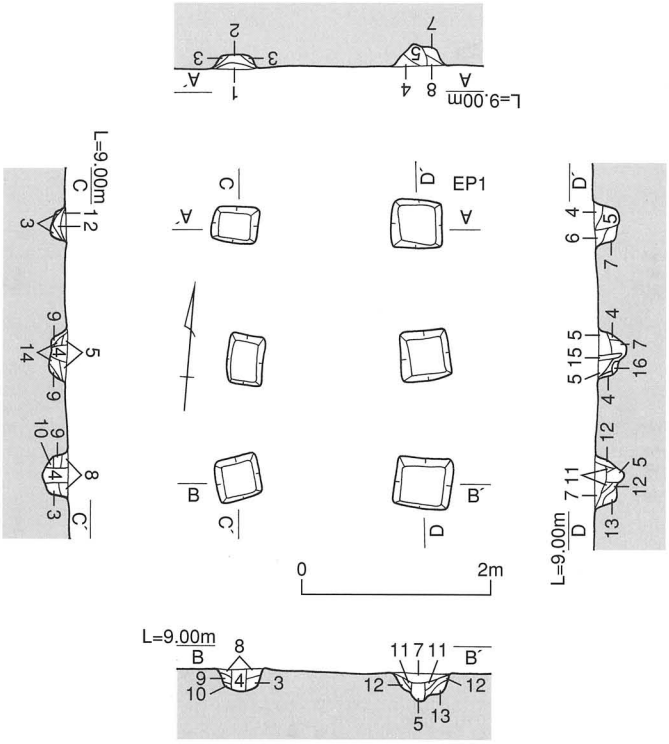
第592図　SA1057平・断面図（S=1/80）



第593図　SA1057出土土器

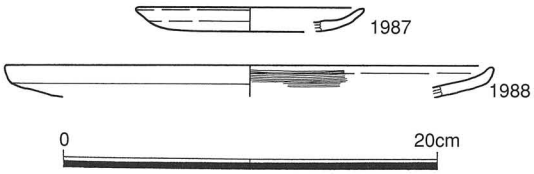


第594図　SA1057出土鉄器



1	暗褐色	10YR3/3	粘性砂質土	9	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
2	にぶい黄褐色	10YR4/3	砂質土	10	褐色	10YR4/6	砂質土
3	褐色	10YR4/4	砂質土	11	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土
4	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	12	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土
5	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	13	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土
6	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土	14	褐色	10YR4/6	粘性砂質土
7	灰黄褐色	10YR4/2	粘性砂質土	15	褐色	10YR4/6	粘質土
8	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土	16	褐色	10YR4/4	粘質土

第595図　SA1058平・断面図（S=1/80）



第596図　SA1058出土土器

掘立柱建物跡（SA1058）

位置　Loc.E2・αⅠ・g18　　**床面積**　5.4m²　　**主軸方向**　N-5°-W

柱穴　6基（径40～60cm、深さ15～30cm）

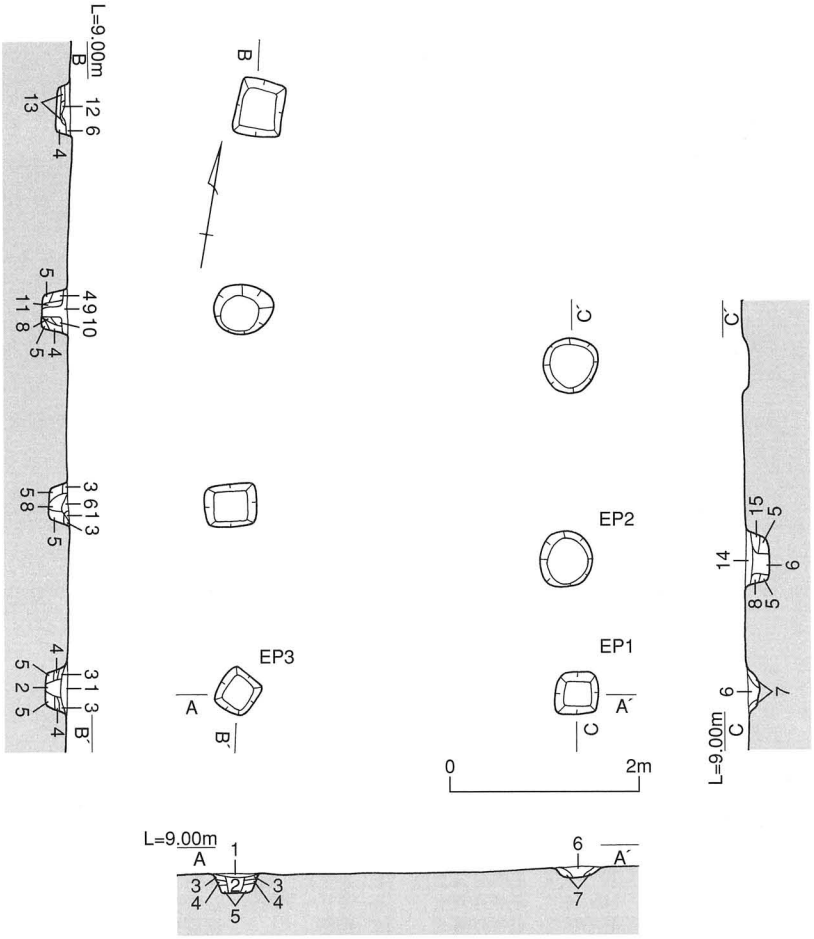
土層　覆土は各柱穴ごとに4～7層に分かれ、褐色系の粘性砂質土を主体とする。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離　最大　190cm　　最小　130cm　　梁間　200cm　　桁行　270cm

遺物出土状況　図示できる遺物は、EP1出土の土師器甕1点と土師器皿1点である。

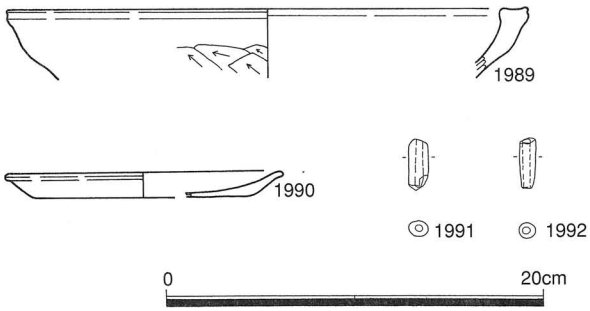
時期　古代（平安時代（10世紀））である。

備考　1間×2間の規模をもつ。



1	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土		9	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	
2	褐色	10YR4/4	粘質土	（炭化物を含む。）	10	黄褐色	10YR5/6	粘質土	
3	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土		11	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土	
4	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土		12	褐色	10YR4/6	砂質土	（しまりがある。）
5	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土		13	黄褐色	10YR5/6	砂質土	
6	褐色	10YR4/4	粘質土	（しまりがある。）	14	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	（しまりがある。）
7	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	（しまりがある。）	15	褐色	7.5Y4/3	粘質土	
8	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土						

第597図　SA1059平・断面図（S＝1/80）



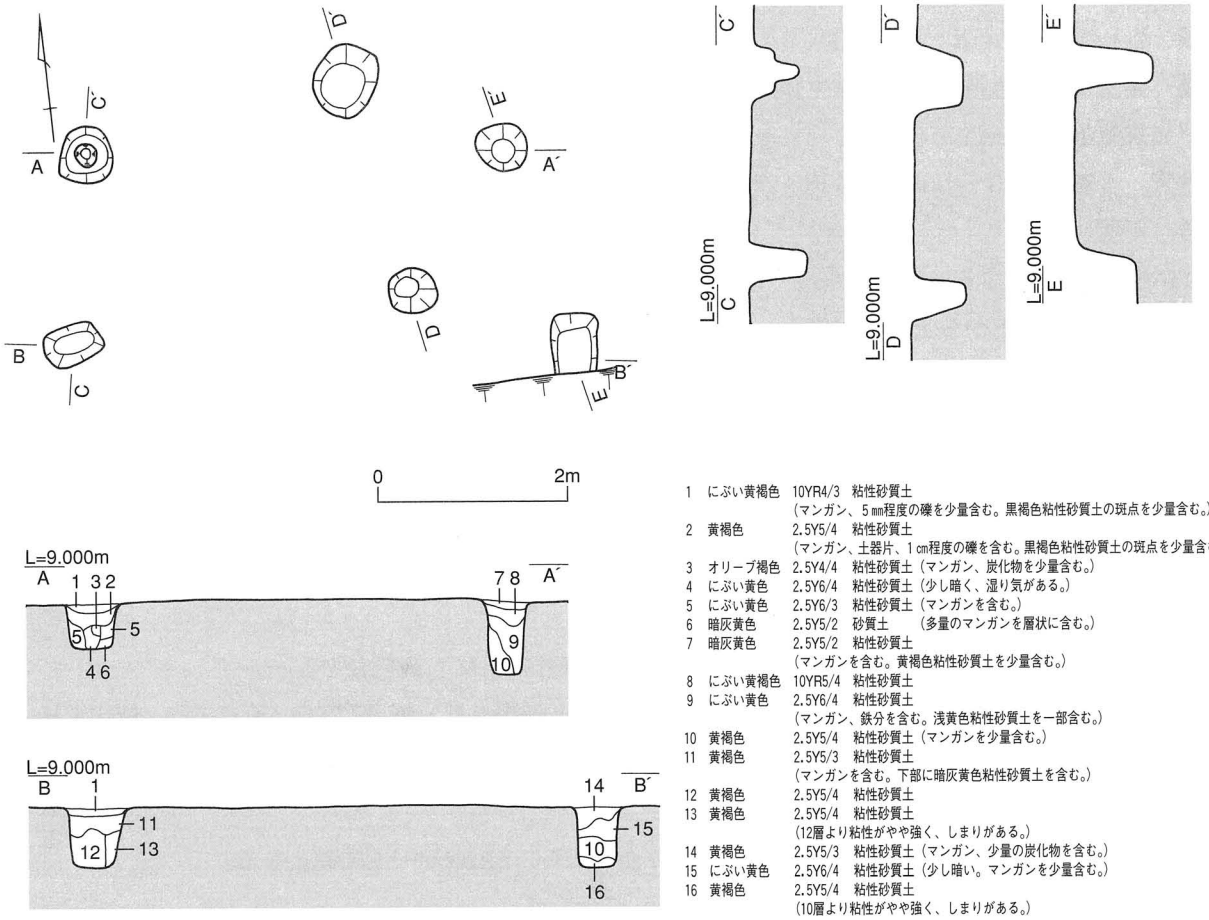
第598図　SA1059出土土器

掘立柱建物跡（SA1059）

位置　Loc.E2・αⅠ・def19～20　　**床面積**　21.0m²　　**主軸方向**　N-9°-W

柱穴　7基（径40～60cm、深さ10～30cm）

土層　覆土は各柱穴ごとに3～8層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。一部柱穴では炭化物を含む。断面観察により柱痕が確認できるものがある。



第599図　SA1060平・断面図（S=1/80）

柱穴間距離　最大　370cm　　最小　140cm　　梁間　340cm　　桁行　600cm

遺物出土状況　図示できる遺物は、EP1出土の管状土錘2点、EP2出土の鉢、EP3出土の土師器皿である。

時期　古代（平安時代（10世紀））である。

備考　柱穴の深さが浅く、未検出の柱穴が存在すると考えられる。1間×3間の規模をもつ。SA1050、SA1052、SA1053と重複する。柱穴の切り合いから先後関係は、SA1050→SA1059、SA1052→SA1059となる。SA1053は柱穴の切り合いがなく先後関係は不明である。

掘立柱建物跡（SA1060）

位置　Loc.E2・αⅠⅡ・19～20　　**床面積**　9.2㎡　　**主軸方向**　N-85°-E

柱穴　6基（径40～80cm、深さ50～80cm）

土層　覆土は各柱穴ごとに4～7層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部柱穴では炭化物を含む。

柱穴間距離　最大　360cm　　最小　180cm　　梁間　220cm　　桁行　470cm

遺物出土状況　遺物は出土していない。

時期　古代（平安時代）である。

備考　1間×2間の規模をもつ。やや不整形であるため、未検出の柱穴が存在する可能性がある。

②竪穴住居跡

竪穴住居跡（SB1001）

位置　Loc.DE２・αεⅡ・ta18～20　　**平面形**　方形　　**床面積**　18.0㎡

土層　覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、13層からなる。柱穴内は黄褐色系の粘質土を主体とし、わずかに炭化物を含む。

主柱穴　５基（径30～40cm、深さ10～25cm）

炉跡　不明　　**施設**　主柱穴以外に柱穴３基、土坑１基、北西辺に張り出し部（100×40cm）を有する。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は土師器蓋１点である。

時期　古代（奈良時代（８世紀））である。

竪穴住居跡（SB1002）

位置　Loc.E２・αⅠ・ab20　　**平面形**　方形　　**床面積**　5.1㎡

土層　覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、16層からなる。柱穴内はオリーブ褐色粘質土１層である。

主柱穴　２基（径20～30cm、深さ10～15cm）

炉跡　不明　　**施設**　主柱穴以外に土坑１基を有する。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は土師器甕・杯・須恵器杯・管状土錘・紡錘車など10点である。

時期　古代（平安時代（９世紀前半））である。

備考　SB1003と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1003→SB1002となる。

竪穴住居跡（SB1003）

位置　Loc.E２・αⅠⅡ・ab20～1　　**平面形**　方形　　**床面積**　14.0㎡

土層　覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、17層からなる。柱穴内はにぶい黄褐色粘質土１層である。

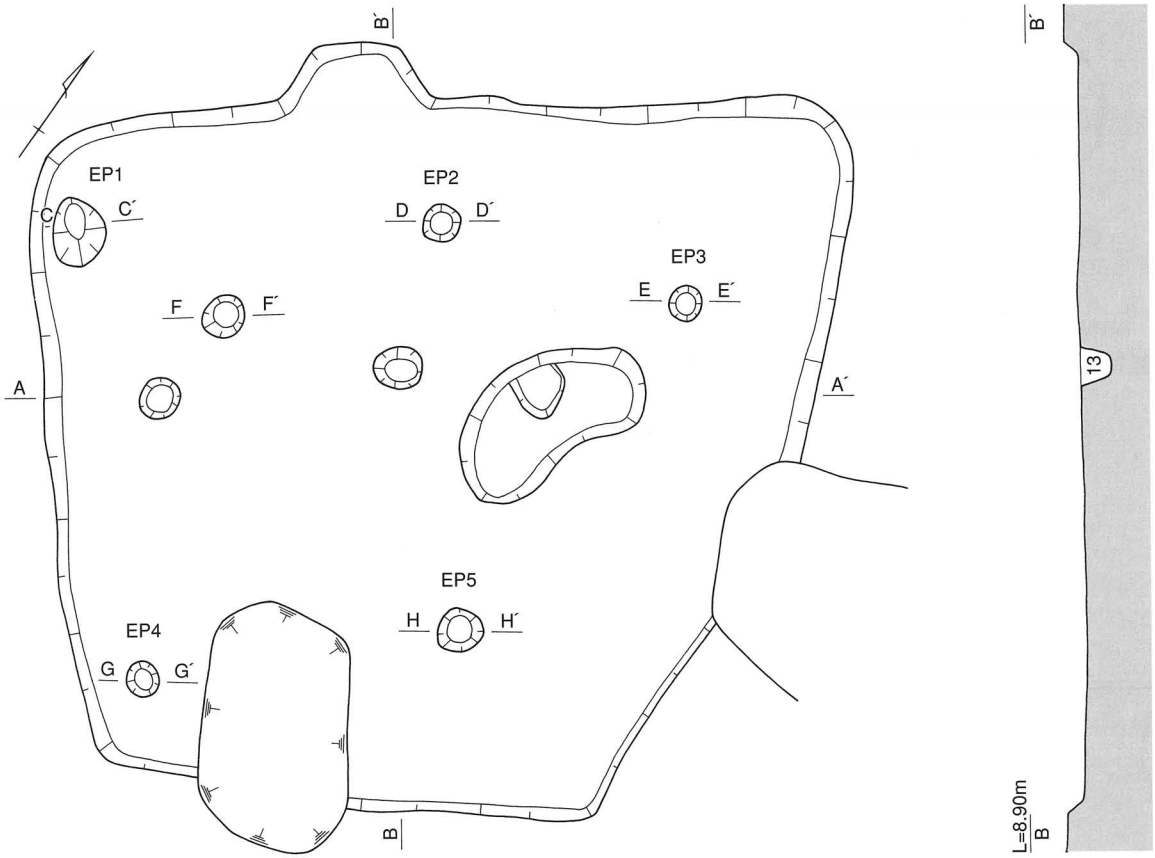
主柱穴　２基（径15～30cm、深さ５～10cm）

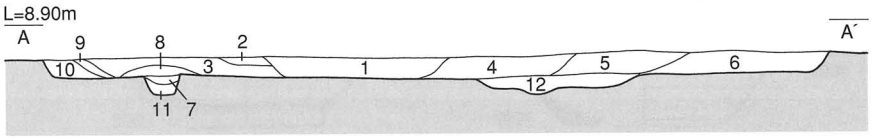
炉跡　不明　　**施設**　主柱穴以外に柱穴２基、土坑４基有する。

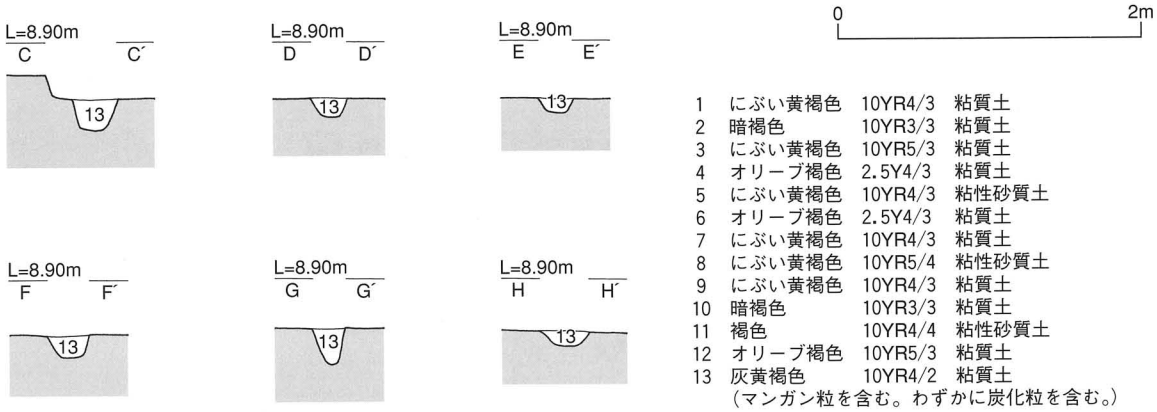
遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器杯１点である。

時期　古代（平安時代（９世紀前半））である。

備考　SB1002、SB1004と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1004→SB1003→SB1002となる。



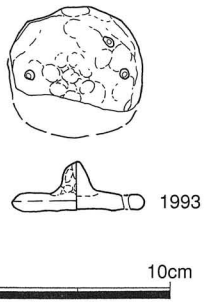




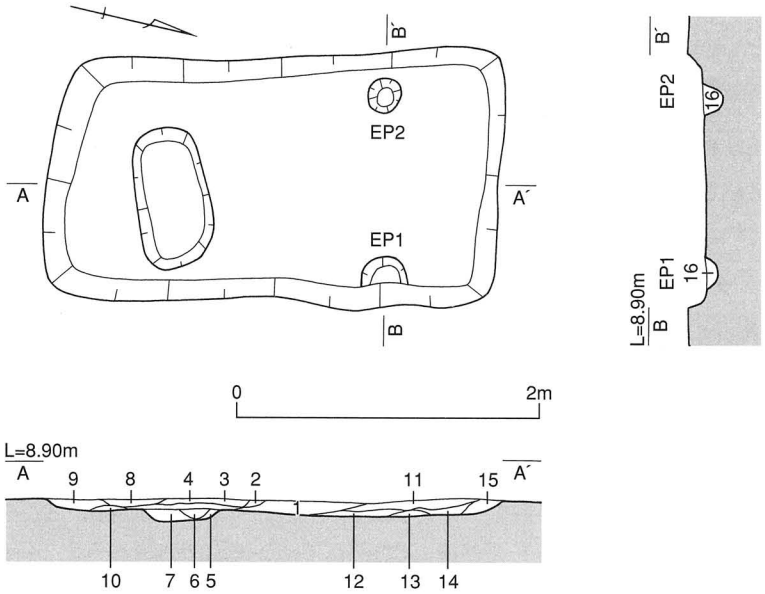
1	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
2	暗褐色	10YR3/3	粘質土
3	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土
4	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土
5	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土
6	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土
7	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
8	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土
9	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
10	暗褐色	10YR3/3	粘質土
11	褐色	10YR4/4	粘性砂質土
12	オリーブ褐色	10YR5/3	粘質土
13	灰黄褐色	10YR4/2	粘質土

（マンガン粒を含む。わずかに炭化粒を含む。）

第600図　SB1001平・断面図（S=1/50）

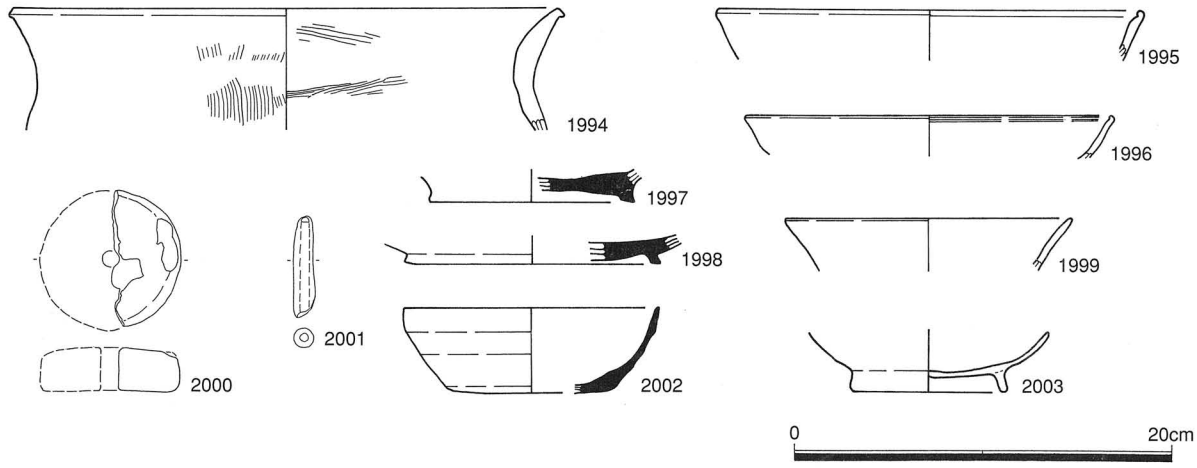


第601図　SB1001出土土器



1	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	7	暗褐色	10YR3/3	粘質土	12	灰黄褐色	10YR4/2	粘質土
2	灰褐色	7.5YR4/2	粘質土	8	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	13	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土
3	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	9	褐色	10YR4/4	粘質土	14	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
4	褐色	10YR4/4	粘質土	10	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	15	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土
5	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	11	褐色	10YR4/4	粘質土	16	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土
6	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土								

第602図 SB1002平・断面図（S＝1/50）



第603図　SB1002出土土器

竪穴住居跡（SB1004）

位置　Loc.E2・αⅠⅡ・b20～1　　**平面形**　方形　　**床面積**　13.5m²

土層　覆土は褐色系粘質土３層からなる。柱穴内はにぶい黄褐色の粘質土１層からなる。

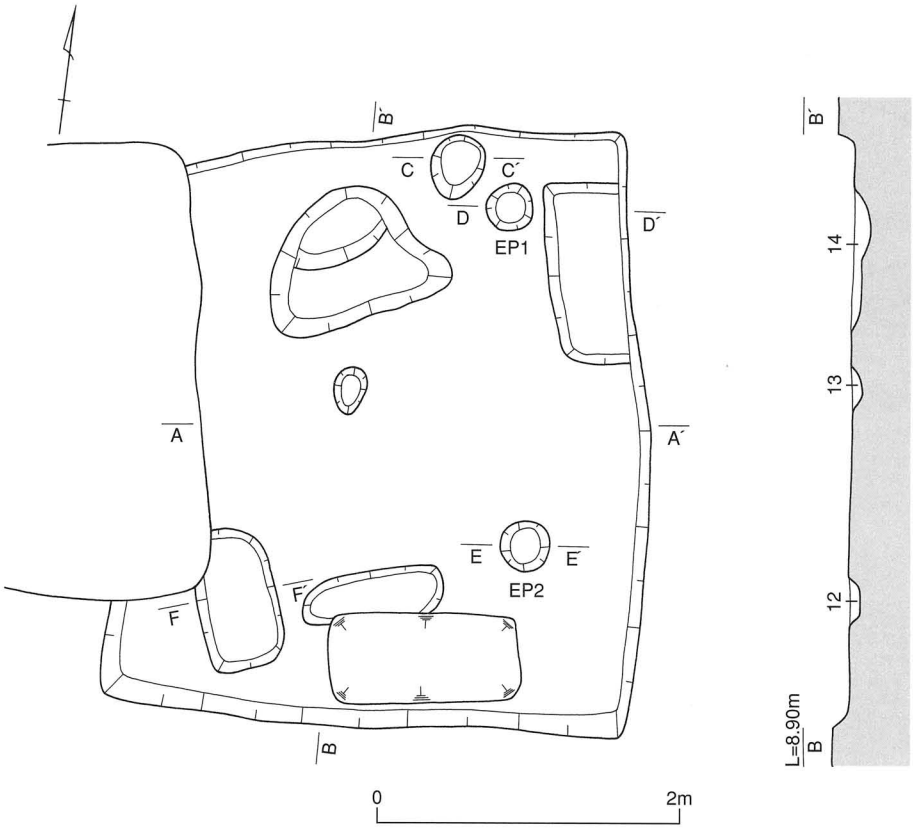
主柱穴　３基（径20～30cm、深さ10～20cm）

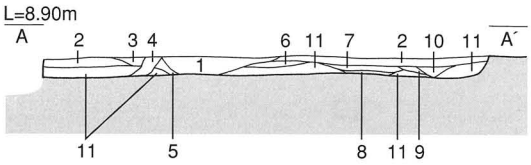
炉跡　不明　　**施設**　主柱穴以外に柱穴１基、土坑２基を有する。

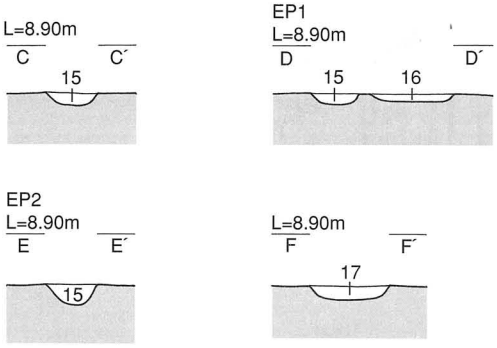
遺物出土状況　図示できる遺物は砥石１点である。

時期　古代（奈良時代（８世紀））である。

備考　SB1003と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1004→SB1003となる。

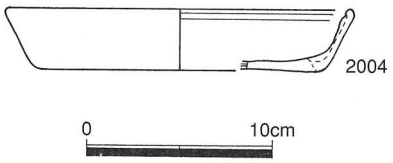




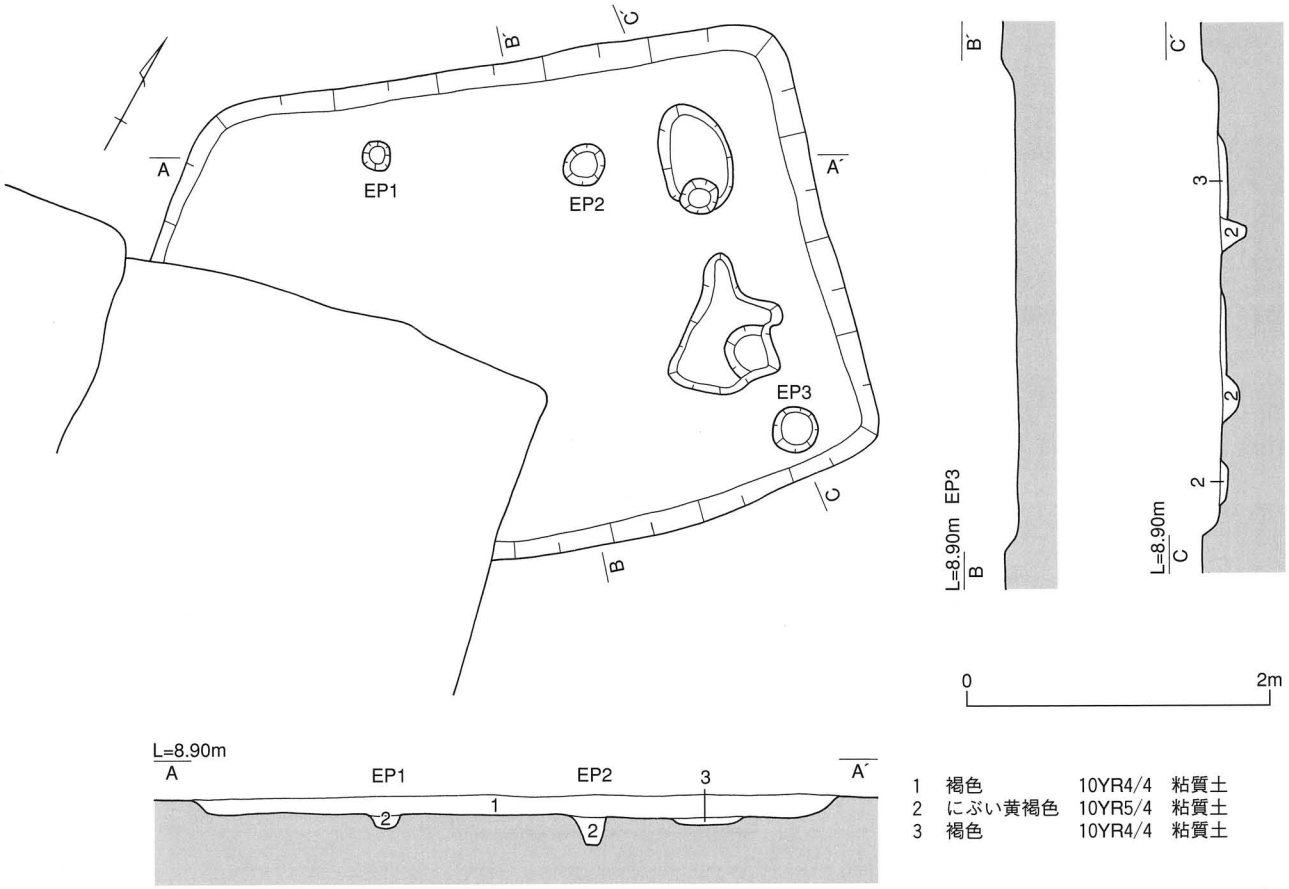


1	暗褐色	10YR3/3	粘質土
2	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
3	暗褐色	10YR3/3	粘質土
4	灰黄褐色	10YR4/2	粘質土
5	暗褐色	10YR3/3	粘質土
6	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
7	灰黄褐色	10YR4/2	粘質土
8	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
9	灰黄褐色	10YR4/2	粘質土
10	褐色	10YR4/4	粘質土
11	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
12	暗褐色	10YR3/3	粘質土
13	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
14	灰黄褐色	10YR4/2	粘質土
15	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
16	灰黄褐色	10YR4/2	粘質土
17	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土

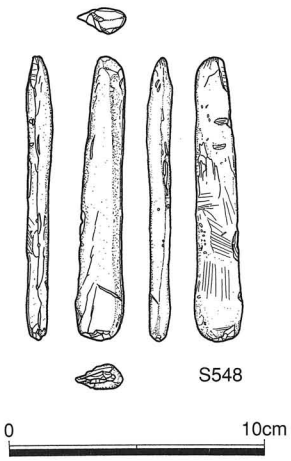
第604図　SB1003平・断面図（S＝1/50）



第605図　SB1003出土土器



第606図　SB1004平・断面図（S＝1/50）



第607図　SB1004出土石器

竪穴住居跡（SB1005）

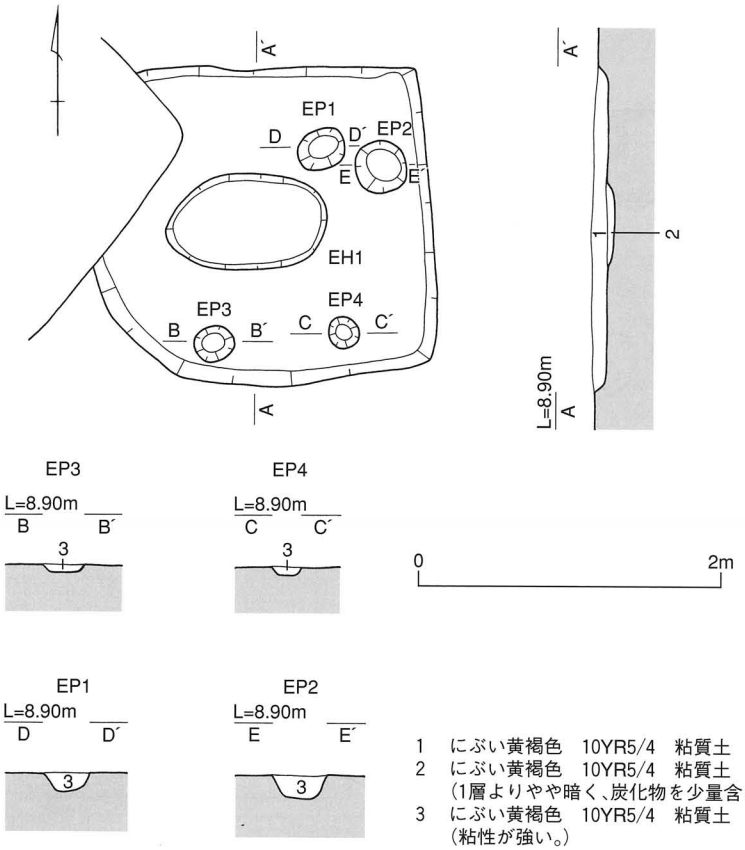
位置　Loc.E２・αⅡ・b１　　**平面形**　方形　　**床面積**　4.0m²

土層　覆土はにぶい黄褐色粘質土からなる。柱穴内は粘性が強く、炉の覆土は炭化物を少量含む。

主柱穴　４基（径20～30cm、深さ５～15cm）

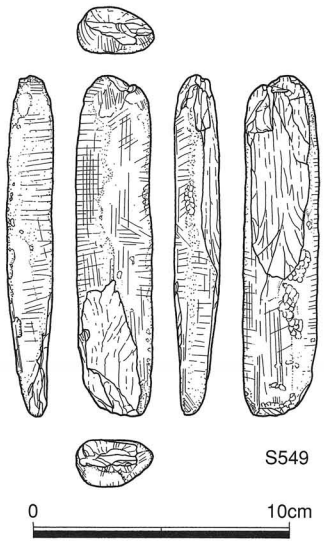
炉跡　直径70～100cm　　深さ５cm　　**施設**　なし

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、住居内覆土から土師器鍋１点、敲

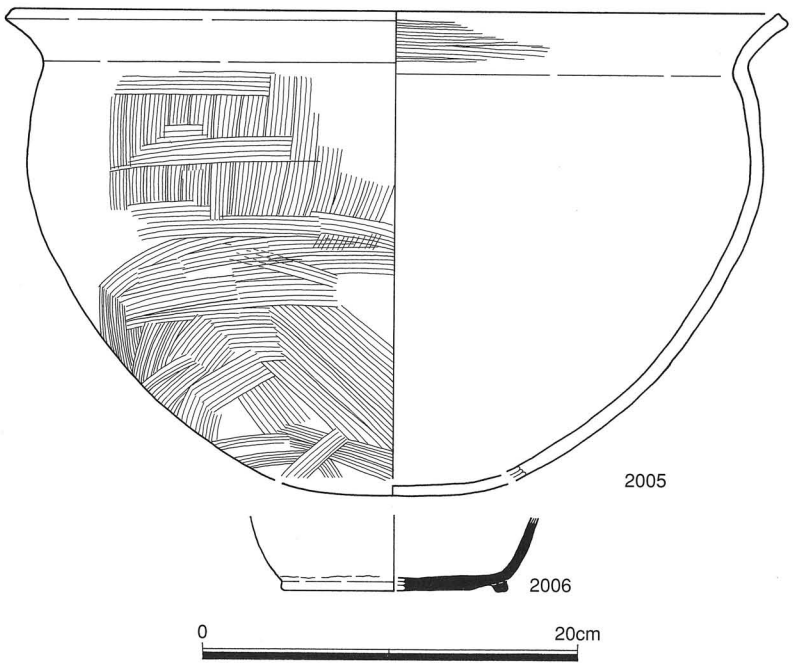


1　にぶい黄褐色　10YR5/4　粘質土
2　にぶい黄褐色　10YR5/4　粘質土
（1層よりやや暗く、炭化物を少量含む。）
3　にぶい黄褐色　10YR5/4　粘質土
（粘性が強い。）

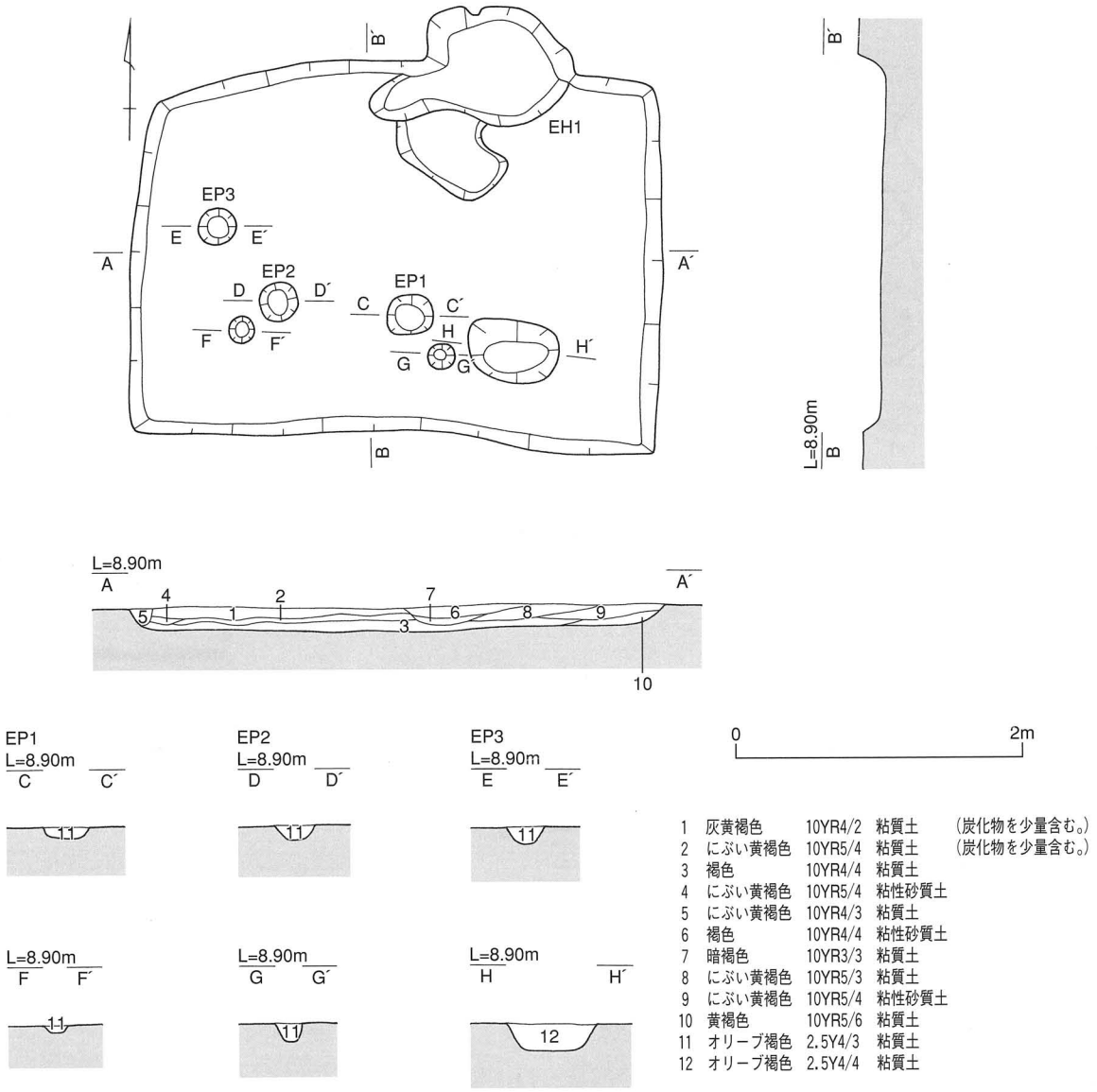
第608図　SB1005平・断面図（S＝1/50）



第609図　SB1005出土石器



第610図　SB1005出土土器



第611図　SB1006平・断面図（S=1/50）

石・砥石１点、EH１から須恵器杯１点である。

時期　古代（奈良時代（８世紀前半））である。

備考　SB1004と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1005→SB1004となる。

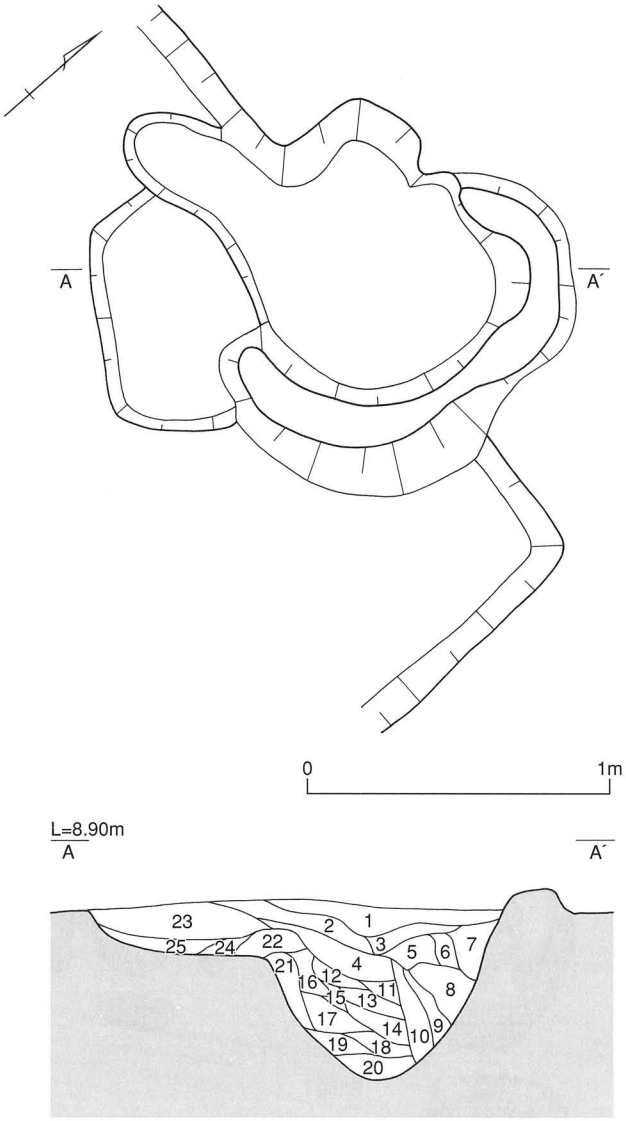
竪穴住居跡（SB1006）

位置　Loc.E2・αⅠ・bc19～20　　**平面形**　方形　　**床面積**　8.8㎡

土層　覆土は黄褐色系の粘質土10層からなる。柱穴内はオリーブ褐色粘質土１層からなり、竈跡はにぶい黄褐色粘性砂質土を主体とし25層からなる。炭化物、焼土を多く含む。

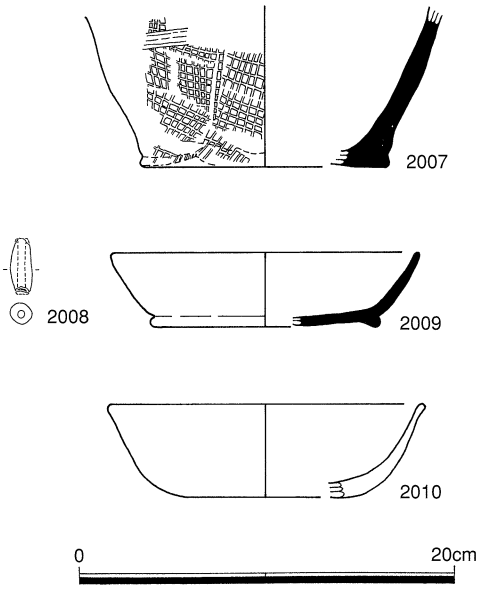
主柱穴　３基（径20～35㎝、深さ10～15㎝）

炉跡　不明　　**施設**　主柱穴以外に柱穴２基、土坑１基、北壁東よりに作り付けの竈（直径100～160㎝・深さ20～60㎝）を有する。

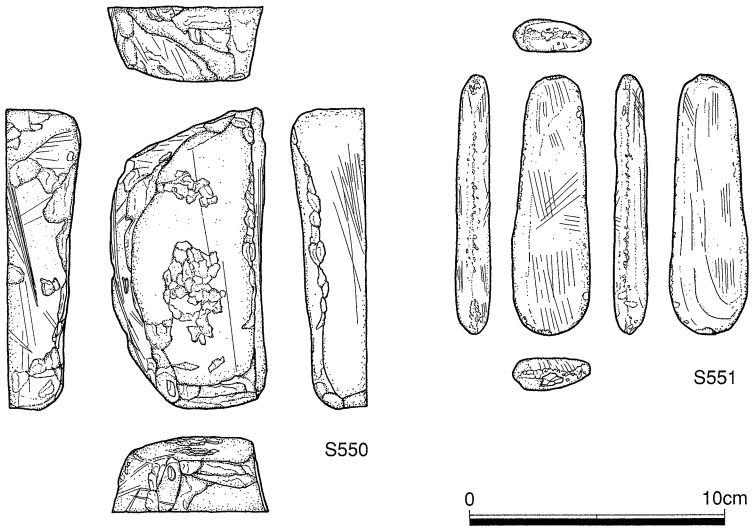


1	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土（極小炭化物、焼土を含む。）
2	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土（極小炭化物、焼土を少量含む。）
3	黒褐色	10YR3/2	粘性砂質土（極小炭化物、焼土を含む。）
4	暗褐色	10YR3/3	粘性砂質土
5	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
6	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土（炭化物を含む。）
7	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土（極小炭化物、焼土を含む。）
8	灰黄褐色	10YR4/2	粘性砂質土（極小炭化物、焼土を多く含む。）
9	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土（粘性やや強く、しまっている。極小炭化物、焼土を多く含む。）
10	黄褐色	2.5Y5/6	粘性砂質土
11	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土（粘性やや強く、しまっている。）
12	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土
13	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土（炭化物、焼土を含む。）
14	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土（黄色砂質土をブロック状に含む。）
15	褐色	10YR4/4	粘性砂質土（極小炭化物、焼土を多く含む。）
16	褐色	10YR4/4	砂質土　（炭化物、焼土を多く含む。）
17	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土（白色粘土をブロック状に含む。）
18	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土（極小炭化物、焼土をわずかに含む。）
19	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土（炭化物、焼土をわずかに含む。）
20	褐色	10YR4/4	粘性砂質土（炭化物を含む。）
21	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土（19層よりやや暗い。）
22	褐色	10YR4/4	粘性砂質土（やや硬くしまる。）
23	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土（炭化物、焼土、マンガンを含む。）
24	褐色	10YR4/4	粘性砂質土（硬くしまる。）
25	褐色	10YR4/4	砂質土　（硬くしまる。）

第612図　SB1006　EH１平・断面図（S＝1/25）



第613図　SB1006出土土器



第614図　SB1006出土石器

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土器がEH１から須恵器壺１点、住居内覆土から須恵器杯、土師器杯、管状土錘の３点、石器が敲石・砥石、砥石の２点である。

時期　古代（奈良時代（８世紀後半））である。

備考　作り付けの竈はSB2021でも確認されている。

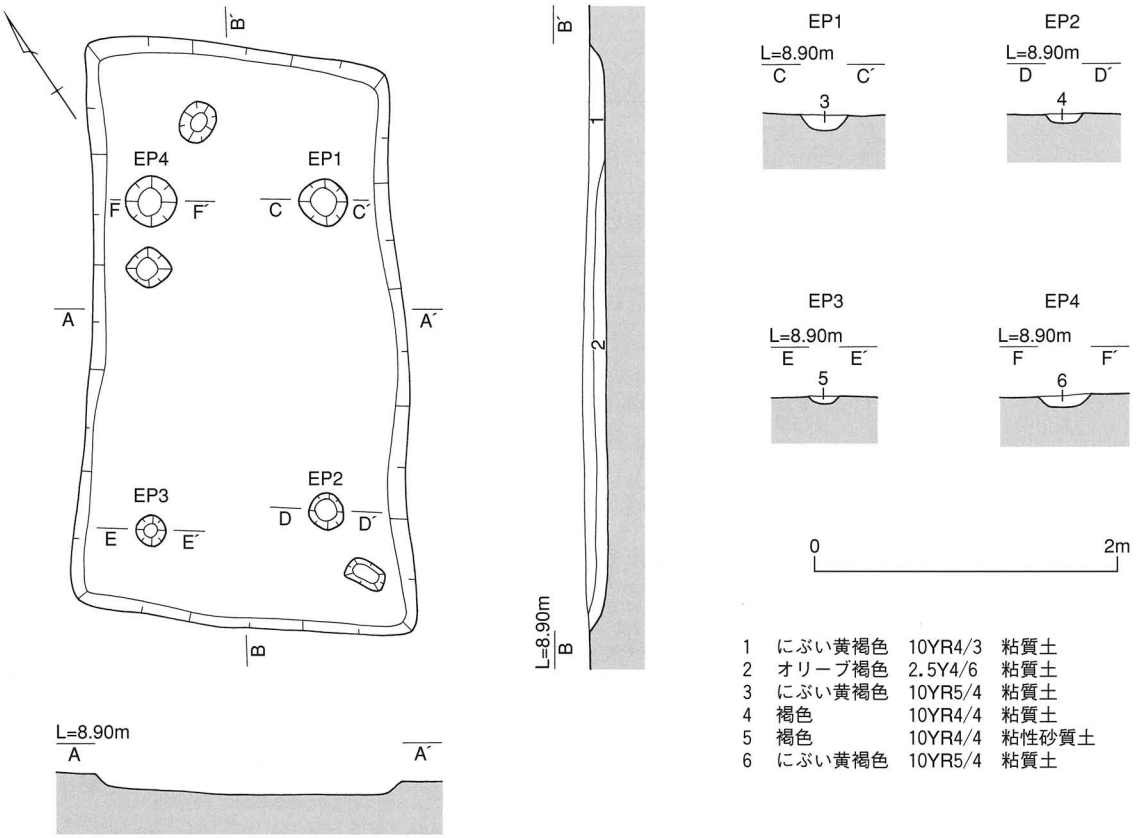
竪穴住居跡（SB1007）

位置　Loc.E2・αⅠ・cd18～19　　**平面形**　方形　　**床面積**　8.1m²

土層　覆土は黄褐色系の粘質土６層からなる。柱穴内はにぶい黄褐色あるいは褐色の粘質土、粘性砂質土１層である。

主柱穴　４基（径20～35cm、深さ５～10cm）

炉跡　不明　　**施設**　主柱穴以外に柱穴３基を有する。



第615図　SB1007平・断面図（S=1/50）

遺物出土状況　図示できる遺物は出土していない。

時期　古代（奈良時代）である。

竪穴住居跡（SB1008）

位置　Loc.E2・αⅠ・d19　　**平面形**　方形　　**床面積**　4.2㎡

土層　覆土は褐色系の粘質土３層からなる。柱穴はにぶい黄褐色粘質土１層である。

主柱穴　２基（径35～40㎝、深さ10～15㎝）

炉跡　なし　　**施設**　主柱穴以外に柱穴１基を有する。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器杯１点である。

時期　古代（奈良時代（８世紀後半））である。

備考　遺構の東半はSD1075に削平されている。またSB1021と重複し、遺構の切り合いから先後関係はSB1008→SB1021となる。

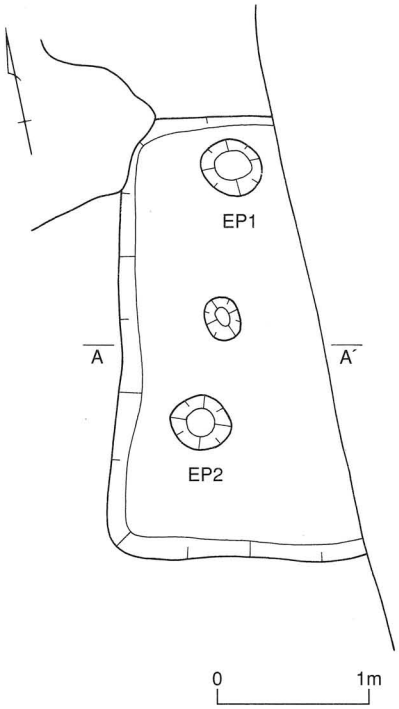
竪穴住居跡（SB1009）

位置　Loc.E２・αⅠ・d19～20　　**平面形**　方形　　**床面積**　6.4㎡

土層　覆土は黄褐色系の粘質土11層からなる。

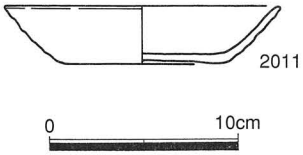
主柱穴　２基（径20～30㎝、深さ10～15㎝）

炉跡　不明　　**施設**　なし



1　褐色　10YR4/6　粘質土
2　褐色　10YR4/4　粘質土
3　にぶい黄褐色　10YR4/3　粘質土

第616図　SB1008平・断面図（S＝1/50）



第617図　SB1008出土土器

遺物出土状況　覆土から土器、鉄器が出土している。図示できる遺物は、管状土錘２点、鉄器が紡錘車、鉄片などの３点である。

時期　古代（平安時代）である。

備考　SB1010と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1010→SB1009となる。

竪穴住居跡（SB1010）

位置　Loc.E２・αⅠ・de19～20　　**平面形**　方形　　**床面積**　22.5㎡

土層　覆土は黄褐色系の粘質土８層からなる。

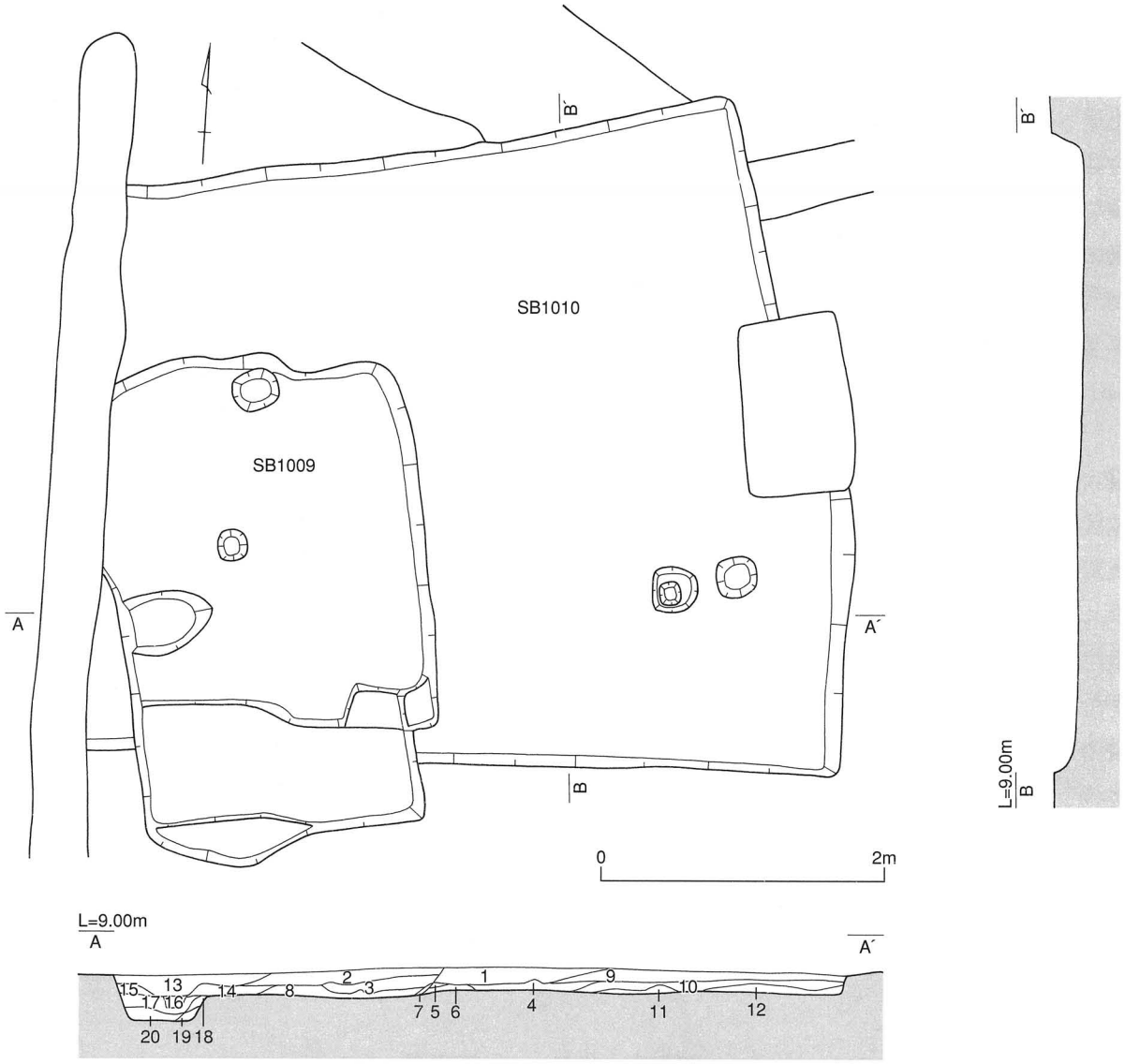
主柱穴　２基（径30㎝、深さ10～15㎝）

炉跡　不明　　**施設**　なし

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器杯１点である。

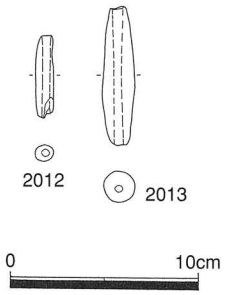
時期　古代（奈良時代（８世紀後半））である。

備考　SB1009、SB1011～SB1013、SB1016、SB1018、SB1020と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1011→SB1012→SB1010→SB1009とSB1016→SB1018→SB1020→SB1010→SB1009となる。

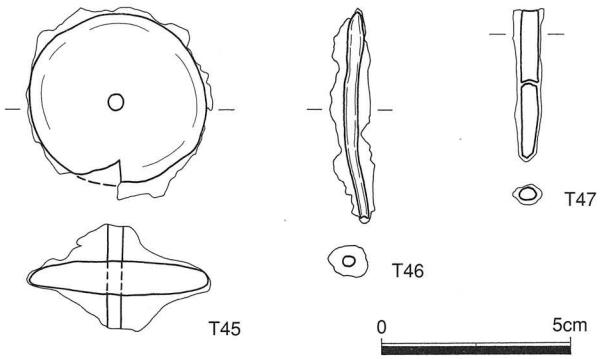


1	にぶい黄橙色	10YR6/3	粘性砂質土	8	黄褐色	10YR5/6	粘質土	15	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
2	にぶい黄橙色	10YR6/4	粘質土	9	にぶい黄橙色	10YR6/3	粘性砂質土	16	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
3	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土	10	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	17	褐色	10YR4/4	粘性砂質土
4	褐色	7.5YR4/3	粘質土	11	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	18	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土
5	にぶい黄橙色	10YR6/4	粘性砂質土	12	暗褐色	10YR3/4	粘質土	19	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
6	褐色	10YR4/4	粘質土	13	にぶい黄橙色	10YR6/4	粘質土	20	暗褐色	10YR3/3	粘質土
7	褐色	7.5YR4/3	粘質土	14	黄褐色	10YR5/6	粘質土				

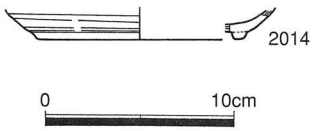
第618図　SB1009，SB1010平・断面図（S=1/50）



第619図　SB1009出土土器



第620図　SB1009出土鉄器



第621図 SB1010出土土器

竪穴住居跡（SB1011）

位置　Loc.E2・αⅠⅡ・d20～1　　**平面形**　方形　　**床面積**　2.8㎡

土層　覆土は褐色系の粘質土５層からなる。柱穴内は褐色、にぶい黄褐色粘質土１層からなる。

主柱穴　２基（径20㎝、深さ５～10㎝）

炉跡　不明　　**施設**　なし

遺物出土状況　覆土から石器が出土している。図示できる遺物は、砥石１点である。

時期　古代（奈良時代）である。

備考　SB1010、SB1012、SB1013と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1011→SB1012→SB1010・SB1013となる。

竪穴住居跡（SB1012）

位置　Loc.E2・αⅠⅡ・d20～1　　**平面形**　方形　　**床面積**　3.8㎡

土層　覆土は黄褐色系のシルト砂混じり土を主体とし、５層からなる。柱穴内はにぶい黄褐色シルト砂混じり土１層である。

主柱穴　２基（径20～25㎝、深さ５～10㎝）

炉跡　不明　　**施設**　なし

遺物出土状況　覆土から土器片、石器が出土している。図示できる遺物は、土器が須恵器椀、土師器杯、管状土錘など３点、石器が敲石１点である。

時期　古代（奈良時代（８世紀前半））である。

備考　SB1010、SB1011、SB1013、SB1014と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1011→SB1012→SB1014→SB1013、SB1012→SB1010となる。

竪穴住居跡（SB1013）

位置　Loc.E2・αⅡ・cd1　　**平面形**　方形　　**床面積**　9.0㎡

土層　覆土は黄褐色系の粘質土５層からなる。柱穴内は褐色、にぶい黄褐色粘質土１層からなる。

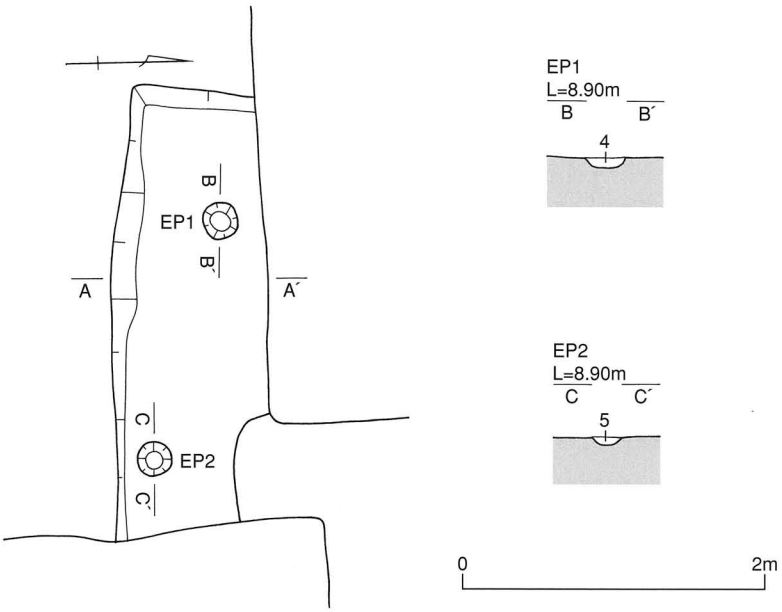
主柱穴　３基（径15～30㎝、深さ10～15㎝）

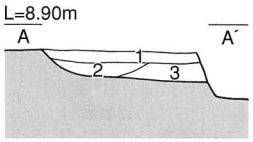
炉跡　不明　　**施設**　なし

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器甕１点である。

時期　古代（奈良時代）である。

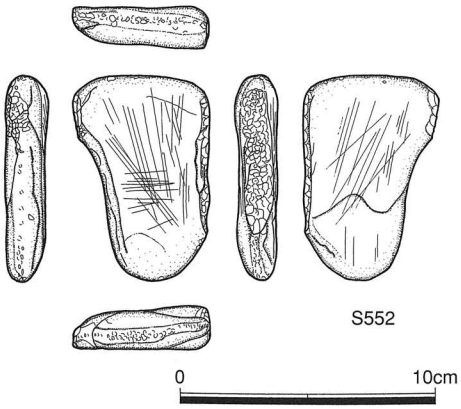
備考　SB1011、SB1012、SB1014と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1011→SB1012→SB1014→SB1013となる。



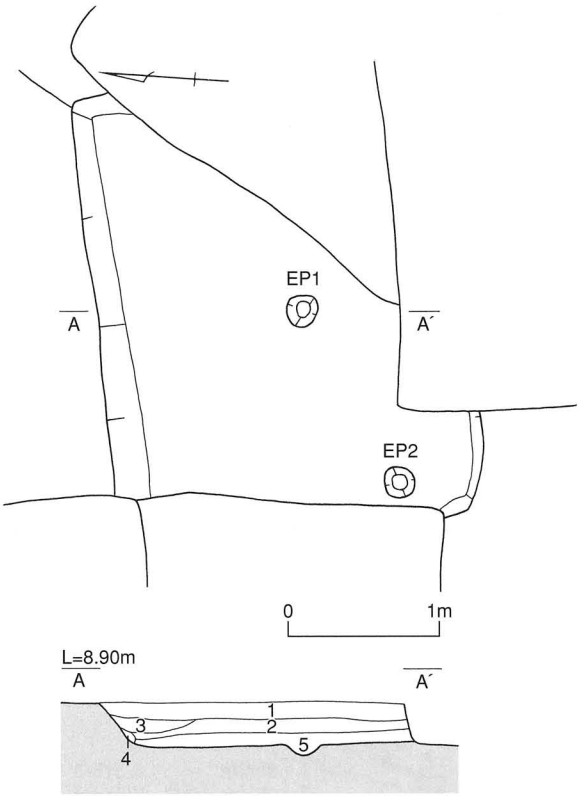


1	黄褐色	2.5Y5/3	粘質土
2	オリーブ褐色	2.5Y4/6	粘質土
3	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土
4	褐色	10YR4/4	粘質土
5	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土（炭化物含む。）

第622図　SB1011平・断面図（S＝1/50）

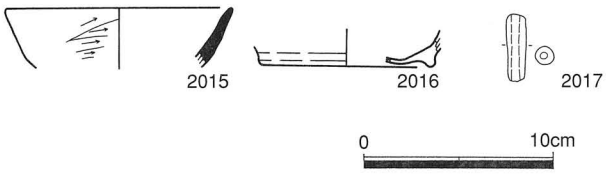


第623図　SB1011出土石器

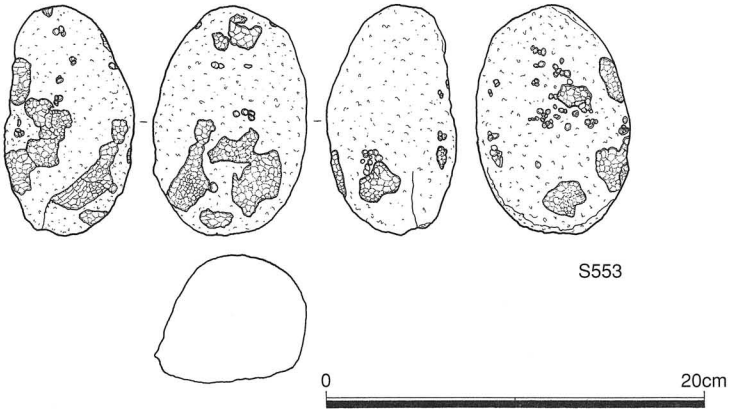


1　にぶい黄褐色　10YR4/3　シルト砂混じり　　2　褐色　10YR4/4　シルト砂混じり
3　暗褐色　10YR3/4　シルト砂混じり　　4　にぶい黄褐色　10YR4/3　シルト砂混じり
5　にぶい黄褐色　10YR5/4　シルト砂混じり

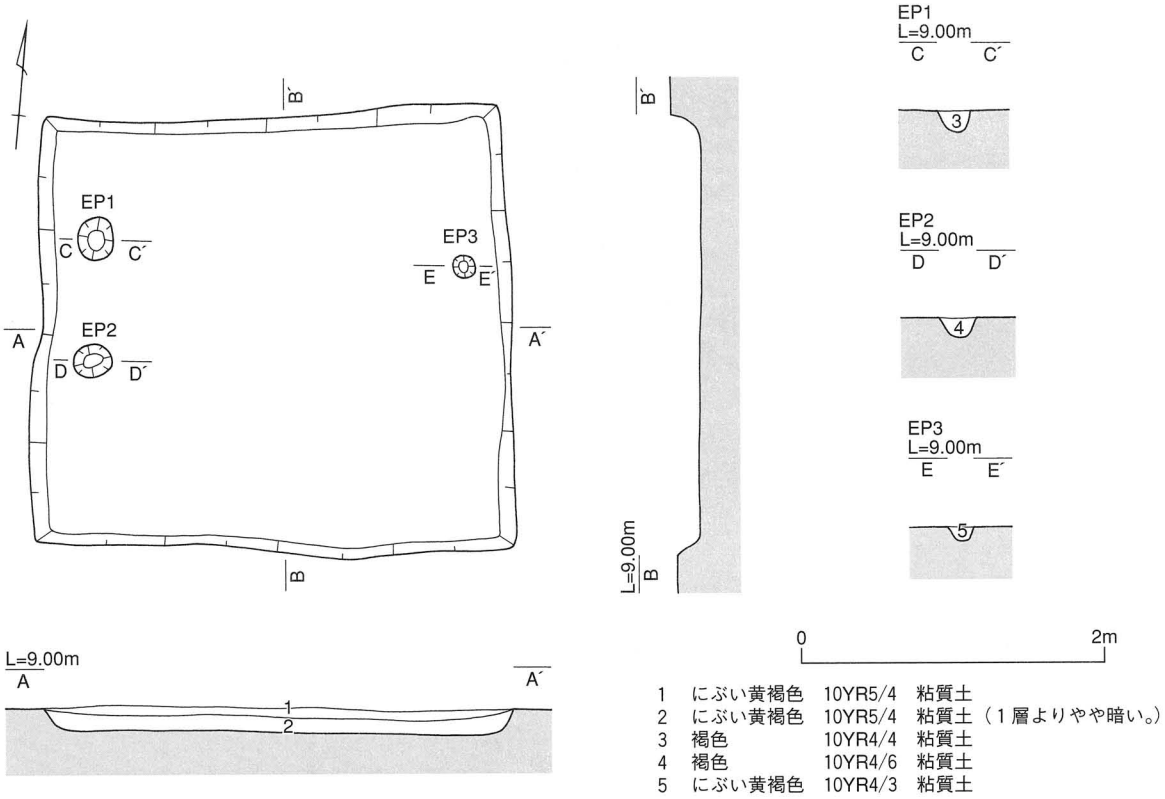
第624図　SB1012平・断面図（S＝1/50）



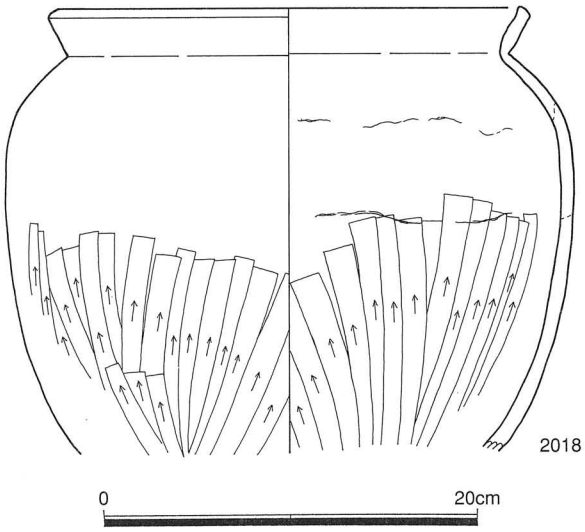
第625図　SB1012出土土器



第626図　SB1012出土石器



第627図　SB1013平・断面図（S＝1/50）



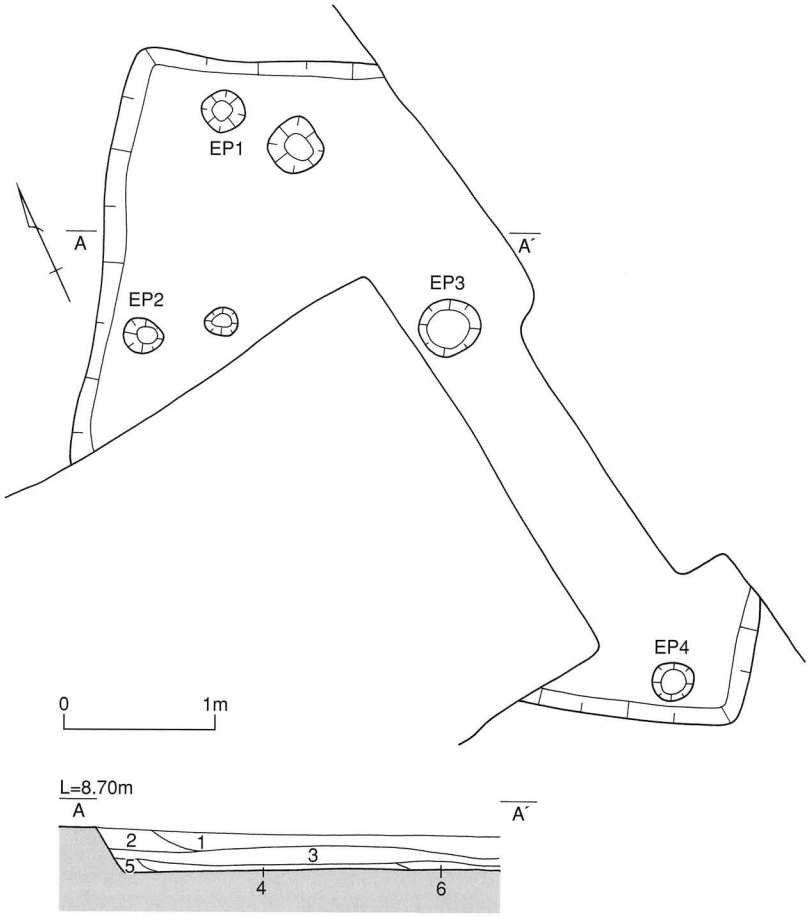
第628図　SB1013出土土器

竪穴住居跡（SB1014）

位置　Loc.E2・αⅡ・cd1　　平面形　方形　　床面積　15.8m²

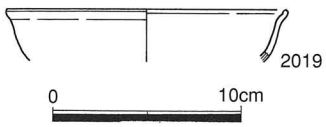
土層　覆土は黄褐色系の粘性砂質土を主体とする6層からなる。

主柱穴　4基（径20～40cm、深さ10～15cm）

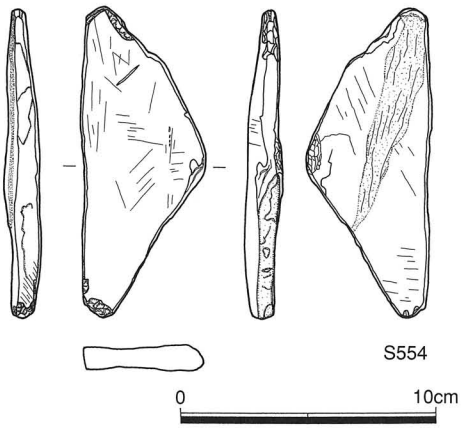


1	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	4	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土
2	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土	5	灰黄褐色	10YR5/2	粘性砂質土
3	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	6	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土

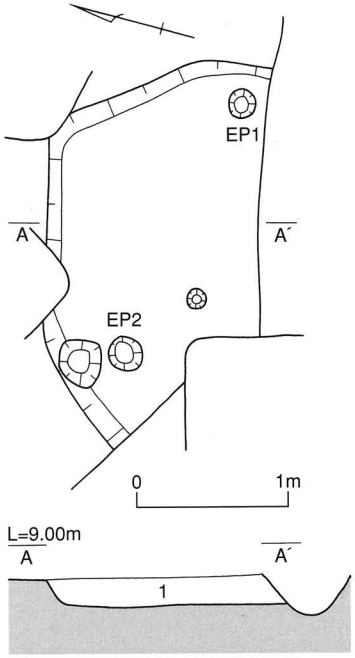
第629図　SB1014平・断面図（S＝1/50）



第630図　SB1014出土土器

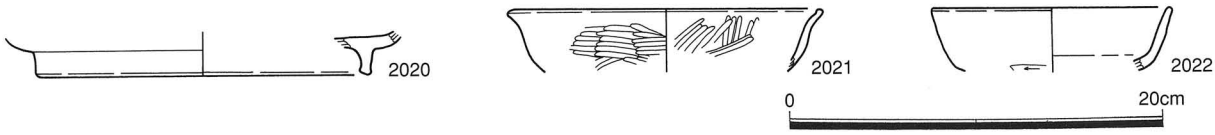


第631図　SB1014出土石器



1　にぶい黄褐色　10YR4/3　粘性砂質土

第632図　SB1016平・断面図（S=1/50）



第633図　SB1016出土土器

炉跡　不明　　**施設**　主柱穴以外に柱穴２基を有する。

遺物出土状況　覆土から土器片と石器が出土している。図示できる遺物は、土師器杯１点と砥石１点である。

時期　古代（奈良時代（８世紀前半））である。

備考　SB1012、SB1013、SB1015と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1015→SB1012→SB1014→SB1013となる。

竪穴住居跡（SB1016）

位置　Loc.E2・αⅠⅡ・e20～１　　**平面形**　円形　　**床面積**　2.8㎡

土層　覆土はにぶい黄褐色の粘性砂質土１層である。

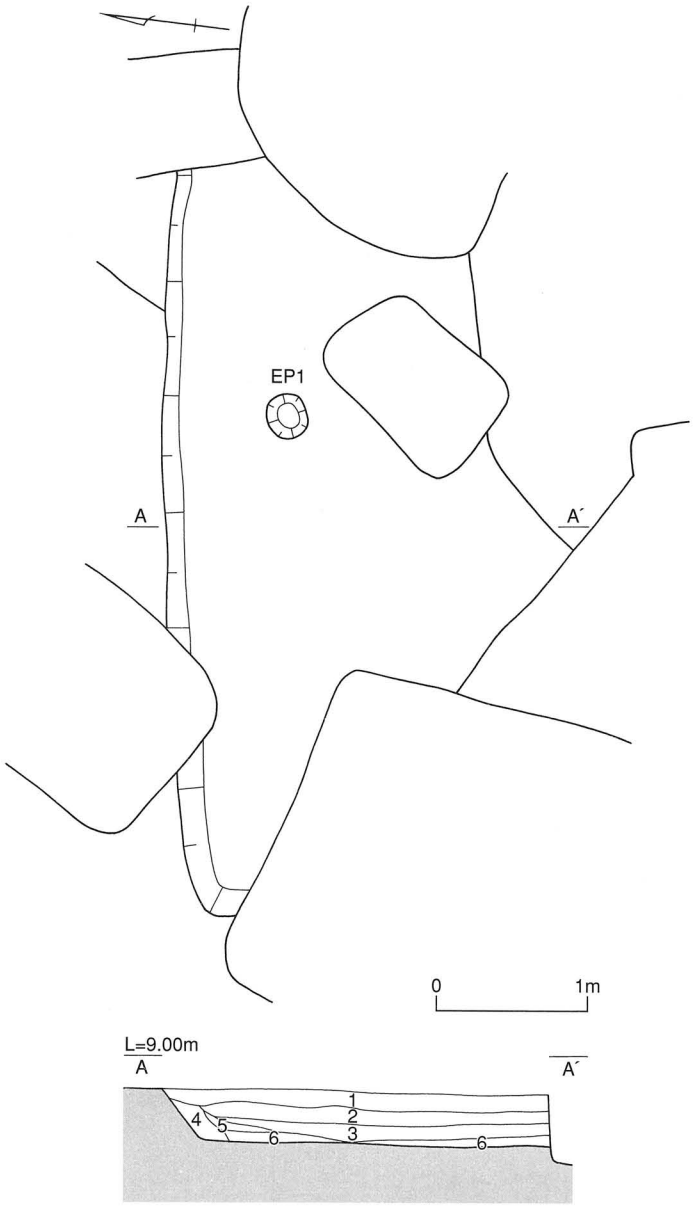
主柱穴　２基（径20～25㎝、深さ　10～15㎝）

炉跡　不明　　**施設**　主柱穴以外に柱穴２基を有する。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は土師器杯２点と土師器皿１点である。

時期　古代（奈良時代（８世紀前半））である。

備考　SB1010、SB1017、SB1018と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1017→SB1016→SB1018→SB1010となる。



1	黄褐色	2.5Y5/3	粘質土	4	暗褐色	10YR3/4	粘質土
2	褐色	10YR4/4	粘質土	5	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土
3	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土	6	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土

第634図　SB1017平・断面図（S＝1/50）

竪穴住居跡（SB1017）

位置　Loc.E2・αⅠⅡ・e20～1　　**平面形**　方形　　**床面積**　5.0㎡

土層　覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、6層からなる。

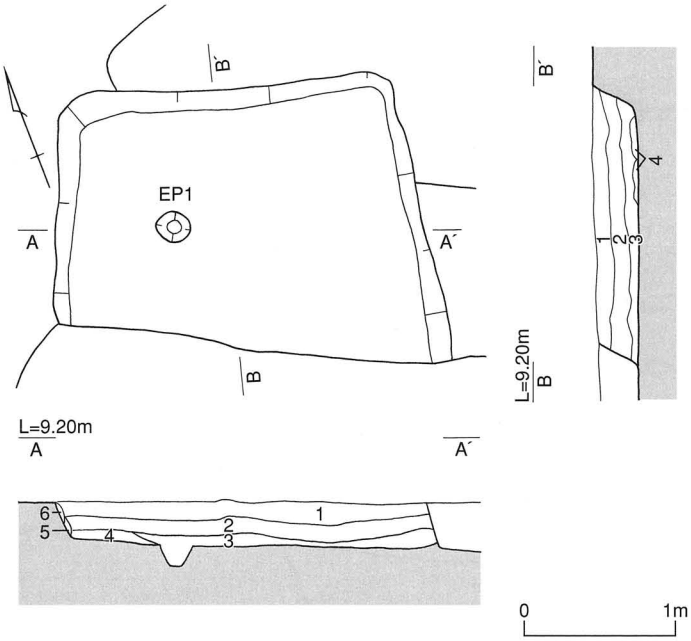
主柱穴　1基（径25～30㎝、深さ　10～15㎝）

炉跡　不明　　**施設**　なし

遺物出土状況　図示できる遺物は出土していない。

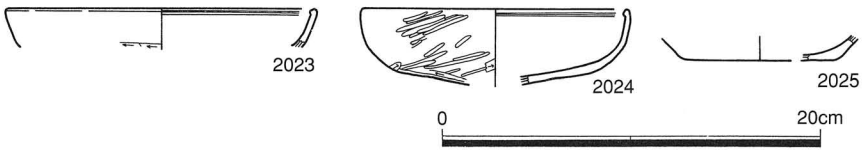
時期　古代（奈良時代）である。

備考　SB1016、SB1018、SB1019と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1017→SB1016→SB1018→SB1019となる。



1	褐色	10YR4/4	シルト	2	褐色	10YR4/6	シルト
3	オリーブ褐色	2.5Y4/6	シルト	4	褐色	10YR4/4	シルト
5	暗オリーブ褐色	2.5Y3/3	シルト	6	褐色	10YR4/6	シルト

第635図　SB1019平・断面図（S＝1/50）



第636図　SB1019出土土器

竪穴住居跡（SB1019）

位置　Loc.E2・αⅠ・e19～20　　**平面形**　方形　　**床面積**　4.2㎡

土層　覆土は褐色系のシルト質土を主体とし、6層からなる。柱穴内はオリーブ褐色のシルト質土1層からなる。

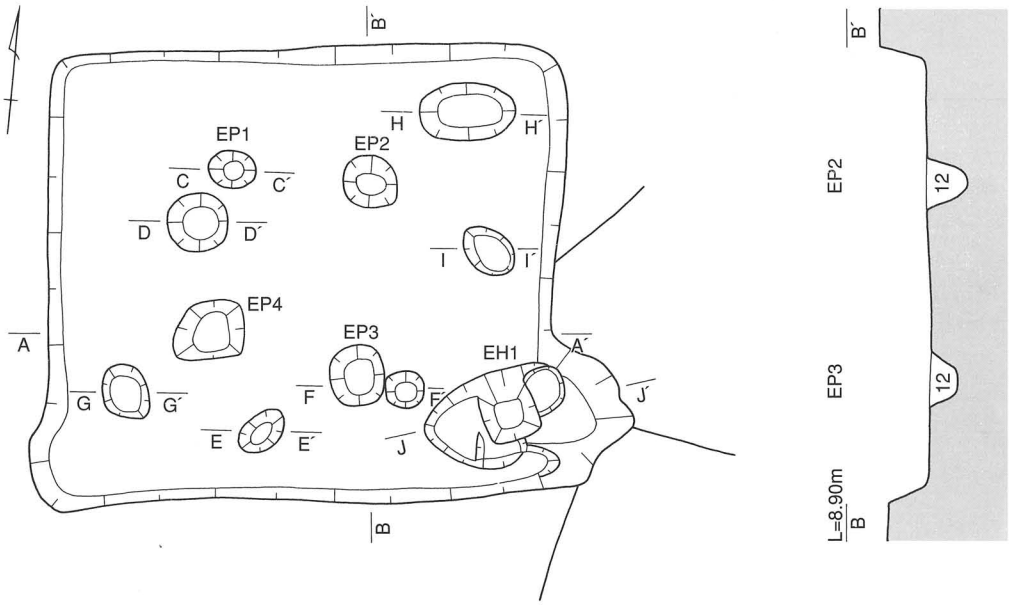
主柱穴　1基（径25㎝、深さ15㎝）

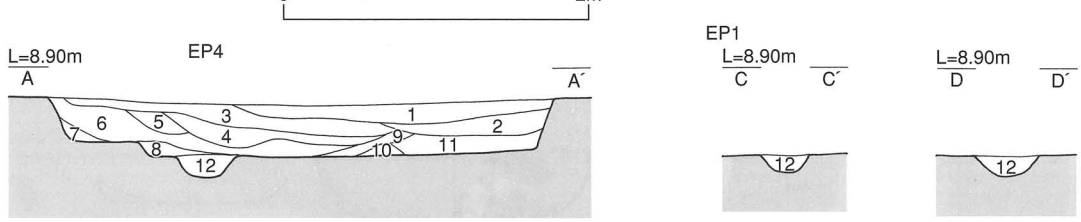
炉跡　不明　　**施設**　なし

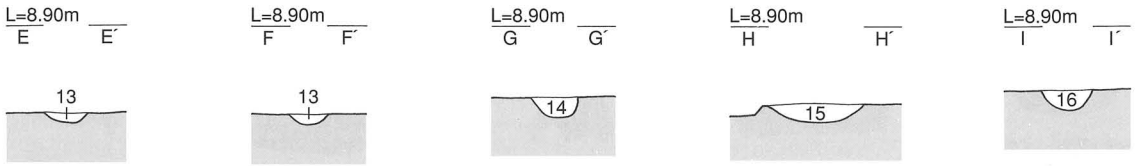
遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器杯3点である。

時期　古代（奈良時代（8世紀前半））である。

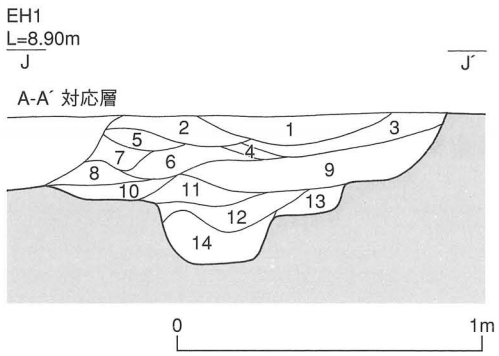
備考　SB1017、SB1018、SB1020と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1017→SB1018→SB1019→SB1020となる。





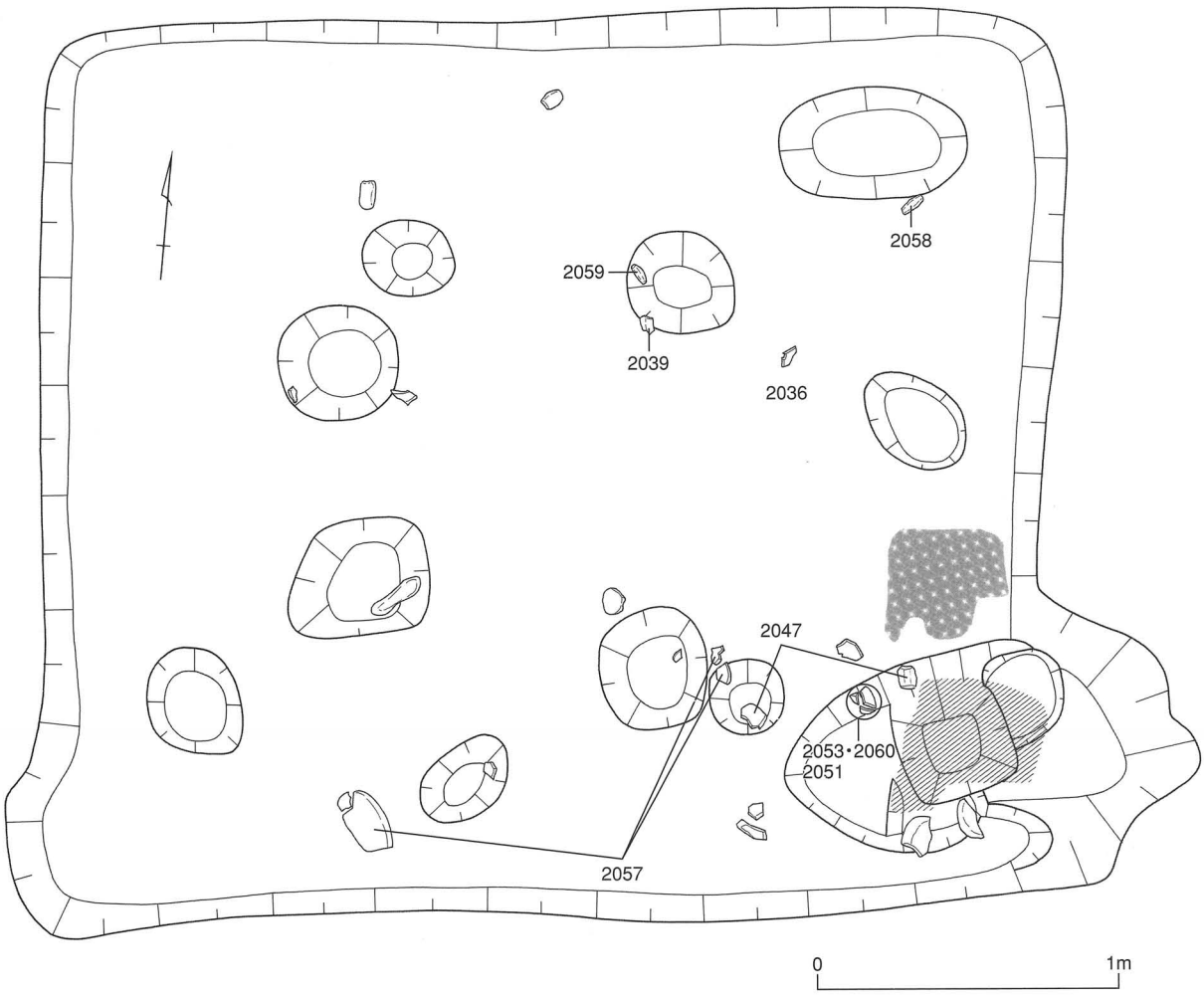


1	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土	
2	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	
3	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土	
4	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土	（炭化物含む。）
5	褐色	10YR4/4	粘質土	
6	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土	
7	褐色	10YR4/6	粘質土	
8	褐色	10YR4/4	粘質土	（５層よりやや暗い。）
9	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土	
10	オリーブ褐色	2.5Y4/6	粘質土	
11	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	
12	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土	（６層よりやや硬くしまる。）
13	黄褐色	10YR5/6	砂質土	
14	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土	
15	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土	
16	にぶい黄褐色	10YR4/3	砂質土	



1	にぶい黄褐色	10YR4/3	砂質土	
	（粘性が強い。炭化物、焼土ブロックを多く含む。）			
2	赤色	10YR4/6	粘性砂質土	（焼土ブロック層。炭化材を含む。）
3	灰黄褐色	10YR4/2	粘質土	（煙道天井部の焼け込みか？）
4	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土	
5	暗黄灰色	2.5Y5/3	粘性砂質土	
6	暗黄灰色	2.5Y4/4	粘性砂質土	
7	暗黄灰色	2.5Y4/2	粘性砂質土	
8	暗黄灰色	2.5Y5/4	粘性砂質土	
9	オリーブ褐色	2.5Y4/6	粘性砂質土	
10	暗黄灰色	2.5Y5/4	粘性砂質土	（８層よりやや暗い。）
11	黒褐色	2.5Y3/2	粘性砂質土	（焼土、炭化物を多く含む。）
12	黒褐色	10YR2/3	粘性砂質土	（焼土、炭化物を含む。）
13	暗オリーブ褐色	2.5Y3/3	粘性砂質土	
14	オリーブ褐色	2.5Y4/6	粘性砂質土	（粘性強い。炭化物は含まない。）

第637図　SB1021平・断面図（S=1/25・1/50）



第638図　SB1021遺物出土状況図（S＝1/25）

竪穴住居跡（SB1021）

位置　Loc.E2・αⅠ・de18～19　　**平面形**　方形　　**床面積**　9.9㎡

土層　覆土は褐色系の粘質土を主体とし、12層からなる。柱穴はオリーブ褐色の粘質土あるいは黄褐色系の砂質土１層からなる。竈部分は14層からなり、部分的に焼土、炭化物を含む。

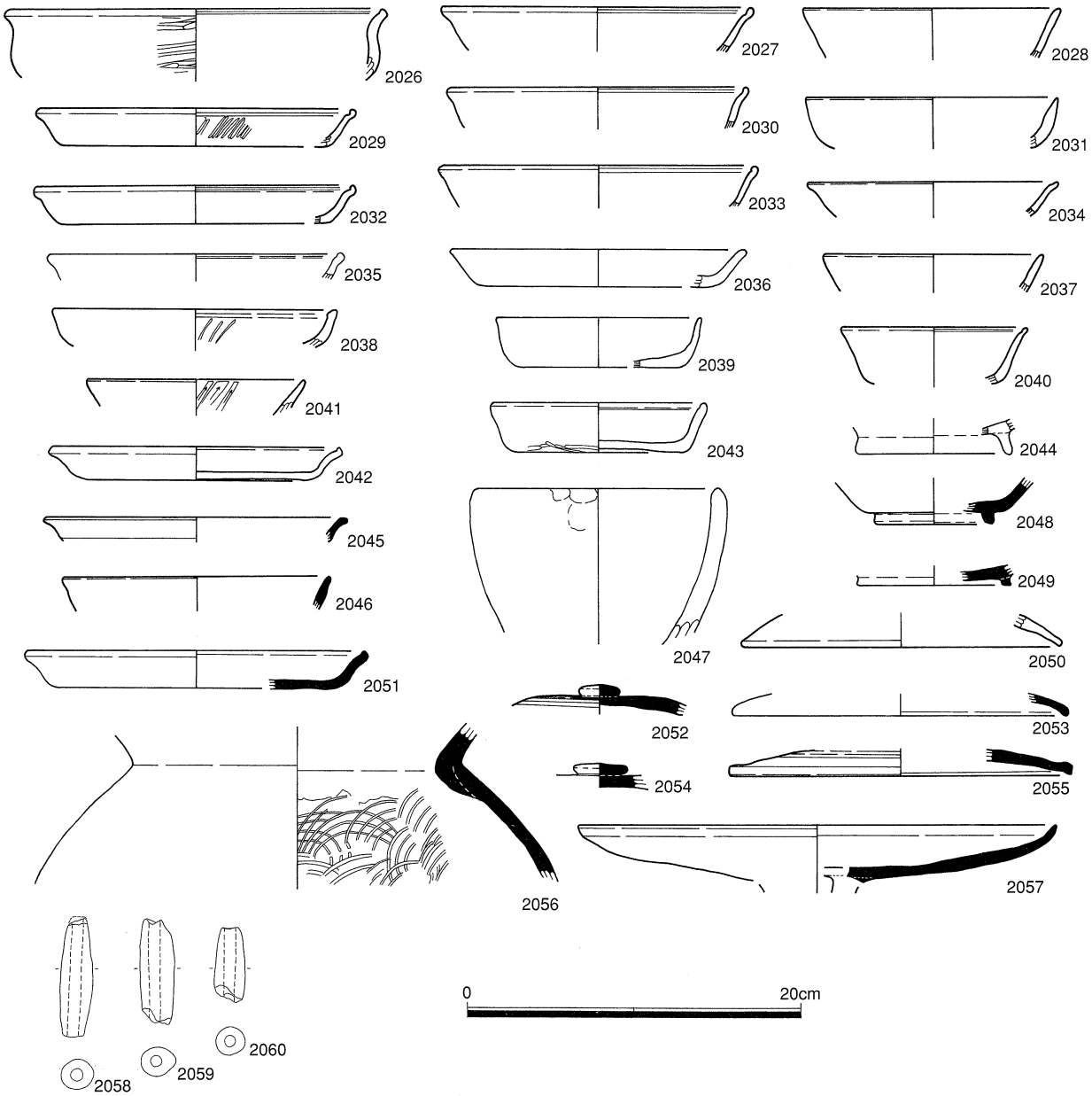
主柱穴　４基（径25～40㎝、深さ10～15㎝）

炉跡　なし　　**施設**　主柱穴以外に柱穴７基と南東隅に作り付けの竈（直径60～140㎝、深さ50㎝）、南西隅に張り出し部（80×40㎝）をもつ。西側に高床部（高さ約10㎝）を設ける。

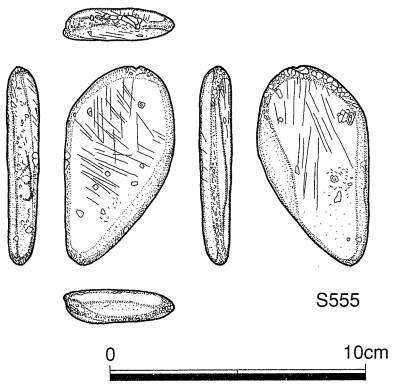
遺物出土状況　覆土から土器片・石器・鉄器が出土している。図示できる遺物は、覆土から須恵器甕、高坏、杯、杯蓋、皿、土師器杯、皿、製塩土器など29点、住居床面から須恵器蓋、皿、土師器皿、管状土錘など６点が出土している。また砥石１点、鉄片１点も出土している。

時期　古代（奈良時代（８世紀後半））である。

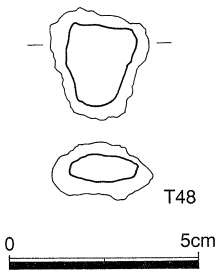
備考　SB1020と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1020→SB1021となる。



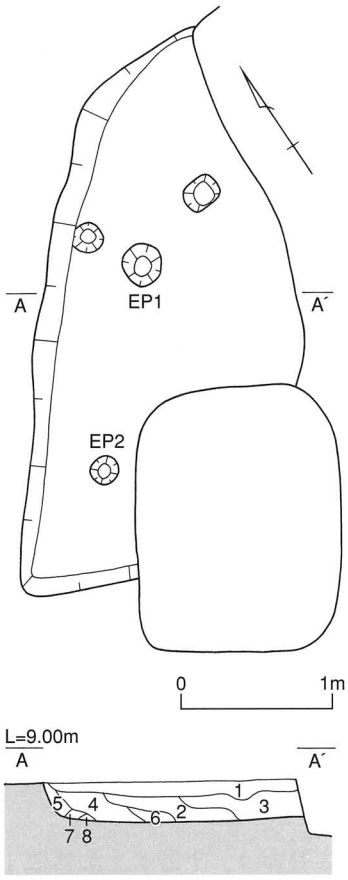
第639図　SB1021出土土器



第640図　SB1021出土石器

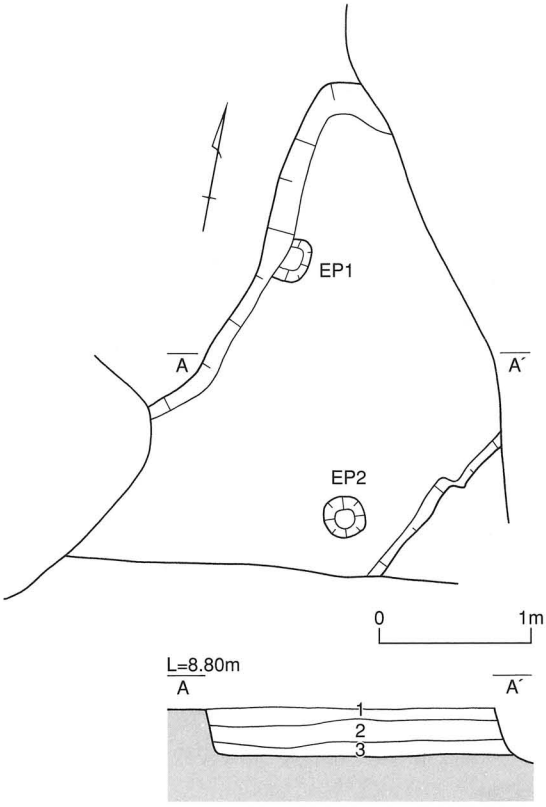


第641図　SB1021出土鉄器



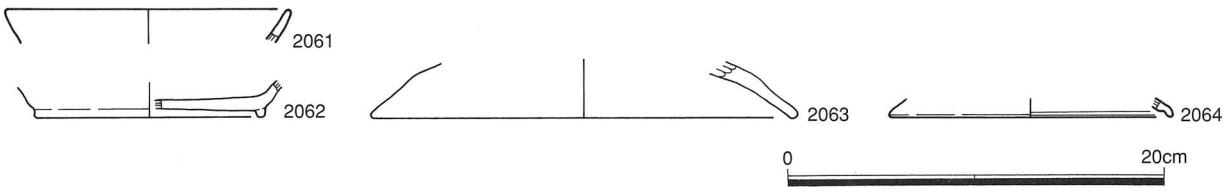
1　オリーブ褐色　2.5Y4/3　粘性砂質土
2　にぶい黄褐色　10YR5/4　粘質土
3　褐色　10YR4/6　粘性砂質土
4　褐色　10YR4/6　粘性砂質土
5　オリーブ褐色　2.5Y4/4　粘性砂質土
6　黄褐色　10YR5/6　粘性砂質土
7　にぶい黄褐色　10YR4/3　粘質土
8　オリーブ褐色　2.5Y4/6　粘質土

第642図　SB1022平・断面図（S＝1/50）



1　黄褐色　2.5Y5/4　粘質土
2　オリーブ褐色　2.5Y4/6　粘質土
3　オリーブ褐色　2.5Y4/4　粘質土

第643図　SB1023平・断面図（S＝1/50）



第644図　SB1022出土土器

竪穴住居跡（SB1022）

位置　Loc.E2・αⅠ・f20　　**平面形**　方形　　**床面積**　4.5m²

土層　覆土は褐色系の粘性砂質土を主体とし、8層からなる。

主柱穴　2基（径15～25cm、深さ　10～15cm）

炉跡　不明　　**施設**　主柱穴以外に柱穴2基を有する。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器杯、杯蓋、皿蓋など4点である。

時期　古代（奈良時代（８世紀前半））である。

備考　SB1023と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1022→SB1023となる。

竪穴住居跡（SB1023）

位置　Loc.E2・αⅠ・ef20　　**平面形**　方形　　**床面積**　3.4㎡

土層　覆土は黄褐色・オリーブ褐色の粘質土を主体とし、３層からなる。

主柱穴　２基（径30㎝、深さ　10～15㎝）

炉跡　不明　　**施設**　なし

遺物出土状況　図示できる遺物は出土していない。

時期　古代（奈良時代）である。

備考　SB1017、SB1022と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1022→SB1023→SB1017となる。

竪穴住居跡（SB1024）

位置　Loc.E2・αⅠ・fg20　　**平面形**　方形　　**床面積**　8.4㎡

土層　覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、９層からなる。柱穴内はオリーブ褐色粘質土１層からなる。

主柱穴　５基（径20～30㎝、深さ10～15㎝）

炉跡　不明　　**施設**　なし

遺物出土状況　覆土から土器片と石器が出土している。図示できる遺物は、土器が土師器皿１点、石器が敲石１点である。

時期　古代（奈良時代（８世紀前半））である。

竪穴住居跡（SB1025）

位置　Loc.E２・αⅠⅡ・fg20～１　　**平面形**　方形　　**床面積**　8.1㎡

土層　覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、８層からなる。

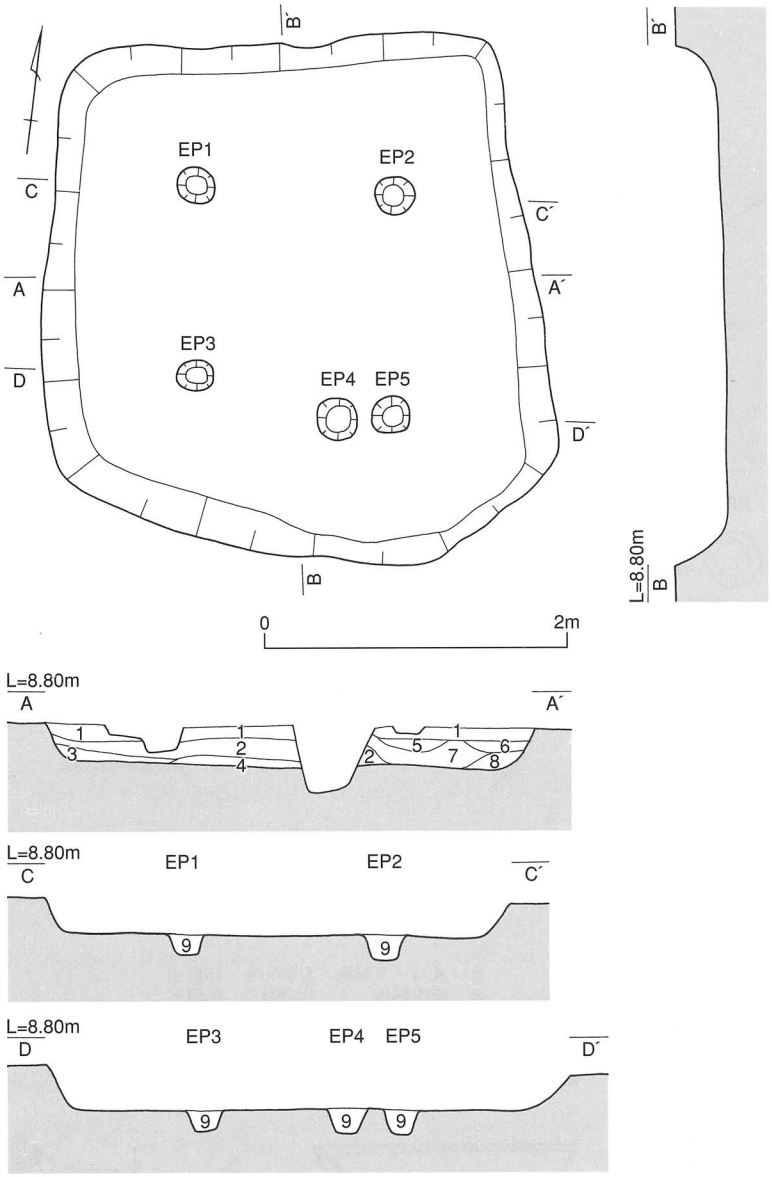
主柱穴　４基（径25～35㎝、深さ10～15㎝）

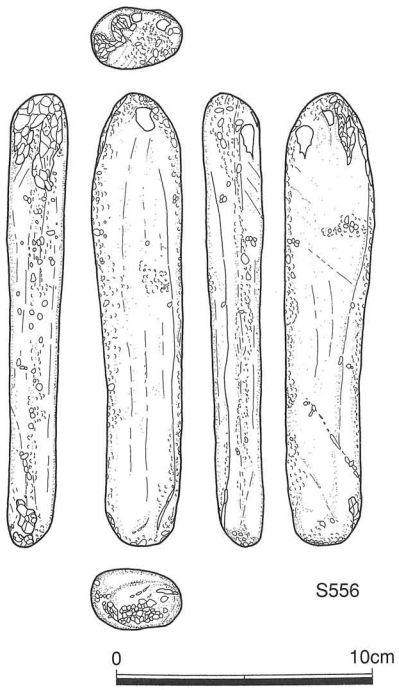
炉跡　不明　　**施設**　なし

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器杯５点である。

時期　古代（奈良時代（８世紀後半））である。

備考　一部SD1078によって削平をうけている。

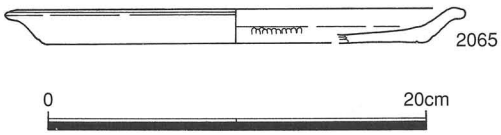




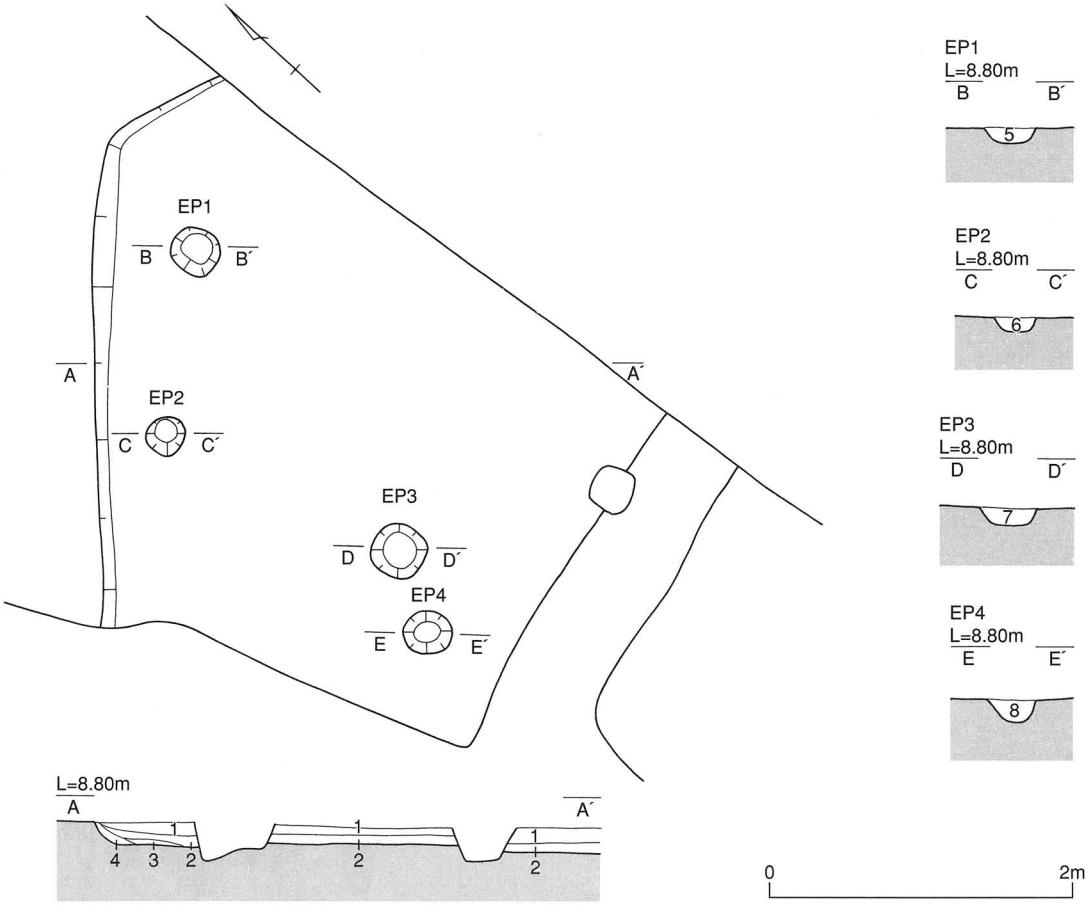
第646図　SB1024出土石器

1	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	
2	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	
3	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	
4	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	
5	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	（４層よりやや硬くしまる。）
6	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	（２層よりやや暗い。）
7	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	（焼土粒、炭化粒をわずかに含む。）
8	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	（わずかに炭化粒を含む。）
9	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土	

第645図　SB1024平・断面図（S＝1/50）

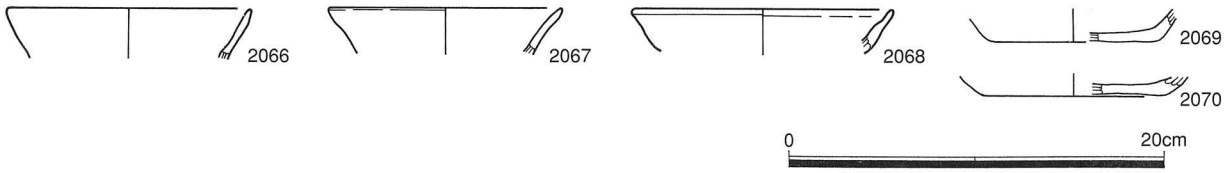


第647図　SB1024出土土器

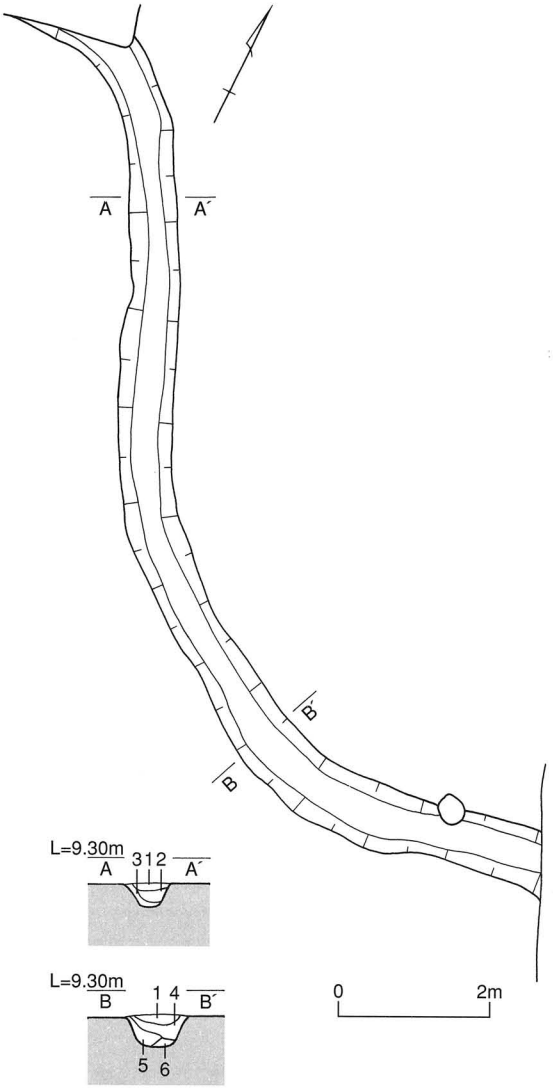


1	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	5	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土
2	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土（1層よりやや暗い。）	6	灰黄褐色	10YR4/2	粘質土
3	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	7	褐色	10YR4/4	粘質土
4	黄褐色	2.5Y5/6	粘質土	8	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土

第648図　SB1025平・断面図（S=1/50）



第649図　SB1025出土土器



1	灰黄色	2.5Y6/2	粘性砂質土（粒子が細かく、粘性が弱い。マンガン、土器粒を含む。）
2	灰オリーブ色	5Y6/2	粘性砂質土（砂質が強い。マンガンを含む。）
3	灰黄色	2.5Y6/2	粘性砂質土（粒子が細かい。マンガンを多量に含む。）
4	にぶい黄色	2.5Y6/3	粘性砂質土（粒子が細かい。マンガンを含む。）
5	浅黄色	2.5Y7/4	粘性砂質土（粘性が弱い。マンガンを多量に含む。小礫を含む。）
6	浅黄色	2.5Y7/3	粘性砂質土（マンガンを含む。）

第650図　SD1003平・断面図（S＝1/100）

③溝状遺構

溝状遺構（SD1003）

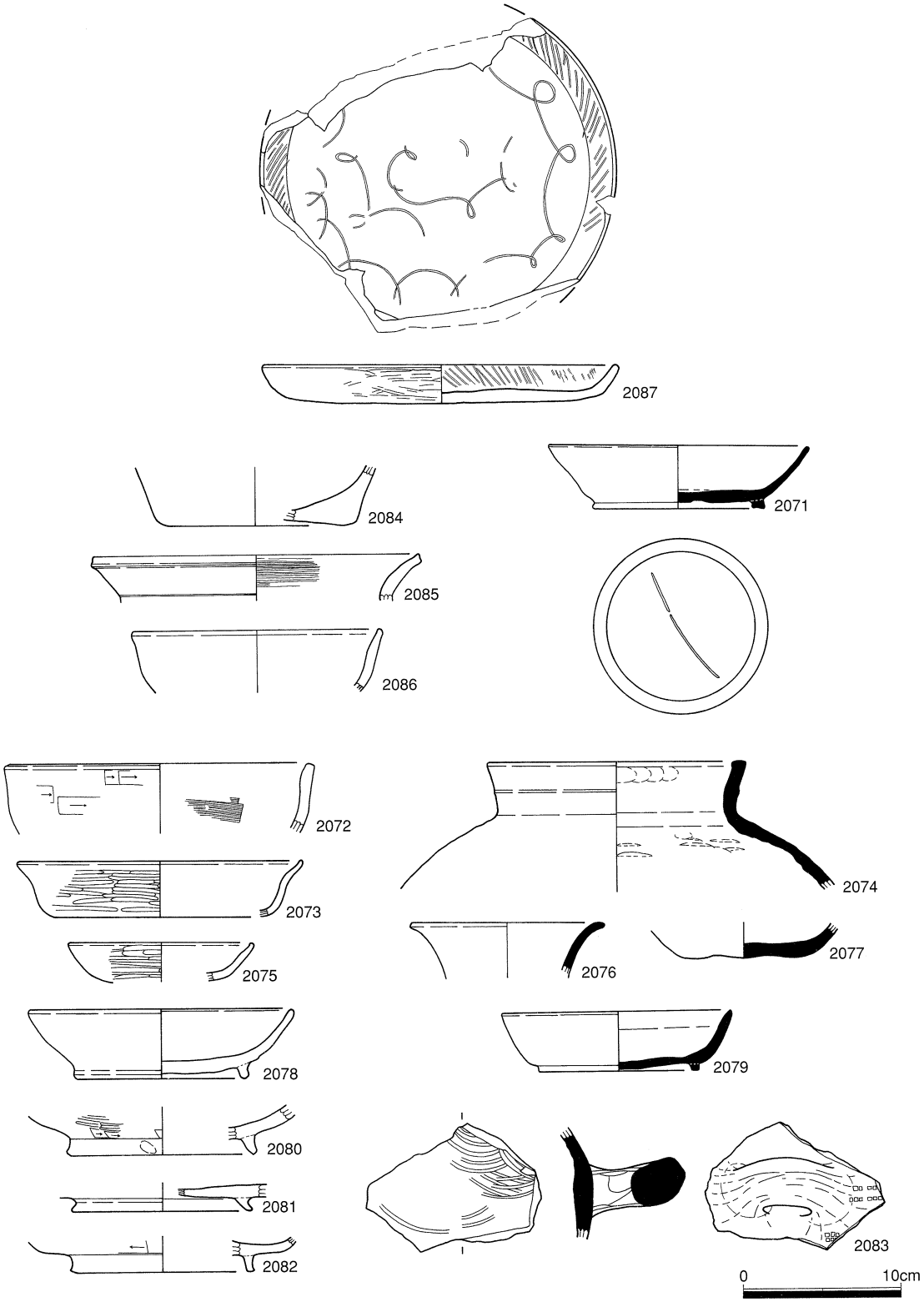
位置　Loc.D2・δⅡ・efg 9～17　　**断面形**　逆台形　　**全長**　51.6m

土層　覆土は灰黄色系の粘性砂質土を主体とし、6層からなる。

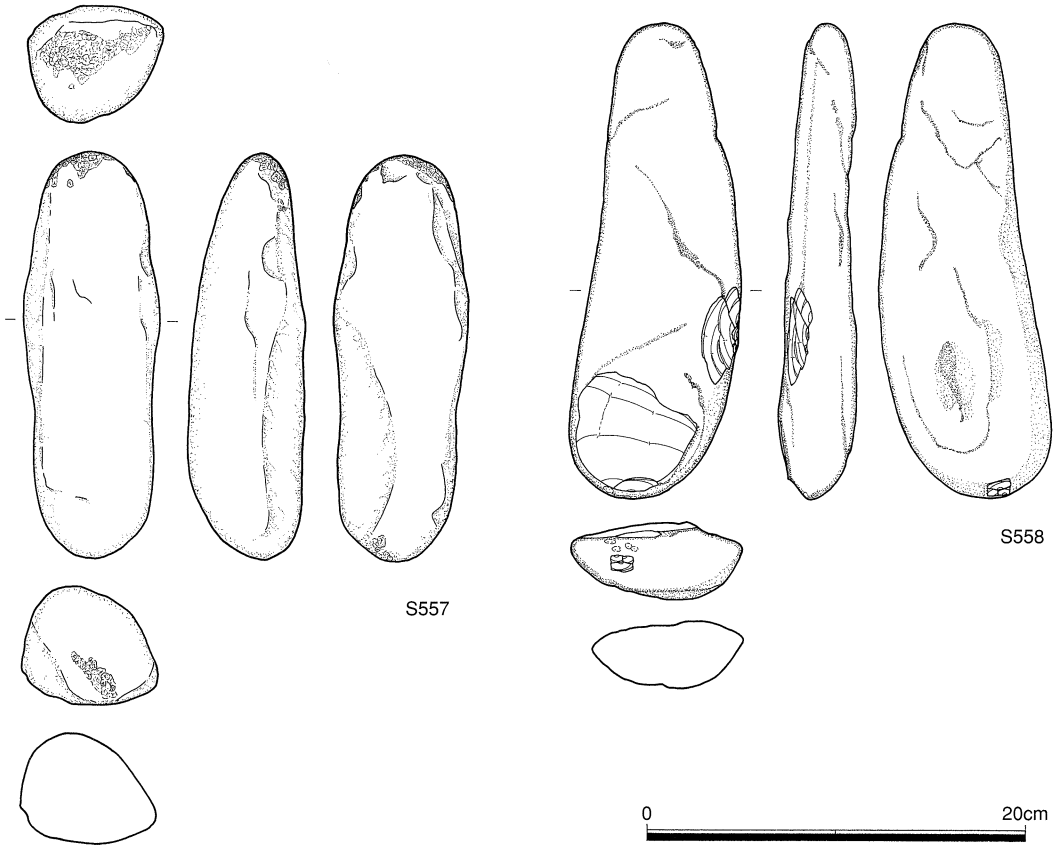
遺物出土状況　覆土から土器片と石器、鉄器が出土している。図示できる遺物は、土器が須恵器壺、杯、把手付鍋、土師器壺、甕、杯、皿などの17点、石器は敲石2点、鉄器が釘1点である。石器については第2遺構面に属する遺物である可能性がある。

時期　古代（7～8世紀）である。

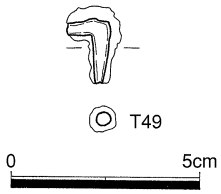
備考　西半部の平面図は第2遺構面SD2004の平面図、遺構配置図を参照。



第651図　SD1003出土土器



第652図　SD1003出土石器



第653図　SD1003出土鉄器

溝状遺構（SD1004）

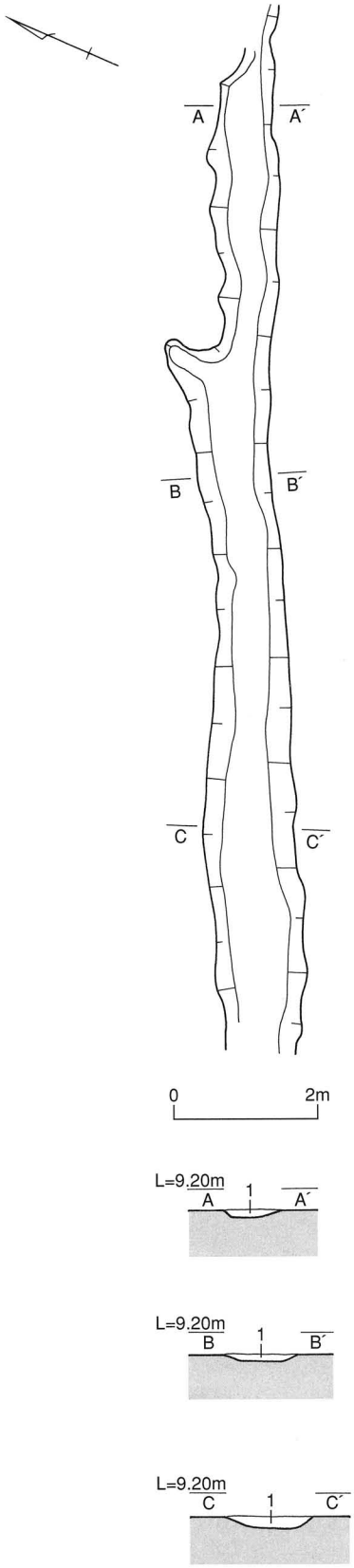
位置　Loc.D2・δⅡ・jklm10～15　　**断面形**　Ⅲ形　　**全長**　28.5m

土層　覆土は黄褐色の砂質土１層からなる。

遺物出土状況　覆土から土器片、石器、鉄器が出土している。図示できる遺物は、土器が平瓦１点、石器が台石・砥石１点、鉄器が鉄片１点である。

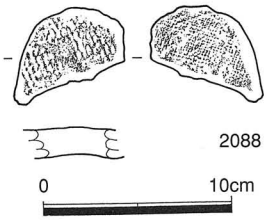
時期　古代（平安時代）である。

備考　東端は調査区外に延びる。

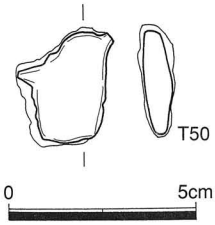


1　黄褐色　2.5Y5/3　砂質土（マンガンを含む。）

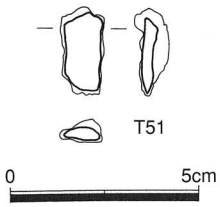
第654図　SD1004平・断面図（S=1/100）



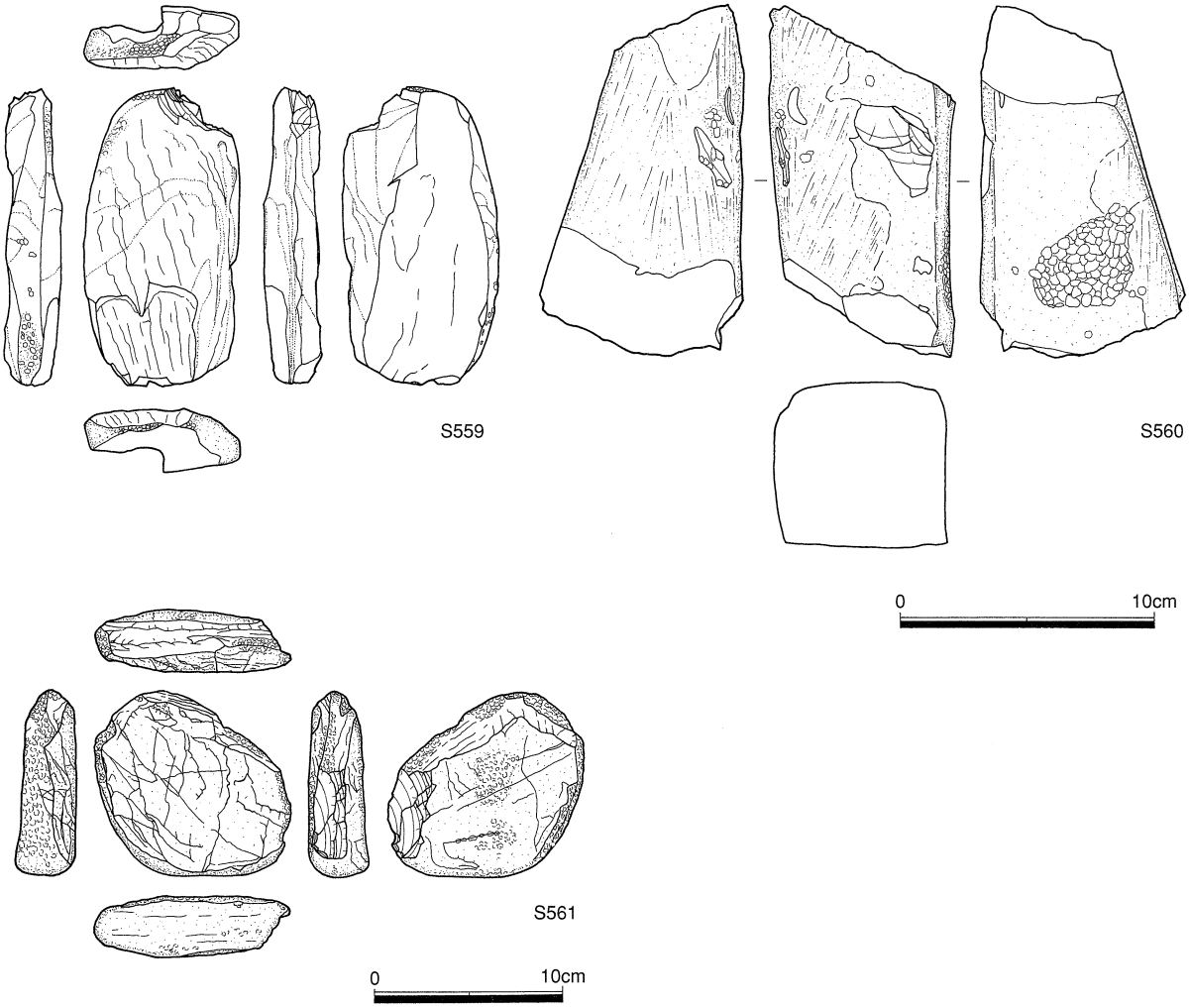
第655図　SD1004出土土器



第656図　SD1004出土鉄器



第657図　SD1006出土鉄器



第658図　SD1004出土石器

溝状遺構（SD1006）

位置　Loc.D2・δⅡ・i9～11　　**断面形**　逆台形　　**全長**　12.8m

土層　覆土は灰オリーブ色の粘性砂質土１層からなる。

遺物出土状況　覆土から鉄器が出土している。図示できる遺物は、鉄片１点である。

時期　古代（平安時代）である。

備考　平面図は遺構配置図を参照。

溝状遺構（SD1019）

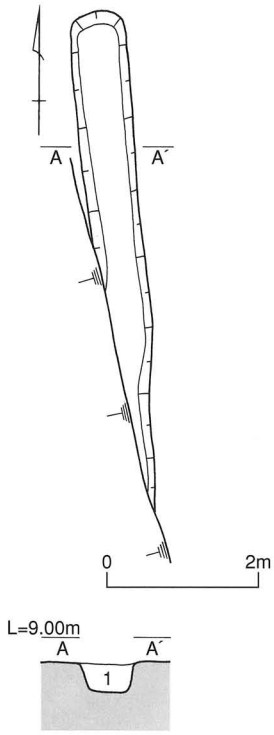
位置　Loc.D２・εⅡ・ij5　　**断面形**　逆台形　　**全長**　6.5m

土層　覆土はオリーブ黄色の砂質土１層からなる。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器皿１点である。

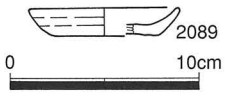
時期　古代（平安時代（11～12世紀））である。

備考　南端は調査区外に延びる。



1　オリーブ黄色　5Y6/3　砂質土
（鉄・マンガン斑を多く含み、粘性が強い。
炭化物も少量含む。）

第659図　SD1019平・断面図（S＝1/100）



第660図　SD1019出土土器

溝状遺構（SD1020）

位置　Loc.DE2・εα Ⅱ・lm5～9　　**断面形**　逆台形　　全長　17.4m

土層　覆土は黄褐色系の粘性砂質土を主体とし、3層からなる。

遺物出土状況　覆土から土器片、石器が出土している。図示できる遺物は、土器が土師器杯、皿の2点、石器が敲石1点である。石器については、第2遺構面に属する遺物である可能性がある。

時期　古代（平安時代（12世紀））である。

備考　南側は調査区外のため南側の肩部分は未検出である。

溝状遺構（SD1031）

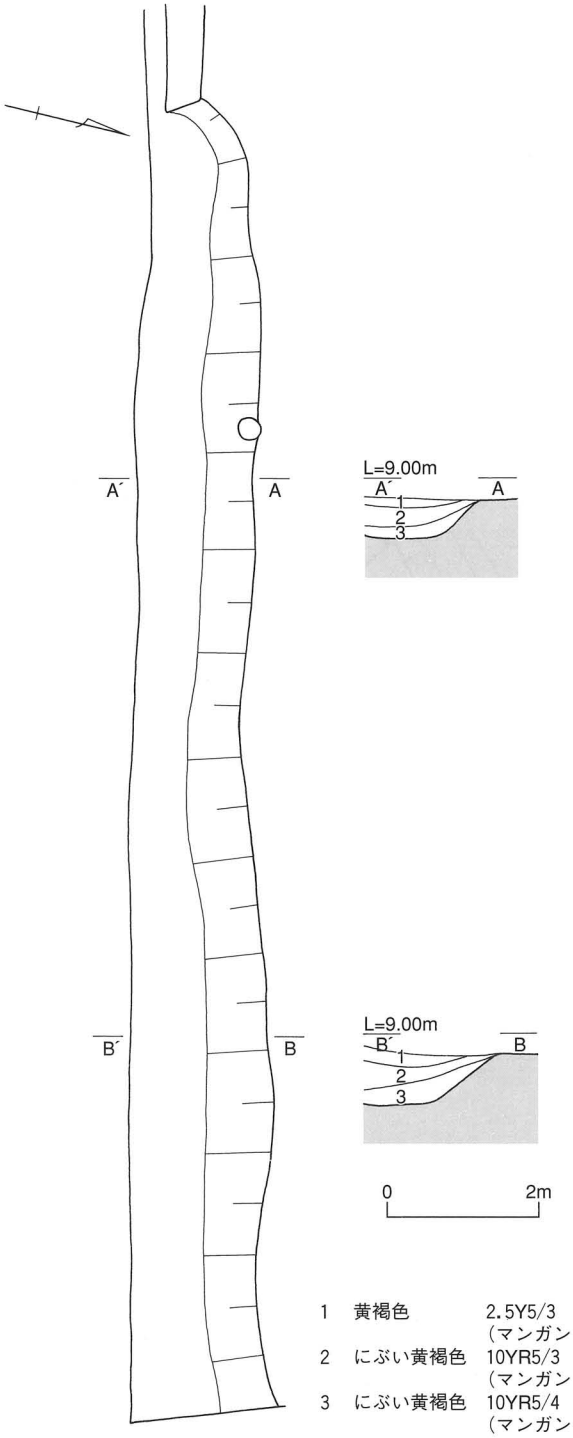
位置　Loc.D2・ε Ⅱ・nopqrs4～7　　**断面形**　逆台形　　**全長**　17.8m

土層　覆土は黄褐色系のシルト質土を主体とし、8層からなる。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器皿1点である。

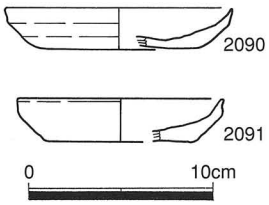
時期　古代（平安時代（11世紀））である。

備考　東西の両端は調査区外に延びる。

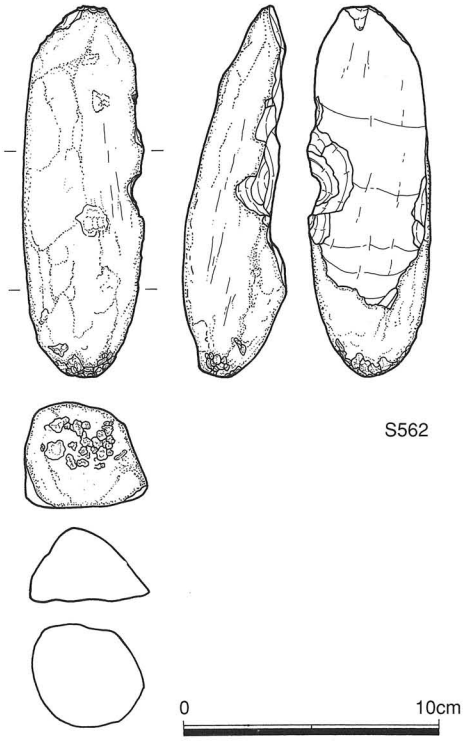


1　黄褐色　2.5Y5/3　シルト
（マンガンを含む。）
2　にぶい黄褐色　10YR5/3　粘性砂質土
（マンガンを含む。）
3　にぶい黄褐色　10YR5/4　粘性砂質土
（マンガンを多量に含む。）

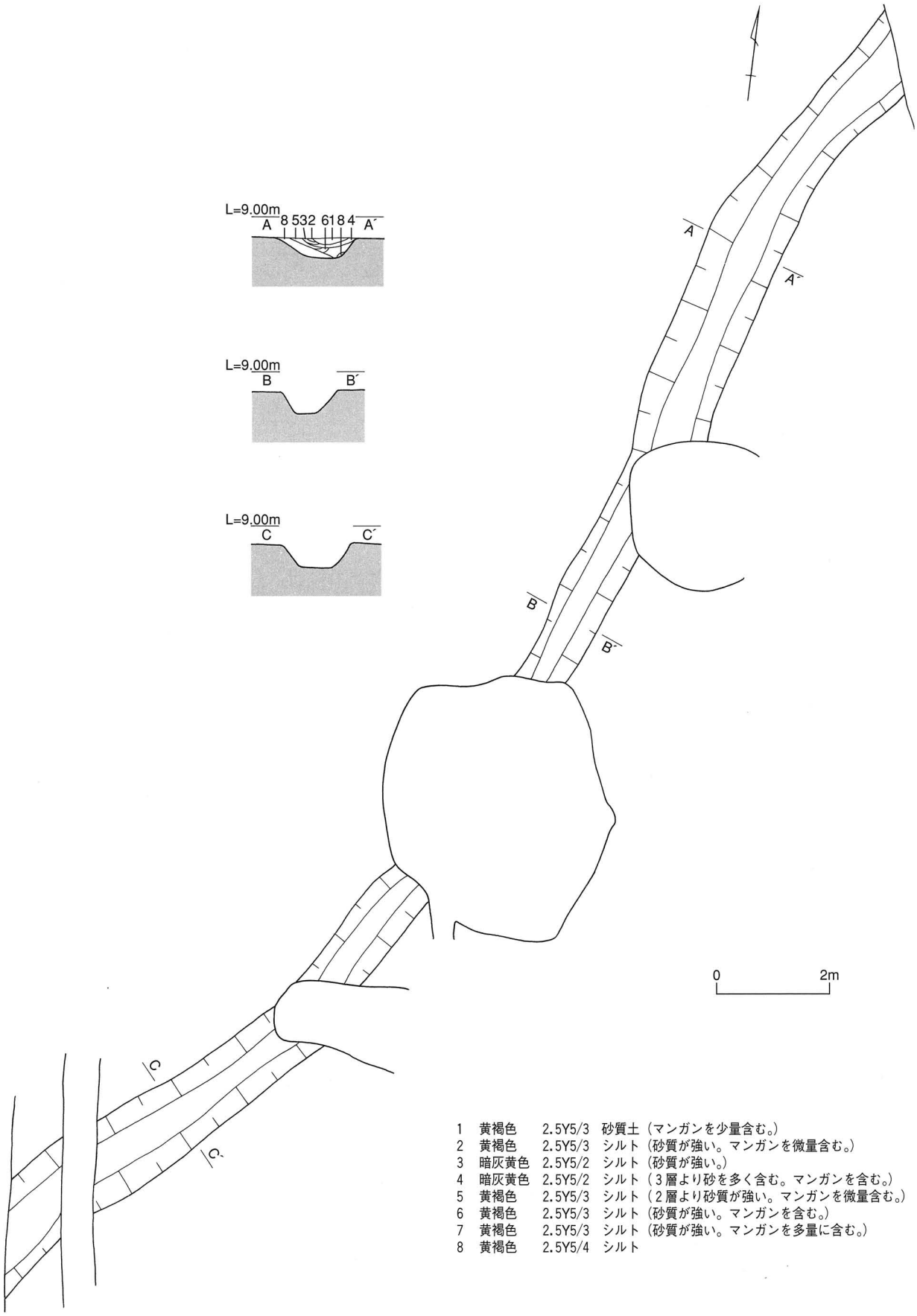
第661図　SD1020平・断面図（S=1/100）



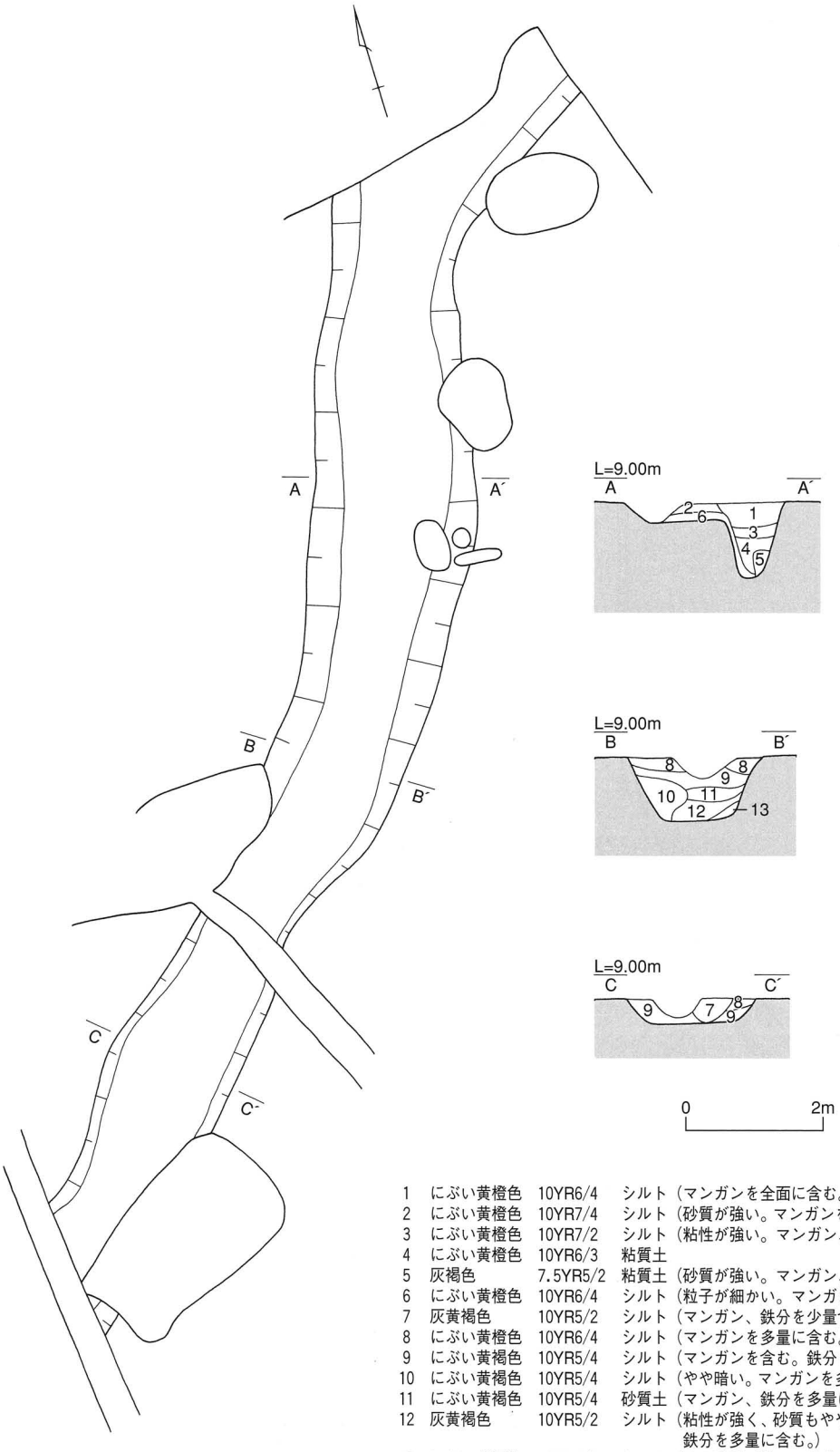
第662図　SD1020出土土器



第663図　SD1020出土石器

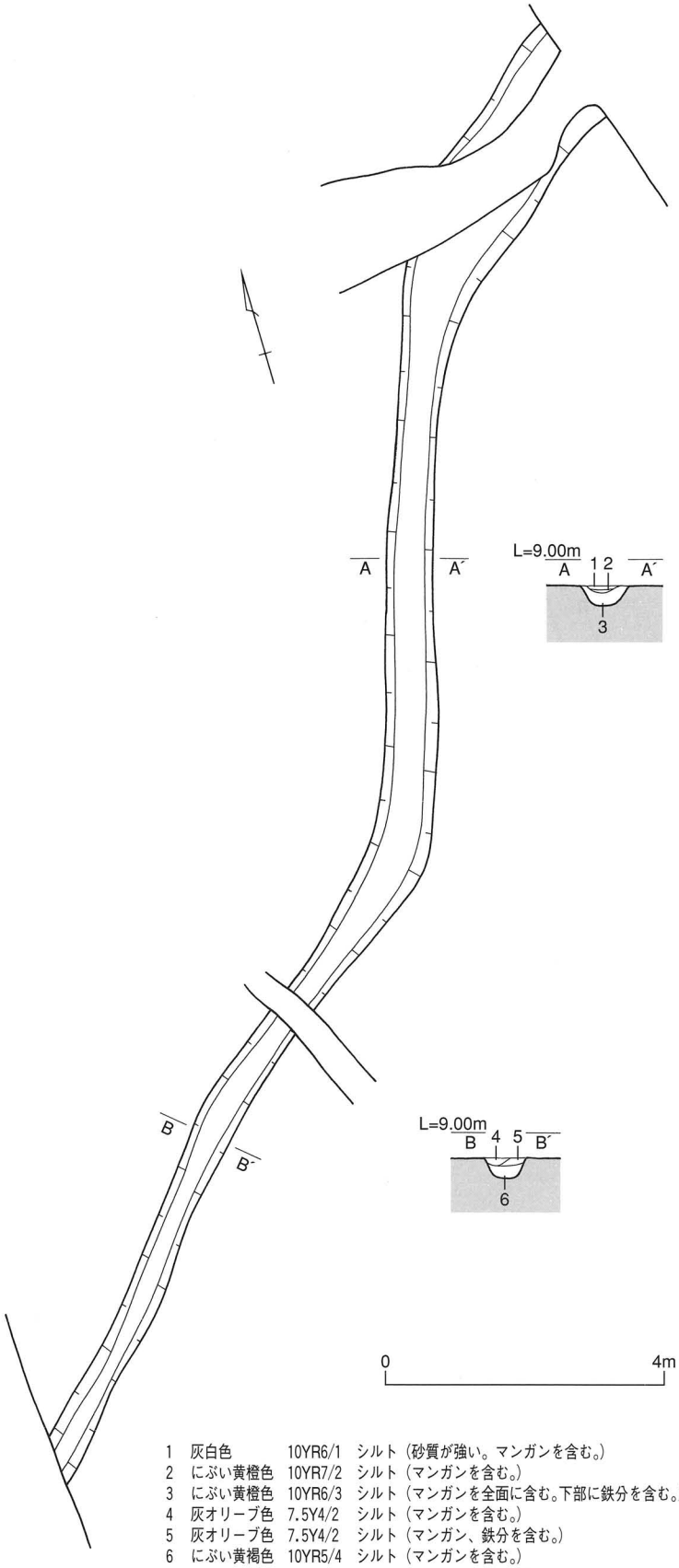


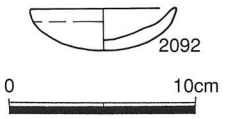
第664図　SD1031平・断面図（S＝1/100）



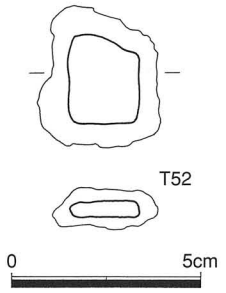
1	にぶい黄橙色	10YR6/4	シルト	（マンガンを全面に含む。鉄分を少量含む。）
2	にぶい黄橙色	10YR7/4	シルト	（砂質が強い。マンガンを含み、鉄分を少量含む。）
3	にぶい黄橙色	10YR7/2	シルト	（粘性が強い。マンガン、鉄分を少量含む。）
4	にぶい黄橙色	10YR6/3	粘質土	
5	灰褐色	7.5YR5/2	粘質土	（砂質が強い。マンガン、鉄分を多量に含む。）
6	にぶい黄橙色	10YR6/4	シルト	（粒子が細かい。マンガン、鉄分を含む。）
7	灰黄褐色	10YR5/2	シルト	（マンガン、鉄分を少量含む。）
8	にぶい黄橙色	10YR6/4	シルト	（マンガンを多量に含む。鉄分を少量含む。）
9	にぶい黄褐色	10YR5/4	シルト	（マンガンを含む。鉄分を多量に含む。）
10	にぶい黄褐色	10YR5/4	シルト	（やや暗い。マンガンを多量に含む。鉄分を含む。）
11	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土	（マンガン、鉄分を多量に含む。）
12	灰黄褐色	10YR5/2	シルト	（粘性が強く、砂質もやや強い。マンガンを含む。鉄分を多量に含む。）
13	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	（やや砂質が強い。鉄分を多量に含む。）

第665図　SD1032平・断面図（1）（S=1/100）





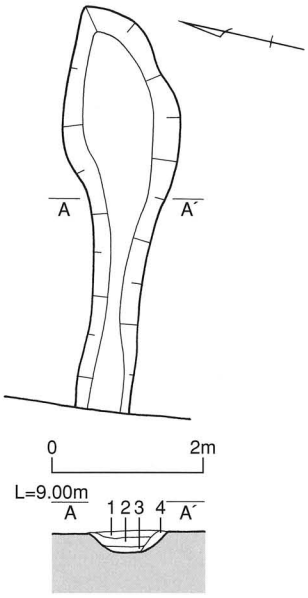
第667図　SD1031出土土器



第668図　SD1032出土鉄器

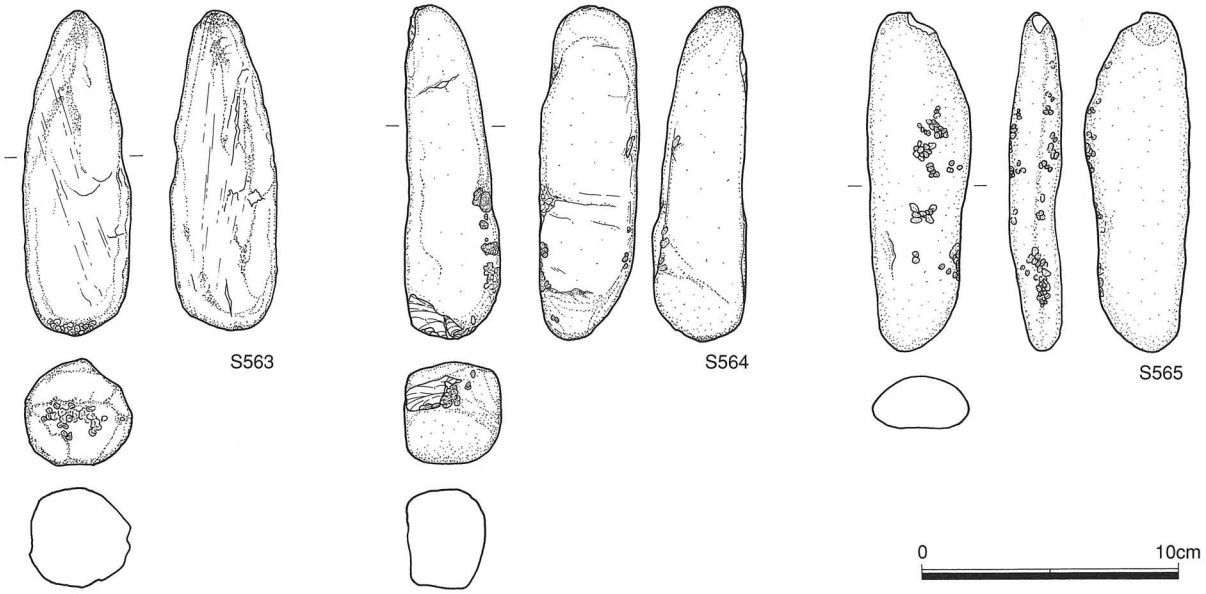
1　灰白色　10YR6/1　シルト（砂質が強い。マンガンを含む。）
2　にぶい黄橙色　10YR7/2　シルト（マンガンを含む。）
3　にぶい黄橙色　10YR6/3　シルト（マンガンを全面に含む。下部に鉄分を含む。炭化物を含む。）
4　灰オリーブ色　7.5Y4/2　シルト（マンガンを含む。）
5　灰オリーブ色　7.5Y4/2　シルト（マンガン、鉄分を含む。）
6　にぶい黄褐色　10YR5/4　シルト（マンガンを含む。）

第666図　SD1032平・断面図（２）（S＝1/100）



1　黄褐色　2.5Y5/3　粘性砂質土
（粒子が細かい。マンガン、土器片、小礫を含む。）
2　黄褐色　2.5Y5/6　粘性砂質土
（粒子が細かい。マンガンを含む。）
3　黄褐色　2.5Y5/4　粘性砂質土（マンガンを含む。）
4　暗灰黄色　2.5Y5/2　粘性砂質土（マンガンを含む。）

第669図　SD1036平・断面図（S＝1/100）



第670図　SD1036出土石器

溝状遺構（SD1032）

位置　Loc.D2・εⅡ・pqrs４～７　　**断面形**　逆台形　　**全長**　21.6m

土層　覆土は黄橙色あるいは黄褐色のシルト質土を主体とし、19層からなる。土層の堆積状況から上層６層と下層13層に分けることができる。

遺物出土状況　覆土から鉄器片が出土している。図示できる遺物は、鉄片１点である。

時期　古代（平安時代）である。

備考　東西両端は調査区外に延びる。SD1066と同一遺構の可能性がある。

溝状遺構（SD1036）

位置　Loc.D2・εⅡ・q４～５　　**断面形**　逆台形　　**全長**　6.5m

土層　覆土は黄褐色の粘性砂質土を主体とし、４層からなる。

遺物出土状況　覆土から石器が出土している。図示できる遺物は、敲石３点である。石器については、第２遺構面に属する遺物である可能性がある。

時期　古代（平安時代）である。

備考　西端は調査区外に延びる。

溝状遺構（SD1037）

位置　Loc.DE2・εαⅡ・rstabcde３～４　　**断面形**　半円形　　**全長**　33.4m

土層　覆土は暗灰黄色あるいは灰黄色の粘性砂質土を主体とし、６層からなる。

遺物出土状況　覆土から土器片、石器、鉄器片が出土している。図示できる遺物は、土器が土師器杯、杯蓋、皿、鍋、陶器擂鉢、鉢、平瓦など10点、石器が石核、敲石の２点、鉄器が鉄片１点である。石器については、第２遺構面に属する遺物である可能性がある。

時期　古代～中世（９～14世紀）である。

備考　西側部分は調査区外に延びるため、西側肩部分は未検出である。

溝状遺構（SD1039）

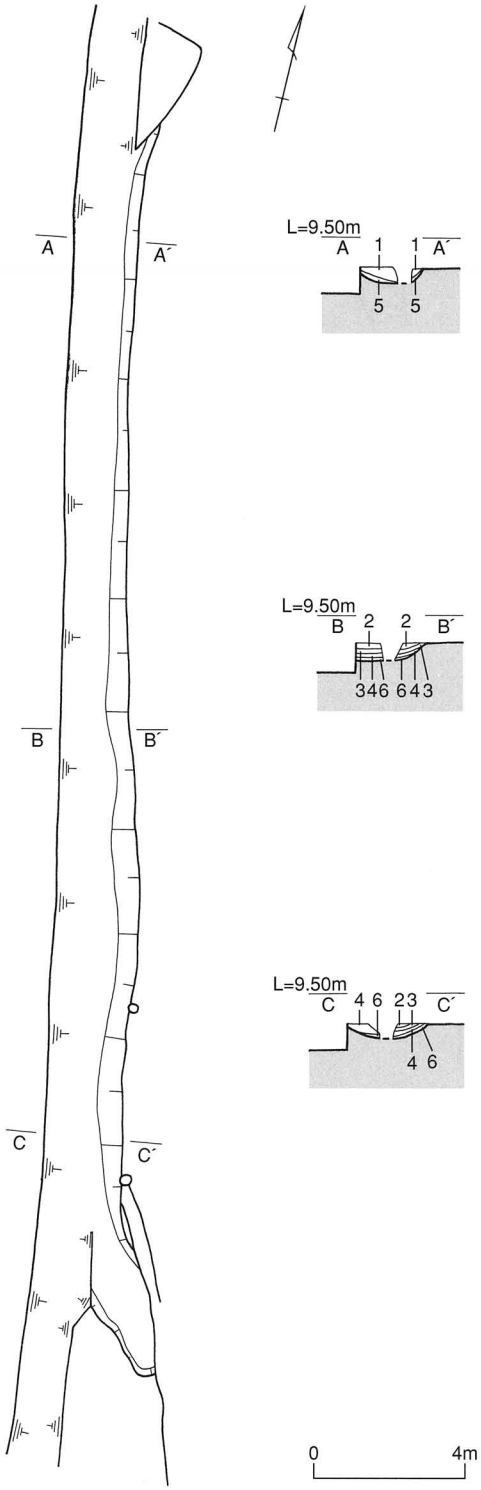
位置　Loc.DE2・εαⅡ・tabcdef４～５　　**断面形**　半円形　　**全長**　30.1m

土層　覆土は黄褐色系のシルト質土を主体とし、14層からなる

遺物出土状況　覆土から土器片、石器、鉄器片が出土している。図示できる遺物は、土器が須恵器杯、杯蓋、皿、土師器甕、鉢、杯、杯蓋、皿など56点、石器が敲石６点、鉄片１点である。石器については、第２遺構面に属する遺物である可能性がある。

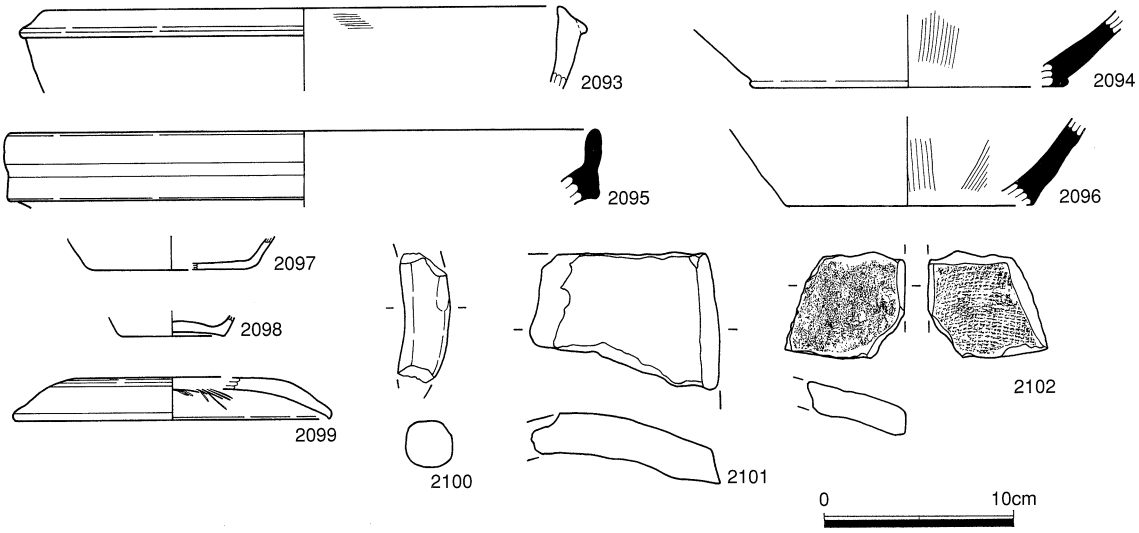
時期　古代（８～11世紀）である。

備考　北端は調査区外に延びる。

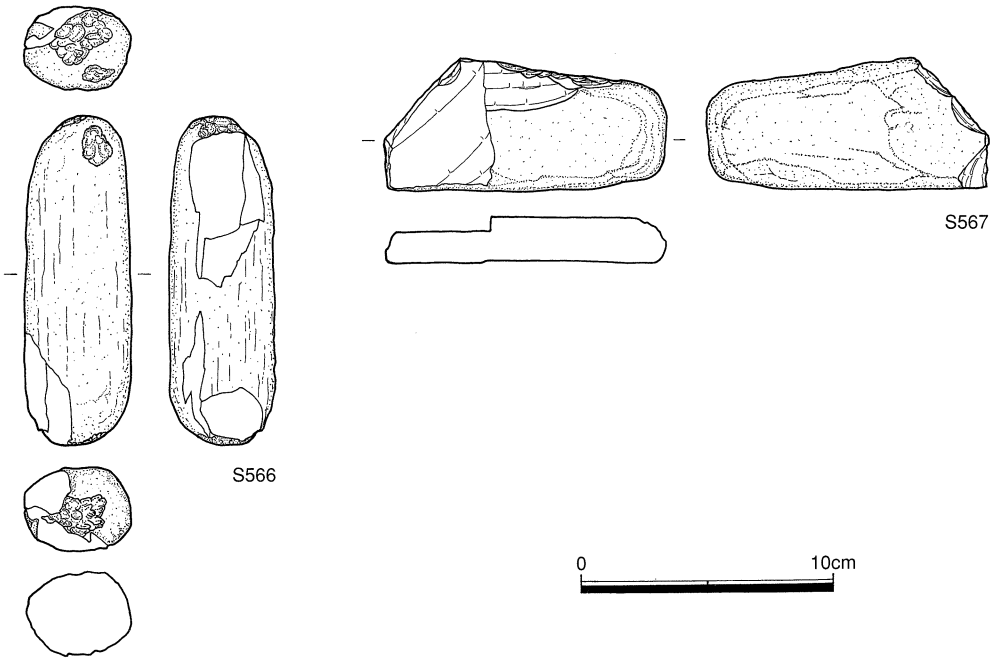


1　灰黄色　2.5Y6/2　粘性砂質土（マンガンを含む。）
2　灰黄色　2.5Y6/2　粘性砂質土（粒子が細かい。マンガン、小礫を含む。）
3　黄褐色　2.5Y5/3　粘性砂質土（粒子が細かい。マンガン、土器片を含む。）
4　暗灰黄色　2.5Y5/2　粘性砂質土（粘性が強い。マンガンを含む。）
5　暗灰黄色　2.5Y5/2　粘性砂質土（粘性が弱い。）
6　暗灰黄色　2.5Y5/2　粘性砂質土（粘性が強い。マンガンを多量に含む。
灰オリーブ色粘性砂質土を多く含む。）

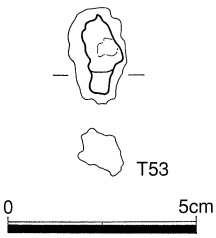
第671図　SD1037平・断面図（S＝1/200）



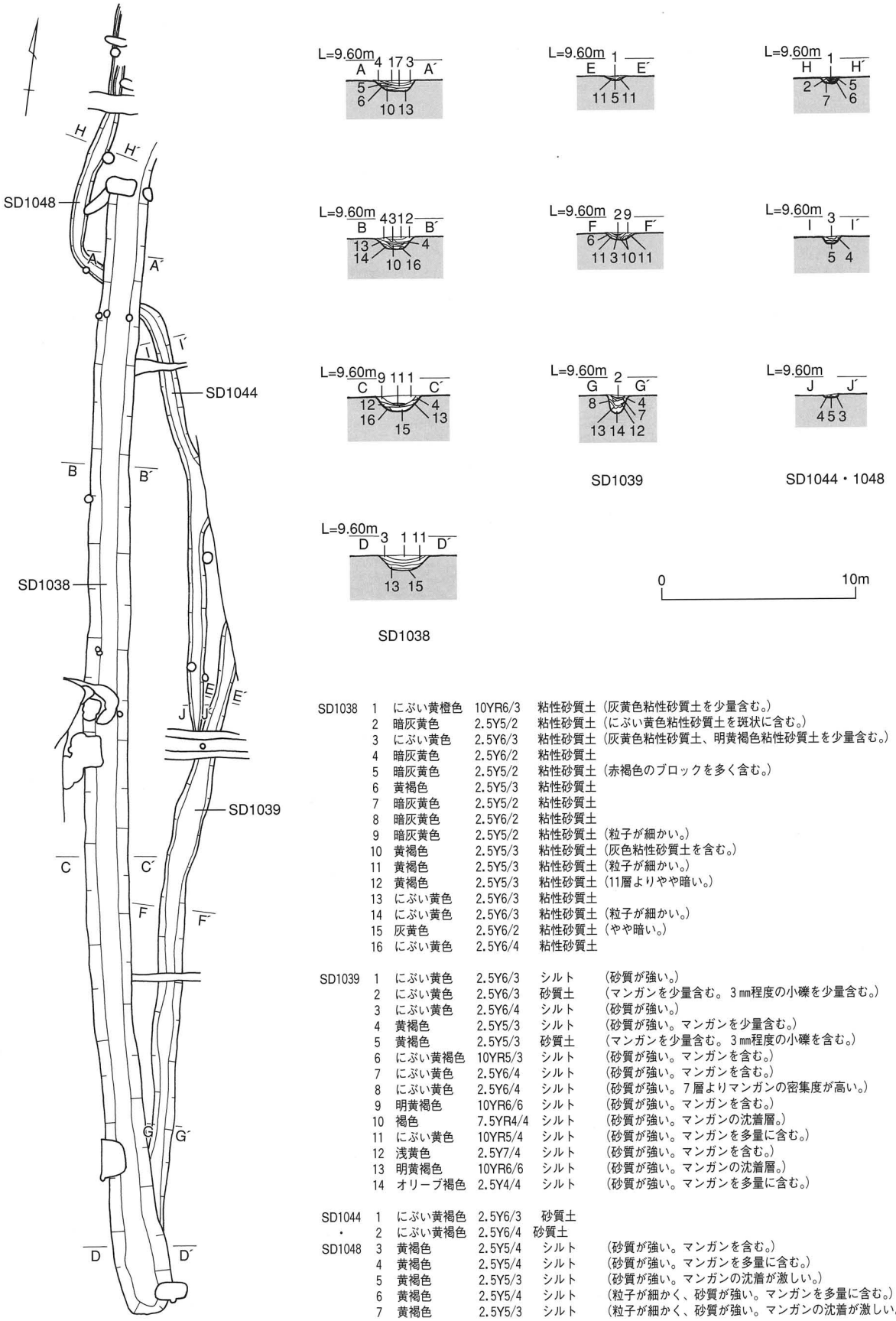
第672図　SD1037出土土器



第673図　SD1037出土石器

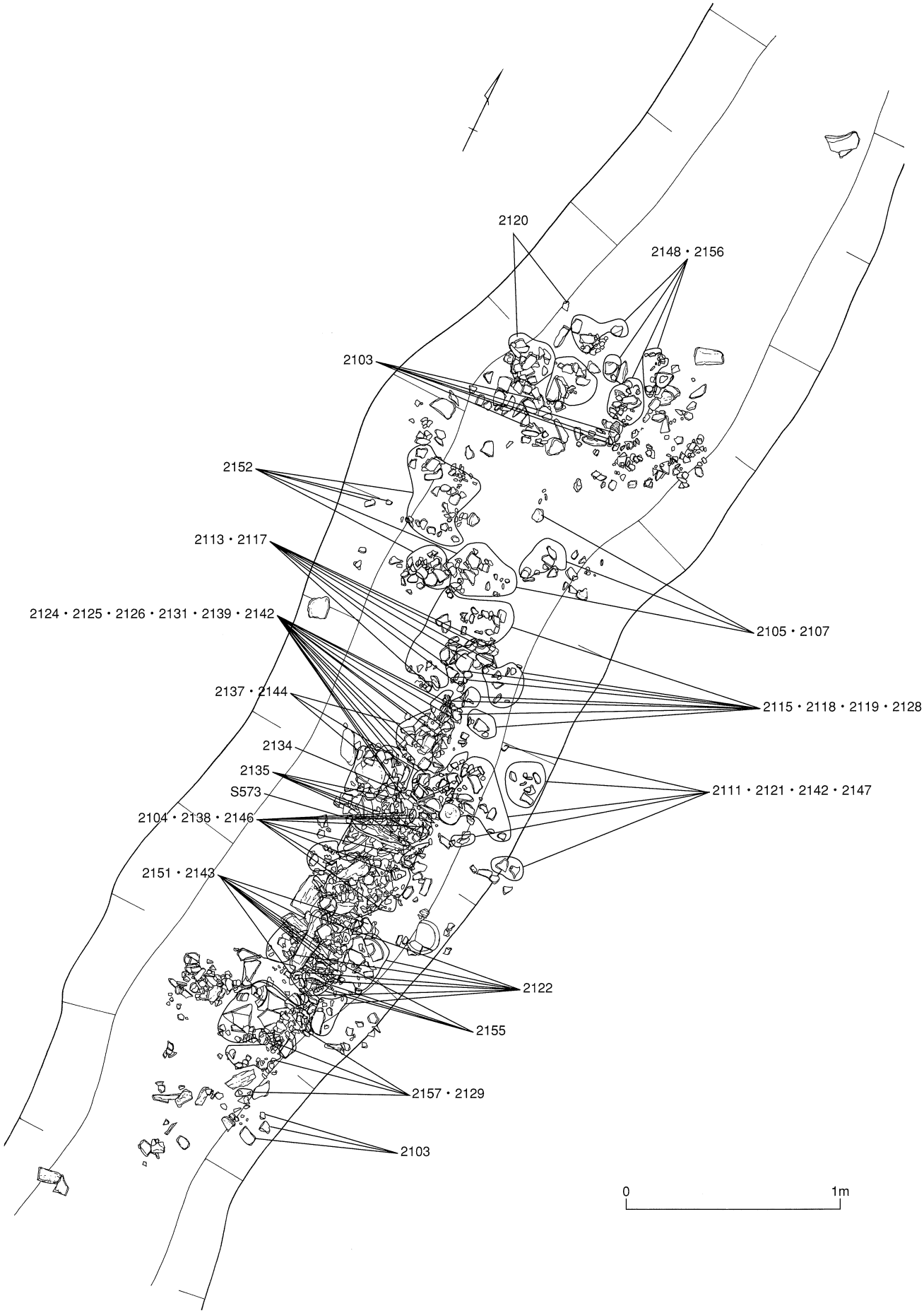


第674図　SD1037出土鉄器

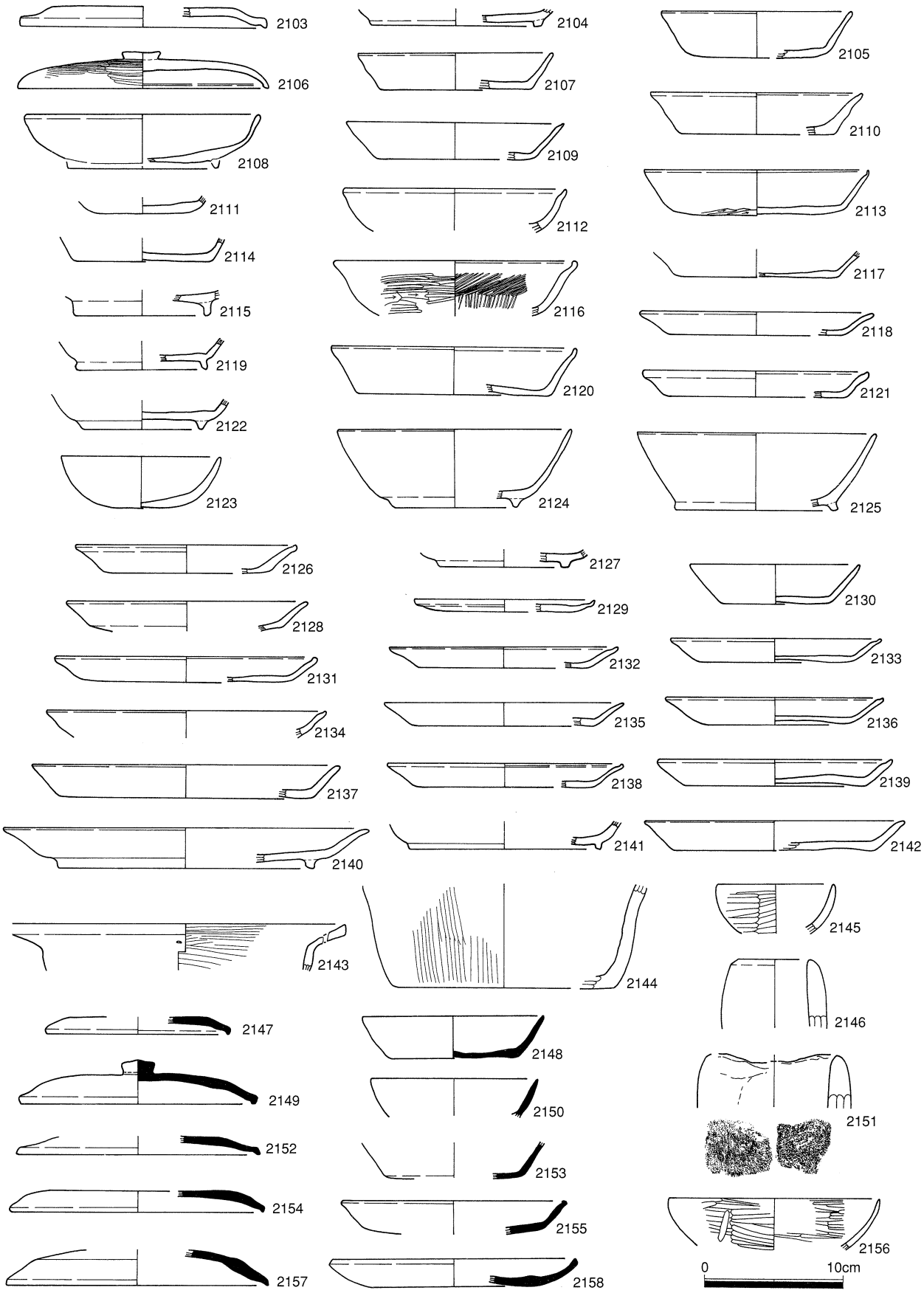


SD1038	1	にぶい黄橙色	10YR6/3	粘性砂質土	(灰黄色粘性砂質土を少量含む。)
	2	暗灰黄色	2.5Y5/2	粘性砂質土	(にぶい黄色粘性砂質土を斑状に含む。)
	3	にぶい黄色	2.5Y6/3	粘性砂質土	(灰黄色粘性砂質土、明黄褐色粘性砂質土を少量含む。)
	4	暗灰黄色	2.5Y6/2	粘性砂質土	
	5	暗灰黄色	2.5Y5/2	粘性砂質土	(赤褐色のブロックを多く含む。)
	6	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	
	7	暗灰黄色	2.5Y5/2	粘性砂質土	
	8	暗灰黄色	2.5Y6/2	粘性砂質土	
	9	暗灰黄色	2.5Y5/2	粘性砂質土	(粒子が細かい。)
	10	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	(灰色粘性砂質土を含む。)
	11	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	(粒子が細かい。)
	12	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	(11層よりやや暗い。)
	13	にぶい黄色	2.5Y6/3	粘性砂質土	
	14	にぶい黄色	2.5Y6/3	粘性砂質土	(粒子が細かい。)
	15	灰黄色	2.5Y6/2	粘性砂質土	(やや暗い。)
	16	にぶい黄色	2.5Y6/4	粘性砂質土	
SD1039	1	にぶい黄色	2.5Y6/3	シルト	(砂質が強い。)
	2	にぶい黄色	2.5Y6/3	砂質土	(マンガンを少量含む。3㎜程度の小礫を少量含む。)
	3	にぶい黄色	2.5Y6/4	シルト	(砂質が強い。)
	4	黄褐色	2.5Y5/3	シルト	(砂質が強い。マンガンを少量含む。)
	5	黄褐色	2.5Y5/3	砂質土	(マンガンを少量含む。3㎜程度の小礫を含む。)
	6	にぶい黄褐色	10YR5/3	シルト	(砂質が強い。マンガンを含む。)
	7	にぶい黄色	2.5Y6/4	シルト	(砂質が強い。マンガンを含む。)
	8	にぶい黄色	2.5Y6/4	シルト	(砂質が強い。7層よりマンガンの密集度が高い。)
	9	明黄褐色	10YR6/6	シルト	(砂質が強い。マンガンを含む。)
	10	褐色	7.5YR4/4	シルト	(砂質が強い。マンガンの沈着層。)
	11	にぶい黄色	10YR5/4	シルト	(砂質が強い。マンガンを多量に含む。)
	12	浅黄色	2.5Y7/4	シルト	(砂質が強い。マンガンを含む。)
	13	明黄褐色	10YR6/6	シルト	(砂質が強い。マンガンの沈着層。)
	14	オリーブ褐色	2.5Y4/4	シルト	(砂質が強い。マンガンを多量に含む。)
SD1044・SD1048	1	にぶい黄褐色	2.5Y6/3	砂質土	
	2	にぶい黄褐色	2.5Y6/4	砂質土	
	3	黄褐色	2.5Y5/4	シルト	(砂質が強い。マンガンを含む。)
	4	黄褐色	2.5Y5/4	シルト	(砂質が強い。マンガンを多量に含む。)
	5	黄褐色	2.5Y5/3	シルト	(砂質が強い。マンガンの沈着が激しい。)
	6	黄褐色	2.5Y5/4	シルト	(粒子が細かく、砂質が強い。マンガンを多量に含む。)
	7	黄褐色	2.5Y5/3	シルト	(粒子が細かく、砂質が強い。マンガンの沈着が激しい。)

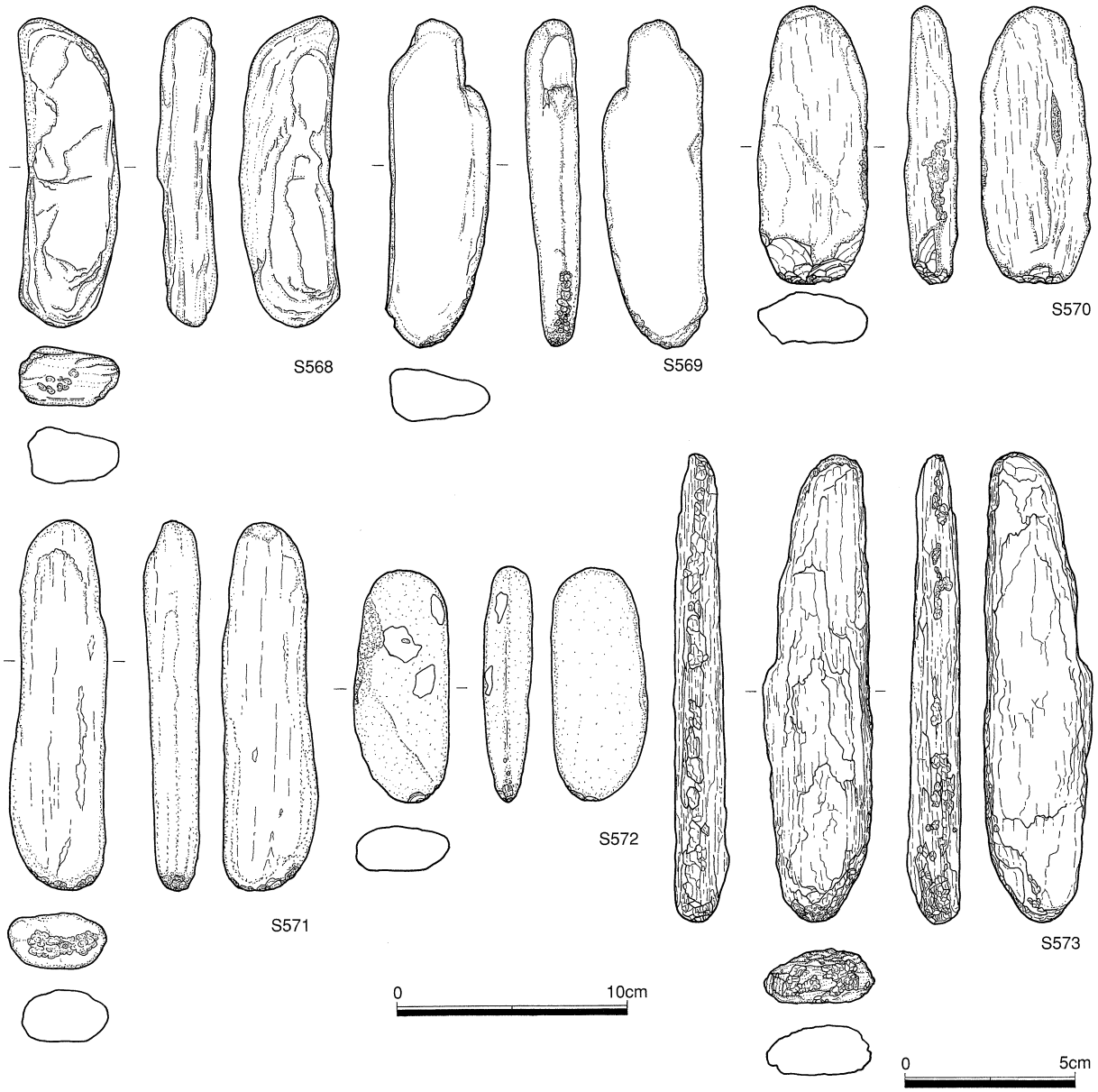
第675図　SD1038.SD1039.SD1044.SD1048平・断面図（S=1/300）



第676図　SD1039遺物出土状況図（S=1/25）



第677図　SD1039出土土器



第678図　SD1039出土石器

溝状遺構（SD1040）

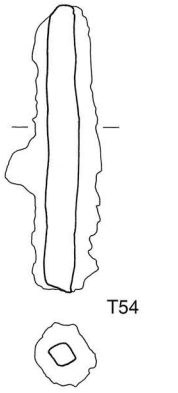
位置　Loc.E2・αⅡ・bc３～５　　**断面形**　逆台形　　**全長**　10.5m

土層　覆土は黄褐色系の粘性砂質土を主体とし、３層からなる

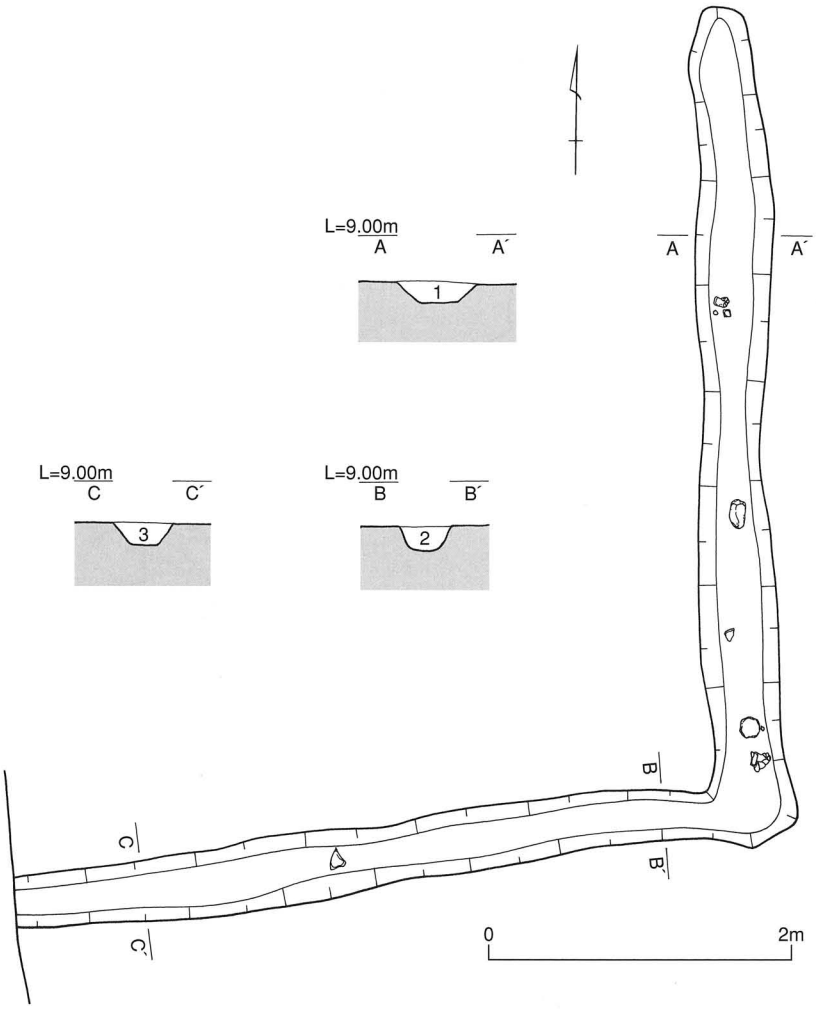
遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器皿１点である。

時期　古代（平安時代（10世紀））である。

備考　西端は調査区外に延びる。

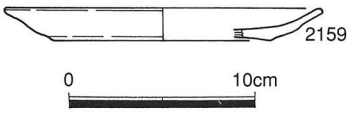


第679図　SD1039出土鉄器



1　にぶい黄色　2.5Y6/3　粘性砂質土（粘性がやや強い。マンガンを含む。）
2　黄褐色　2.5Y5/3　粘性砂質土（マンガン、土器片を含む。暗灰黄色粘性砂質土を一部含む。）
3　黄褐色　2.5Y5/3　粘性砂質土（砂質が強い。マンガン、土器片を含む。）

第680図　SD1040平・断面図（S=1/50）



第681図　SD1040出土土器

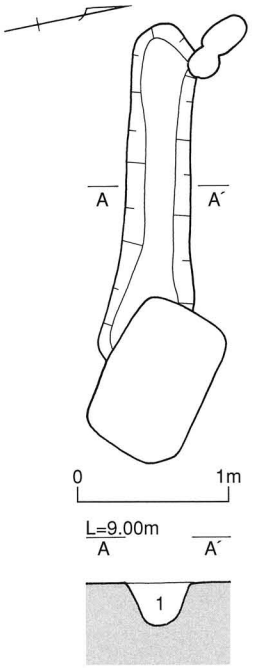
溝状遺構（SD1041）

位置　Loc.E2・αⅡ・d5　　**断面形**　逆台形　　**全長**　1.8m

土層　覆土は黄褐色の粘性砂質土の１層からなる。

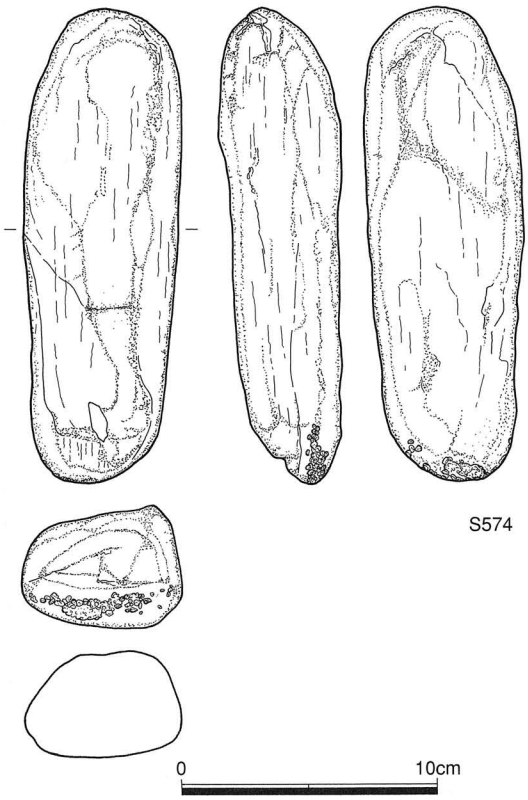
遺物出土状況　覆土から石器が出土している。図示できる遺物は、敲石１点である。石器については、第２遺構面に属する遺物である可能性がある。

時期　古代（平安時代）である。



1　黄褐色　2.5Y5/3　粘性砂質土
（粒子が細かい。マンガン、石を含む。）

第682図　SD1041平・断面図（S＝1/50）



第683図　SD1041出土石器

溝状遺構（SD1042）

位置　Loc.E2・αⅡ・e4～5　　**断面形**　逆台形　　**全長**　6.2m

土層　覆土は灰黄色、黄褐色の粘性砂質土の3層からなる。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、甕1点と平瓦1点である。甕は第2遺構面に属する遺物の流れ込みと考えられる。

時期　古代（平安時代）である。

備考　東西両端は調査区外に延びる。

溝状遺構（SD1043）

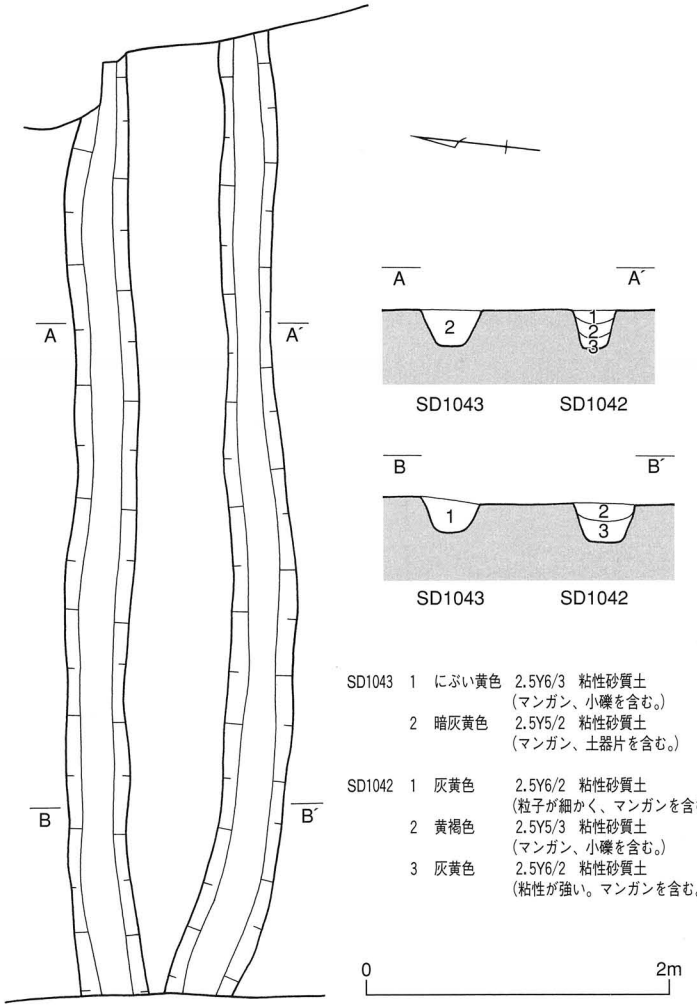
位置　Loc.E2・αⅡ・e4～5　　**断面形**　逆台形　　**全長**　6.3m

土層　覆土はにぶい黄色、暗灰黄色の粘性砂質土の2層からなる。

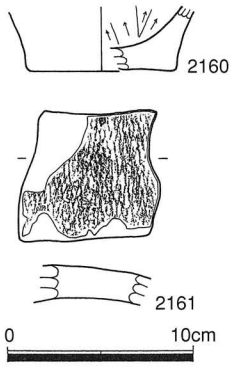
遺物出土状況　覆土から土製品が出土している。図示できる遺物は、管状土錘1点である。

時期　古代（平安時代）である。

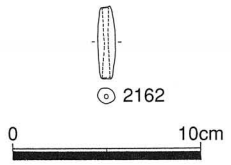
備考　東西両端は調査区外に延びる。



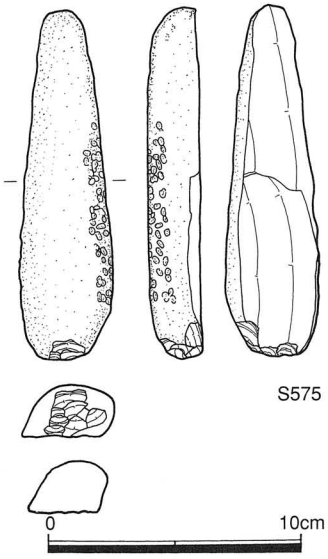
第684図　SD1042.SD1043平・断面図（S=1/50）



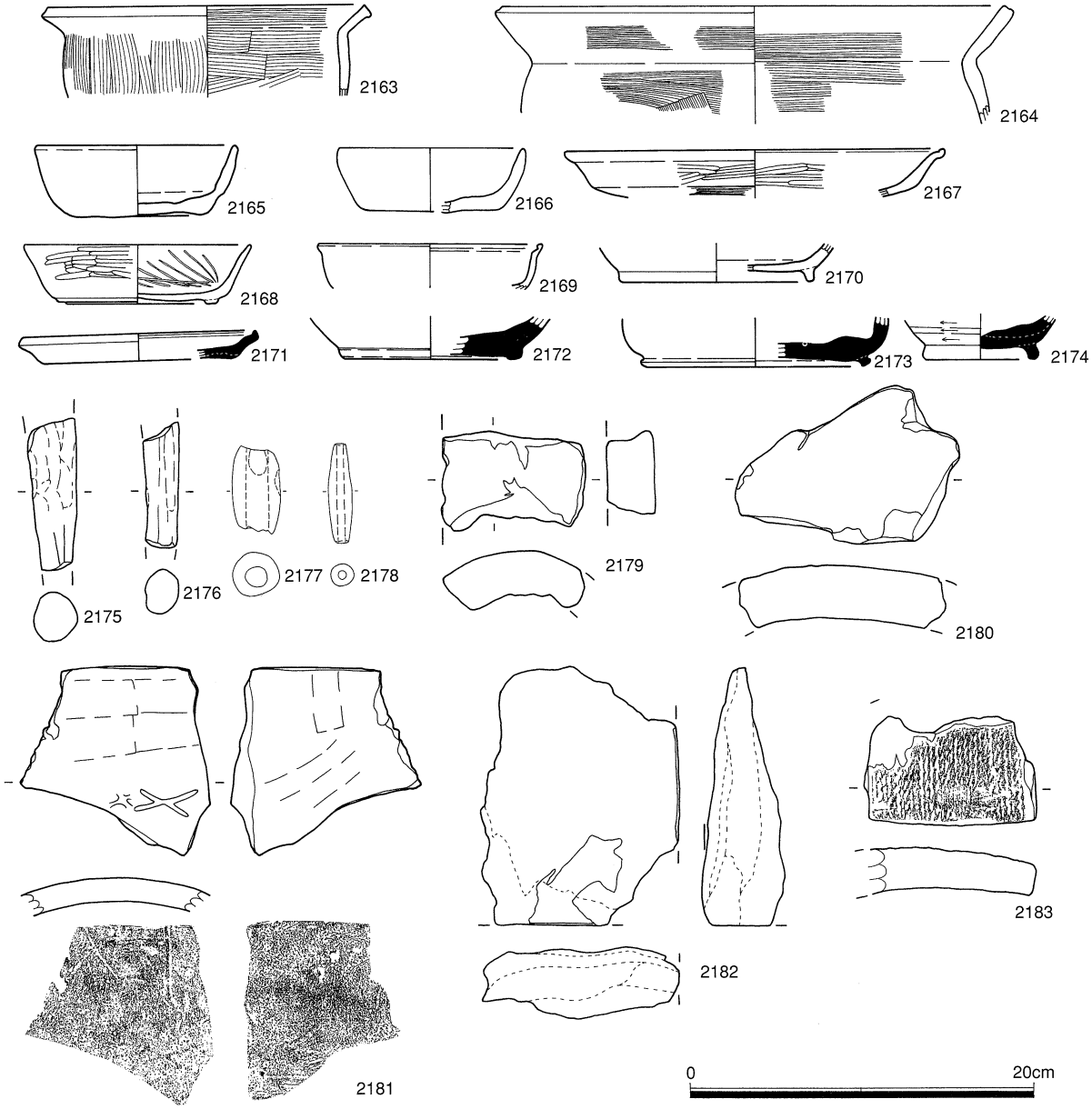
第685図　SD1042出土土器



第686図　SD1043出土土器



第687図　SD1044出土石器



第688図　SD1048出土土器（1）

溝状遺構（SD1044）

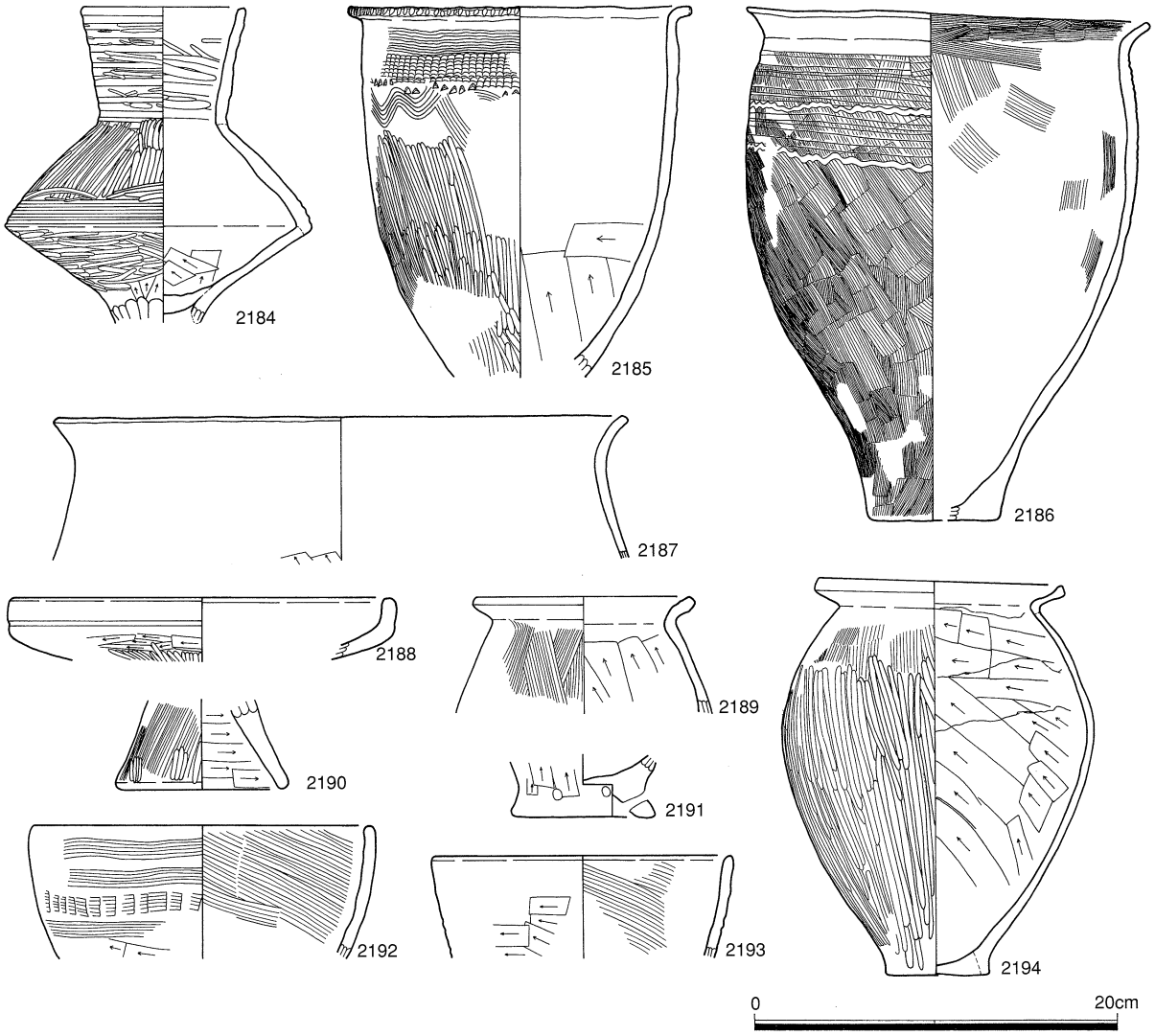
位置　Loc.D2・αⅡ・defghi 3 ～ 5　　**断面形**　逆台形　　**全長**　20.2m

土層　覆土は黄褐色のシルト質土を主体とし、3層からなる。

遺物出土状況　覆土から石器が出土している。図示できる遺物は、敲石1点である。石器については、第2遺構面に属する遺物である可能性がある。

時期　古代（平安時代）である。

備考　平面図は第675図を参照。SD1048と同一遺構と考えられる。



第689図　SD1048出土土器（２）

溝状遺構（SD1048）

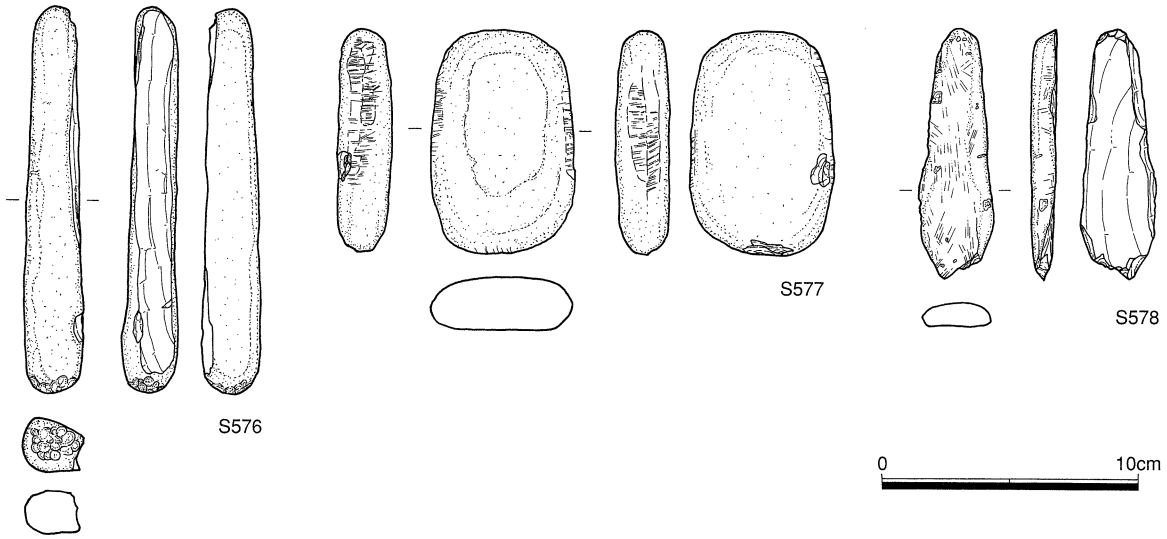
位置　Loc.DE2・εα Ⅱ・ijkl2～3　　**断面形**　逆台形　　**全長**　12.0m

土層　覆土は黄褐色系のシルト質土を主体とし、５層からなる。

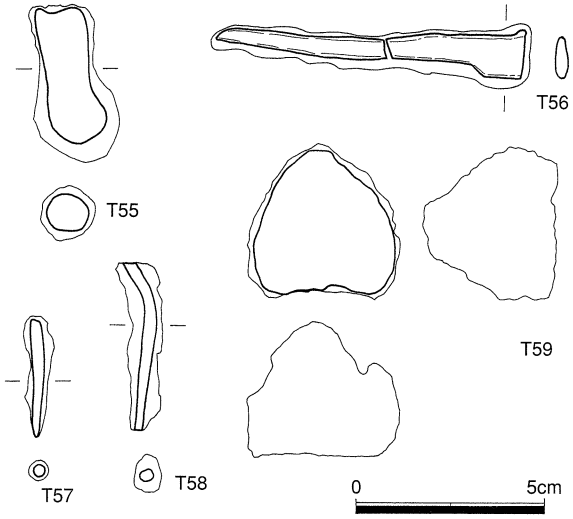
遺物出土状況　覆土から土器片、石器、鉄器が出土している。図示できる遺物は、土器類が須恵器壺、椀、皿、土師器甕、鍋、杯、皿、平瓦、磚、管状土錘など22点、石器が砥石、敲石の３点、鉄器が刀子、釘、鉄片など５点である。敲石については、第２遺構面に属する遺物である可能性がある。また、弥生式土器の壺、甕、鉢、高坏など11点も出土している。

時期　古代（８～11世紀）である。

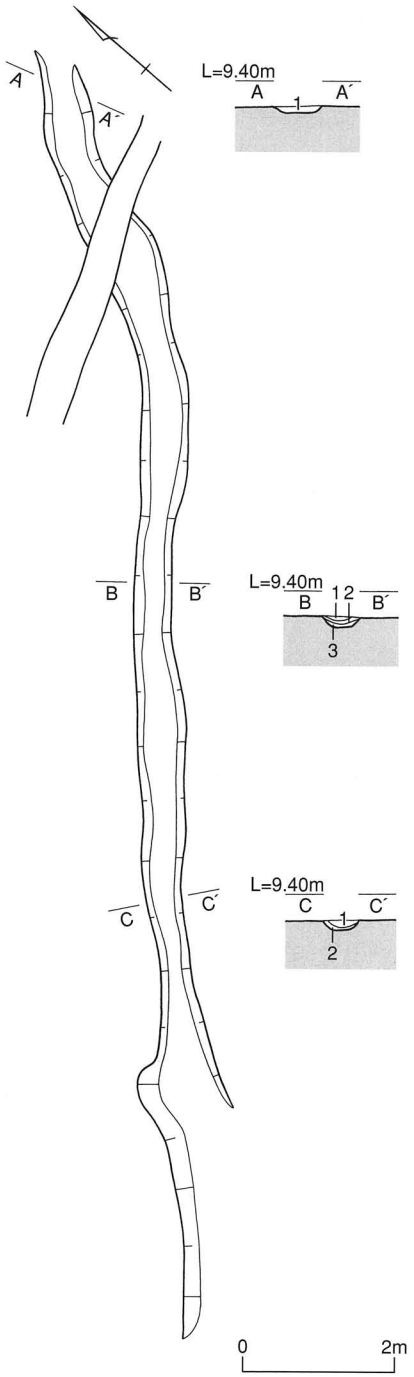
備考　平面図は第675図を参照。SD1044と同一遺構と考えられる。弥生式土器は流れ込みの遺物であるが、良好な資料であるためまとめて掲載した。



第690図　SD1048出土石器

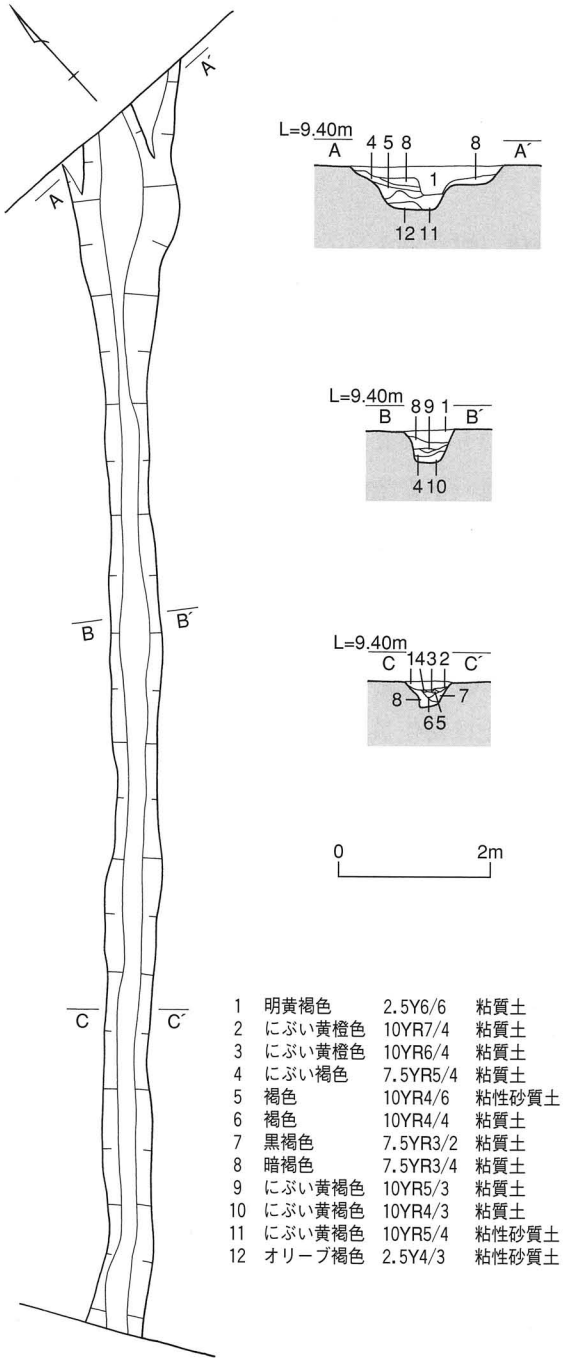


第691図　SD1048出土鉄器



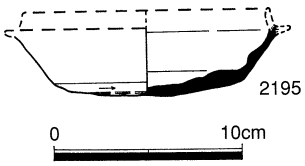
1	黄褐色	2.5Y5/6	粘質土
2	黄褐色	10YR5/6	粘質土
3	褐色	10YR4/4	粘質土

第692図　SD1060平・断面図（S＝1/100）

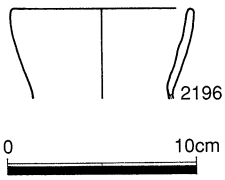


1	明黄褐色	2.5Y6/6	粘質土
2	にぶい黄橙色	10YR7/4	粘質土
3	にぶい黄橙色	10YR6/4	粘質土
4	にぶい褐色	7.5YR5/4	粘質土
5	褐色	10YR4/6	粘性砂質土
6	褐色	10YR4/4	粘質土
7	黒褐色	7.5YR3/2	粘質土
8	暗褐色	7.5YR3/4	粘質土
9	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土
10	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
11	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土
12	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土

第693図　SD1062平・断面図（S＝1/100）



第694図　SD1060出土土器



第695図　SD1062出土土器

溝状遺構（SD1060）

位置　Loc.D2・εⅡ・hij1～3　　**断面形**　逆台形　　**全長**　16.6m

土層　覆土は黄褐色、褐色の粘質土を主体とし、3層からなる。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、須恵器杯1点である。遺物は古墳時代後期のものの流れ込みと考えられる。

時期　古代（平安時代）である。

備考　東西両端は調査区外に延びる。

溝状遺構（SD1062）

位置　Loc.D2・εⅡ・ijk1～3　　**断面形**　逆台形　　**全長**　15.7m

土層　覆土は褐色系、黄褐色系の粘質土を主体とし、12層からなる。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、須恵器壺1点である。

時期　古代（8～9世紀）である。

備考　東西両端は調査区外に延びる。

溝状遺構（SD1064）

位置　Loc.D2・εⅡ・ijk1　　**断面形**　逆台形　　**全長**　8.4m

土層　覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、16層からなる。西側は1～2段の段差をもつ。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、甕、壺など4点である。これらの土器は第2遺構面に属する遺物の流れ込みと考えられる。

時期　古代（平安時代）である。

備考　南北両端は調査区外に延びる。

溝状遺構（SD1072）

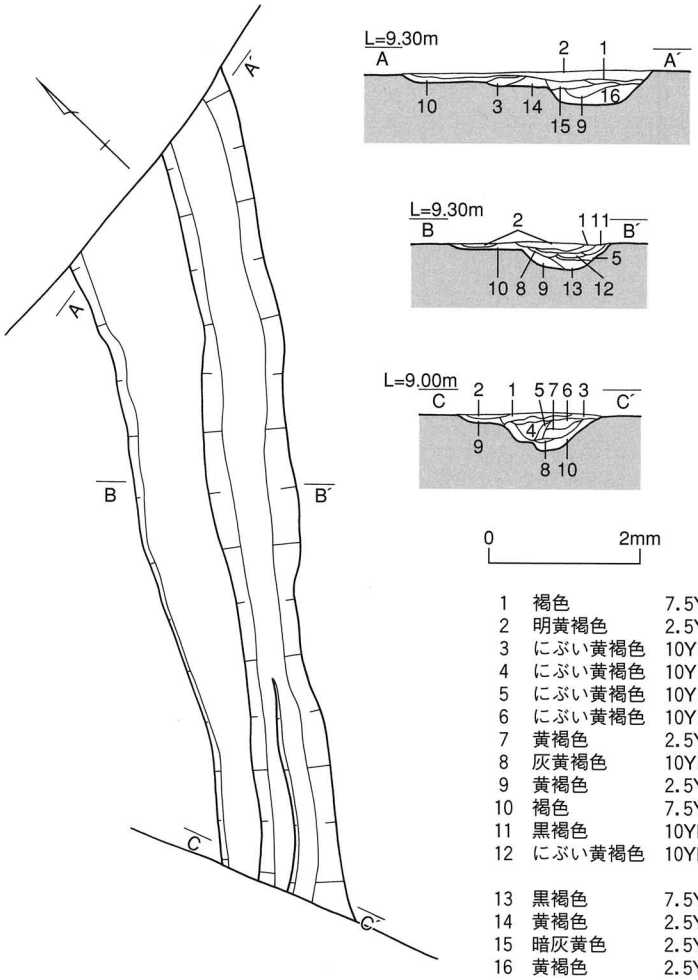
位置　Loc.D2・εⅡ・t20～2　　**断面形**　逆台形　　**全長**　8.5m

土層　覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、5層からなる。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、須恵器壺1点である。

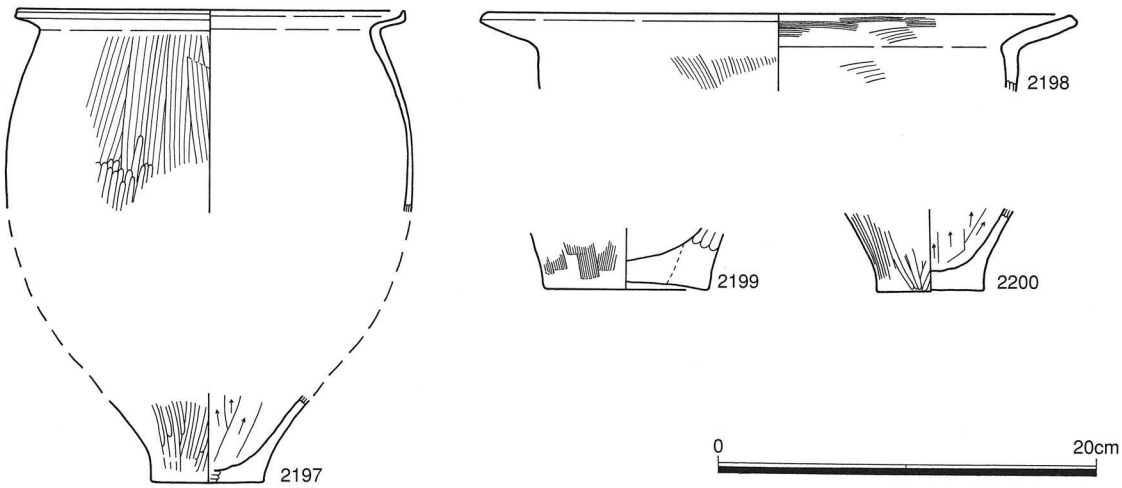
時期　古代（平安時代（9世紀））である。

備考　東端は調査区外に延びる。

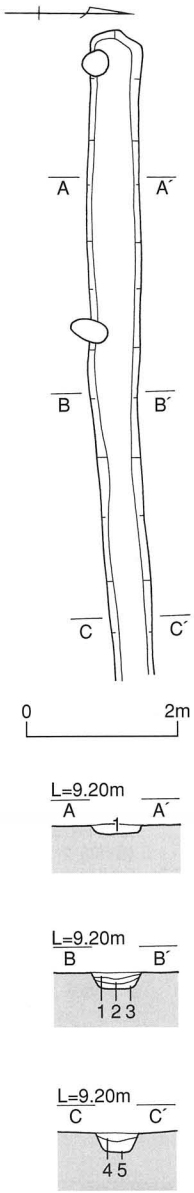


1	褐色	7.5YR4/4	粘質土
2	明黄褐色	2.5Y7/6	粘質土
3	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
4	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土
5	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土
6	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土
7	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土
8	灰黄褐色	10YR5/2	粘性砂質土
9	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土
10	褐色	7.5YR4/3	粘質土
11	黒褐色	10YR3/2	粘質土
12	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土（粒子が細かい。）
13	黒褐色	7.5YR3/2	粘性砂質土
14	黄褐色	2.5Y5/4	粘質土
15	暗灰黄色	2.5Y4/2	粘質土
16	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土（粒子が細かい。）

第696図　SD1064平・断面図（S=1/100）

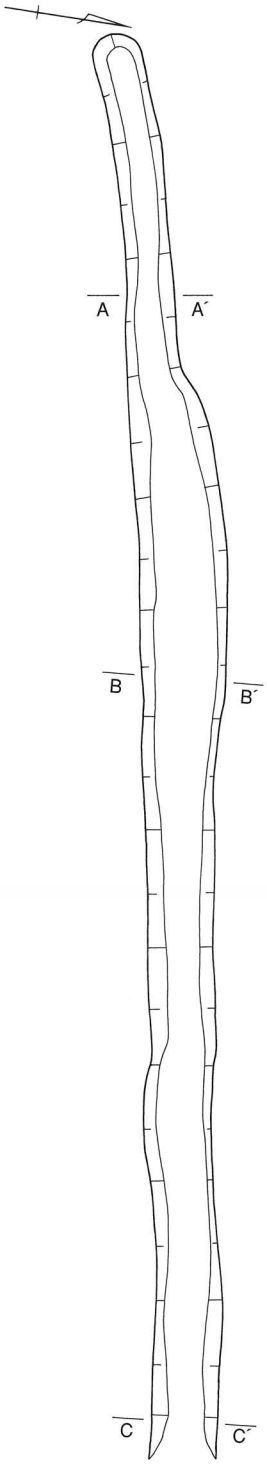


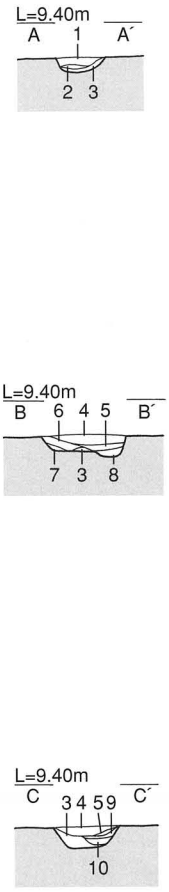
第697図　SD1064出土土器



1　にぶい黄褐色　10YR4/3　粘性砂質土
2　暗褐色　10YR3/3　粘質土
3　にぶい黄褐色　10YR4/3　粘質土
4　オリーブ褐色　2.5Y4/4　粘性砂質土
5　褐色　10YR4/4　粘質土

第698図　SD1072平・断面図（S＝1/100）





1　にぶい黄褐色　10YR4/3　粘性砂質土
2　オリーブ褐色　2.5Y4/4　粘性砂質土
3　オリーブ褐色　2.5Y4/5　粘質土
4　オリーブ褐色　2.5Y5/4　粘質土
5　黄褐色　2.5Y5/3　粘性砂質土
6　オリーブ褐色　2.5Y4/3　粘質土
7　暗褐色　10YR3/4　粘質土
8　オリーブ褐色　2.5Y3/4　粘質土
9　にぶい黄褐色　10YR4/3　粘質土
10　オリーブ褐色　2.5Y4/4　粘質土

第699図　SD1073平・断面図（S＝1/100）

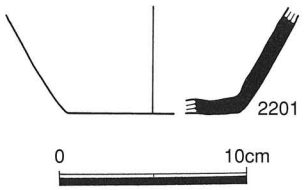
溝状遺構（SD1073）

位置　Loc.DE2・αⅠⅡ・ta19～2　　**断面形**　逆台形　　**全長**　18.8m

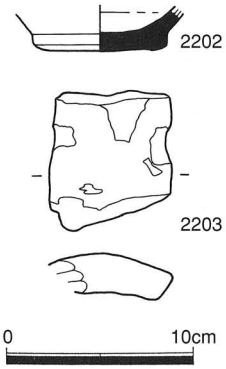
土層　覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、10層からなる。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、白磁椀、瓦の２点である。

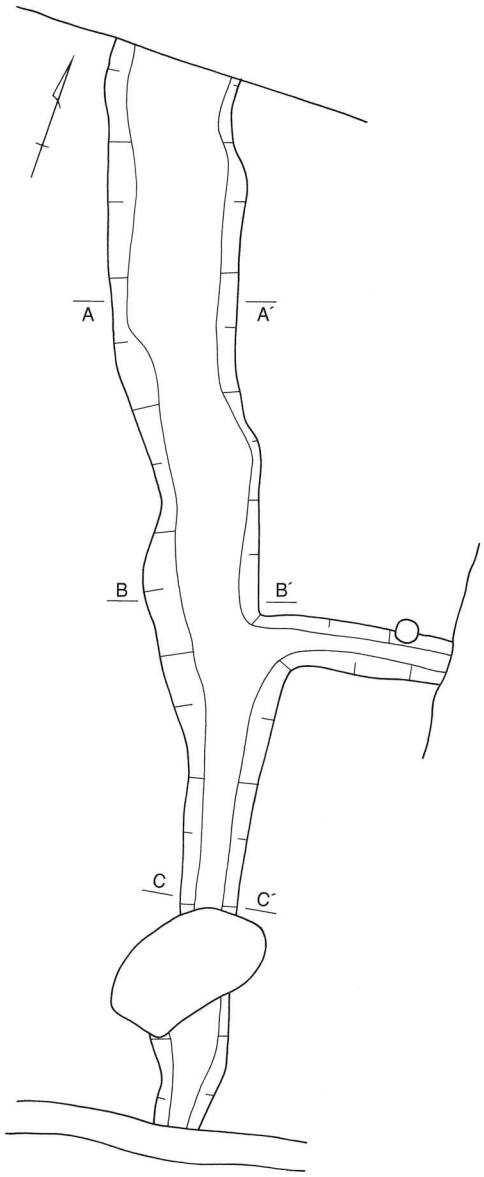
時期　古代～中世（11～13世紀）である。

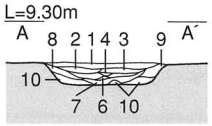


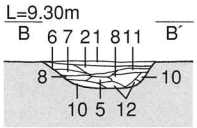
第700図　SD1072出土土器



第701図　SD1073出土土器

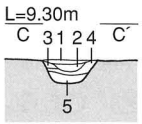






SD1078

1	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土
2	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土
3	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
4	褐色	10YR4/4	粘質土
5	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土（粒子が細かい。）
6	にぶい黄色	2.5Y6/3	粘質土
7	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土
8	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土（やや暗い。）
9	にぶい黄橙色	10YR6/4	粘質土
10	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土（粒子が細かい。）
11	にぶい黄橙色	10YR7/4	粘質土
12	にぶい黄橙色	10YR5/4	粘質土（粒子が細かい。）

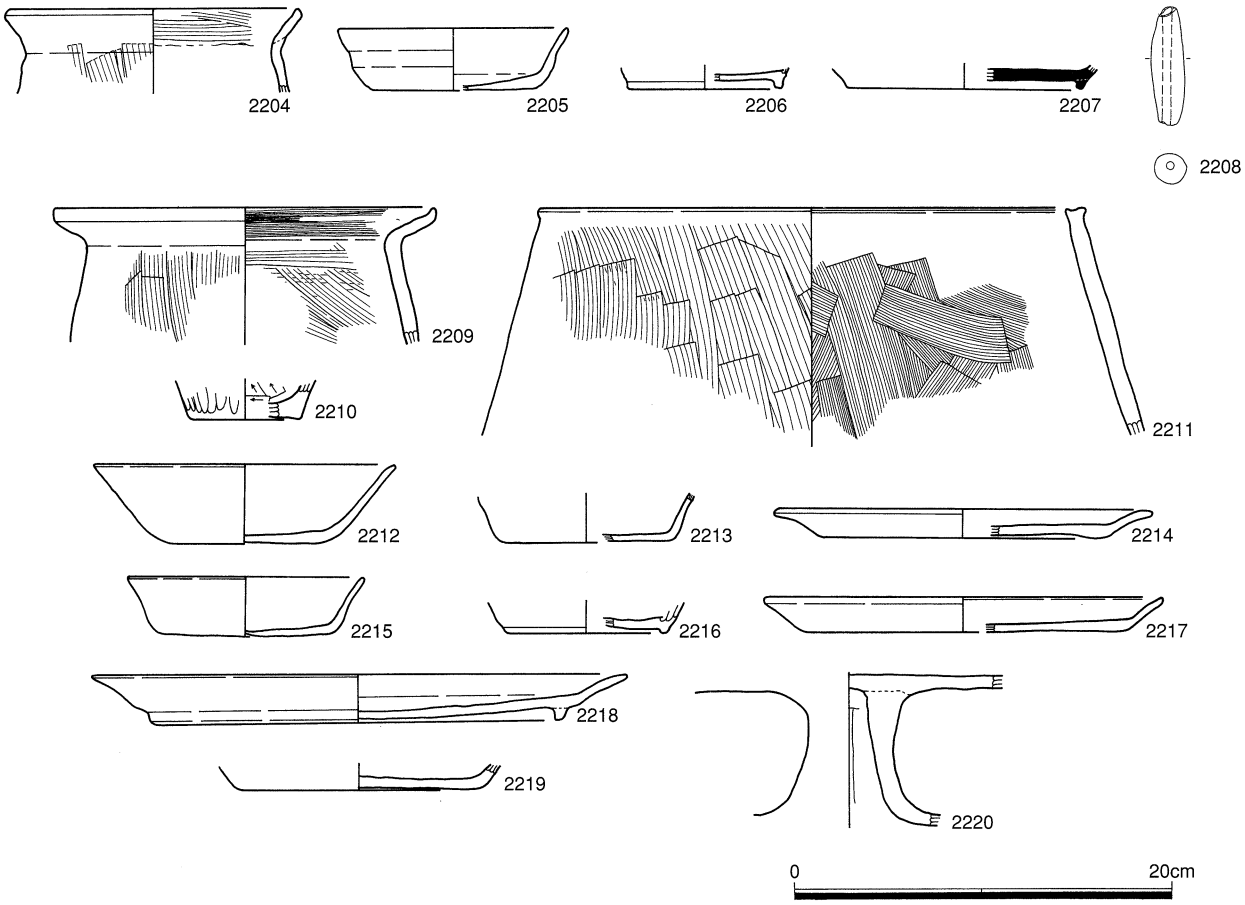


SD1078

1	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土
2	灰黄褐色	10YR5/2	粘質土
3	褐色	10YR4/4	粘質土
4	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
5	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土

0　2m

第702図　SD1078平・断面図（S=1/100）



第703図　SD1078出土土器

備考　東端は調査区外に延びる。

溝状遺構（SD1078）

位置　Loc.E2・αⅠⅡ・efg20～1　　**断面形**　逆台形　　**全長**　14.2m

土層　覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、17層からなる。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、須恵器杯、土師器甕、高杯、甑、杯、皿、管状土錘など16点である。一部の土器は第２遺構面に属する遺物の流れ込みと考えられる。

時期　古代（８～10世紀）である。

備考　北端、東端は調査区外に延びる。

溝状遺構（SD1081）

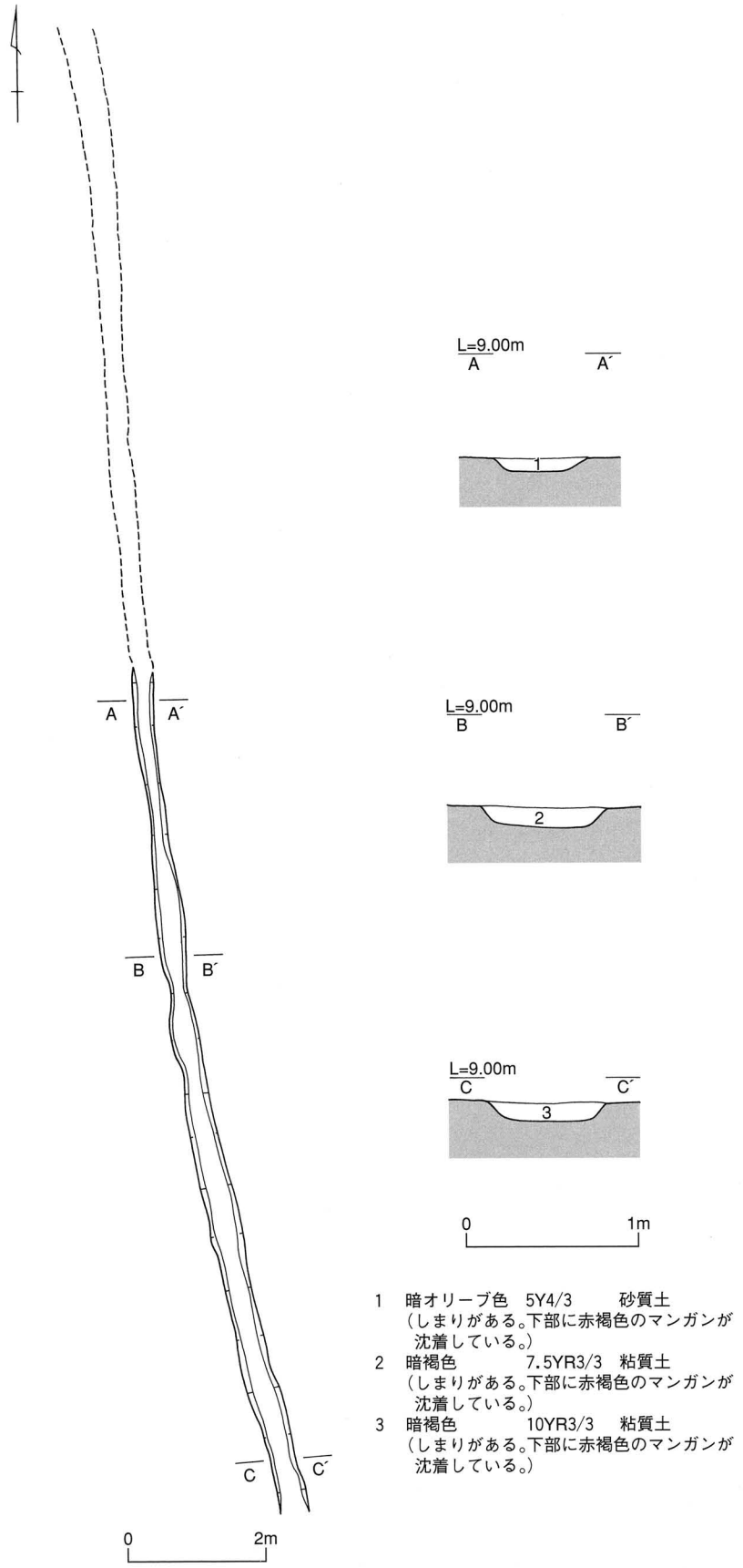
位置　Loc.E2・αⅠ・cdefg17～18　　**断面形**　逆台形　　**全長**　11.8m

土層　覆土は暗褐色の粘質土を主体とし、３層からなる。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器杯１点である。

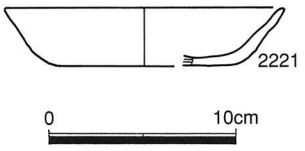
時期　古代（平安時代（10～11世紀））である。

備考　南北両端は調査区外に延びる。SD1088、1089と同一遺構である可能性がある。

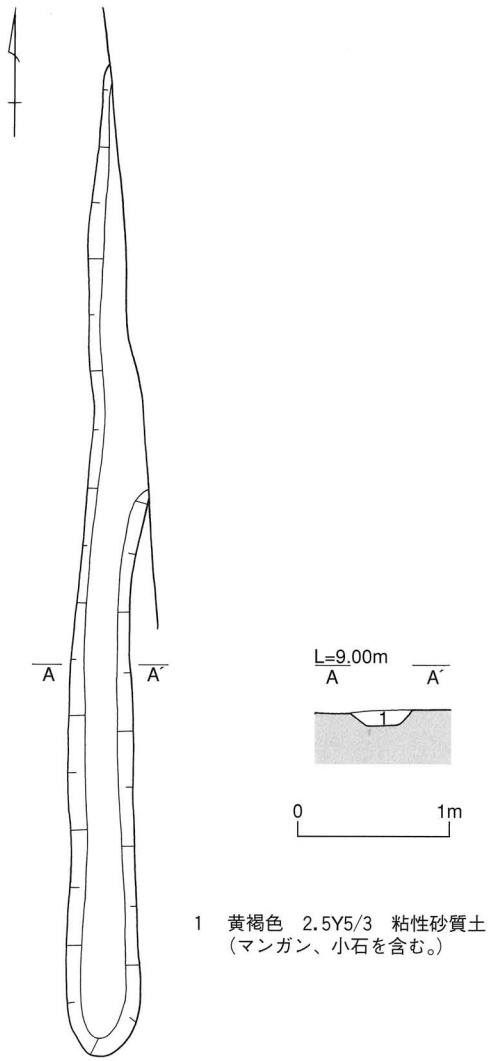


1　暗オリーブ色　5Y4/3　　砂質土
（しまりがある。下部に赤褐色のマンガンが沈着している。）
2　暗褐色　　7.5YR3/3　粘質土
（しまりがある。下部に赤褐色のマンガンが沈着している。）
3　暗褐色　　10YR3/3　粘質土
（しまりがある。下部に赤褐色のマンガンが沈着している。）

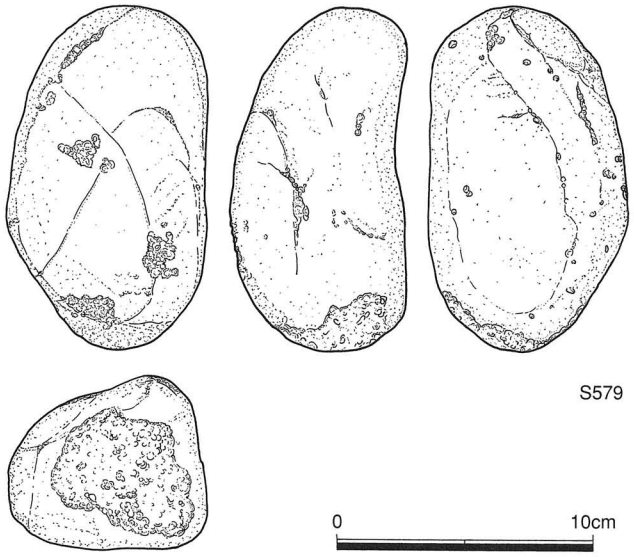
第704図　SD1081平・断面図（平面・S=1/100、断面・S=1/20）



第705図　SD1081出土土器



第706図　SD1084平・断面図（S＝1/50）



第707図　SD1084出土石器

溝状遺構（SD1084）

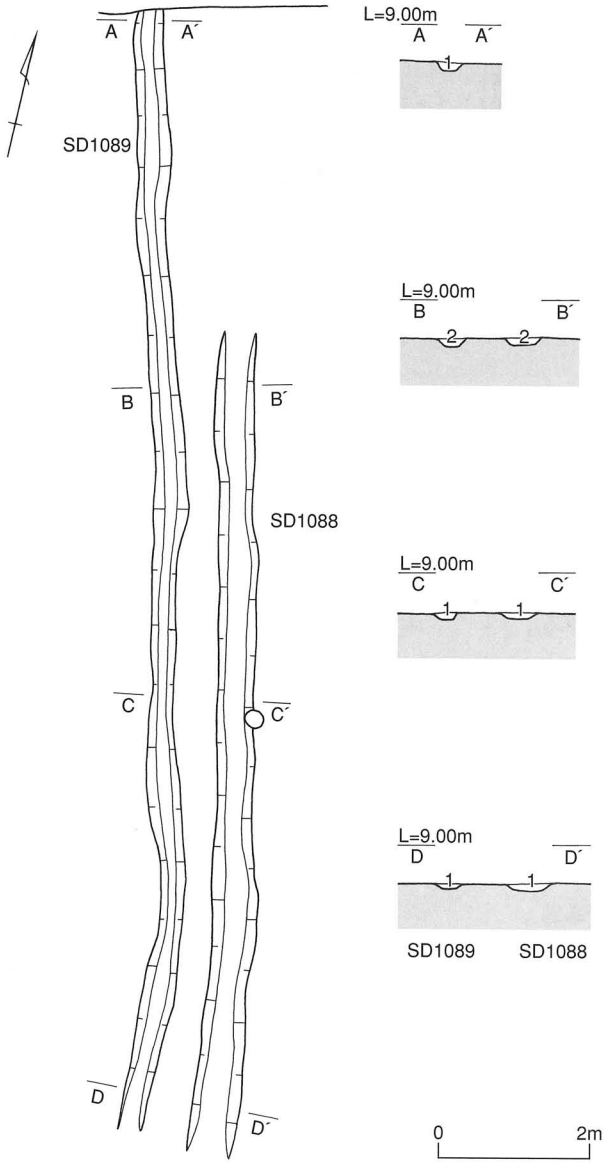
位置　Loc.D2・εⅠ・pqrst18　　**断面形**　逆台形　　**全長**　15.9m

土層　覆土は黄褐色の粘性砂質土の１層からなる。

遺物出土状況　覆土から石器が出土している。図示できる遺物は、敲石１点である。石器については、第２遺構面に属する遺物である可能性がある。

時期　古代（平安時代）である。

備考　北端は調査区外に延びる。



SD1089	1	黄褐色	2.5Y5/4	シルト	（マンガンを少量含む。土器片、1㎝程度の礫を含む。）
	2	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	（マンガンを微量含む。5㎜～1㎝程度の未満の礫を少量含む。）
SD1088	1	黄褐色	2.5Y5/4	シルト	（マンガンを少量含む。土器片、1～3㎝程度の礫を含む。）
	2	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	（マンガンを含む。5㎜未満礫を少量含む。）

第708図　SD1088.SD1089平・断面図（S＝1/100）

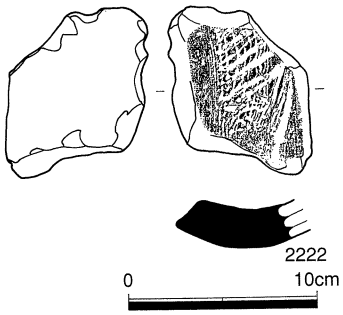
溝状遺構（SD1088）

位置　Loc.E2・αⅠ・klm16～17　　**断面形**　逆台形　　**全長**　10.7m

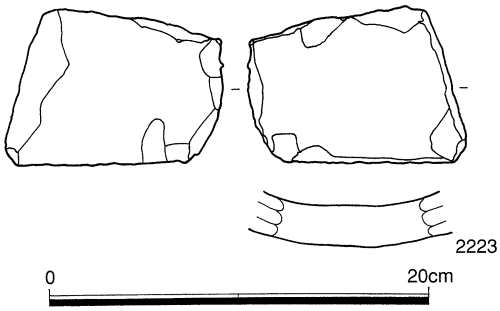
土層　覆土は黄褐色のシルト質土、粘性砂質土の２層からなる。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、丸瓦１点である。

時期　古代（平安時代）である。



第709図　SD1088出土土器



第710図　SD1089出土土器

溝状遺構（SD1089）

位置　Loc.E2・αⅠ・klmn16～17　　**断面形**　逆台形　　**全長**　15.0m

土層　覆土は黄褐色のシルト質土、粘性砂質土の２層からなる。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、平瓦１点である。

時期　古代（平安時代）である。

備考　北端は調査区外に延びる。

溝状遺構（SD1090）

位置　Loc.E2・αⅠ・jklm16　　**断面形**　逆台形　　**全長**　15.0m

土層　覆土は黄褐色のシルト質土１層からなる。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、丸瓦１点である。

時期　古代（平安時代）である。

溝状遺構（SD1095）

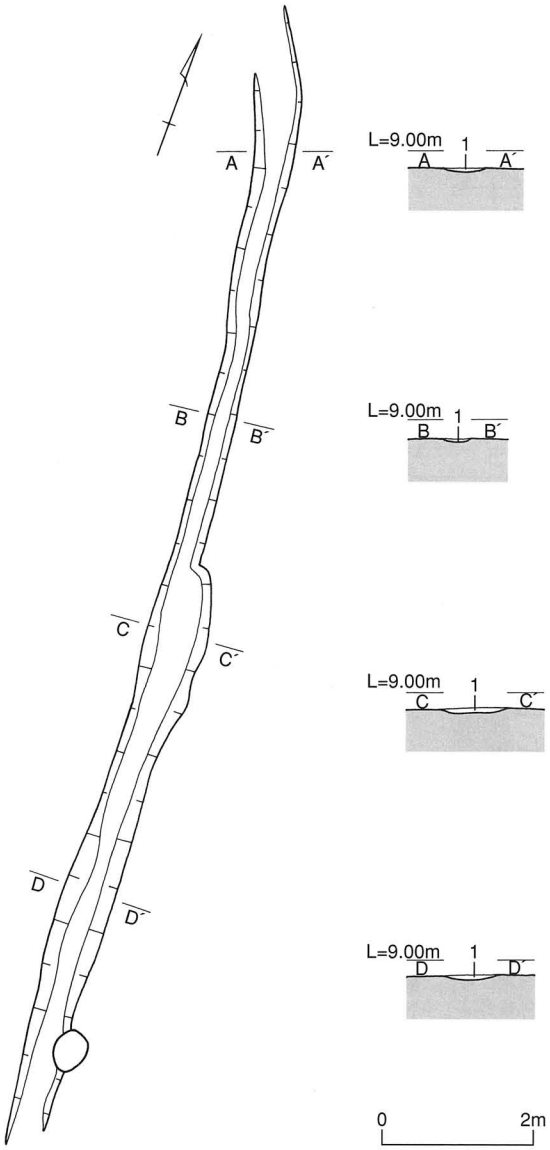
位置　Loc.E2・αⅡ・no 1　　**断面形**　逆台形　　**全長**　6.4m

土層　覆土はにぶい黄褐色の砂質土１層からなる。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器杯、丸瓦の２点である。

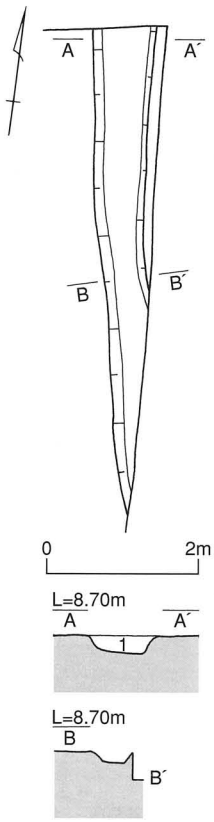
時期　古代（平安時代（10～11世紀））である。

備考　南北両端は調査区外に延びる。



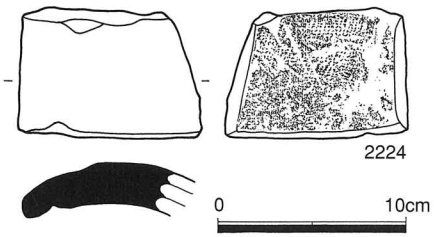
1　黄褐色　2.5Y5/4　シルト
（砂粒を含む。マンガン、鉄分を含む。2㎜程度の礫を多く含む。）

第711図　SD1090平・断面図（S=1/100）

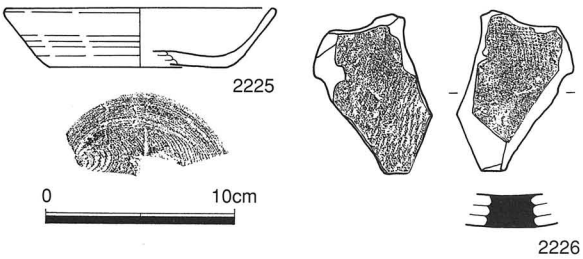


1　にぶい黄褐色　10YR5/3　砂質土
（マンガン、砂粒を含む。5㎜程度の礫を少量含む。）

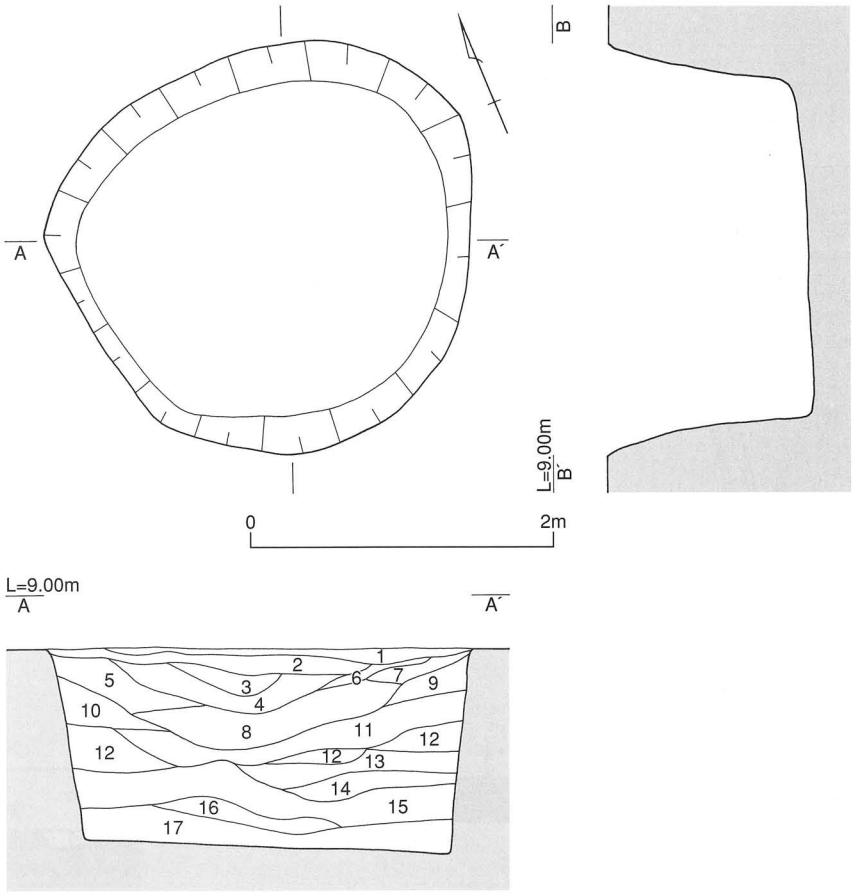
第712図　SD1095平・断面図（S=1/100）



第713図　SD1090出土土器



第714図　SD1095出土土器



1	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	（粒子が細かい。マンガン、炭化物、土器粒、小礫を含む。）
2	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	（砂質が強い。マンガン、炭化物、土器粒、小礫を含む。）
3	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	（マンガンを少量含む。粒子の細かい黒褐色粘性砂質土を含む。）
4	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土	（マンガン、小礫を含む。）
5	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土	（マンガンを少量含む。）
6	にぶい黄橙色	10YR6/4	粘性砂質土	（マンガンを全面に含む。炭化物を少量含む。）
7	暗灰黄色	2.5Y5/2	粘性砂質土	（鉄分を筋状に含む。）
8	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土	（マンガンを少量含む。）
9	暗灰黄色	2.5Y5/2	粘性砂質土	（マンガンを多量に含む。鉄分を少量含む。）
10	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	（マンガン、土器粒を含む。）
11	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土	（マンガン、小礫を含む。）
12	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	（マンガンを少量含む。灰黄色粘質土を含む。）
13	灰黄色	2.5Y6/2	粘性砂質土	（マンガンを少量含む。鉄分を多量に含む。）
14	にぶい黄橙色	10YR6/4	粘性砂質土	（マンガンを全面に含む。下部に鉄分を多く含む。炭化物を少量含む。）
15	灰黄色	7.5Y5/2	粘質土	（マンガン、１㎝程度の礫を含む。褐色粘性砂質土、オリーブ褐色粘性砂質土を含む。）
16	黄褐色	10YR4/4	砂質土	（マンガンを含む。）
17	灰オリーブ色	7.5Y5/2	粘質土	（粘性が非常に強い。）

第715図　SE1001平・断面図（S＝1/50）

④井戸（SE）

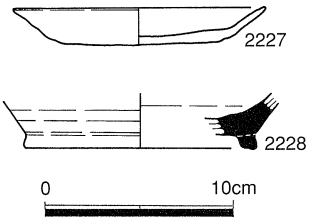
井戸（SE1001）

位置　Loc.D２・εⅡ・q６～７　　**平面形**　円形　　**断面形**　逆台形

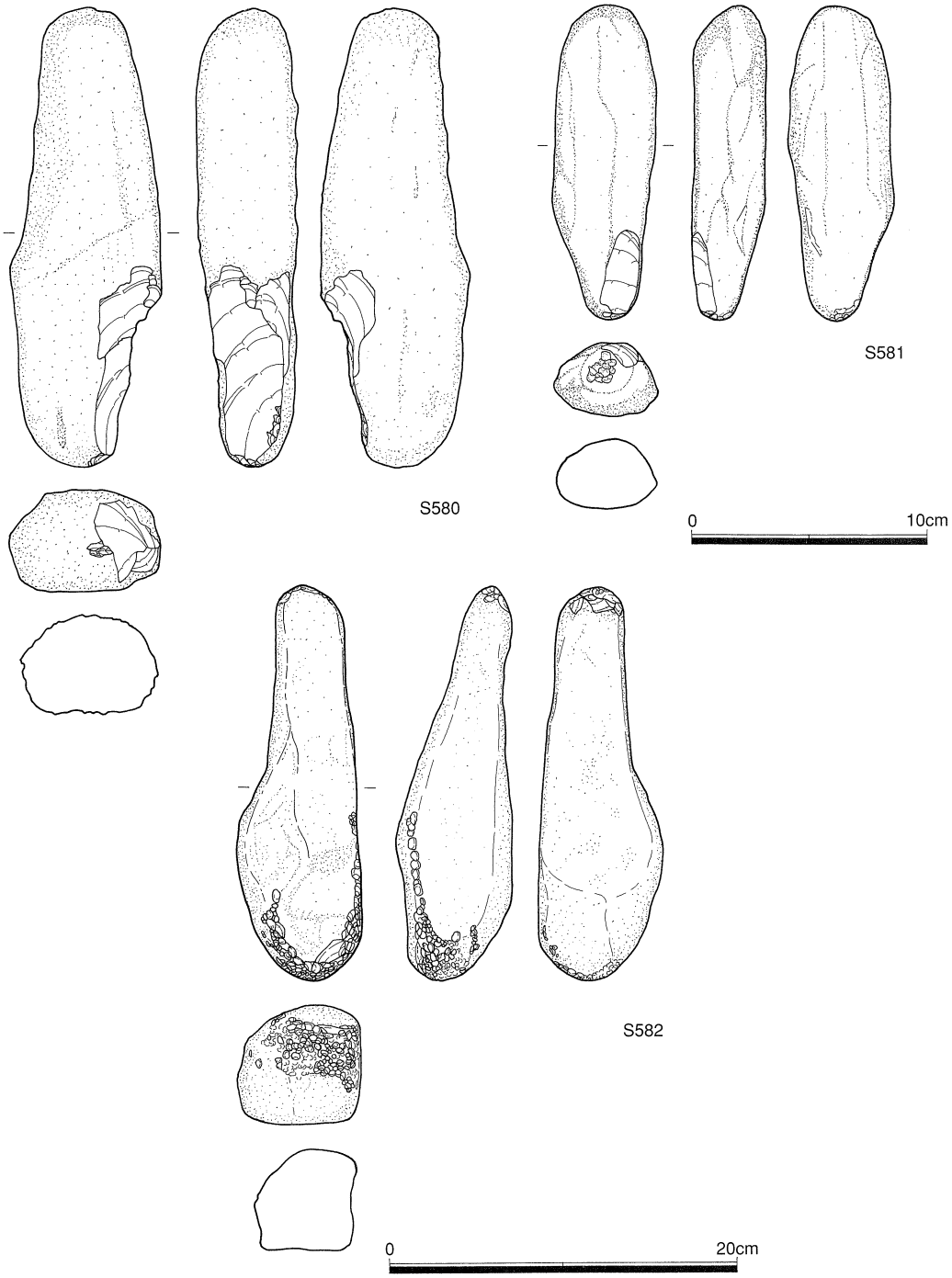
土層　覆土は、黄褐色系の粘性砂質土を主体とし、17層からなる。

遺物出土状況　覆土から土器片、石器が出土している。図示できる遺物は、土器が須恵器壺、土師器皿の２点、石器が敲石３点である。

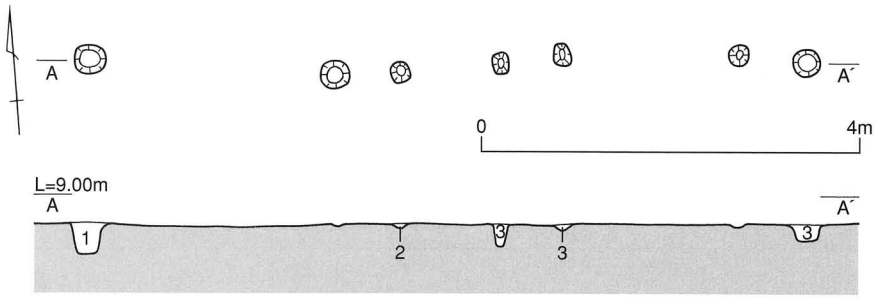
時期　古代（平安時代（10～11世紀））である。



第716図　SE1001出土土器

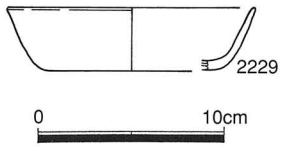


第717図　SE1001出土石器



1　褐色　10YR4/4　粘質土
2　にぶい黄褐色　10YR5/3　粘性砂質土
3　にぶい黄褐色　10YR5/4　粘性砂質土

第718図　SG1001平・断面図（S＝1/80）



第719図　SG1001出土土器

⑤柵列（SG）

柵列（SG1001）

位置　Loc.D2・εⅠ～Ⅱ・t20～1　　**全長**　750㎝　　**主軸方向**　N-86°-W

土層　覆土は、褐色、にぶい黄褐色の粘性砂質土を主体とし、3層からなる。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器杯1点である。

時期　古代（平安時代（9世紀））である。

備考　主軸方向がSA1039とほぼ平行になることから、何らかの関連がある遺構と考えられる。

⑥土坑（SK）

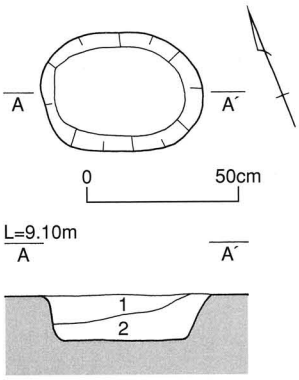
土坑（SK1002）

位置　Loc.D２・δⅡ・a12　　**平面形**　楕円形

土層　覆土は、灰色と灰黄色の粘性砂質土の２層からなる。

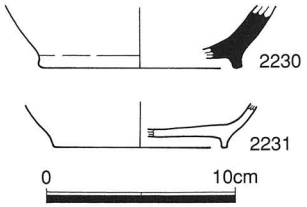
遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、須恵器壺、土師器杯の２点である。

時期　古代（平安時代（９世紀））である。

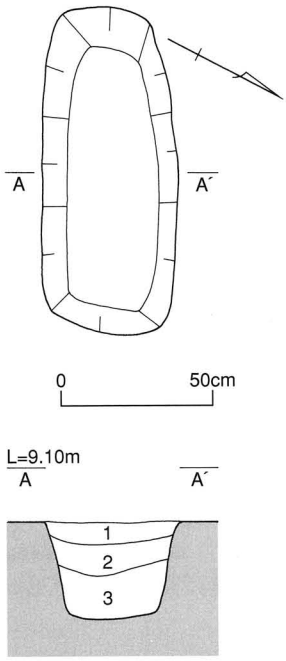


1　灰色　7.5Y6/1　粘性砂質土（マンガンを多量に含む。土器粒を含む。）
2　灰黄色　2.5Y6/2　粘性砂質土（マンガンを含む。）

第720図　SK1002平・断面図（S＝1/25）

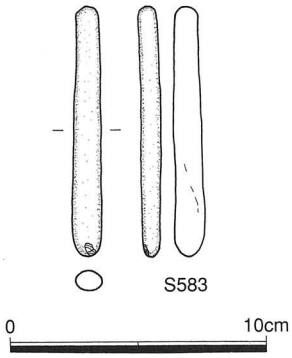


第721図　SK1002出土土器



1　にぶい黄褐色　10YR5/4　粘性砂質土（マンガン、炭化物、小礫を含む。）
2　にぶい黄褐色　10YR5/4　粘性砂質土（やや暗い。マンガン、炭化物、小礫を含む。）
3　黄褐色　2.5Y5/4　粘性砂質土（粒子が細かい。マンガンを含む。）

第722図　SK1014平・断面図（S＝1/25）



第723図　SK1014出土石器

土坑（SK1014）

位置　Loc.D2・δⅡ・c12　　**平面形**　長方形

土層　にぶい黄褐色と黄褐色粘性砂質土の３層からなる。

遺物出土状況　覆土から石器が出土している。図示できる遺物は、敲石１点である。

時期　古代（平安時代）である。

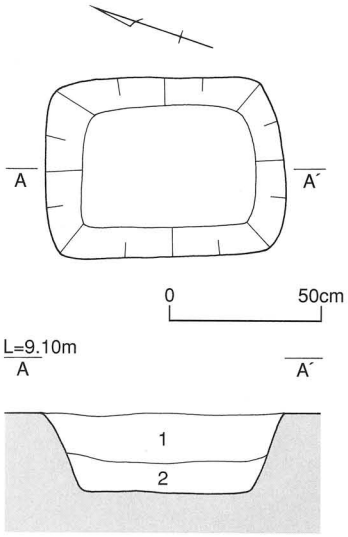
土坑（SK1015）

位置　Loc.D2・δⅡ・c12　　**平面形**　長方形

土層　覆土は浅黄色、にぶい黄色粘性砂質土の２層からなる。

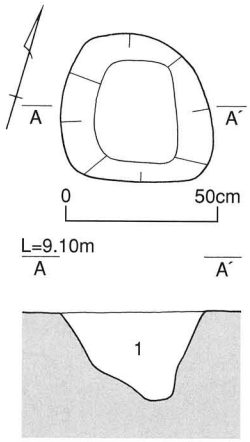
遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、平瓦１点である。

時期　古代（平安時代）である。



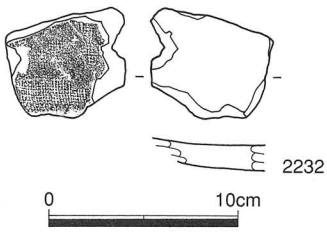
1　浅黄色　2.5Y7/3　粘性砂質土（マンガンを多量に含む。）
2　にぶい黄色　2.5Y6/4　粘性砂質土（マンガンを１層より多量に含む。）

第724図　SK1015平・断面図（S＝1/25）

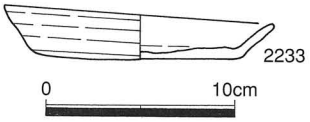


1　にぶい黄色　2.5Y6/3　粘性砂質土
（マンガン、小礫、炭化物、土器片を含む。）

第726図　SK1038平・断面図（S＝1/25）



第725図　SK1015出土土器



第727図　SK1038出土土器

土坑（SK1038）

位置　Loc.D2・δⅡ・e14　　**平面形**　方形

土層　覆土はにぶい黄色粘性砂質土の１層である。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器皿１点である。

時期　古代（平安時代（10世紀後半））である。

土坑（SK1052）

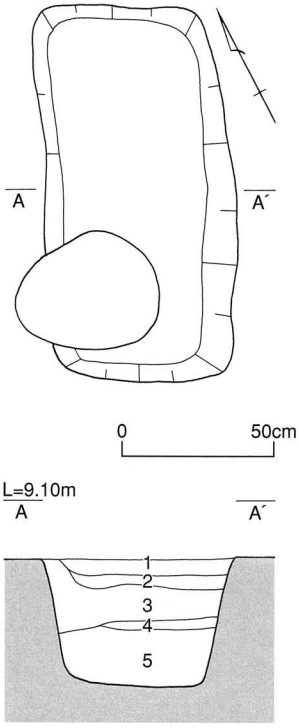
位置　Loc.D2・δⅡ・f13　　**平面形**　方形

土層

遺物出土状況　覆土から鉄器が出土している。図示できる遺物は釘１点である。

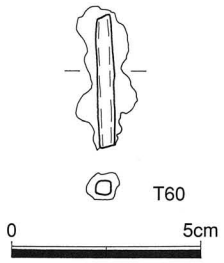
時期　古代（平安時代）である。

備考　平面図は遺構配置図を参照。

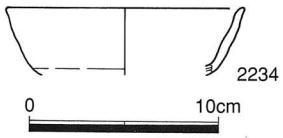


1　黄褐色　2.5Y5/3　粘性砂質土（やや粘性が強い。マンガンを含む。）
2　にぶい黄色　2.5Y6/4　粘性砂質土（マンガン、炭化物を含む。）
3　黄褐色　2.5Y5/4　粘性砂質土（やや粘性が強い。マンガン、鉄分、小礫を含む。）
4　黄褐色　2.5Y5/3　粘性砂質土（やや砂質が強い。マンガン、鉄分を含む。）
5　黄褐色　2.5Y5/3　粘性砂質土（やや暗い。マンガンを含む。）

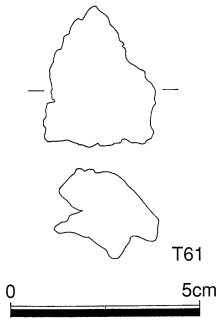
第728図　SK1062平・断面図（S＝1/25）



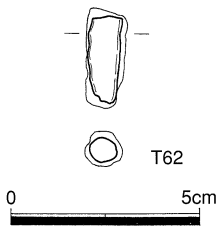
第729図　SK1052出土鉄器



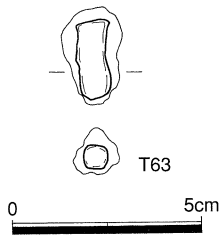
第730図　SK1062出土土器



第731図　SK1071出土鉄器



第732図　SK1078出土鉄器



第733図　SK1080出土鉄器

土坑（SK1062）

位置　Loc.D2・δⅡ・fg16～17　　**平面形**　長方形

土層　覆土は黄褐色を主体とし、5層からなる。

遺物出土状況　覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器杯1点である。

時期　古代（平安時代（10世紀））である。

土坑（SK1071）

位置　Loc.D2・δⅡ・m14　　**平面形**　楕円形

土層

遺物出土状況　覆土から鉄器が出土している。図示できる遺物は、鉄片1点である。

時期　古代（平安時代）である。

備考　平面図は遺構配置図を参照。

土坑（SK1078）

位置　Loc.D2・δⅡ・q11　　**平面形**　長方形

土層

遺物出土状況　覆土から鉄器が出土している。図示できる遺物は、鉄片1点である。

時期　古代（平安時代）である。

備考　平面図は遺構配置図を参照。

土坑（SK1080）

位置　Loc.D2・δⅡ・r12　　**平面形**　長方形

土層

遺物出土状況　覆土から鉄器が出土している。図示できる遺物は、釘1点である。

時期　古代（平安時代）である。

備考　平面図は遺構配置図を参照。付近の包含層から石帯（第934図　S614）が出土している。